プロレス界に衝撃!! 三沢光晴さん、急逝……
kamipro
紙のプロレス
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
enterbrain MOOK
2009
136
特別定価940yen
柔道金メダリスト、天下統一への初陣決まる!
石井慧の戦極、いざ!!
シャキーン シャキーン!!
マット界には"お金"が足りない!
今月は業界のタブーに迫る!!
特集 お金
魔裟斗戦&ウェルター級GP必勝祈願!
"茨城師弟"対談、お願いしやすっ!
川尻達也×桜井"マッハ"速人
独占!!『夢の超人タッグ』優勝チームを直撃!
スペシャルマン&カナディアンマン
やっぱりどうかと思う強さ!
パンクラスにキモ強く凱旋!!
北岡悟
本誌初・猫ブームがますます加速!
猫好き頂上対談、いざ!!
小見川道大×猫ひろし
郷野兄さん就職お祝い企画!?
シャキーンと『戦極』合コン開催ッ!!
郷野聡寛×戦極ミドレンジャー
選手、関係者が赤裸々に告白!!
総合格闘技のお金事情!
ファイトマネーのヒ・ミ・ツ!!
プロレス不況はまだまだ続く!?
永島のオヤジも「カ、カテエ!」と登場!
プロレス界はホントに下流地帯なのか?
喧嘩師とニートの壮絶笑撃エピソード!!
DREAMファイター ロングインタビュー
高谷裕之
DJ.taiki

7.7~8 日本公演
WWE SMACKDOWN LIVE
日本武道館にて
『試遊台』出展決定!
THQ
歴史に「もし」は無い…
ただ、あの伝説の名勝負を
君の手で書き換えられたら…
歴史に名を刻め!
LEGENDS OF WRESTLEMANIA
「WWE レジェンズ・オブ・レッスルマニア」
7.9 発売予定!
希望小売価格 各6,800円(税込 各7,140円)
【購入特典】
"WWE Legends of WrestleMania"
ピンズ プレゼント!
数に限りがございますので、
なくなり次第終了とさせていただきます。
※デザイン・仕様等は
変更になる場合がございます。
携帯電話は
こちらから
PLAYSTATION 3
XBOX 360
http://www.legendsofwrestlemania.jp/
JAKKS Pacific
YUKE'S
CERO C 15才以上対象
All WWE programming, talent names, images, likenesses, slogans, wrestling moves, trademarks, logos and copyrights are the exclusive property of World Wrestling Entertainment, Inc. and its subsidiaries. All other trademarks, logos and copyrights are the property of their respective owners. © 2009 World Wrestling Entertainment, Inc. All Rights Reserved. © 2009 THQ/JAKKS Pacific, LLC. Used under exclusive license by THQ/JAKKS Pacific, LLC. JAKKS Pacific and the JAKKS Pacific logo are trademarks of JAKKS Pacific, Inc. Developed by YUKE'S Co., Ltd. YUKE'S Co., Ltd. and its logo are trademarks and/or registered trademarks of YUKE'S Co., Ltd. THQ and the THQ logo are trademarks and/or registered trademarks of THQ Inc. All Rights Reserved. All other trademarks, logos and copyrights are property of their respective owners.
■"PS"および"PLAYSTATION"は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
■Microsoft,Xbox,Xbox360,Xbox 関連ロゴは米国 Microsoft Corporation およびその他の国における登録商標またはその関連会社の商標です。
THQジャパン株式会社
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町10-10
TEL.052-773-7507(平日11時~17時)

kamipro

2009 No.136 CONTENTS

表紙写真／吉場正和

日本格闘技界、お願いしやす！

ハアハア、もうガマンできないです！ 凄い試合を見せてください!!

forever

MMA

money

kamipro Special

Columns

6月13日に開催されたノアの広島大会の試合中、三沢光晴さんが後頭部をリングに
4人を主軸とした全日本プロレスの黄金期は「四天王プロレス」と呼ばれた。

追悼 三沢光晴

6月13日に開催されたノアの広島大会の試合中、三沢光晴さんが後頭部をリングに強打。心肺停止状態に陥り、搬送先の病院で亡くなられた――。46歳の若さだった。

三沢さんはこの日、GHCタッグリーグ戦覇者（パートナーは潮崎豪）として王者の齋藤彰俊&バイソン・スミス組に挑むも、25分すぎに齋藤のバックドロップを受けそのまま動かなくなった。

異変に気づいたレフェリーが三沢さんに「動けるか？」と尋ねたが、三沢さんは「動けない」と答えたため、レフェリーが試合を即座にストップ。齋藤組の王座防衛を告げた。

試合後、倒れ込んで動かない三沢さんを選手や関係者が取り囲み声をかけるが、三沢さんの反応はなく意識を失なっていた。ただならぬ事態に観客からは「ミサワ！」コールが発生する。ときおり客席から悲鳴が上がり、泣き叫ぶ観客もいた。「医師はいませんか？」との呼びかけに応じた観客の男性が心臓マッサージ、人工呼吸などの応急処置を試みるも、三沢さんは心肺停止状態のまま広島大学病院に緊急搬送され、同日22時10分に死亡が確認された。

三沢さんは1981年、全日本プロレスに入団。同年8月21日、越中詩郎戦でデビュー。メキシコ遠征後の84年、二代目タイガーマスクとして凱旋。90年に素顔の「三沢光晴」に戻り、ジャンボ鶴田やスタン・ハンセンとの激闘を経て、エースとしての地位を確立する。

その後、川田利明、小橋建太、田上明らとのハードヒットな攻防でファンを魅了し、4人を主軸とした全日本プロレスの黄金期は「四天王プロレス」と呼ばれた。

00年6月、全日本プロレスを離脱。プロレスリング・ノアを設立し、社長として、王者として、ジャンルを代表するレスラーとして、プロレス界を支え続けてきた。

本誌は、ノアの設立当初は取材する機会をいただいたが、01年12月に同団体広報との話し合いの末、試合取材や選手インタビューなどの凍結をお互いに確認した。三沢さんを取材したのは01年6月、本誌No・40に掲載されたインタビューが最後となっている。ノア設立1周年記念の企画だった。

三沢さんの死から一夜明けた6月14日、ノアは三沢さんの遺志を受け継ぎ、福岡・博多大会を予定どおり行なった。第2試合には最後の対戦相手となった齋藤彰俊が涙を流しながら登場すると、観客から大きな「アキトシ！」コールが寄せられた。試合後、齋藤は本部席に置かれた三沢さんに遺影に向かって泣きながら土下座した。

全試合終了後には三沢さんのテーマ曲『スパルタンX』が流された。故・橋本真也さんのテーマ曲『爆勝宣言』に並ぶ、プロレス界屈指の名テーマ曲。

虎のマスクを脱いで三沢光晴に戻ったときから、いつもプロレスファンの心を躍動させてくれたあの曲だった。満員の観客からは、曲のリズムに合わせて大きな大きな「ミサワ！」コールが送られた。

プロレスラー、三沢光晴さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

『kamipro』編集部一同

齋藤彰俊
社長だってまだやりたいことがいっぱいあったのに……。おまえ責任取れってって意味で今日は応援してくれたと思ってます！ 社長は弱音を吐かない人なんで、どんな重い十字架を背負っても、俺は前進していきます。
【6・15博多大会試合後のコメント】

秋山準
自分の不甲斐なさに申し訳ない気持ちでいっぱいです。本来であればチャンピオンとして、三沢さん、そして皆さんに最高のプロレスを見せないといけないんですが、いまの自分にはそれができません。三沢社長と昨日、最後まで一緒に頑張ってくれた潮崎を、僕から（GHC王座決定戦に）指名させてもらいました。選手、社員一同、三沢社長の遺志を継ぎ、一生懸命頑張りますので、プロレスリング・ノアをこれからもよろしくお願いします。【6・15博多大会試合後のコメント】

KENTA
こういう状況で何が恩返しになるかと言ったら、結局「ノアを良くすること」しか残ってない。社長もそれを望んでいるだろうし、もう口だけじゃなくて、本当に一丸となっていかないといけない。つらいのはみんな同じだし、お客さんだってつらい僕らを観に来てるわけじゃない。リングに立つ以上、プロレスラーとしての責任をはたすしかない。
【6・15博多大会試合後のコメント】

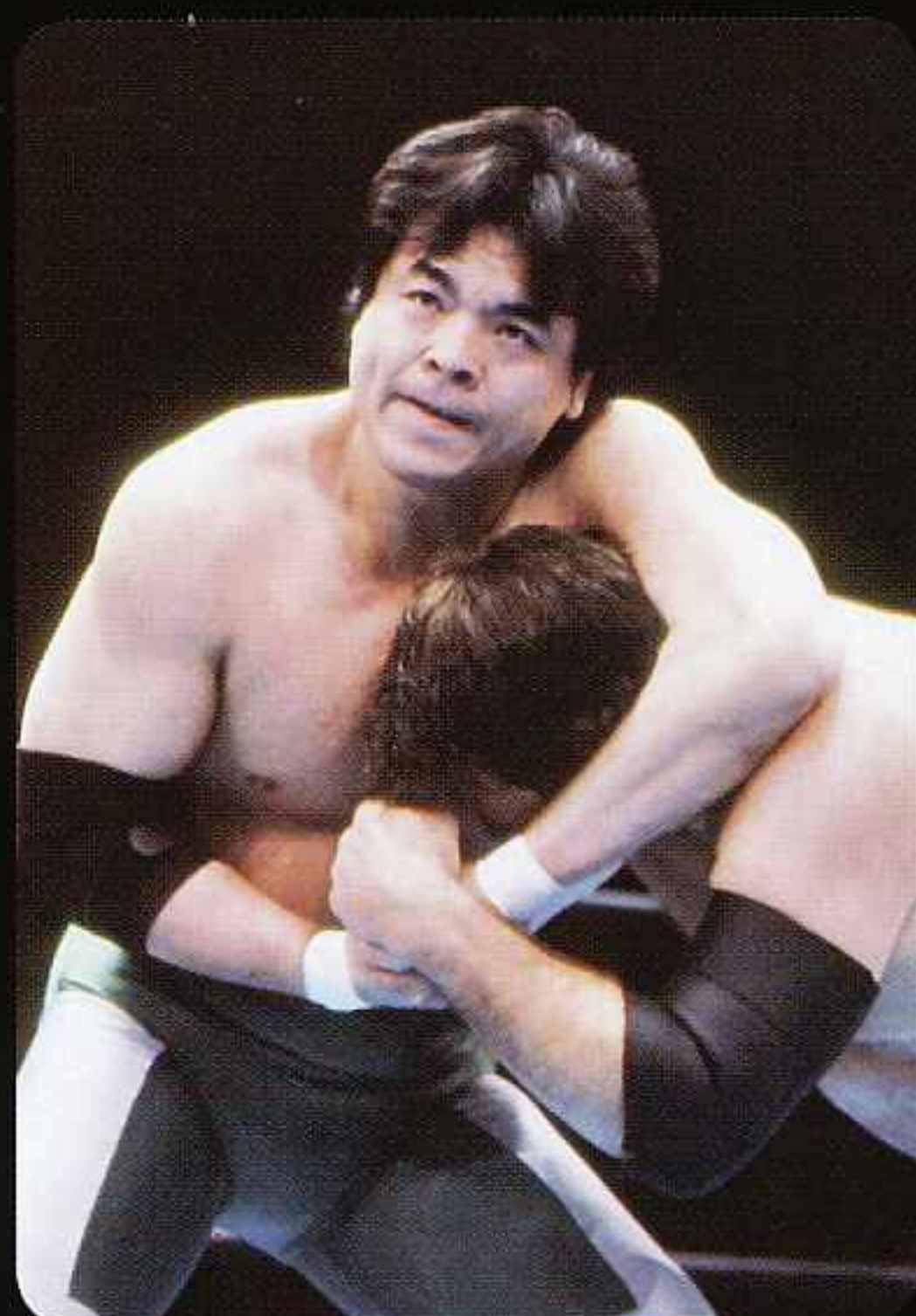
小橋建太
ノーコメント

高山善廣
闘いはいつもつらいよ。俺らもそうだ

ってこそ。本当の意味での協調路線を築けつつあって、こういうことのないよう

ありがとう、さようなら
三沢光晴
追悼談話集

つか闘ってみたかったですね。ノアの皆さんも大変だと思いますが、残された

のドームの公開会見のとき、ひさしぶりにご挨拶したんですが、僕が闘った頃と

けど、あんたら（記者陣）もそうだろ？ いつも見ない顔がたくさんいるじゃん。まあ、オヤジはもう終わりだな。あとは若いヤツの試合を観てやってよ。最高のプロレスをするヤツらの闘いを観てやってよ。【6・15博多大会試合後のコメント】

潮崎豪
昨日のタッグマッチでああいうことがあって、今日は試合できないかと思っていたら、昨日の夜に秋山さんから電話があって、（GHC王座決定戦を）やってくれ、と。そのとき、社長の顔も見えてきて、ここで俺がやらないといけないと思いました。あんなことがあったからこそ、選手と社員一丸となって、やっていかないと、と思いました。
（GHC王座を奪取して）社長が作ったGHCというのをなくしちゃいけない。みんなでそう思ってやっていかないといけないと思います。ファンがこれだけ来てくれて、そういう意気込みを見せたかったし、何よりも社長の前で獲れてよかった。（これからGHC王者として）もっといろんな意味でいまよりも良くしていきたい。社長に観ていてもらいたいです。
【6・15博多大会試合後のコメント】

川田利明
信じたくないし、信じられない。
【スポーツ紙の報道より】

武藤敬司
橋本（真也）のときは亡くなったのが判明するまで半日かかったけど、今回は衝撃がいっぺんにバーンときた感じですね。（三沢さんとは）同い年にしてレスラーとして比較されてきた。選手としてライバル関係で、お互い社長っていうのもあったし。プロレス界をどう引っぱっていったらいいか、俺も三沢社長もライバスがあると思ってましたし。もっと壁になってほしかったです。【談】

ルを越えた同志というか、同じ境遇だったと思うよね。選手としては実直な方ですよね。俺は若いヤツの突き上げをいなしたりするけど、そういうのをすべてを受け止めて。もしかしたらそういうところが今回の件を招いちゃったのかな。でも、今回みたいなことがある前に、俺も「リングの上で死ねたら本望」とか言ってた。だけど、俺以上にノアの社員、家族は悲しんでる。その中で軽々しくそう言ってた自分に対して、これからはあらためようかなと思ってますね。
【全日本プロレスオフィシャル携帯サイト『プロレス／格闘技DX』より】

垣原賢人
友人レスラーからのメールで、この信じられない訃報を知りました。とてもショックを受けています。三沢さんには、現役時代に、大変お世話になりました。本当に残念でなりません。三沢光晴選手のご冥福を心からお祈り申し上げます。
【ブログより】

菅林直樹
新日本プロレス社長
何も言葉がないのが正直なところです。残念なお知らせが届いてしまいました。最近、新日本、ノア、全日本で協調路線で盛り上げて、かつての隆盛を取り戻していこうと話し合ってたところだったのに。三沢さんの遺志である業界を盛り上げていく気持ちを糧にしていきたいと思います。今シリーズ、菊地毅選手、青木篤志選手が素晴らしいファイトをしてくれているのでノアさんに感謝します。突然のことでお悔やみを申し上げますという言葉しか出てきません。絶対に交わることのないと思っていた新日本とノアの距離を縮めることができたのは、三沢社長のプロレスに対する真摯な姿勢があ

三沢社長との初めての出会いは10年以上前の新日本プロレスかベースボールマ

闘いはいつもつらいよ。俺らもそうだ

いったらいいか、俺も三沢社長もライバ

社長のプロレスに対する真摯な姿勢があ

ってこそ。本当の意味での協調路線を築けつつあって、こういうことのないようにライセンス制度を始めようとした矢先だけに残念です。先人たちができなかった本当の意味の協力関係を、これからも続けていきたいです。同じ社長として、三沢さんも気苦労が絶えなかったと思います。それに三沢社長は試合もしていたのでかなりの重圧だったと思います。【談】

中西学

三沢さんはアマチュアレスリングの先輩でもあって、全国チャンピオンから全日本プロレスに入られた。血のにじむような努力をして、あそこまでいったと思います。昨日は「なんとか生還してほしい」と祈ってたんですが、亡くなられたと聞いて本当にショックです。面識がなかったですが、プロレスラーとしてもアマチュアの先輩としても尊敬してた。いつか闘ってみたかったですね。ノアの皆さんも大変だと思いますが、残された我々が死に物狂いで業界を盛り上げていくのが三沢さんに対してできることやと思う。今日からしっかりとプロレスをやっていきたい。心よりご冥福をお祈りします。【談】

永田裕志

昨日、京都に残って食事してるとき、三沢さんが心肺停止になったって聞きました。それからしばらくしてお亡くなりになったという情報が入って。三沢さんとはZERO－ONE旗揚げ戦で初めて試合をやらせてもらって、そのあとノアのシリーズに参戦して、4～5回くらいタッグマッチで対戦しましたね。三沢さんは格とか抜きに正面から攻撃を受け止めてくれる大きな人でした。そのぶん、お返しも半端じゃなかったし。とにかく懐が深くて、心の大きな方だなと。前回のドームの公開会見のとき、ひさしぶりにご挨拶したんですが、僕が闘った頃と比べると「お疲れなんだな」って感じました。でも、若い選手を正面から受け止めるファイトは健在で。それを見て憧れじゃないけど、俺もこういうふうになっていきたいと思いましたよ。最初ZERO－ONE旗揚げ戦で当たったとき、僕もイケイケでガンガン蹴りまくりましたけど、お返しに食らったエルボーが胸骨にまで響きましたね。これが噂の三沢さんのエルボーか、と。あのときに組んだ橋本さんも亡くなられてしまってますし。三沢さんが亡くなられたことで世の中が悲しみに暮れてますが、僕らがやることは厳しい世の中だからこそ、いままで以上に勇気や感動をファンに与えないといけないと思います。【談】

棚橋弘至

昨日、京都大会が終わったあとに聞きました。信じられなくて、情報を集めようといろんな人に電話したりしました。僕が04年に三沢さんと対戦した頃はまだまだ駆け出しだったんですが、どんな技も正面から受けるというか。エルボーも強烈でしたし。今回、三沢さんが亡くなられたことで、プロレスは死に近いところにある職業なんだなとあらためて認識しました。ご冥福をお祈りします。【談】

中邑真輔

突然のことで信じられない、言葉も出てこないです。プロレスの象徴のような人ですから、まだ闘うチャンスがあると思ってましたし。もっと壁になってほしかったです。【談】

金本浩二

最初、昨日の帰りのバスの中で聞いて「ホンマ何言ってるんだ?」と思いました。ついこのあいだ、武道館に出たときにご挨拶したんですが、それが最後になるなんて思わなかったです。同じタイガーマスクつながりということでご挨拶したこともありましたし。言葉は見つからないですが、とにかくお疲れさまでした。ご冥福をお祈りします。【談】

髙田延彦

突然、三沢選手の訃報が届いた。驚きと悲しみで言葉も出ない。

原因はリングの中での事らしいが、幾度もあった過去の教訓を生かして、絶対に起きてはならないこのような事態を未然に防ぐ事が出来なかったのだろうか。

残念で悔しい。

実感などまったくないが、心から三沢選手のご冥福を祈ります。

お疲れさまでした。【ブログより】

佐山聡（初代タイガーマスク）

三沢光晴様の突然の悲報に接し、驚きを抑えることが出来ません。御家族、関係者皆様、三沢光晴ファンの皆様に心よりお悔やみ申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。【ブログより】

ザ・グレート・サスケ

昨晩、業界内を走った衝撃。信じられない訃報。何かの間違いだと、未だに思いたい。OOGAMANIA野橋真実結婚記念ウエディングスペシャル終了後にサムライTVさんからコメントを求められるが何を言っても空しいだけだ。

三沢社長との初めての出会いは10年以上前の新日本プロレスかベースボールマガジン社どちらかの東京ドーム大会控え室だったと思う。

当時のみちプロレフェリー、テッド田辺さんに促されて三沢さんの控え室に挨拶に伺った。はにかむような笑顔で「あ、サスケさんだ」とおっしゃって下さった。以前からみちプロの試合映像をご覧いただいていたらしい。その後、プロレスリング・ノアを立ち上げられて間もない頃、有明の本社へお邪魔して、丸藤選手と闘いたい旨、直談判しに行った。当時、みちプロ所属だったタイガーマスクを引き連れてお邪魔して、「新旧タイガー」のフォトセッションをマスコミさん向けにやらせていただいた事もあった。

全てを包み込むような優しさと、何事にも耐え得る強さを兼ね備えたような人だった。週プロ松川さんの結婚披露宴の席では、私の長いスピーチに、穏やかに笑いながら「もう良いよ!」と優しくツッコミを入れていただいた。

リアルジャパン後楽園大会の控え室に挨拶に伺った時は「浜田さんいる?」とグラン浜田さんと思い出話に花を咲かせていた。

冥福をお祈りします……なんて言えない。信じられない。この現実を受け止める事が出来ない。

ただ……社長業と地方大会ではまだまだメインを張らなければならないという重圧に、一瞬だけ疲れ果ててしまって、「ちょっと休ませてよ」とおっしゃっているだけのような気がする。【ブログより】

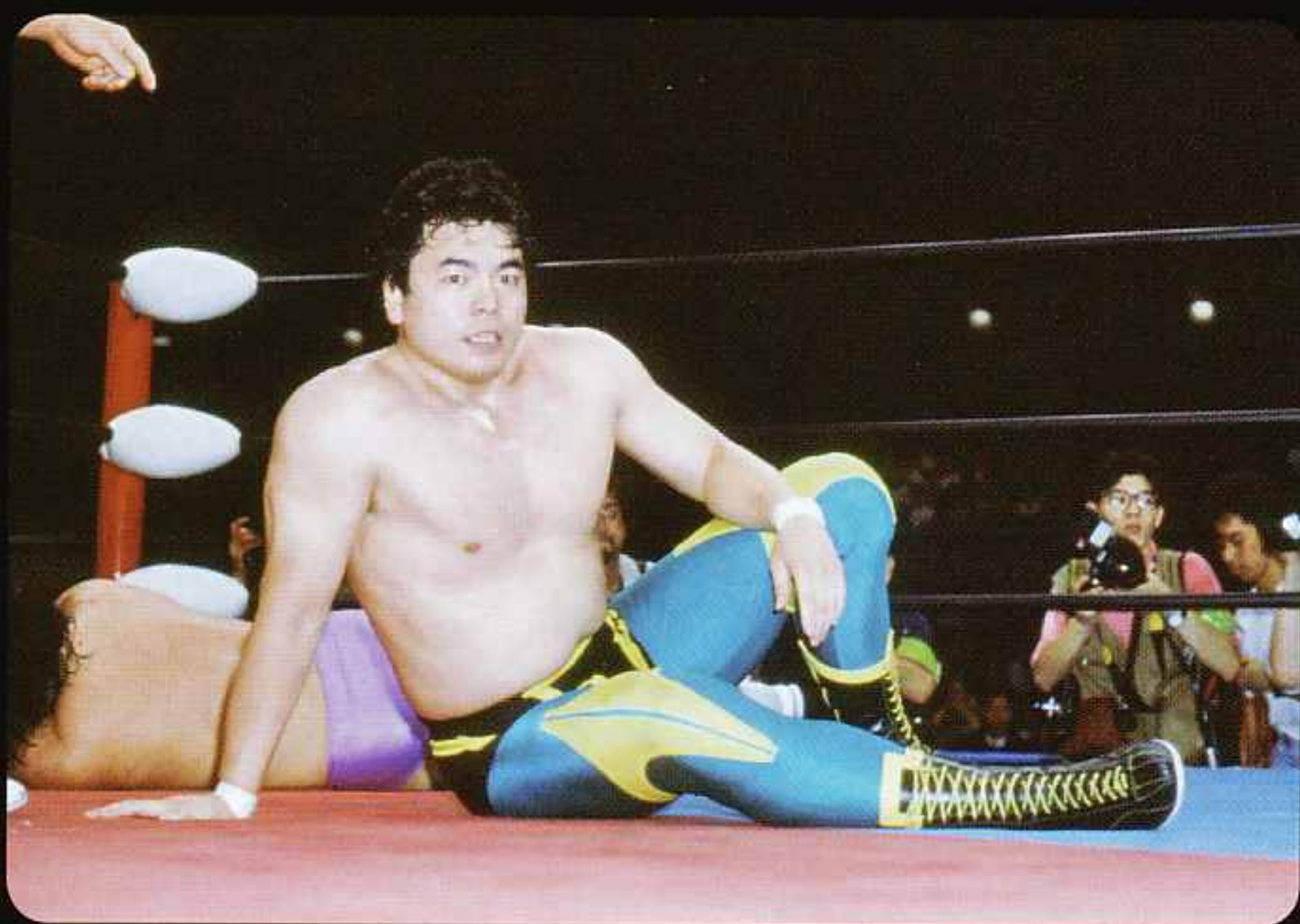
高木三四郎

三沢光晴さんの突然の訃報。未だに現実を受け入れることができない自分がいます。2年ほど前に試合をさせていただく機会がありました。コミカルもシリア

スも全て受け入れる度量の大きさに、一流のプロレスラーとはかくあるべきだと思いました。一レスラーとして、そして選手スタッフを率いる団体の長として心から尊敬しておりました。心よりご冥福をお祈りいたします。【ブログより】

谷津嘉章

俺と三沢や川田はアマレス時代の先輩後輩だから、生い立ち的なもので言えば関係は近いかもしれないけど、全日本プロレスには彼らよりも俺のほうがあとから入ってるわけだから、ある意味では俺が入って息苦しくなっちゃったり、やりにくいところもあったと思うんだよな。彼らに対しては、常にそういうことを危惧してた。

それで、1990年あたりに天龍さんをはじめSWSに大量移籍したでしょ。その頃、東京体育館で「三沢はマスクを取ったほうがいい」って馬場さんに提案したのは俺だからさ。要するに天龍がいなくなっちゃったあとにはタイガーマスクでは幹が細すぎる、と。やっぱり、その次のスターを作らなくちゃいけないから、馬場さんにそう言ったんだけど、それからの彼の活躍は皆さんもご存知のとおりで。ホントは今年の4月ぐらいに、ひさしぶりに三沢と会う可能性もあったんだわ。足利工業（大附属高）時代の三沢とか川田の恩師の浦野先生っていう人がいたんだけど、その先生が亡くなっちゃったんだよ。三沢も葬式に来たかったと思うんだけどノアの北海道巡業で来れなかったの。そのときに川田とはひさしぶりに会ったんだけど、三沢とは相当長く会ってないからな。極端な話、90年の東京体育館ぐらいからだから、もう19年近く会ってないんじゃないかな……。三沢光晴というと、プロレス業界のリーダーの顔と、16歳ぐらいの高校時代の思い出が交差してくるよな。

まあ、ご冥福を祈るとともに、プロレスラーとして見ればレスラー冥利につきるんじゃないか、と。要するに、苦肉の言い訳になっちゃうけど、レスラーとしてリングの上で死ねるっていうのは、ある意味では伝説を残すってことだからな。そういう意味では、三沢は〝プロレスの神様〟になったんじゃないかと俺は思うよ。【談】

徳光和夫
（元全日本プロレス中継アナウンサー）

ボクもちょっといまの映像を初めて観ましたんで、若干、映像を観ながら取り乱してしまったんですけども。

よく格闘家は「リングで死ねれば本望だ」ってことをおっしゃいますけども、三沢選手は僕は本当に無念だったんじゃないかと思います。というのは、彼は受け身の名人でありました。プロレスといいますのは受け身のスポーツであります。いかに受け身がうまいと、仕掛けた技が大きく見えるかというスポーツでありますんで、そういう意味では受け身の名人の三沢光晴という選手が、その受け身で残念ながらこういったことになってしまったというのは本当に死にきれないという思いじゃないかな、というように思えてならないわけであります。

彼はリーダーといたしましてもたいへん魅力ある人物でありました。それと同時に、最近やっぱり若干客足が減っておりますプロレスというスポーツ、これをなんとかさらに発光させたいということもありましたんで、年齢以上の練習を重ねていたということは言えるわけであります。そのことがもしかしますと、経営者として、また現役のレスラーとして二足のわらじを履いておりましたことが、やっぱり相当計り知れないダメージがあったのではないかと。そういった中でこうしたことが起きてしまったのは本当に無念でなりません。ごめんなさい、一人でしゃべってしまいました。

試合を観ておりました人の報告によりますと、この前にバックドロップを受けまして、このときに若干その脳しんとう気味になったそうであります。

でもさらに試合を続行させたところが、やっぱりレスラーとして三沢光晴はなんとかやっぱりここで闘わないといけないといったような使命を貫き通してしまったがゆえの、こうした不慮に遭遇してしまったんではないかな、と。悔しいけど冥福を祈らざるをえないのかなというような、いまの気持ちであります。【日本テレビ系『TheサンデーNEXT』】

谷川貞治
FEGイベントプロデューサー

本当にビックリしました。突然の出来事にちょっと言葉が出てこないです……。いまはプロレスも格闘技も厳しい時代で、三沢さんと同世代で経営者という立場からすると、テレビの問題とか、いろんなことでご苦労なさっていたんだと思います。いまは心からご冥福をお祈り申し上げたいです。【談】

笹原圭一
DREAMイベントプロデューサー

僕は昔からプロレスをよく観ていたので、ファン目線でいうと、やっぱりタイガーマスクのマスクを脱いだ瞬間が一番印象深いですね。それからノアを立ち上げたときに、あれだけ選手がついてきたじゃないですか。それだけでも人望があったということでしょうし。

僕個人としては三沢さんとは直接のつながりはないのですが、覚えているのが、PRIDE森下社長が亡くなったときに、ちょうどノアの3周年のパーティがあったにもかかわらず、わざわざ来てくださったんですよ。しかもノアの選手全員を引き連れてきてくれて。そのことを一番よく覚えてます。だから、やっぱりかっこいいなって。

残された選手もそうですし、ご家族もいらっしゃると思いますが、その方々が本当にかわいそうです。（選手の方々は今日も興行をやってるが）それも凄くプロレス的ですね。「Show must go on」そのものというか。でも、それが何よりの供養なんでしょうし、選手もそう思ってるんでしょうね。橋本真也さんが亡くなられたときに僕も同じような感情を抱いたので、ノアの選手の方々もそういう気持ちでリングに上がられたんだろうなと思います。心よりご冥福をお祈りします。【談】

若林健治
（元全日本プロレス中継アナウンサー）

プロレス界全体、レスラー、ファンの精神的支柱を失いましたよね。三沢さんはみんなの目標であり尊敬の対象でしたから。プロレス低迷の中にあって「あの人さえいれば」というのがあったと思うんですよ。それが非常に悔しくもあり残念でもあります。

三沢さんは私にとっての目標でもあったんですよね。というのが、私がペーペーのアナウンサーだった頃に、三沢さんがちょうどメキシコから帰っていらっしゃって二代目タイガーマスクになられましたが、それからですよ。もちろん小橋さんや秋山さんもいるんですけど、やっぱり三沢さんが頑張ってるから僕もやんなきゃって思ってました。「この前の実況はよかったよ」とか、「いろいろフレーズ考えてくれてありがとな」とか励ましてもらいました。だから、僕目線でいうと超世代軍とともに大きくさせてもらったかなあという感謝の気持ちがありますね。

それから、ハンセンやジャンボ鶴田に向かっていくその姿、これがカッコよかったんですよ。同世代の人間、若いサラリーマンもそうでしょうし、何より僕がそうだったんですが、ペーペーの僕も巨大な先輩、巨大な組織に認めてもらいたかった、超えたかった。そういう思いがありましたから、自分も〝三沢光晴〟のつもりだったんですよね。

もう一つは、王道プロレスを継ぐ人がいなくなったということですね。相手の技を信頼して受け、信頼して攻めるとい

その頃からです。
超世代軍のエースとして、ベテラン勢

社長業とのレスラーの二足のわらじは
想像に絶する苦労があったと思います。

田村潔司

けど、少しお話もさせていただいて。ち
ゃんと僕たちの世界観を全部受け止めて

ありがとう、さようなら
三沢光晴 追悼談話集

いなくなったということですね。相手の技を信頼して受け、信頼して攻めるというのを真正面からやってた人だったから、プロレスに品がありますよ。これを継ぐ人がね……。

しかし、プロレスは何回も立ち上がる競技ですから、三沢さんってほら、馬場さんや鶴田さんが亡くなったとき、そして大量離脱があったときも本当に地に足をつけて頑張ってましたよね。だから今度は誰が踏ん張ってくれるのかな、というね。かつての三沢さんがそうだったように、救世主がガッと出てほしいと思います。【談】

福澤朗
(元全日本プロレス中継アナウンサー)

それはあまりに突然でした。土曜日の夜、「三沢光晴選手心肺停止」の第一報。しかし、今にして思えば、その一報を受けた時間には既に天に召されていたことになります。

90年5月。場所は東京体育館。タッグマッチ。相手チームのマスクへの執拗な攻撃をうけていた第二代タイガーマスクは突然、自らマスクを脱ぎ捨て、三沢光晴になったのです。

その試合終了後、控室に去っていく三沢選手に花道でマイクを向けたのが私でした。

「なぜ、マスクを脱いだのですか?　なぜ、マスクを脱いだのですか?」

三沢選手は何も答えずにリングをあとにしました。三沢選手とのお付き合いはその頃からです。

超世代軍のエースとして、ベテラン勢に牙をむく姿はプロレスの実況中継を始めて間もない私を激しく鼓舞しました。

「エルボーの貴公子」「問答無用のひじ鉄砲」「天下無双のフェースロック」……。三沢選手にはいくつものフレーズを使いました。自然と浮かんでくるのです。その試合を目の当たりにしていると無意識に言葉が生まれてくるのです。それほどに見る者の魂を揺さぶる試合でした。

天才的なレスリングセンス。特にその受け身は「教科書」とも言われていました。相手の技をきちんと受け止めて、そして自分の技を繰り出していくというスタイル。

それは日常においても同じでした。相手の話をちゃんと最後まで聞いてくれました。そして、その後、きちんと自分の意見を述べるのです。

プロレス以外の世界のひとからも愛されていたのはその誠実なひとがらと決して「寡黙なひと」ではなかったその気さくな性格からでしょう。

満身創痍で試合をすることもしばしば。三沢さんはいつもこう言っていました。

「いつもベストな試合はできないよ。ただその日に出来る限りの試合はしないとね」

受け身の天才がどうして?　という気持ちが拭えません。きっと、その日も決して万全ではないコンディションで、でも出来る限りの試合をしようとリングにたったのでしょう。

社長業とのレスラーの二足のわらじは想像に絶する苦労があったと思います。お疲れさまでした。

天国で、ジャイアント馬場さんやジャンボ鶴田さんと一緒に「超時代軍」としてプロレス界の今後を見守っていただきたいと思います。

心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

【『ボンキシャ!?　福澤朗の生エッセイ』より】

越中詩郎

メキシコのテレビ局が放映したビデオテープが、ノアのリングに5年前に上がったときに僕の倉庫から出てきまして、いずれプロレス辞めるんだから、辞めてしばらくしてプロレスのことを思い出したときに観てくれって言ってそのビデオを渡したのが最後だったですね。いやー、なんか、うん、三沢がリングの上で倒れるなんて夢にも思わなかったですね。

【『SUPERうるぐす』(日本テレビ系)でのコメントより】

田村潔司

三沢さんとお会いしたのは、ご挨拶程度でした。本当に残念です。僕よりも、ノアの選手が精神的に本当につらいと思います。プロレス界の偉大な人でしたから。ノアだけなくプロレス界全体が、これからどうなっていくのか不安がありますね。

【『U—FILE41』終了後の囲みより】

川尻達也

中学時代、毎週夢中になってテレビの前で三沢さんの試合を観ていました。訃報を聞いたときは驚きました。本当に残念です。ご冥福をお祈りいたします。【談】

ハヤブサ

言葉が見つからないですね……。自分は全日に参戦する前から、共通の知り合いに紹介してもらって、三沢さんにはかわいがってもらってたんですよ。参戦するようになると毎晩のように飲みに連れてってもらって、プライベートからプロレスのことまで、大先輩にもかかわらず同じような目線でお話ししてくださって。みんなが三沢さんについていきたくなる理由がわかりますよね。最近の三沢さんは身体の調子があまりよくないということは知人から聞いてたんですが、まさかあんなことになるなんて……。自分と同じリング上でのことだけに、まだ現実として消化しきれてないです。いまはただ「お疲れさまでした」って言いたいです。【談】

マッスル坂井

最初に訃報を聞いたときは絶句でした、全然信じられなくて。僕は2年前に実際に三沢さんと試合をさせていただいたんですが、そのときにご挨拶程度ですけど、少しお話もさせていただいて。ちゃんと僕たちの世界観を全部受け止めてくださって、本当に懐の大きな方だなと思いました。三沢さんはいまの日本にあるプロレスの礎を作った人だと思います。そういうトップ選手がリング上でお亡くなりになるというのは、世界でも例を見ないことだと思いますし……いろいろなことを考えてしまいますね。僕の中では特別な存在すぎて、なんて言い表わせばいいのか。本当に残念でならないです。【談】

松永光弘

今回の件は、本当にプロレス界にとって大きな損失だと思います。じつはその日、齋藤(彰俊)に別件で連絡しようと思ってたんですよ。そうしたら知り合いから「三沢選手が試合中に齋藤選手の技を受けて心肺停止になった」っていう情報が入ってきて。本当にビックリしました。そのうち亡くなられたということがわかって……。ただ、いまはご冥福をお祈りするだけです。じつは5~6年くらい前に、自分と齋藤がタッグでノアに上がろうかって話があったんです。三沢さんも大筋ではOKを出してくれて。結局、タイミングが合わなくてその話は流れちゃったんですけど。あとは冬木さんの追悼興行で三沢さんに挨拶させてもらったこともありました。そのときに「珍しいヤツと会ったな」って思ったのか、ニヤッと笑ってくれたのが凄く印象に残ってます。自分にとっては雲の上の存在のような方でしたね。齋藤とはあの日の試合後にメールでやりとりしました。「俺はおまえさえよければ同じリングに上がるよ」って連絡したんです。自分なりのケアというか、僕にできるのは闘うことによって齋藤を元気づけるくらいしかないですから。【談】

RG

三沢光晴選手が亡くなられました。どうして？　という気持ちでいっぱいです。僕はプロレスのリングに立つ者のはしくれです。三沢選手はプロレスのリングに立つ者の頂点です。ハッスルに現在プロレスリング・ノアの志賀選手が上がってます。だから可能性はかなり低いが、ゼロではない、もしかして、三沢選手と一緒のリングに立てるかな……などという妄想もしたことがあります。すいません。可能性はないってわかってましたが、もうその可能性はゼロになってしまいました。三沢さん。明るく楽しく激しいプロレスをありがとうございました。

【ブログより】

ケンドーコバヤシ（お笑い芸人）

正直気持ちの整理が全然つきそうにありません。せめて三沢選手がリング上で死ねた事を本望と思ってくれたと願うだけです。本当に願います。つらいなあ…もう嫌だ。でも僕は応援するんです。いつまでもファンです。

【ブログより】

イジリー岡田（三沢光晴モノマネ第一人者）

本当にリング上の三沢さんは、激しい試合でも表情を変えず闘っていて。今回、強い三沢さんが帰ってきてくれると思ったのですが……。本当に信じられません。「こういう職業だと、いつ死ぬかわからないから、楽しく飲むんだ」と話されていたのを思い出します。（モノマネ用の衣装を作る際に）ガウンは高いから断念したら、業者が「お代は三沢社長からいただいているので大丈夫ですよ」とプレゼントしてくれました。男の中の男でした。ご冥福をお祈りいたします。

【舞台『CHANBARA FEVER』公演後のコメントより】

ターザン山本！

あれはちょうど午後10時、ジャストだった。ケイタイが鳴った。1日がかりで石井和義（石井館長）の自伝「空手超バカ一代」（文芸春秋刊）を読み終えて、ホッとひと息ついていた時だった。

「山本さん、知っています？　もしかしたらもう知っているかもしれませんが……」「え？　何？　何かあったの？」

その彼はめったに私には電話をしてこない人である。2年ぐらい会っていない。「実は三沢さん（三沢光晴）が今日の広島大会の試合中、バックドロップを食って、心肺停止になったというんです」

そのまますぐに病院に運ばれたが、その後のことはまだ何も確認は取れていないという。

私はすぐにある人に電話して調べろと指示。10時42分、紙プロのチョロちゃんが三沢選手の件で電話してきた。大事件である。たぶんプロレス界はこの情報で今、大騒ぎしているはずだ。午後11時32分、亡くなりましたという知らせを受けた。

まだ46歳。来週というかこの6月18日が誕生日だったのに。私は三沢選手の死を知った時、なぜか馬場さん（ジャイアント馬場）の顔を思い出した。そうだ。元子さん（馬場夫人）に電話をしよう。でも、日本にいるのかなあ。もしかしたらハワイかもしれない。

現在、元子さんはプロレス界との関係をほとんど断ち切っている。だから私もなるべく電話はしないようにしてきた。今のままでそっとしてあげるのが一番いいからだ。それなのに私は馬場家の電話番号はきっちりとおぼえている。

思い切って電話してみた。出るのかなあ。出ないのかなあ。呼び出し音がブーブーと鳴る。あきらめずに待つ。ここは待つしかない。そうしたら出られた。元子さんはすでに三沢選手が亡くなられたことを知っていた。

それから1時間以上の長電話になった。私は元子さんと電話している時は、まずケイタイの電源は切る。家の電話の方もキャッチがはいってもいっさい出ない。5分おき？　いや3分おきぐらいにキャッチの音が鳴り続けていた。

みんな三沢選手の死に驚いて私に電話してきたのだろう。いっさい無視だ。もし「あ、元子さん、ちょっと待って下さい」といってキャッチを取ったら、その瞬間に元子さんはしらけてしまう。私にとって元子さんは特別な人である。だからそれはできない。面白いことに元子さんもキャッチには出ない人なのだ。そして元子さんと電話で会話したことは多くの場合、私は書かない主義なのだ。

ただ今回は一つだけ書かせてもらう。元子さんは天国にいる馬場さんに「馬場さん、怒っちゃだめですよ」と言ったそうである。馬場さんは三沢選手に対して「お前、なぜこんなところに来たんだ。まだお前がくるような世界じゃない。バカ野郎！」と言うからだという。

あれ、元子さんとの電話を切ったあと時計をみると、もう午前1時前だった。

（以下、省略）

【WEB日記より】

いしかわじゅん（漫画家）

そうか。三沢光晴は死んでしまったか……。

あんなになんでも受け身の取れるレスラーだったのに。腹は出てたが、まだ若かったのに。残念すぎる。

若手のころからタイガー時代を経て今に至るまで、ずっと見てきた。パワーファイターではないから、体力の衰えを技術でカバーして、徐々に一線から引きながら、年を取ってもリングに上がり続けるタイプだろうと思っていた。

もうリングで見られないのか。

今の小橋には、代わりはできない。秋山にはカリスマがない。森嶋も力皇も、力不足だ。丸藤やKENTAのジュニアでは、まだ現在エースは務まらないだろう。

さて、ノアはこれからどうなるのか。団体間の交流にも、影響は大きいだろう。三沢がいたから実現した交流もある。

試合中に亡くなったり大怪我をしたレスラーはいるが、エースが亡くなったのは、日本のプロレスでは初めてのことだ。

明日から、日本のプロレスに三沢はいない。それをきちんと考えていかないと、プロレス界の地盤沈下は避けられないだろうなあ。

【ブログより】

菊地成孔（音楽家）

訃報と誕生日

数分前からいきなり沢山のメールが届きはじめ、何かと思えば誕生日でした。誕生祝いのメールを下さった皆様、これから下さろうとしている皆様、メールを送らずとも心中で、モニター前等々で祝って下さっている皆様に感謝するとともに、皆様のお一人お一人のお誕生日をお祝い差し上げます。皆様そしてワタシを生み育てた両親の存在、先祖の存在、そしてそもそも、こうして我々総て全員が、現在この世にこうして、一堂に会している神の采配に感謝します。生まれるのがあと50年遅かったならば、ワタシは21世紀初頭を、まるで20世紀初頭の様に勉強する事になったでしょう。46歳になりましたが、ワタシは誕生日にこの街に来

ましたので、歌舞伎町ライフも本日より
6年目に入ります。

ファンにのみ届かせるつもりで書きま
す。ワタシにのみ特別な事なのかどうか、

と書くのは易し、ひょっとして医学の進
歩によって、結果として、人生の10分の

はガチガチ」という、美しい信仰を持つ
人々の視線（現場には、２３００人のフ

に感謝するとともに、皆様のお一人お一
人のお誕生日をお祝い差し上げます。皆

た。ご冥福をお祈りいたします。

思い切って電話してみた。出るのかな

に至るまで、ずっと見てきた。パワーフ

ましたが、ワタシは誕生日にこの街に来

ありがとう、さようなら
三沢光晴 追悼談話集

ましたので、歌舞伎町ライフも本日より6年目に入ります。

　さて、今年の誕生日には、いきなりですが、訃報からお伝えしようと思います。ほんの数時間前、ワタシと同い年の男性が亡くなりました。プロレスラーの三沢光晴選手（プロレスリングNOAH社長）です。

　ワタシがクレッソニエールでマコン・ビラージュを飲み、クスクスロワイヤルを食べながらデジカメで写真など撮影している間に、三沢選手は召されました。まず第一に、故人のご冥福をお祈り申し上げます。

　当欄ではこうして訃報をいくつか扱って来ました。順不同に成りますが、さっと回想するだけでも植木等氏、飯島愛氏、ウガンダ・トラ氏、テオ・マセロ氏、蒼井紅茶氏、等々。まだ記憶に新しい、忌野清志郎氏に対するものには、書いたワタシが驚く程の、多くの熱心な反応がありました。しかし、ワタシ個人が最も強い衝撃を受けたのが今回であることは——誕生日前夜だという事を差し引いても——間違いありません。三沢選手はリング上でバックドロップを受け、そのまま亡くなりました。リング上、試合中の死亡事故は、力道山によってプロレスが輸入、定着した1950年代から数えても、3人目（男性では2人目）です。

　最も反応が薄い仕事が格闘技関係という状況ですので、些かなりとも故人に関する解説が必要ではないかとも思ったのですが、一切割愛し、同世代のプロレスファンにのみ届かせるつもりで書きます。ワタシにのみ特別な事なのかどうか、自己分析は不可能ですが、ワタシが「プロレスラーの死亡」に関して、悲しいだとか泣けるだとかいった状態を遥かに超えた、動揺に近い心の動かされ方をするのは、ブルーザー・ブロディ、アドリアン・アドニス、ジャイアント馬場、ジャンボ鶴田、つまり、総て全日本のイメージと重なっています。今回そこに、三沢光晴が加わりました。

　ワープロと言うのは恐ろしい機械です。ワタシは今、文字通り、半ば言葉を失っていますが、キー入力は出来るのです。書き終えたらワタシは、しばし呆然とするでしょう。しかし恐らく答えはシンプルだと思われます、つまり、それは文字通り、「大きな」物が失われたからである。と。

　世界は、太古から相変わらずとはいえ、最悪のニュースがこれでもかこれでもかと報じられ、また一方、素晴らしい輝きにも満ちています。しかし、命を失ってしまえば、世界自体が、少なくとも一瞬は間違いなく、その人から消えてしまう。誕生日に訃報を載せるなど、あまりよろしいことではないかも知れない。しかし多くの有識者の言葉通り、生と死は裏表でひとつの現象であり、我々は一人残らず、随分とゆっくりした、或いは急流の様な流れの中で、しかし一刻一刻と死に向かっているという、完璧な平等の下にいます。誕生と死亡は、端的に、ほぼ直接、結びついていると言って良いでしょう。「本日から、ワタシは人生は後半に入り」と書くのは易し、ひょっとして医学の進歩によって、結果として、人生の10分の1が終わっただけかも知れませんし（460歳これはヤバい。是非演奏が出来る様にいたいものです）、明日死んでしまうかも知れない。やりたいことをなるべくやりたいだけやる。どんなことであろうと総て楽しむ。だめだったら適当に流す。という事以外、生活信条や俗流哲学の類いをほとんど持たないワタシですが「生き死ににについて、そんなに深く考えない（だって、考えたってしょうがないじゃない。どうせなるようにしかなんねえんだし）」という事だけは厳然／漠然と貫かれております。

　とはいえ、だからこそ、ブルースは計り知れない。家族やファンの心中、小橋選手の、高山選手の心中、「NOAHだけはガチガチ」という、美しい信仰を持つ人々の視線（現場には、2300人のファンがいました）。バックドロップを放った相手選手に、僅かでも移入するならば、たちまちロバート・ジョンソンのエゲつないギターが聴こえて来ます。しかし、そういったもの総てが、われわれを強く（ブルース信仰に従うならば「否が応でも」）生かしているのです。官能と憂鬱は、恐怖と歓喜は、詰まるところひとつなのです。

　毎度ながら、不謹慎を承知で申し上げるならば、ワタシは、こうして誕生日の前夜に三沢選手がリング上で亡くなった事を、言葉を失いながらも尚、悲しいとは感じません。「え？　本当？」と言って迎えた誕生日は、ある種異様なまでに生き生きとしています。故人の誕生日は6月18日です。彼が銚子だったら、或いはワタシが北海道だったら、同級生だったろうな。バンプを取った瞬間、去来した物は何だったのだろうか？　幸福と不幸という区分は、生と死という区分は、どの瞬間からどうやって完全にひとつになったのだろうか？　不謹慎は限界を超え、ゾクゾクするほどです。我ながらどうかと思います。回向でも手向けでも、合理化でもないと信じたいのですが、ワタシは故人の死に様は美しいとしか思えません。

　こうして書いている最中も、メールは届き続けています。誕生祝いのメールを下さった皆様、これから下ろうとしている皆様、メールを送らずとも心中で、モニター前等々で祝って下さっている皆様に感謝するとともに、皆様のお一人お一人のお誕生日をお祝い差し上げます。皆様そしてワタシを生み育てた両親の存在、先祖の存在、そしてそもそも、こうして我々総て全員が、現在この世にこうして、一同に会している神の采配に感謝します。少なくとも一人は亡くなりましたが。生まれるのがあと50年遅かったならば、ワタシは21世紀初頭を、まるで20世紀初頭の様に勉強する事になったでしょう。46歳になりましたが、ワタシは誕生日にこの街に来ましたので、歌舞伎町ライフも本日より6年目に入ります。日頃からの御贔屓に感謝致します。これからもご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します（ウインク）。

【ホームページより】

またしても悲報……
大阪プロレスレフェリーのテッド・タナベさん死去

　6月15日、大阪プロレスが公式ホームページにて、名物レフェリーのテッド・タナベ（本名＝田邊哲夫）さんが同日、搬送先の病院で亡くなったと発表した。享年46。

　タナベさんは、前日（14日）の大会のメインイベントをレフェリングし、リングを降りたあと意識不明の状態に。すぐさま蘇生措置が施され、その後すぐに大阪市内の病院に搬送。治療が続けられていたが、一夜明けた15日の午後12時23分に死亡が確認された。

　タナベさんは、ジャパン女子プロレスのレフェリーとしてデビュー。ユニバーサルプロレス、みちのくプロレスを経て、大阪プロレスの名物レフェリーとしてレスラー、ファンに親しまれてきた。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

誰からも愛された偉大なるレスラー

三沢光晴エピソード集

リングをひとたび降りても、その人間力でレスラーや関係者をはじめ、多くの人々を惹きつけてきた箱船の盟主。ここでは『kamipro Special2009 APRIL』の特集「何度でも読みたいプロレス最狂伝説」で取り上げた「三沢光晴伝説」から、珠玉のエピソードを再構成。その幾多の名勝負同様にいつまでも語り継いでいきたい、三沢さんの人柄がうかがい知れる逸話を一挙に紹介する。

構成／鈴木佑

エピソード1　陰の功労者ジョーに示した最大の敬意

現在、ノアでGHCタイトル管理委員長を務めるジョー樋口は、全日時代の三沢の幾多の勝負を裁いた名レフェリーであった。そのジョーは、97年のチャンピオンカーニバルで42年のレフェリー生活にピリオドを打つことに。初の巴戦による決勝を裁いた直後に行なわれた引退セレモニー、リングを降りるジョーの目前には驚くべき光景が——。なんと直前に2試合を闘い、満身創痍のはずの三沢が律儀にリングサイドで待っていたのだ。「ジョーさん、お疲れさまでした」と両手で握手を求めた三沢。功労者に対して最大の敬意を払う三沢の姿を、ジョーは「いまでも忘れられない」と語った。

エピソード2　〝三沢革命〟により小川をランクアップ

98年に故・ジャイアント馬場からマッチメイク権を譲渡された三沢は、それまでの全日では考えられなかったような〝三沢革命〟を敢行。その象徴的なものが、三沢が自身のパートナーとして当時ジュニアだった小川良成を抜擢したこと。「本当に俺でいいんですか？」と戸惑いを隠せない小川に、「おまえで、じゃなく、おまえがいいんだよ」と一言だけ返した三沢。「小川には小ささを補う技術がある。くすぶってる選手じゃないだろうというのがあった」と語る三沢によって、俄然注目が集まった小川は、のちにGHCヘビー級王者にも君臨したのであった。

エピソード3　筋を通したマスコミには誠心誠意で向き合う

99年、大相撲の力櫻（現・力皇猛）が全日本プロレス入りした際の話。その情報をつかんだとある新聞記者が、当時社長であった三沢に真相を尋ねた。すると三沢は「正式発表するまで載せるのは控えてくれないかな」と返答、記者はその申し出を受け入れた。しかし、それから数日後、他の新聞に「大相撲の力櫻、全日入り！」という大々的な文字が——。急きょ、全日は力櫻の入団を正式に発表。会見後に三沢は、ライバル誌に出し抜かれた記者を別室に呼ぶと、「約束守ってくれてありがとう。何かほかに聞きたいことがあればなんでも話すから」と、気遣いあふれる一言。筋を通した者に対して誠心誠意向き合うのが三沢の流儀なのだ。

エピソード4　わだかまりを残したかつての仲間への心配り

00年のノア旗揚げ戦、全日時代に三沢率いる「アンタッチャブル」の一員でもあった垣原賢人は、格闘スタイルで大暴走してしまう。数年後、垣原はこのときのことを「ケガもあってもう現役は長くないと思い、焦ってああいうスタイルを試みたんです。うまくいかず落ち込みましたね……」と述懐。結果的にその一試合のみでノアを離れた垣原は「レスラーの中で一番ハートがデカイのは三沢さんだと思うんです。そんな人を、ある意味裏切ったっていうのが凄く心残りで」と後悔していた。しかし、06年の垣原の引退試合、三沢はその門出に対して豪華な花を贈呈。わだかまりを残したかつての仲間に対するこの行動。垣原はこの三沢の心配りに涙したという。

エピソード5　高山のPRIDE進出を全面的にバックアップ

01年2月、当時ノアに所属していた高山善廣がフリーに転向してPRIDE参戦を宣言したが、この発表の陰にも三沢の男気あふれる思いやりがあった。総合進出を決めた高山は「ノアとPRIDEが重なる場合もあるからフリーになるしかない」と、三沢に退団を申し入れる。すると、三沢は「所属のままでもかまわない。総合への準備が必要なら、そのあいだは休んでもらってもいい」と、全面バックアップを約束。さらに三沢は、06年に高山が脳梗塞から復帰するときには、日本武道館のメインという最高の舞台を用意した（高山善廣&佐々木健介vs三沢光晴&秋山準）。「ノアに不義理はできない。僕がいろいろ挑戦できるのは三沢社長の心の広さがあってのことだから」。高山にとって三沢は恩人と言える存在なのだ。

エピソード6　青春をともにすごした〝理不尽大王〟との友情

〝理不尽大王〟の異名で一時代を築いた冬木弘道は、所属団体が変わっても三沢とはプライベートで親友同士だった。その二人が02年の4月に12年ぶりに再会マッチを敢行。しかし、その2日後、なんと冬木が大腸ガンに侵されていたことが発覚。冬木はその日、自らがプロモートする大会で引退を発表した。しかし、そのことを聞きつけた三沢は「最後はしっかりやらなきゃダメだ！」と急きょ、ノア主催による『冬木弘道引退興行』の開催、並びに冬木の新団体（WEW）の旗揚げ興行への全面協力を発表した。引退試合後、冬木は「俺にも親友がいたってことかな」と目に涙をためてポツリ。ちなみにこの興行の収益は三沢の心意気ですべて冬木に贈られた。のちに三沢はこのことについて「深い意味はない。冬木さんは大切な友だちだからです」と述べている。冬木は03年3月に42歳の若さで逝去。その最期のときにも三沢は立ち会ったとか。ともに青春をすごした仲間に対する三沢の友情あふれる行動であった。

エピソード7　旅立つ仲間に対して見せた器量の大きさ

「三沢光晴という大人物についていこうと思います」。これはノアの旗揚げ会見で池田大輔が発したコメント。全日参戦時、池田は三沢にPRIDE出陣を考えていることを打ち明けた。すると三沢は「次、新しいのやるから大ちゃんも参加してよ。もう参加するのは決まってるからさ」と、まだノアという名前が決まる前の段階で池田に声をかけた。「外様の俺を頭数に入れてくれていたのが嬉しかったですね」と語る池田は、ノアではハードコアスタイルを展開。「自分は浮いてたと思います。でも三沢さんは認めてくれてたんですよ。『1シリーズで10台までなら机を壊してもいいよ。でもそれ以上は自腹ね』って言ってくれて（笑）」。その後、池田は自分の進むべき道を模索してフリー転向を選択。その際も三沢の「これからもフリーでウチに上がってね」という言葉によって円満退団。さらに池田率いるバチバチに「ノーギャラでもいいよ」と、快く選手を貸し出した三沢。その器の大きさに、あらためて池田は感服したのであった。

エピソード8　プロモーターの信頼を裏切らない義理堅さ

IWAジャパンの名物社長として知られる浅野起州は、もともとプロモーターだったこともあり、三沢とは古くから親交があった。「三沢さんには儲けさせてもらいましたよ。あの人はこの業界じゃ珍しいくらいに信頼できるんです、まず嘘つかないしね」。三沢は全日退団時にも、すでに契約していた興行に穴を開けるとプロモーターに申し訳ないからと、全日の地方大会に出場。「全日から要請がなくても出るつもりだった」と語るところからも、三沢の義理堅さがうかがえる。また、浅野は「ウチに参戦予定だった大物外国人が来れなくなったときも、秋山（準）選手とか丸藤（正道）選手みたいな一線級の選手を二つ返事で貸してくれてね。三沢さんは一緒に仕事をしてて一番気持ちいい人ですよ」と述懐。「三沢さんを悪く言う人はいないですよ」。浅野のこの一言が三沢の人望の厚さを何よりも表わしていると言えよう。

「死んでもいい」覚悟を背負っていた男
“レスラー”三沢光晴

あの三沢光晴が亡くなった。自称“ノアヲタ”であり、元『kamipro』編集部の真下義之が、このやるせない訃報を聞いて瞬間的にフラッシュバックしたのは、12年前のある事故に関する三沢のある発言だった……。

お腹がポッコリしてていいから三沢に生きてほしかった

「俺なんか、死んでもいいと思ってやってるからね」(三沢光晴、『週刊プロレス』No・811より)。

あまりに沈痛になってしまうその訃報を聞いた瞬間、僕の脳裏にフラッシュバックしたのは97年8月16日に起こったプラム麻里子さんの試合中の死亡事故に関しての三沢(当時は全日本プロレス)の強烈なコメントだった。

「安全なスポーツなんてないんだから、仕方ない部分がある。そう言ったらプラム選手には悪いけど、俺個人のことで言えば、死んでもいいってことはないけど、そのぐらいの覚悟でやってますよ」(前出)

一介の全日本ファンだった僕は、ほとんどの関係者が“大人の”コメントを残すなか、一人だけ不謹慎とも言える、だが肝の据わった発言をした三沢の“覚悟”に駅のホームでこらえきれず号泣してしまった。

「危険な技はやらないほうがいい」というのは簡単だ。だが、こんな覚悟を持つ当事者にいったい何が言えるだろう。僕は駅のホームで戦慄し、途方に暮れた。

そのあと全日本を通過して、立派な“ノアヲタ”になった僕が『kamipro』編集部へ入ったのは4年前。業界入りすると純粋なファンからは「すれてしまう」ことが多いなか、『kamipro』は数年前に取材拒否されて以降、現在もインタビューはもちろん試合も記者会見も呼ばれない。ノアは完全な“管轄外”だった。

僕にとっては“関われない”ことで、逆にノアだけが“聖域”のようにプロテクトされるように思っていた。

だが、後年は動きも精彩を欠くようになり、とくにポッコリ出たお腹をファンから揶揄されていた三沢。

僕も「あれはないんじゃないか?」と思ったし、さすがに弁護できなかった。「三沢さんのお腹」をからかうギャグで一緒に笑ったこともある。僕も次第に“すれていた”のかもしれない。

先述のプラムさんの事故のあった97年は多団体時代のプロレスブーム末期だ。ジャイアント馬場も存命していた最後の“いい時代”。記事中の関係者のコメントにも「この場所がなくなるかもしれない」という切実さは見えなかった。

それから12年後……プロレスをめぐる状況は激変した。

ミスター高橋本をはじめとするカミングアウト問題や総合格闘技の隆盛で“勝負論が失なわれた”プロレスは、エンタメ化や小劇場化に拍車がかかり、ノアも観客動員が減少、今年4月に“最後の砦”日本テレビの中継まで打ち切られた。

一方、こんな状況を象徴するような映画『レスラー』が上陸する。プロレスの裏側までさらけ出すことで本質を描ききった傑作だが、その反面、船木誠勝が「この映画を観て、プロレスラーに憧れる人はいないでしょう」と言ったように“ドサ回り”の苦しみ、心臓手術でドクターストップがかかってもリングから離れられないなど、プロレスラーという職業の光と影があまりにもリアルに描かれている。

そんな『レスラー』の日本公開がスタートしたその日、三沢は試合中にこの世を去ってしまった。

カミングアウトを前提としたプロレス映画と、カミングアウトを徹底的に拒んだプロレス団体が同日にプロレスの壮絶さを証明してしまうという凄まじい皮肉、恐ろしい偶然の連鎖(これも偶然だが、ミッキー・ローク演じる映画の主人公のランディも三沢もグリーンのロングタイツだ)。

オールドタイマーながら自分のためにプロレスを続けるランディと、団体の長である三沢では立ち位置が違いすぎるが、三沢もまた46歳になっても地方大会のメインで27分もの激闘を務めなければならない十字架を背負っていた。

腎臓ガンから奇跡の復活をはたしたもののヒジのケガで欠場が長引いた小橋建太、さらに今年5月には「パニック障害だった」ことを告白した秋山準。

本来エースとして活躍するハズの“弟分”をここ数年カバーし続けたのは三沢だった。

そして、最後の三沢のパートナー・潮崎豪はなかなか育たなかったヘビー級の最後の希望であり、三沢は潮崎を「一人前にする」コーチ役を引き受けた格好だった。

加えて、社長業としてはスポンサーの接待など“夜の闘い”だってある。「この場所を守るために」三沢のお腹がポッコリするのは当然だった。

さまざまな問題に直面しても、自分の試合のハードルを年齢相応に落とすことなく、マット上で“殉職”してしまった三沢。

誰かを責めるつもりなんて毛頭ないが、ノアやプロレスの未曾有の危機や困難を、一人で引き受けたかのような凄まじいバッドエンド。

そして、望んではなかっただろうが、それすらもどこかで三沢は「覚悟していた」という事実にも震撼するしかない。でも、こんなにやるせない話はない。

07年4月、GHCヘビー級王座の防衛戦で勝利したあと、「腹が出てるって言われるけど、ただ出てるだけじゃないというのを見せたかった(笑)」と自虐的なマイクをした三沢。

この日、会場にいた僕はこれを聞いてヘラヘラ笑ってしまった。

人間は本当に勝手なもんだ。

でも、やっぱりお腹がポッコリしていても全然いいから、僕は三沢に生きていてほしかった。

「じゃあ、どうしたらいいかな、というのは俺もわからないですよ。どうしたら安全かは……ウーン、テーマだよね。プロレスファンと、プロレス界のね」(前出)。

いったいプロレスをめぐる因果、悲しみの連鎖はどこまで続くのか?

いまはまだあの駅のホームでのときと同じように、ただ途方に暮れるしかない。

(真下義之)

暴言柔道王が過激な〝方向転換〟を激白!!

石井慧

世界チャンピオンへの野望は変わらず

『戦極』マット〝踏み台〟宣言!?

『戦極』には〝いまの僕〟が強くなるのにちょうどいい相手がたくさんいる

総合格闘技転向表明以来、UFCでのデビューを目指し、アメリカ&ブラジル等で修行中だった北京五輪柔道金メダリストの石井慧が、一転『戦極』でのデビューを発表した。「世界の頂点に立つ」ことに邁進し、頑なだった石井が〝方向転換〟に至るまでには何があったのか？　あらためて暴言柔道王の野望をロングインタビューで聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／吉場正和

石井慧

“徹子の部屋”は僕がスベッたんじゃない あれを考えた江種先輩がスベッたんです

――石井さん、まずは先日行なわれたファン公開契約調印での“徹子の部屋”反省会からいきましょうか（笑）。

石井　あ〜、あれはスベりましたねえ。でも、あれは僕のせいじゃないです。江種（辰明）先輩です！

――あ、人のせいにしますか。

石井　だって江種先輩が「これやったらウケる」って言うからやったんですよ。でも、ただスベリだったじゃないですか。だからあとで江種先輩に「全然ダメでしたよ」って言ったんですよ。そしたら「あれは真剣に考えたんじゃなくて、冗談で言ったんだ。まさかおまえがホントにやるとは思わなかった」って言うんですよ。

――ダハハハ！　大事なプロへの大きな一歩を踏み出すときに、冗談でアドバイスされましたか（笑）。

石井　でも、江種先輩には、いままで結婚式のスピーチとか全部考えてもらってて、全部大当たりだったんですよ。でも、今回の『徹子の部屋』だけはちょっと失敗しましたね。

――タマネギ頭のヅラまで用意したのに。

石井　あれ、なかなかないんですよ。それをドン・キホーテ全店舗で探してもらって、やっとみつかったんですよ。

――ドン・キホーテの総力を結集したヅラでしたか（笑）。

石井　だから、用意してもらった手前やらなきゃダメだし。で、やった結果、だだスベりだったという。まあ、江種先輩が「次は任せろ、真剣に考えてやる」と言ってたんで、次は頑張ります。

――次も江種先輩に任せるんですか？

石井　いや、真剣に考えてくれたときはホントにおもしろいんですよ。

――これまで一番の大当たりはなんですか？

石井　「ウツでも金」。

――ああ、あの有名な石井語録は江種先輩考案でしたか！

石井　だから、皆さん自分が歌手だとしたら、作詞・作曲も全部石井がやってるとお思いでしょうけど、実際は石井は唄うだけで、作詞・作曲は全部、江種先輩ですから。

6月4日、新宿ステーションスクエアで行なわれた、石井のファン公開契約調印式。ここで石井は『徹子の部屋』のテーマ曲に乗って、黒柳徹子ばりのタマネギ頭のヅラを被って登場。しかし、見事にスベッてしまった。

――石井慧専属構成作家みたいなもんなんですね。

石井　そうです。だから今回もスベッたのは石井じゃないんです。江種先輩がスベッたんです。

――先輩のせいにしますか（笑）。契約調印のあとのコメントでは「國保さんにも相談してゴーサインが出たので」と、國保さんのせいにもしてましたよね。

石井　はい。ウケたら自分のせい、スベッたら他人のせい。これを大学で学びましたから。負けたら選手のせい、勝ったら……というね。

――そうでしたか（笑）。では、あらためまして『戦極』参戦を決めた理由をお話しいただけますか？

石井　やはり、『戦極』が一番正面切ってスカウトしてくれた熱意があって、あとはドン・キホーテの安田会長の誠意というか、商品券をいただけたことが理由です。

――アメリカへ行く前に商品券もらったんですよね。

石井　はい。それでプレステ3とニンテンドーDSを買いました。あとお手紙をいただいたんですよ。

――安田会長からですか？

石井　はい。僕がUFCを目指すということに対して「おまえがアメリカでやるっていうのは、ドン・キホーテ精神だ」って励ましていただいて。

――ドン・キホーテ精神ですか（笑）。

石井　でも結局、日本でやることになったんで、ドン・キホーテ精神でもなんでもなかったんですけど（笑）。安田会長に励ましていただいたのは、ありがたく思っています。

――やはりブラジルで修行しながらも、今後について、一人で考えることが多かったわけですか？

石井　はい。なんかね、ブラジルでいろいろ気づかされましたね。

――どういったことですか。

石井　アマゾンの動物園に行ったんですよ。動物園っていっても、ジャングルそのまんまのサファリパーク的な感じなんですけど、そこに凄くデカいワニがいるっていうんで見に行ったら、ちっちゃいワニしかいなかったんですよ。それで「な〜んだ」と思ってたら、「あれを見ろ」って言われて。よく見たら、自分が岩だと思ってた巨大な塊は8メートルのワニだったんですよ。

――巨大すぎてわからなかった、と。

石井　だからブラジルに来る前の自分は、ね、ワニのときと同じで、一歩引いて、自分を客観的に見ることができなかったんですよ。でも、ブラジルでそういうことができるようになりました。

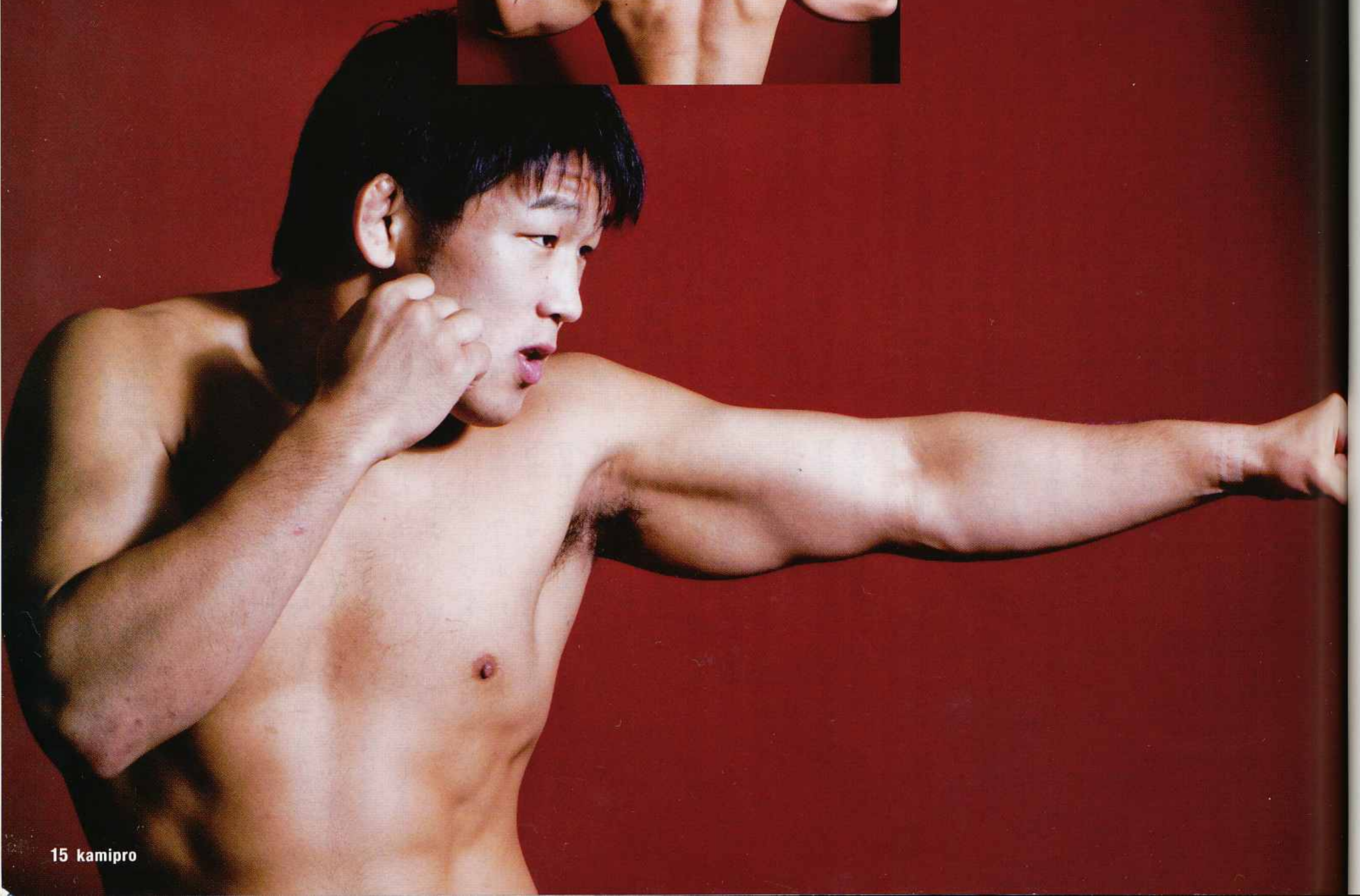
――なるほど。等身大の自分を客観的に見るきっかけになった。

石井　そうです。自分の知らない、こんなにデカいワニがいるんだな、と。

――それはもちろんMMAの世界における自分の大きさというものも考えて。

石井　でもね、自分はまだMMAの世界で子どものワニだっていうだけなんですよ。LYOTOさんの道場でも「イシイの練習を見るかぎり、将来おまえは必ず世界チャンピオンになる」って言われましたし。そのことについては自分でも微塵も疑ってないです。

――自分の現状を知り、自分の可能性も疑わない、と。今回、『戦極』に決めるにあたって、「いろんな方の意見をうかがった」と

ブラジル修行で８キロ減量した石井の肉体は、痩せただけでなく見事にビルドアップされていた。柔道家から総合格闘家へ、精神だけでなく肉体もすっかり変わってきている。

会見で言われてましたけど、とくにどなたにうかがいましたか？

石井　誰ってことになってましたっけ？

──会見では横綱（朝青龍）の名前を出してましたね（笑）。

石井　実際、横綱にもアドバイスいただいたんですけど、あとはLYOTOさんとかね。

──やはりUFCのトップであるLYOTOさんの助言というのは、大きかったわけですか？

石井　そうですね。「何事も段階を踏まなきゃいけない」と言われました。あとは「これはビジネスなんだ。プロなんだから、自分の価値を高めろ」と。

──LYOTOさん自身も、日本のリングや『ジャングル・ファイト』でしっかり経験を積んで、そのうえでUFCに参戦して成功したわけですからね。

石井　あとはフェドール！（やたらいい発音で）。

──へ？

石井　フェドール！

──ああ、はい。ヒョードルがどうしました？

石井　やっぱりフェドールが一番強いんで、彼がいる舞台が最強の舞台だと思うんですよ。そこに上がりたいという気持ちもあります。

──『戦極』だったら独占契約じゃないので、ヒョードルが上がっている『アフリクション』に上がれる可能性もあるわけですもんね。あとは日本の格闘技界を盛り上げたいっていう気持ちもありますか？

石井　建前では。

──ダハハハ！　建前（笑）。

石井　いや、でも他人のことなんて考えてられないですよ。柔道のときも「ほかの人が負けて、〝俺だけは勝たなきゃ〟って思ったか？」とかよく聞かれたんですけど、そんなのないです。自分のことで精一杯。だからね、「（モノマネで）俺が盛り上げなきゃとかね、そんな余裕はチャンピオンになってから言うんだよ！」。

──誰のモノマネですか？

石井　斉藤（仁）監督です。「そんなことはね、チャンピオンだけが言っていいんだよ！　そんな余裕を持てるほど、おまえは強くないんだよ！」ってことですよ。

──なるほど。まずは自分の目標を達成することだけを考える。『戦極』デビューが決まったからには、チャンピオンになることを考える、と。

石井　そうですね。だからこれ（『戦極』参戦）は、僕が最速でチャンピオンになる方法なんです。わかりますか？

2カ月間、ブラジル・アマゾンにある町田道場で、現UFC世界ライトヘビー級王者のリョート・マチダ（LYOTO）らと練習を積んできた石井。その帰り道、ニューヨークに寄った際はヘンゾ・グレイシー道場に行き、ダニエル・グレイシーらとのスパーリングも行なったという。

日本を盛り上げたいとか、そんな余裕はチャンピオンになってから考えること

──どういうことですか？

石井　やはりプロボクサーの金の卵でも、段階を踏んで徐々に強い相手と闘うということが必要じゃないですか。だから僕も自分が成長できる相手とやることで、強くなれると思ったんで。そして自分が成長できる相手が一番いるのは『戦極』だと思いました！　國保さん、これでいいですか？

──ダハハハ！　でも、確かに日本で経験を積むことは、大事なことですよね。その「自分が成長できる相手」には吉田（秀彦）選手も入ってますか？

石井　吉田選手でもいいですし、藤田（和之）選手も『東スポ』でいろいろ言ってるみたいなんで。相手はホントに誰でもいいです。

──自分が世界チャンピオンになる前に、まずは超えなければならない選手でもありますよね。

石井　やっぱり吉田選手なんかは、自分のライバルだった世田谷学園出身じゃないですか。自分は世田谷学園に対するリスペクトが強いんで、そこは自分が介錯人にならなきゃいけないな、と。

──ほう、介錯人になりますか！

石井　……なりたいな、ならないといけないんじゃないかな、なれたらいいな。

──『関白宣言』みたいに（笑）。あと藤田選手はちょうど今日、〝ヒョードルに勝った男〟と8月に対戦することが発表されました。

石井　フェドールに勝った男って誰ですか？　髙阪さん？

──いや、コマンドサンボの試合でヒョードルに勝った、グルジア人だかブルガリア人だかがいるんですよ。

石井　そうなんですか。自分も倒したいですね。（突然）カラーテ！　カラーテ！　アイ・プレイ・カラーテ！

──は？　いつから空手家になったんですか？

石井　ブラジル修行で自分は空手家になりました。バックボーンは「空手」と書いておいてください。黒帯をもらいましたから。

──いつの間に（笑）。

石井　ちゃんと社団法人日本空手協会認定ですよ。松濤館流空手の黒帯です、僕！

──それはLYOTO選手のお父さん、町田嘉三さんが認めてくれたんですか？

石井　そうです。剣道二段とは違います。

──森田健作知事とは違う（笑）。いまUFCでは、LYOTO選手の活躍で、〝マチダ空手〟の幻想が高まってますよね。

石井　昔のグレイシーみたいなもんじゃないですか？　なんかLYOTOさんだったら、フェドールにもパンチを当てさせずに勝てそうな気がしませんか？

──そんな幻想すらありますね。

石井　だからこれから空手を学ぼうとする選手も増えると思うんですよ。その前に僕がイシイ空手を作ります。

──もう自分の流派を持ちますか（笑）。

石井　松濤館流空手から町田先生がマチダ空手を作って、町田先生から学んだ石井

が、イシイ空手を作ります！

毎日飲んでました。

ホントは一滴も飲んでません。

──へえ、もしかして合同練習が中止にな

石井慧

が、イシイ空手を作ります！

――そんな空手黒帯も取得した、アマゾンでのマチダ空手修行の日々はいかがでしたか？

石井　ブラジルには2カ月半いましたけど、斉藤先生の合宿の一週間のほうが長かったような気がします。

――UFC王者クラスとの練習でも、苦しいとは思いませんでしたか。

石井　やっぱり斉藤先生のおかげですね。あの苦しい日々があったから、いまもプロで全然やっていけるんじゃないですかね。斉藤先生のおかげで、一時はもう……ノイローゼになって、頭もハゲて、そこまで追い詰められたんですけど、斉藤先生のおかげで、いまはどんなことでも大丈夫です！

――柔道時代にアマゾンでも生きていけるぐらいの精神力がつきましたか（笑）。ブラジルから帰ってきて、肉体がもの凄く変わりましたけど、意識して肉体改造したんですか？

石井　そうですね、やっぱり動ける筋肉にして、それでいて筋肉をお大きくして、総合格闘技の身体に変えていきました。やっぱり、それなりに乳首も立ってないとダメだと思いますし。

――乳首は関係あるんですか（笑）。

石井　フェイントですね。人が噛みたがるような乳首にしようと思ってます。

――肉体はブラジルに行ってから変え始めたんですか？

石井　乳首ですか？

――乳首の話はもういいですよ！（笑）。肉体改造の話です。

石井　ブラジルに行ってから、意識して身体作りをして、アサイーを食べたらこんな身体になりました。アサイーシェイクを毎日飲んでました。

――強さの秘密はアサイーシェイクでしたか。そういえば、LYOTO選手が飲尿してるって聞いたんですけど、本当ですか？

石井　………してます。あれは見たくなかった。

――見てしまいましたか（笑）。

石井　見てはいけないものを……。くわばらくわばら。

――石井さんは「飲め」とは言われませんでしたか？

石井　一度、熱を出したとき、町田先生に「飲め」って言われました。で、「飲みました！　すっごい効きますね！」って言ったら、「そうだろ？」って言ってましたけど、ホントは一滴も飲んでません。

――ガハハハハ！　飲んだふりだけして（笑）。そんなブラジル修行も終わって、6月末からまた次の修業先に向かうんですよね？

石井　そうですね。次はフェドールです！

――いよいよヒョードルとの合同練習なんですよね。

石井　はい。オランダで練習してきます。

――どこでそんなルートができたんですか？

石井　僕たちマブダチなんですよ。

――いつの間に（笑）。

石井　これ、いままで内緒だったんですけど、去年の秋にちょっと内緒でフェドールさんに会わせてもらったんですよ。

（デビュー戦の相手は）吉田選手でもいい 自分が介錯人にならなきゃいけないな、と

いしい・さとし■1986年12月19日、大阪府出身。中学で柔道を始め、04年に高校生ながら講道館杯全日本柔道体重別選手権大会100kg級優勝。06年には史上最年少19歳4カ月で全日本選手権優勝。08年、北京オリンピック柔道100kg超級で金メダルを獲得。個性的な放言も相まって、国民的なスターとなり、同年11月にプロ格闘家転向を正式表明。今年6月に『戦極』での年内デビューを発表した。柔道五段。181cm、108kg。

――へえ、もしかして合同練習が中止になったときですか？

石井　そうなんです。そのときに一緒に食事させてもらって、そのとき仲良くなったんですよ。

――そうだったんですか。ヒョードル選手は8月1日に『アフリクション』でジョシュ・バーネットとやりますけど、観に行く予定は？

石井　観に行きたいんですけど、『戦極』もあるんですよね。

――8月2日に『戦極』さいたま大会がありますよね。

石井　『アフリクション』終わってすぐに日本に帰っても間に合いませんかね？

――時差の関係もあり、完全に終わってますね（笑）。では、『アフリクション』観戦も考えてるということは、とりあえず8月2日の『戦極』でのデビューはないということですか？

石井　いや、出ます！

――ホントですか？

石井　『アフリクション』を観て、そのままチャーター機で日本に向かってそのまま試合をします。自分への挑戦！

――頑張ってください（笑）。まじめな話、デビュー戦はいつ頃を考えてますか？

石井　いつでもいいですよ。そのために練習してますから。

――では、デビューのあかつきには、『徹子の部屋』ではないパターンの入場も期待してますよ（笑）。

石井　いや、入場はどうでもいいです。それより僕の試合に期待してください（キッパリ）。

――わかりました。石井選手の試合に期待してます！

【09年6月9日／都内・某スタジオにて収録】

——無事にパンクラス凱旋も終わり、
いよいよ8月2日の『戦極』での廣田

かなって思いましたよ。
北岡　あ、思いました？　まあ、筋量

か、僕。
——でも、正確には「強いと思います

北岡　ナメてないと思うんですけど
ね。僕に密着してもらって、廣田戦に

北岡　ああ、はい。
——また『戦極』に戻ってくる可能性

「まあ、スーパースターですから（笑）」

戦極ライト級"キモ強"王者

北岡悟

祝6.7パンクラス凱旋勝利
たった一人の祝勝会

6.7パンクラス・ディファ有明大会で坂口征夫から86秒でタップを奪った北岡悟。戦極ライト級王者として凱旋したひさしぶりのパンクラスで、集客の難しいディファ有明に1,880人（超満員札止め）もの観客を集めて、一回りも二回りも大きくなった姿を見せつけた。そんな北岡の次の試合はDREAMの石田光洋をKOした廣田瑞人！　大一番を前に祝勝会を一人でやってもらいました。

聞き手／坂井ノブ　撮影／乾晋也

お客さんは「あの減らず口め」と思ってるでしょ。思ってますよね？

——無事にパンクラス凱旋も終わり、いよいよ8月2日の『戦極』での廣田瑞人戦ということで、お話を聞きたいんですが、その前に今日はたった一人で祝勝会という体でお願いしたいと思います（笑）。この店は北岡さんのブログによく出てくる餃子のおいしい江古田の中華料理屋なんですが、行きつけなんですよね？

北岡 そうですね、ロータス・パラエストラ世田谷の八隅孝平さんとよく来ます。もともとパラエストラ東京にいた頃からたまに来てたんですけど、八隅さんと一緒に練習するようになってまた頻繁に来てるって感じですね。

——これがお薦めの餃子ですか？

北岡 そうですね。だいたい、ずっと餃子頼んでる感じですね。

——ひたすら餃子？ 北岡さん、食べる量は結構多いんですか？

北岡 一般人よりは食べるんじゃないですか。一皿5個入りなんですけど、しゃらくさいんでフライパンごとドーンと持ってきてもらうんですよね。フライパン一つでだいたい20個か25個ぐらい入ってるんですけど、それをいくつも注文して。八隅さんもよく食べるんで、みんなでガツガツ食べてる感じですよね。

——こうやっておいしそうに食事してますけど、今回は減量が凄くキツそうで、計量の日はグッタリしてたじゃないですか。負けるんじゃないかなって思いましたよ。

北岡 あ、思いました？ まあ、筋量が増えたのと、試合間隔が開いたのも大きいですよ。でも、厳しい減量のおかげで気合が入るっていうか、気持ちが引き締まる部分もあるんで。これに懸けてるんだなっていうのが自分でも確認ができる。それが大きいような気がしますけど。それがいい方向には行ってるんだと思います。

——でも、あれって相当なストレスだと思うんですよね。

北岡 そうかもしれないですけど、僕はそういうストレスと闘わなきゃいけないんですよ。立場のある人間は。

——なるほど。で、次の試合が8月2日の『戦極』廣田瑞人戦ですね。

北岡 そうですね。じつは、今回の坂口選手の試合前にイメージして立ち合いの練習してるのに廣田選手のイメージがよぎったりして、ちゃんとピントを定めるのが今回大変だったんです。まあ、あとは廣田選手オンリーで対策できるんで、やりやすいですけどね。彼は「ナメられてるんで、一発やってやります」みたいな感じのことを言ってるじゃないですか。

——言ってましたね。

北岡 ナメてないですよ。強いと思ってますって言ってるじゃないですか、僕。

——でも、正確には「強いと思いますけど、僕の下の次元での強さです」って言ってるんですよね（笑）。

北岡 だってそうじゃないですか！ 僕が優勝したトーナメントの準決勝敗退でしょ？ そのあと僕が五味（隆典）選手を相手にどんな試合やったか観てた？ って話じゃないですか。それにぶっちゃけちゃうと、石田戦っていうのはラッキーな試合じゃないですか。ラッキーパンチって言ってるんじゃないですよ。

今回も入場はGacktバージョンの『哀 戦士』。入場の際にはリングサイドで会場を見回してリングイン。リング上での表情は、イッちゃった目で口をパクパクする呼吸法だ。キモ強いテンションは、パンクラスでも健在!!

——どういうことですか？

北岡 ちゃんとしっかり練られて、努力して積み重ねた上でのKOできるパンチを持ってると思いますし、そこをべつにクサすつもりではないですけど、でもあの試合は廣田選手にとってはラッキーな試合です。それを廣田選手自身はわかってるはずだと思いますよ。わかってなかったらダメだと思うし。

——ダメですか！ まあ、そういうキツい発言が「ナメてる」と思われるんじゃないですか。

北岡 ナメてないと思うんですけどね。僕に密着してもらって、廣田戦に向けての練習や生活を見てもらえば、僕は廣田選手をナメてないっていうのがわかると思います。

——言うだけのことはやってる、と。で、次の『戦極』の前日、8月1日にアメリカで『アフリクション』がありますよね。そこに五味選手が出るという噂なんですが、思うところはありますか？

北岡 べつにもう関係ないですよね。五味選手と試合できてよかったなとは思ってますけどね。勝ったことによってもらったものもいっぱいありますし。でも振り返ってみれば勝って当然だったんだなとは思ってますけどね。

——北岡さんは「再戦したい」って言いましたけど、いまでもチャンスがあればやりたいですか？

北岡 五味選手がしたくないんだろうなっていうのが十二分にわかったんで、逆にそこまで。僕は勝ってるし、再戦っていうのはお客さんが求めているものだと思ったから言っただけですから。

——それで、今度『戦極』に石井慧選手が上がることになって、この先きっと地上波放送とかいう話になるじゃないですか。

北岡 なりますね、めんどくさいですね。

——そうなると、おそらく五味選手って地上波放送が大好きじゃないですか。

北岡 ああ、はい。

——また『戦極』に戻ってくる可能性もあるんじゃないかと思ったんです。

北岡 僕も地上波で流れるときに再戦やったりするのかなってチラッと思ったりしましたけどね。だけど、たぶんやらないだろうなって思いました。僕とは関わらない方向性でいくんじゃないですか？ もちろん、僕はいつでもやりますよ。だって勝てるから。もう1回やろうって言ったのは、もちろん勝てると思ってるからですよ。お客さんも、もう1回やってくれよって思いがあるはずですよ、絶対。お客さんは僕のことを「あの減らず口め！」とか思ってるでしょ。思ってますよね？

——まあ、五味選手ってファンから愛されますよね。

北岡 うん、あんまりピンと来ないですけど、そうみたいですね。

——凄く口ベタだし、不器用だからかもしれないですけどね。北岡さんが器用だとは思わないけど、口は立つじゃないですか。

北岡 そうなんですかね。

——まあ、愛されてないとは思わないけど、五味選手との違いですよね。

北岡 僕もそんなに愛されてるとは思ってなかったんですけど。でも、思ったよりパンクラスのディファ有明にお客さんが来てくれたのは嬉しかったですよ。

——ホント、あれこそ凱旋って感じでしたね。

北岡 しかも僕に声援送ってくれたんで、ビックリしました。

——あのとき会場を見回したときの感じ、見回した方向から歓声になっ

煩わしいのが嫌なんですよ。後ろ指
状況によってやる気がなくなったり
いいと思いますよ。
は同じことできないと思いますよ。
北岡　(沈黙)。まあ、格闘技の仲間が

中井祐樹のロングスパッツに憧れて、自身もロングスパッツを穿いていた北岡だが、「ノイズを消すために。あと話題にもなるでしょ」という理由で緑のショートスパッツにチェンジ。ロングスパッツで滑りにくいから足関節技がかかりやすいんじゃないかという声を封じ込めにかかったが、今度はヒザのテーピングが話題の標的に。

てったじゃないですか。

北岡　チラッと見ただけですよ。そんなにじっくり見るつもりはなかったんですけど、見たら沸いたから全部見たんですよ。

――しまいにはマスコミしかいないバルコニー席まで見てたじゃないですか。

北岡　でもバルコニーも沸いてましたよ、なんか。

――マスコミも沸いてた!(笑)。

北岡　関係者がいたからかな?

――ああ、関係者もけっこういましたね。あれと同じような光景を、WWEのトリプルHって選手がさいたまスーパーアリーナで、指をさした方向をどんどん沸かせてくということをやってたんですよね。北岡さんがトリプルHと同じことやってる!と思って少し震えました。

北岡　まあ、スーパースターですから(笑)。試合前は、坂口選手の応援団とかが多くて「やられろ!」みたいな感じの雰囲気の中で試合するんじゃないかなとか言ってたんですよね。だから、あんなにいい雰囲気になると思ってなくて。それはホントに嬉しいし、ありがたかったですね。でも自分の気持ちの中では、べつにどういう状況だろうと自分は自分のパフォーマンスを出そうっていうことは腹決めてましたけどね。べつにそういうブーイングが起こる中でも、お客さんが全然入ってなかろうと、自分がやることは一生懸命やろうって。

凄く嫌なんですよ、誰かみたいに状況によってやる気がなくなるの

ある意味、初めての仕事だと思ってやってましたし。

――仕事というのは、お客さんを満足させて帰すっていうことですか?

北岡　そうですね。

――もっと言えば、会場にお客さんを呼ぶっていうところから、もう仕事は始まってるわけですよね。

北岡　そうですね、はい。いろんな意味で仕事でしたね。求められたものを返してきたつもりではいますけどね。仕事もよほど嫌なことじゃないかぎり、全部やってきましたし。結局、こうやって取材を受けることも、自分の気持ちを整理したりできて、格闘技の試合とかにもつながっていくんですよ。観られて載って、意識が高くなることで磨かれていく。若干、無理やり持ってってるんだと思いますけどね。

――その無理やりさが逆に過剰さを生んでますよね。こんな過剰な選手はほかにいないと思うし。

北岡　そうですね。僕からすると、そういう人って懸けてないでしょって思っちゃいますからね。ホントに勝負っていうか、試合に懸けてるんだったら、そうじゃなきゃおかしいでしょっていうふうに。僕のスタンスはそうだから。だから、青木(真也)は凄いと思います。青木はそれに近いことをやってると思うし。

――結果的にファンの人に届くのは、そうやって懸けてる人ですよね。ところで、石井選手については、どう思いますか?

北岡　あんまり興味もないんですよ、ホントに心から興味ないんですよね。

――階級も違うから闘う可能性も低いし。

北岡　まあ、そのおかげでスポンサーがついたんですよね。あと地上波放送があるかもしれないんですよね。年末にぶつけたりすれば切り札になるし。個人的にはべつに年末はぶつけなくていいと思うんですけどね。

――食い合っちゃいますよ。

北岡　そうなんです。でも、僕は『戦極』に従いますよ。かりに地上波放送がついても石井選手の試合だけ流す可能性もあるとは思うんです。ただ、僕らの試合も流れるかもしれない。そのときにちゃんといいものが出せるようにしておけばいいだけだと思うんで。いままでのテンションで、いまのクオリティのものを出せば、絶対認められるという自信はありますからね。誰もできないと思いますし、僕のあのテンションであのパフォーマンスを出すっていうのは。でも、べつにそれを年末に地上波で流したいというわけじゃないんで。そこを誤解されたくないっていうか。僕、有名になりたくないんですよ。

――なんですか、急に?

北岡　嫌なんですよ、声かけられたりするのが。自分のためや周りのためにお金は必要だけど、その一方で

北岡悟

煩わしいのが嫌なんですよ。後ろ指さされたりするのも、いろいろ書き立てられたりするのも。でも、みんなが求めるし、僕の仕事だからやってるけど。

——完全にいま求められてますよ。

北岡 そう、必要だから。僕の中で今回の大会で、僕で商売が成り立ってることがあらためて明らかになりました。

——北岡さんが嫌がることほどビジネスになる。

北岡 嫌がるってほどじゃないですけど。ただ僕の中では、自分の身体を切り売りしてる部分があるわけじゃないですか。

——心もですよね。

北岡 そうですね。だけど結局それでお客さんが来てくれて、商売になるわけじゃないですか。それが止まらなくなっちゃったというか。

——降りられない電車に乗っちゃった、みたいな。

北岡 そうですね。それでさらに石井選手のおかげでそれが大きくなっちゃう可能性がある。もちろんお金はより入ってくるかもしれないし、知名度とかいろいろ周りの人を幸せにできる可能性は高くなるかもしれないですけど、その一方でめんどくさいじゃないですか、どう考えたって。でもまあ、やりますけどね。

——そこは腹を括ったんですよね。

北岡 そうですね。だから凄く嫌なんですよ、誰とは言わないですけど状況によってやる気がなくなったりするのって。自分の気持ちとそぐわないノリになってるからってやる気がないとか。そういうのって最低じゃないですか。ダサいですよね。

——いまトップ選手でそういう心境をそのまま吐露できる人もいないですよね。人前に出る人って、闇は極力少ないほうがいいじゃないですか。

北岡 そうですね。

——明るく強くカッコよくという見せ方が多い中で、北岡さんだけギラギラしてる（笑）。

北岡 そんな明るく強くカッコよくなんて現実じゃないですけどね。媒体もそこをほじくってくるわけじゃないですか。

——まあ、「頑張ります」とか、まじめな発言ばっかじゃ読者もつまらないでしょうし。

北岡 僕は闇を見せるのも仕事かなと思ってるから、見せてるだけですけど。考えなきゃいけないのかなあ？

——いや、北岡さんはいまのままでいいと思いますよ。

北岡 はい、自分でもそう思いますね。ほかのことも対してうまくできないと思いますし。

——リングに出て試合をしてるときには暗さを感じないですし。

北岡 たいしたことやってないのに、あんなに盛り上がってもらって申し訳ないですけどね。まあ、さいたままでも正直たぶん僕が一番目立っちゃうんだろうなとは思ってますけどね。悪いですけど、勝負にならないだろうと思ってるんで。郷野さんが入場でいろいろやっても僕には勝てないでしょ。もちろん凄い人だと思ってますよ。ただ、いまの僕の力、テンション、パフォーマンスには太刀打ちできないと思いますけどね。むしろフェザー級のほうが可能性あるかなと思ってますよ。

——爆発する可能性がある、と。

北岡 日沖（発）選手であったり、金ちゃん（金原正徳）であったり、小見川（道大）選手が負け越してたのにここに来ていい流れでポンポンと勝ってきてっていうのもあるし。そっちの方が僕にとっての競争相手としては脅威かな。

——たしかに緊張感ある感じのいいカードですよね。

北岡 テンションっていうのは、いまやってることの勢いや努力だと思うんですよね、厳しさであったり。でも、僕の方がヤバいですよ。ほかの人は同じことできないと思いますよ。それをやってるかぎり、僕負けないかもしれない。

——かつて、船木さんが「格闘技に常勝チャンピオンはあり得ない」っておっしゃってましたけど、負けないかもしれない？

北岡 それをやってるかぎりは。

——凄い領域にきてますね、そう考えると。だから、もうちょっと届いてもいいなと思うんですよね、北岡さんのおもしろさとか強さが。

北岡 それが伝わると面倒くさいから、いいです。

——その一線が越えられないと、たぶん大金は入ってこないんじゃないですか？

北岡 いいんじゃないですか？ これぐらいで。僕が心身ともに持たなくなるんじゃないですかね、たぶん。それに、お金がガポッと入ったら辞めちゃうと思うんですよね。

——モチベーションが続かない？

北岡 はい。

——なにかが足りないから、過剰になれてるんでしょうね。

北岡 それはあると思いますよ、なにが足りないかはわかんないですけど。

——まあ、足りないのはひとつじゃないでしょうし。

北岡 友だちがいないことですかね。

——今日もひとりで祝勝会だし。

北岡 （沈黙）。まあ、格闘技の仲間がいるんで。ぜいたく言わずにやっていきます。

——寂しくはないですか？

北岡 寂しくないって言ったら嘘になっちゃいますけどね。でもまあ、自分にしかできない仕事をやらせてもらってるっていうのはホントに光栄だし。だからこんな僕を頼ったり、期待してくれたり、信頼してくれたりしてくれてるっていう状況は嬉しいから、それにできる限り応えたいというか。無理なときは無理って言いますし、素直だから。

——素直だから（笑）。わかりました、8月に向けてまた頑張ってください。

【09年6月12日／都内・江古田駅前『和興楼』にて収録】

きたおか・さとる■1980年2月4日、奈良県出身。パラエストラ東京で総合格闘技の練習を積み、パンクラスismに入門。07年、DEEPで行なわれたPRIDEライト級GP出場者決定戦に勝ったもののPRIDEはその後、活動を休止して事実上の消滅へ。『戦極』ではライト級GPを制して、五味隆典に一本勝ちして初代ライト級王者に君臨する。168cm、70kg。

中国家庭料理『和興楼』
東京都練馬区旭丘1-73-9三共ビル2F
TEL.03-5982-0095
昼11:30～14:30／夜17:30～25:30
定休日:月曜日
★北岡のオススメは焼餃子です!!

"芸能界きっての猫芸人"
猫ひろし
僕、猫好きなんですけどじつは……
猫対談
夢の顔合わせがついに実現ニャー!!

小見川道大

〝格闘技界一の愛猫家〟

猫のおかげで人生が変わったんですよ

いざ！

猫好き必読の対談が実現！ 最近『kamipro』で毎号登場している猫好きでおなじみの小見川道大と、いわずと知れた猫芸人・猫ひろしの対談である。この顔合わせでいったいどんな猫話が飛び出すのか。二人の猫観について迫る！

聞き手／松下ミワ　撮影／梅木麗子　試合写真／乾晋也

小見川　あ、猫さん、凄い！　今日、猫柄の靴下なんですね！

猫　そうそうそう、これ青山にある猫ショップで売ってるんですよ。

小見川　そんな店があるんですか！

猫　ついでに言うと、（袋から靴を取り出して）この靴も特注で作ってもらったんです。ほら！

小見川　スッゲー！（笑）。

猫　もうね、茶碗から食器から、足ふきマットから全部ありますから。ニャンでもあります（得意げに）。

小見川　ワハハハハハ！

猫　そうだ、とっておきのグッズを持ってくればよかったなあ。

小見川　ん？　何かあるんですか？

猫　いやね、飼い主がいないときに観る猫のDVDっていうのがあるんですよ。知ってます？

小見川　え⁉　猫がDVD観るんですか！（猫のように目を見開いて）。

猫　そのDVDを見せると、ニャンと猫がリラックスするんですって。

小見川　す、凄いじゃないですか‼　それは何が映ってるんですか？

猫　猫じゃないですかね。

小見川　ね、猫が猫を観るんですか！

――凄いDVDがあるもんですね（笑）。

小見川　いやー、ちょっとほしいっすね、それ（興奮気味に）。

猫　ほかにも意外な猫グッズがありますよ。僕、家に猫グッズが300種類以上ありますから。

小見川　マジっすか！

猫　撮影取材されたこともありますから。小見川さんが弱ってる猫を家に持って帰ってくるように、僕も猫グッズを家に持って帰ってきちゃうんです。

試合に勝った日に猫がハトやネズミをプレゼントしてくれるんですよね？（猫）

小見川　なるほどねえ（感心して）。

――さっそく猫グッズで盛り上がってますが、今日は小見川選手と猫ひろしさんの〝猫対談〟ということで企画させていただきました！

猫　ありがとうございます！　いやー、うれしいですねえ。小見川さんとはちょうどこのあいだ初めてお話ししたばっかりだったんで。

小見川　そうなんです。DEEPの会場で初めてご挨拶させていただいて。

猫　僕、桜井〝マッハ〟速人さんとはずいぶん前からの知り合いなんですけど、最近マッハさんと飲みに行く機会が多くてですね、僕も格闘技が大好きなもんですから「よく格闘技会場に行くんです」って。だから誘われて観に行ったんです。

小見川　僕もマッハさんとは高校時代の同級生なんでよく知ってるんですけど、その共通の知り合いとDEEPの会場で挨拶してたら、ちょうど猫さんが一緒にいたんですよね。

――猫さんは小見川さんにどんな印象を持ってたんですか？

猫　『戦極』の小見川さんのマイクを聞いていたんで、絶対にこの人は怖い人だと思ってたんですよ。

小見川　ああ、「クソったれー！」ってヤツですか（笑）。

猫　だからちょっと〝威嚇〟しながら近寄っていったんです（ツメを立てるポーズで）。でもこのあいだ一緒に食事をさせてもらって。

――そのときの写真は猫さんのブログにも載ってましたね。

小見川　猫さんもよくマッハさんのブログに載ってますよね。なんか猫みたいにマッハさんの横に寝てるんですよ。

猫　マッハ道場に寝泊まりしたりしてますから。

――なぜマッハ道場に（笑）。

猫　マッハさんから深夜1時ぐらいに電話がかかってきたりするんですよ、「何やってるの？」って。だから、すぐ飛んでいっちゃうんです。

――そうなんですか（笑）そもそも猫さんは猫を何匹飼ってるんですか？

猫　……いや、グッズはたくさん持ってるんですけど、じつは猫アレルギーなんですよね……。

小見川　そうだったんですか⁉

猫　猫は大好きだし、もともとは猫アレルギーじゃなかったんですよ。そうなったのは「猫ひろし」という名前になってからなんです。

小見川　え？　猫ひろしになってから？

猫　事情を話すとですね　…………ちょ、ちょっと待ってください。　くしゃみが……ハッ、ハッ、ハックショッン‼

小見川　……あ、もしかして僕のせいじゃないですか？　服に猫の毛とかたくさんついてるはずだから。大丈夫ですか？

猫　だ、大丈夫です。アレルギーといって

猫話に花を咲かせる二人。小見川は猫ひろしの猫そっくりな〝威嚇攻撃〟にご満悦の表情。一方の猫ひろしは小見川の待ち受け画面の猫写真に大興奮だ。面識があるとはいえ、猫話だけでここまで話を広げるとは、やっぱり二人とも猫キングである。

でも、そのネズミも半分生きてるからグターっとしてるんですよ（小見川）

もくしゃみだけなんで。

猫　翌日先輩に「明日から『タランチュラ・

猫　しかも猫の仕事とかいっぱい来る

猫　凄い猫ですね（笑）。

猫対談

小見川道大　猫ひろし

もくしゃみだけなんで。

——なんだかたいへんな猫対談になってきました（笑）。

猫　昔は大丈夫だったんですけど、大学時代に一人暮らしをするようになって、生活環境もだいぶ変わってたんですよ。金なかったんで、本当に草みたいなものしか食べてませんでしたからね。

——もしかしてそれで体質が変わったのかもしれませんね。

猫　で、あるとき猫に近寄ったらくしゃみが出ることに気づいたんですよ。そしたら仕事で会ったペットショップの人に「それ、猫アレルギーだよ」って。

小見川　猫ひろしなのに……（残念そうに）。

猫　芸名で言うと、じつは僕、「猫ひろし」になるまで30回以上変わってるんですよね。

小見川　マジっすか！（笑）。

猫　師匠がハチミツ二郎さんだったんで、ハチミツさんみたいにインパクトがある名前がいいなと思って。で、最初「タランチュラ」にしろって言われたんですよ。

小見川　タランチュラ！　なんでまた!?

猫　でしょ？　僕も「タランチュラ」はないだろうと思って、家に帰って一人で考えてたんですよ。「これでいいのかな」って。で、F1の「マクラーレンHONDA」ってあるじゃないですか。それが凄くいい響きだなと思ったんで、「そうだ、明日から『タランチュラ・ホンダ』にしよう」って思ったんですね。

小見川　あ、タランチュラは生きてるんですね（笑）。

猫　翌日先輩に「明日から『タランチュラ・ホンダ』にします！」って言ったら、「なんで人につけてもらった名前を勝手に変えるんだ！」って言われまして。それで明日からカタカナで「ホンダミナコ」にしろって言われたんですよ。

小見川　ホンダは生きてるんですね（笑）。

猫　そこからどんどん名前が変わっていったんです。一度、バスの中だけで3回変わったこともあったんですよ。バスに乗るときと降りるときで名前が変わってるという。

小見川　ちなみに「猫ひろし」の前はなんだったんですか？

猫　カタカナで「ミカミヒロシ」でしたね。あと、候補があったのは「ステファン・猫」。

小見川　それはいいじゃないですか！

猫　結局「猫ひろし」になったんですけど、「猫ひろし」で出てからみんなに「いい名前だね」って言われるようになって。

小見川　なんか、こう招き猫っぽい雰囲気がありますもんね。

『kamipro』No.134では小見川の猫御殿に潜入成功！　そのときのインタビューでは最高7匹の猫が出入りしているという話だったが、猫だけでなくハトやネズミまで入り乱れているとは……。その様子はケータイサイト『kamipro Move』で連載している毎日ブログ『小見川道大のネコ柔道日記』で見られるかもしれないぞ！

猫　しかも猫の仕事とかいっぱい来るんですよ。これってやっぱり猫のおかげなのかなって。で、猫と仕事することが多いんですけど、僕基本的に芸風が「ニャー！」とか「昇竜拳！」とかテンション高いんで、それをやったら猫が怖がって逃げちゃうんです。だからぜんぜん仕事が進まなくてたいへんなんですけどね（苦笑）。

小見川　でも猫アレルギーだと、猫の仕事が来たらたいへんじゃないんですか？

猫　以前、「猫100匹に名前をつける」という仕事がありましたね。

小見川　猫アレルギーなのに！

猫　だから本番で「おまえは、こっち。おまえは、あっち」とか名前をつけた猫と、まだつけてない猫を分けようとするんですけど、くしゃみすると猫がビックリしちゃうんで、また混ざっちゃうんですよ。だから、結局名前つけられませんでした。

小見川　ワハハハハ！　じゃあ、ウチには絶対に来れないですねえ。猫がいっぱいいますから。

猫　いやいや、行きますよ！

小見川　本当ですか？　くしゃみ、止まらないですよ。中村和裕も猫アレルギーなんですけど、絶対に家に入れないですからね。それに『kamipro』では一応7匹飼ってるって答えましたけど、本当は7匹どころじゃないですから。近所の猫もどんどん遊びに来るんですよ。

猫　やっぱりそうなんですか！　拾ってきた猫ばっかりだって書いてあったんでビックリしたんですけど。あと、試合に勝った日に猫がハトとかプレゼントしてくれるって、あれ本当ですか？

小見川　ハトをくわえてきて「勝利おめでとう！」みたいな。

猫　凄い猫ですね（笑）。

小見川　だから、家の中は血だらけですからね。ハトって平和の象徴じゃないですか。だからそりゃねえだろって（笑）。

猫　ハトだけじゃなくてネズミとかも持ってくるんでしょ？

小見川　でも、そのネズミも半分生きてるからグターっとしてるんですよ。

——イヤなプレゼントですね（笑）。

猫　生きてるハトがそのネズミを狙って部屋の中を飛んでるときもあるんですよね？

小見川　そうそう。もう、低空飛行で部屋の中バタバタバタバタ飛んでるから、部屋中が羽根だらけなんですよ。

——もう『わくわく動物ランド』状態ですね！

猫　『わくわく動物ランド』って、そんなかわいいもんじゃないですよ！

小見川　昔はカメも飼ってたんですよ、リクガメを。だからカメの上に猫が乗って、猫も横着だからそっからぜんぜん動かないんですよね。だから、カメのほうが動いて振り落としてましたけど（笑）。

——小見川さんは犬も飼ってたんですよね。犬と猫、どっちがいいんですか？

小見川　完全に猫です!!

猫　ニャ〜！

小見川　やっぱり、猫は自由きままなところがたまらないですからね。だって、こっちがそばに行こうとすると逃げるんですよ？

猫　逆に殺気を消して寄ってくるとか。

小見川　そうなんです。捕まえようとすると、猫も殺気を感じて逃げていくじゃないですか。だから、パッと触るんです。これがトレーニングになるんですよ。

猫　はっはー。猫は格闘技に通じるもの

猫対談 猫ひろし 小見川道大

猫 があるんですね。

小見川 そうですね。リング上でも殺気で「あ、こいつ、右フック狙ってんな」とかわかるじゃないですか。だから冷静にすっとパンチを出すと相手は何が出るかわからないし、これが効くんですよね。

猫 飄々としていて、なおかつバッと動く、と。ホントに猫みたいですね！

小見川 猫だけにかぎらず動物はみんなそうですよ。やっぱり動物は逃げるのがうまいじゃないですか。そのへんは凄く参考にしてますね。だから僕、富士サファリパークで動物の戦法を盗んだりしてますからね。

猫 富士サファリパークで！（笑）。

小見川 それに『アニマルプラネット』とかよく観てますもん。

——それで小見川さんが編み出されたのが〝猫百烈拳〟なんですね。

小見川 それ、勝手に『kamipro』がそう呼んでるだけじゃないですか！

猫 そんな技があるんですか？（笑）。

小見川 いやいや（笑）。そういえば、猫さんも「昇竜拳」とかやってますよね。

猫 そういう技だったらありますよ！ボクシングで「ヒット・アンド・アウェー」ってあるじゃないですか。それをアレンジした「キャット・アンド・アウェー」ってヤツをやってほしいですね。

小見川 「キャット・アンド・アウェー」ですか（笑）。

猫 「シュシュシュ！（とジャブを打って、相手の懐で）ニャー！」「シュシュシュ！ニャー！」という動きなんですけど、これ相手はビックリすると思うんですよね。

——つまり、猫だまし的に使う、と。

猫 そうです。僕、舞台に出ると最初に「猫ひろし、猫ひろし、うるせー！」ってヤツをやるんですけど、そのあとに猫だましみたいに、お客さんの前で手をパンッと叩くんですよ。そしたら、お客さんホントにビックリしちゃってシーンとなるんですよね。

小見川 ダメじゃないですか（笑）。

猫 いや、相手は「？」になるかなって。

——小見川さん、どうですか？ 使えそうですか？

小見川 猫だましは……使えそうですね（不敵な笑みを浮かべて）。

——ホントですか！（笑）。

猫 いやいや、使えますって！ だって、相撲でも舞の海さんが使ってましたからね。ちなみに、僕でも使えるかなと思って、ある相撲部屋でちょっと実験させていただいたんですね。でも、そのまま張り手で吹っ飛ばされました。

小見川 ますますダメじゃないですか。

猫 ホントに笑えないぐらい痛かったんですよ！ やっぱり僕、体重が50キロぐらいしかないんで、倍以上ある力士の人たちとやると、ダメなんだなって。

——でも、猫さんって運動神経抜群じゃないですか。マラソンで3時間半切ったり、巨人軍の入門テストを受けたりとか。

小見川 巨人の？ ホントに？ ギャグじゃなくてですか？

猫 いや、ギャグなんですけど。

小見川 なんだ（笑）。格闘技には興味はないんですか？

猫 ニャーッ‼（あわてて）。僕がやったら殺されますもん！

小見川 せっかくマッハ道場で寝泊まりしてるんだから、やってもいいんじゃないですか？（笑）。

猫 もう僕は見る側専門で。やっぱりアグレッシブな試合はおもしろいですから。だから、このあいだ小見川さんも打撃でKOしましたよね。ニャム・ファンを！

小見川 ニャ、ニャム・ファン（笑）。

猫 小見川さんって柔道家なのに打撃が凄いですよね。やっぱり相当練習したんじゃないですか？

小見川 たいへんでしたねえ。やっぱり柔道は打撃がないんで、うまく見きれないんですよね。それにやっぱり最初はパンチもらっちゃってましたから、なかなか恐怖心も消えないというか。でも、普段練習してることをイメージしながらそれを出すんだという感じで試合できれば一番いいなって。結果はあとからついてくる。人の評価を気にせずに、それを出せたらまあ勝ちがついてくるのかなって（真剣な表情で）。

猫 ……なんか、猫の話をしてたときと顔つきがぜんぜん違いますね。

小見川 アッハッハッハッ！ ちょっと先ですけど、試合が決まってますからね。

猫 8月2日！ 次の試合って8月2日じゃないですか。これ、逆から読むと、「28」で、「ニャー」なんですよ。だから小見川さんの日だなって。

小見川 あっ、ホントだ！ 凄いっすね

猫ひろしの猫グッズ一部公開!!

「猫グッズは300個以上あります！」と胸を張る猫ひろし。撮影を敢行していた普通の道ばたで突然短パンを下ろし、自慢の猫パンツをチラリ。ピンク色の猫が顔をのぞかせた。

これで終わると思いきや、今度は前を向いて短パンを下ろす猫ひろし。ゲッツ！といった感じで中央に登場した紫色の猫を指さし、この表情。まさに猫魂炸裂である！

さらに足下に目を向けてみると、猫デザインの靴下に、猫の足を思わせる猫靴を履いているではないか。ふかふかの猫靴は特注品で、当初は足の裏には肉球もついていたそうである。

‼ 天才ですよ、猫さん！

猫 僕も教えてもらって行ってきたんです

せっかくだから嫁と二人で行ったんです

をする人は初めてだ」って言われたんで

‼　天才ですよ、猫さん！

猫　小見川さんの日だから、ちょっとこれは優勝してもらわないと！

小見川　そうかあ。「ニャー」の日に決勝かあ。じつをいうと僕、猫と出会う前は……荒れてたんですよね（うつむきかげんに）。

猫　え！　そんな過去が⁉

小見川　ヒドかったです。でも、猫を拾ったことによって、なんか休まる場所ができたというか、気持ちが変わりましたよね。家で猫と一緒にいる時間とか凄く大事ですもん。家で癒されて外で吠えられるというか。

猫　そんなに荒れてたのに、なぜ猫を拾おうと思ったんですか？

小見川　一番最初は表参道歩いてるときに拾ったんですけど、凄い雨の日で、こっち見ながらニャーニャー鳴いてたんですよ。鼻水とか涙とかもいっぱい出てて。だからもうほっとけない感じだったっていうか。

猫　じゃあ、その猫のおかげで……。

小見川　（さえぎって）変わりましたね。昔は遊びほうけて家にいなかったですから。いまはもう家に帰って猫と一緒に寝たいって感じなんですけど。だから、猫が情緒不安定だった自分を治してくれたんですよ。

猫　そんな小見川さんにぜひ行ってほしい場所があるんですよ。名古屋のお店なんですけどね。

小見川　猫さん、名古屋も守備範囲なんですか（笑）。

猫　……ほら、これなんですよ（とケータイの待ち受け画面にしている招き猫の写真を見せる）。

小見川　なんですか、この招き猫？

猫　僕も教えてもらって行ってきたんですけど、願い事をかなえる招き猫なんです。

小見川　マジっすか⁉

猫　僕に教えてくれた人も結婚がないまして、ここは70前後のおじいさんがやってる喫茶店なんですけど、ぜんぜん商売っ気がないんで平日の12時から17時までしかやってないんですけどね。

――公務員より勤務時間が短いですね（笑）。

猫　メニューも飲み物だけしかないというちょっと変わったお店なんですけど、せっかくだから嫁と二人で行ったんですよ。で、そのおじいさんから「猫ひろしさんですか？　これ抱いて願い事をしていってください」って言われてその神棚にあった招き猫を抱かせてもらったんですね。で、「もっと仕事が増えますように」ってお願いしたら、なんと、その日のうちに名古屋の仕事が入ったんですよ！　これ、凄くないですか？

小見川　凄いっすよ！

猫　僕も必死に1分ぐらい抱いてたら、おじいちゃんが「こんなに熱心に願い事をする人は初めてだ」って言われたんですけどね（笑）。

小見川　ハハハハハ！　それはちょっと行ってみたいですね。

――せっかくなんで、これはぜひ行っていただきたいです（笑）。

小見川　でも、名古屋まで？（笑）。

猫　いやいや、これで優勝したら本当に猫パワー万歳じゃないですか！　小見川さん、行くしかニャイです！

小見川　じゃあ、行きますか！（笑）。

――その効果は「ニャーの日」に目撃しましょう！

【09年6月3日／都内・J－ROCKにて収録】

次の試合って8月2日ですよね？　これ逆から読むと「28」で「ニャー」なんです（猫）

おみがわ・みちひろ■1975年12月19日、茨城県出身。柔道からMMAに転向し05.5.22『PRIDE武士道』でプロデビュー。PRIDE休止後は『戦極』に参戦し、現在行なわれているフェザー級GPでは準決勝に進出。優勝が期待される。168cm、70kg。

ねこ・ひろし■1977年8月8日、千葉県出身。「猫ひろし、猫ひろし、うるせー！」「昇竜拳！」などギャグでお茶の間を笑わせる人気お笑い芸人。東京マラソンを3時間半以内で走るという運動神経抜群な一面も。なぜか桜井"マッハ"速人とは旧知の仲。

あっ、ホントだ！　天才ですよ、猫さん！　そうかあ。「ニャー」の日に決勝かあ（小見川）

郷野聡寛

with

“戦極ミドレンジャー”西垣梓

©WVR

34歳の決断の陰に戦極ガールあり!?

今年1月のUFC参戦を最後に日本マットでの再就職に動いていた郷野の就職先は『戦極』に決定!! DREAMからのオファーもあったという郷野だが、さんざん迷ったあげく8月2日の『戦極～第九陣～』から『戦極』参戦を決意。はたして、34歳の決断の裏にあった意外な真実とは!? 郷野の本音を戦極ガールの“戦極ミドレンジャー”こと西垣梓ちゃんが直撃!!

構成／阿修羅チョロ　撮影／吉場正和

絶賛発売中の『KamiproSpecial 2009 JULY』では廣田瑞人に直撃インタビューを敢行している〝戦極ミドレンジャー〟西垣梓ちゃん。すでに読んでいただいた方には説明不要だろうが、美女揃いの戦極ガールの中でも〝ミドレンジャー〟梓ちゃんの破壊力はハンパではない。読者からも「違う選手にもインタビューしてほしい」とか「私は廣田選手の大ファンなんですが西垣さんのインタビューは内容がなさすぎて残念でした」等々、賛否両論。編集部では一部で話題沸騰中の〝ミドレンジャー〟に今回も出動要請! またしても大暴走しちゃってますよ!!

SENGOKU
シャキーン!

西垣 〝戦極ミドレンジャー〟西垣梓です。よろしくお願いします！
郷野 よろしくお願いします。噂はかねがね耳にしております（笑）。
西垣 え〜、なんですかぁ、噂って。
郷野 戦極ガールの中でも、かなり強烈な個性があるとか。
西垣 全然そんなことないです。そういえば、郷野さんって解説席にいらっしゃいましたよね？
郷野 しょっちゅういる（笑）。そこで偉そうなことばっかしゃべってたら、試合するハメになっちゃって。
西垣 ねっ。凄いですね、それね！
郷野 どのへんが凄いのかよくわからないんだけど（笑）。
西垣 だって、コメントも闘いもやります、みたいな。全部制覇しちゃうぞって感じですか？
郷野 そうそうそう。リングの外もマルチな活動、みたいなね。目指せ、須藤元気！
西垣 凄いですねぇ。私、ちょっと前に『kamipro』さんで廣田（瑞人）選手にインタビューをさせてもらったんですよ。
郷野 その『kamipro』をチラッと読んだんだけど、口調が「ですけどぉ」とか「ですね〜」とか、語尾がだい〜ぶ伸びちゃってるよね。
西垣 え〜、私、そんなふうに言ってないんですけどぉ。
郷野 いやいや、たったいま「ですけどぉ」って言ってるから（笑）。ちなみに今回の企画、何ページなんですか？
――一応、5ページの予定です。
郷野 お〜、すげっ！ じゃあ、気合い入れていこうか！
西垣 なるほどね。

郷野 何が「なるほど」なんだよ（笑）。まあでも、ちゃんとカンペも持ってるみたいだし、準備は万端だね！
西垣 いや〜、でも、何から聞いたらいいかわかんないですけど。
郷野 いや、カンペの上から順番どおり聞いていけばいいと思うよ（笑）。
西垣 アハハハハ。じゃあ、自然な感じでいいですか？
郷野 はい。兄さんも自然な感じで答えるんで。
西垣 でもやっぱ〜、すっごい腕とか太いじゃないですか。どういうトレーニングしてるのかなって、すっごい気になって〜。
郷野 おお、この兄さんのナイスバディが気になったかぁ。
西垣 こんなに筋肉ついちゃって、何をやってるんですか？ うふふふ。
郷野 格闘技を少々たしなんでおります。
西垣 アハハハッ。練習とかって、どんな感じでやられているんですか？
郷野 格闘家ってトレーニングの種類でトレーナーが違うのね。ボクシングはボクシングを教えてくれる人、筋トレは筋トレを教えてくれる人みたいな。最近、筋トレのトレーナーが変わったんだけど、その人のおかげだね。和田（良覚）さんって、よくリングサイドにいるゴツいつるっぱげのおっさんがいるんだけど。
西垣 え〜、わかんないです。筋トレはどれぐらいやるんですか？
郷野 週2回で、毎回3時間ぐらいぶっ通し。
西垣 うわ〜、それはキツそう。
郷野 ホント、キツいよ。でも、身体がどんどん変わってきてるからね。

私、郷野さんってEXILEのメンバーだと思ってたんですよ

西垣 凄い変わってきてますよねぇ。
郷野 って、前の俺を知ってるんかいっ！（笑）。
西垣 さっきジムでチラッと裸を見てしまったんですけどぉ、凄いことになってましたよ！
郷野 数カ月前は体重が81キロだったんだけど、いまは84キロぐらいに成長してるからね。
西垣 へぇ〜。（運ばれてきたそばを見て）おいしそう！
郷野 って、俺の身体の話は終わりかよ！（笑）。
西垣 （気にせず）私、詳しくはわからないんですけどぉ、郷野さんってヘビー級ではないんですか？
郷野 つかぬことをうかがいますが、シモい話はお好きですか？
西垣 アハハハハ。下ネタなんですか？（笑）。
郷野 ええ。（下半身を指差し）こっちのサイズはヘビー級ですが、何か？
西垣 ふ〜〜ん（興味なさそうに）。
郷野 「ふ〜〜〜ん」って、どんなリアクションだよ！（急にかしこまって）え〜っと、格闘技的にはですね、ウエルター級でございます。
西垣 あれ、ウェルター級ってどこらへんでしたっけ？
郷野 『戦極』でいうと下から3番目かな。真ん中ぐらいか。
西垣 よくわからないです。
郷野 階級の名前とかわかんなくても全然オッケーだから。だって、『戦極』のウェルター級は〝郷野の階級〟になるからね！
西垣 えっ、えっ⁉ なんですか、ゴ〜ノ？（真顔で）。
郷野 ええー……（へこんで）。そこはバーンって来てほしかったな。「そうですよね！」って。
西垣 よく聞こえなかったので、もう一回お願いします！
郷野 俺、滑舌悪いからなぁ。ではあらためて……『戦極』のウェルター級は〝郷野の階級〟になるからな！
西垣 あ〜、そっか。郷野さんの階級がありますもんね。
郷野 ええー……（再びへこんで）。ちょっとこれは、試練ですね（笑）。
――かなりの難敵だと思います（笑）。
西垣 やっぱ、UFCでしたっけ？ 向こうと日本では違いますか？
郷野 あ〜、全然違うよね。向こうはなんでも喜んでくれるから。日本人みたいに冷めたところがなくて。
西垣 へぇ〜、そうなんだ。
郷野 俺、けっこうふざけて入場するんだけど、ふざけて入場したら、もうみんな大喜びで。その日、2番目ぐらいの盛り上がりをみせたのね。そ

『戦極』では旗揚げ戦から解説者として活躍していた郷野。『戦極』参戦を決めた理由も解説者として『戦極』スタッフと一緒に仕事をしてきたことが大きいんだとか。もちろん、戦極ガールの動向もサングラス越しにしっかりチェック済み!?

ういうところとかいいよね。
でも、女性もいると思いま
だって、本気で言っちゃったら迷惑

ういうところとかいいよね。
西垣 DJ OZMAさんのマネして入場するって聞いたんですけど。
郷野 そうそう。もう3年ぐらいOZMAさんのフンドシで相撲を取らせてもらってるからね。日本だったら、「まだ、やってんのかよ！」みたいな感じになりそうなところだけど、アメリカでやったら、意味がわからなくても、なんかもう「グレイト！」とか「ワ〜オッ！」みたいな(笑)。
西垣 わかります、それ！ 一緒に唄っちゃう、みたいな(笑)。でも、『戦極』だとキング・モーさんの入場も凄いじゃないですか。彼を抜くパフォーマンスとか考えてますか？
郷野 抜くというより、吸収されそうな感じなんだよな。この前「2000ドル出すから一緒に俺様の入場で踊ろうぜ！」なんて言われて(笑)。
西垣 2000ドルもらって一緒に踊っちゃう、みたいな？
郷野 2000ドルならやるけどね。ちなみに戦極ガールってギャラはいいの？
西垣 私、わかんないんですよね。逆に郷野さんって『戦極』を選ばれたわけじゃないですか。その理由って、ぶっちゃけ、お金なんですか？
郷野 うまい切り返しだねぇ(笑)。ぶっちゃけ、お金じゃなくて、やっぱり、『戦極』にはUFCに行ってるときから解説をやらせてもらってたし、それでスタッフの人たちともなじみになったし、その人たちと一緒にやりたいっていうのが理由かな。
——戦極ガールの存在はあまり関係ないですか？
郷野 あ、あるある！ って、そうだ！ それが一番だよ！ 戦極ガールはレベル高いからね。DREAMと『戦極』、ラウンドガールで比べたら、もう『戦極』かな、みたいな(笑)。
西垣 うわ〜、嬉しい！
郷野 間違いないね。でも、目の前にDREAMガールがいたら、逆のこと言ってるかもしれないけど(笑)。
西垣 私、郷野さんって最初EXILEのメンバーだと思ってたんですよ(真顔で)。
郷野 は⁉ 俺がEXILE⁉(笑)。
西垣 解説してるのを見て「あ、EXILEの方がいる」って思って。
郷野 15人目のEXILE、AKIHIROです！
西垣 カッコいいんで、凄く。
郷野 OZMAさんも「女の子のウケをよくするにはどうすればいいですか？」って質問に「いまどきの女の子はEXILE唄っておけばいいんですよ！」なんて言ってたから、俺もEXILEみたいな格好しとこうかなって。いや、冗談だけどね。

俺が15人目のEXILE名前はAKIHIROです！

西垣 似合ってますよね。超カッコいいと思います。凄いオシャレだし。
郷野 なんだコレ⁉ こんなにほめられたの、34年8ヵ月生きてきて初めてだよ！
西垣 また〜、そんなことないクセにぃ。でも、どんな人にモテたいとかってあるんですか？ 女性ファンは凄く多いと思うんですけど。
郷野 そうだといいんだけどねぇ、俺の試合を観たら、そのイメージはすぐなくなるよ。
西垣 ホントですかぁ？
郷野 「ご〜のぉ！ ご〜のぉ！」(野太い声で)って感じで。
西垣 男の人ばっかりなんだ(笑)。でも、女性もいると思います。
郷野 いたらいいなぁ……(しみじみと)。でも、兄さんももう34だから、結婚したいんだよねぇ。
西垣 結婚願望が強いんですか？
郷野 最近そうなのよ。だから、やっぱり、しっかりした人がいいよね。頭がよくて、常識もあって、人見知りしなくて、みたいな。
西垣 あ〜〜。けっこう内面重視でポイントが高いですよね。
郷野 美人は三日で飽きる、ブスは三日で慣れるって言葉もあるしね(笑)。
西垣 どっちもどっちだ(笑)。
郷野 やっぱり、こうね、ハートとハートの付き合いができる女性がね、いいなぁって思って。でもやっぱ顔はかわいいに越したことはないんだけど……ってなんか俺、浮き足立ってるぞ(笑)。ちょっと、いつもの俺じゃないなぁ。
西垣 ホントですか、すいません。
郷野 べつに梓ちゃんが謝るところじゃないんだけど(笑)。
西垣 なんか、『戦極』の選手は結婚されてる方が多いみたいですし、郷野さんが試合に出たら、女性から大人気になると思いますよ(つるつるつるとそばをすすりながら)。
郷野 って、そばを食べながら言われても(笑)。やっつけ社交辞令じゃんか。
西垣 いえ、シャコジではないです。だって、本気で言っちゃったら迷惑かなぁって思って。
郷野 本気で言ってよ！ そしたらちょっと広い部屋に引っ越して待ってるからさ！
西垣 すいません。よろしくお願いします。
郷野 え？ 「よろしくお願いします」なの？
西垣 はい、お願いします！
郷野 なんか調子狂うなぁ(笑)。でもね、まじめな話、ここ数年ケガだらけで格闘技に冷めてたところがあってね。練習もあんまりまともにできてなかったし。それで、いまいちモチベーションが上がらないまま試合をしてたら、「なんで俺、憎くもないヤツの顔を殴んなきゃいけないんだろう」とか、けっこう考えるようになってきちゃって。「俺がKOしたら相手の親は悲しむよな」とか……まあ、なかなかKOできないんだけどね(笑)。
西垣 ふ〜ん、やさしいんですね。
郷野 うん、やさしいよ。でも、いまのとこは笑ってね(笑)。
西垣 あ、笑うとこか！(笑)。
郷野 で、しまいには俺がやってることなんて、地球の歴史とか、宇宙の大きさなんかに比べたらちっちゃいよなぁとか、だんだん遠い視点の話になっていっちゃって。それでそれを友だちに話したら、「それは鬱になるよ」なんて言われちゃって(笑)。
西垣 へぇ〜(感心して)。
郷野 いまのところも笑ってもらえると助かるんだけど(笑)。
西垣 あれ？ また間違った。
郷野 兄さん、今日空回りだなぁ。でもね、ケガも治って、そこからやっと

抜け出して『戦極』と契約したんだけど、俺ももう34だし、選手としての時間もそんなに残されているわけじゃないから頑張らなきゃなって。ちょっと昔の話なんだけど、俺は修斗からパンクラスに移ってからの3年間で、1回しか負けなかったのね。

西垣　はいはい。

郷野　って、知ってるの？

西垣　いえ、テキトーに相づち打っちゃいました（笑）。

郷野　ですよね……（笑）。でもね、その頃って、格闘技だけで食っていくために必死だったんだよね。またバイトしながらの生活には戻りたくない、みたいな。もう一回そういったハングリーな状況に戻そうと思って、『戦極』と契約したギャラと照らし合わせたらギリギリぐらいのマンションを契約したんだよね。だから、頑張らないと家賃を払っていけないんだよ。

西垣　もう、やるしかないんですね。

郷野　そう。それで昔の必死さとかをもう一回思い出して、最後にもう一踏ん張りしようかな、と。

西垣　でも、彼女と一緒に住んだりするんじゃないですか？　うふふ。

郷野　彼女かぁ。そう、結婚の前に、まずは彼女なんだよなぁ……

西垣　アハハハ。でも郷野さんって、身体も強いし、話を聞いてたら精神的にもいろいろ考えてるじゃないですか。もしあるんだったら、こっそり弱点を教えてほしいんですけど。

ごうの・あきひろ■1974年10月7日、東京都出身。96年に修斗でプロデビュー。01年にグラバカへ移籍しパンクラスで活躍、05年からはPRIDEへ参戦。06年のウェルター級GPではベスト4に輝く。07年からはUFCに参戦、09年8月から『戦極』参戦が決定している。176cm、82kg。
ブログアドレス→http://www.diamondblog.jp/akihiro-gono/

にしがき・あずさ■1984年4月3日、東京都出身。09年3月の『戦極』から戦極ガールとして活動。08年ミスユニバース・ファイナリストとして、モデルからテレビ東京の人気番組『やりすぎコージー』のやりすぎガールなど、幅広く活躍中。B・84cm、W・56cm、H・83cm、168cm。郷野もまめにチェックしているという戦極ガールブログはコチラをクリック！
→http://www.sengoku-official.com/

もしあるんだったら、こっそり弱点を教えてほしいんですけど

郷野　弱点ねぇ、なんだろ？　……ムフフフ（突然笑い出す）。

西垣　何か思い出しました？

郷野　いや、なんでもない（苦笑）。

西垣　やっぱ、弱点はないですか？

郷野　俺ね、○○が弱いんだよねぇ。

西垣　あ、そっち。そこか！

郷野　そこです！（笑）。センシティブなんだよねぇ……。

西垣　あ～、センシティブ。すいません、内緒のことを聞いちゃって。

郷野　内密にお願いします。でも、俺の感度のよさで、好感度までアップかな⁉

西垣　（スルーして）郷野さんのウィキペディアを見たんですけど、凄いですね。なんかいっぱい載ってて。

郷野　事前に予習してきたワケね。

西垣　はい、すいません。

郷野　そこも謝るところじゃないよ。

西垣　個人情報いっぱい載ってました（笑）。なんかそういうマイクパフォーマンスとかも評価が高いって。

郷野　だからやっぱね、ずっと解説席から見てて歯痒かったんだよね。いい試合した選手なのに、「そんなマイクするんだったら黙って帰ったほうがいいじゃねえかよ！」みたいな。

俺ね、○○が弱いんだよねぇ。凄くセンシティブだから

西垣　あ、わかる！

郷野　わかってくれる？　俺も最初はそうだったんだけど、勝ったあとはマイクでしゃべって目立ったほうがおいしいっていうか、そういう動機だけでしゃべってる人が多くて。「ありがとうございました！」とか「次は頑張ります！」とか、べつに誰も聞きたくないと思うんだよなぁ。

西垣　アハハハッ。凄くわかる！　間違いないですね！

郷野　マチガイナイ！（笑）。

西垣　でも私、そういうのを専門にしてる人じゃないのに、丁寧にお辞儀とかしたりとかできて、凄いなぁとか思っちゃうんですけど。

郷野　そんなんでいいのかよ！（笑）。ハードル低いなぁ。

西垣　いや～、『戦極』はレベル高いですよ。もう一通り聞いちゃったので、逆に何か質問はないですか？

郷野　3人集まれば派閥ができるっていうけど、戦極ガールはどうよ？（笑）。

西垣　派閥？　いや、それがすっごい仲いいんですよね。プライベートで（佐久間）ゆいちゃんと遊んだり。

郷野　ゆいちゃんって何色だっけ？

西垣　赤いコなんですけど。すっごいみんな、じつはマジメなんですよ。

郷野　「じつは」って、誰もマジメじゃないとは言ってないけどね（笑）。

西垣　でもホント、戦極ガールはみんな仲いいですよ。

郷野　なんか『kamipro』で、選手と戦極ガールの合コン企画があるってチラッと聞いてるんで、そのときはまたよろしくね！

西垣　へぇ～、そうなんだ。でも私、合コンとか全然行かないんですよ。

郷野　い、いや、俺も合コンなんて普段は全然ないけど（焦って）。まあ、お仕事だからね。

西垣　じゃあ、張りきります！

郷野　兄さんも張りきります！（笑）。

西垣　合コンも楽しみなんですけど、試合もホントに期待してるんで頑張ってください！

郷野　ありがとう。兄さんも頑張るから一緒に『戦極』を盛り上げていこう！

【09年6月5日／都内・東中野『秀山 やぶ久』にて収録】

〜真夏の死闘篇〜
公開間近!?

戦極対DREAM

仁義なき戦いがマット界を盛り上げる!

石井慧に郷野聡寛、“ヒョードルを倒した男”までゲッツ! 戦極大攻勢、いざ!!

「DREAMさんとはやりたいことが違います」

ワールドビクトリーロード取締役
國保尊弘

“シャキーン!”と、石井慧と契約、郷野聡寛の参戦決定、さらには“ヒョードルを倒した男”まで獲得し、いま一番勢いに乗っている団体関係者といえば、『戦極』広報にして、ワールドビクトリーロード取締役の國保尊弘氏で間違いない。
「DREAMとはやりたいことが違う」発言の真意とは!? “リアル”に直撃、いざ!!

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

——石井慧選手の獲得で、國保さんも『戦極』旗揚げ以来、いろんな意味で一番手応えを感じてるんじゃないですか？

國保　そうですね。やっぱり石井選手と契約したことによって、いろんなところから問い合わせも増えましたし、非常に追い風が来ているとは思いますね。

——追い風も感じるでしょうね。

國保　ええ。また、いいときに来てくれたと思いますよ。

——と言いますと？

國保　一年やってきて、『戦極』もいろいろと進化してきたと思います。このタイミングで石井選手が来てくれたっていうのは、『戦極』にとってホントに一番いいと思うし、格闘技界にとっても非常に明るいニュースですよね。先日の会見で石井選手のことを「格闘技界の光」という表現をしたんですが、格闘技界の光が今後ホントに太陽になってくれればいいなと思いますね。

——金メダルばりに輝いてほしい、と。石井選手といえば、パフォーマンス的な部分も柔道時代から、いろいろと考えてる人じゃないですか。会見でも「ドン・キホーテの安田（隆夫）会長から商品券をもらったので参戦を決めた」と言ってましたけど、いったいいくらぐらい分の商品券をもらったんですかね？

國保　いや、そんなに高額じゃないと思いますよ。たしか、DSだかPSPが買える程度だったって聞いていますけど。

——あ、そんなもんでしたか。安田（隆夫）会長のことだから、勝手に何千万単位なんじゃないかと妄想してしまいました（笑）。

國保　それも『戦極』に来てほしいからという話じゃなくてですね、ニューイヤーイベントは石井選手のほうから「自分が練習している選手たちが出るから応援に行きたい」っていうことで出てくれたんですよ。

——リング上からマイクアピールをしてましたけど、そのときも石井選手は、UFCでデビューして、いずれは日本に戻ってきたいって言ってましたよね。

國保　そうですね。僕自身もあの時点では『戦極』に上がることになるとは思ってなかったですし、安田会長も単純に「今日は来てくれてありがとう」というのと、石井選手はそのままアメリカとかブラジルに練習に行くという話だったので、日用品とか雑貨をぜひドンキで揃えてほしいということで、餞別代わりに商品券をプレゼントしたみたいで。

6月4日、新宿ステーションスクエアで石井慧契約調印式＆『戦極』オールスターを集結させ初の公開イベントを行なった『戦極』。通行人も含め主催者発表で約3000人が見守る中、石井は『徹子の部屋』のテーマ曲＆タマネギヘアのカツラ姿で登場。残念ながらファンはノーリアクションだったものの、「ドンキの安田会長から商品券をもらったので」と『戦極』参戦の理由を"リアル"に告白!?

——あ、そういうことだったんですか。

國保　石井選手は、その商品券でDSとかを買ったという話を聞きましたけどね（笑）。

——結果的には、ずいぶん、お得な買い物ができたというか（笑）。

國保　そうですよね。

——昨日の公開会見で石井選手は黒柳徹子ふうのカツラを被って登場してましたけど、本人いわく事前に國保さんに相談したとのことでしたが、國保さん的にはあのセンスはどう思われました？

國保　まあ、本人がやりたいということで、相談というか「音楽がほしい」ということを言われたので、それは用意しましたけどね。

——「♪ル～ルル」という『徹子の部屋』のテーマ曲を用意してあげましたか（笑）。

國保　現場の反応はあまりよくはなかったですけど、やっぱり、プロとして何かをやらなきゃいけない、アピールしたいということを考えるのは、ある意味、大切なことですからね。

——そうですよね。

國保　当然、試合になったらそんなことも考えずに対戦相手に集中するでしょうけども、リング外においては、何かしら自分を出していこうというのはよく考えていますよね。

——石井選手はケイダッシュという大手芸能事務所に所属しているということもあって、参戦発表会見にはプロレス＆格闘技ファンにもおなじみの川村（龍夫）会長も来てましたね。

國保　そうですね。

——芸能界のドンと言われる川村会長の力もあって『戦極』は地上波がつくんじゃないか」という声もすでにあちこちで出てますね。

國保　現時点では具体的な噂があるんですか？

——あくまでも噂レベルで、やれ「日テレだ」「もしかしてTBSじゃないか」とか耳に入ってきてますけど。

國保　そうですか（笑）。でも実際、テレビ局でバタバタと動いていれば、当然のことながら情報は漏れると思うんですよ。

——あ～、そういうものですかね。

國保　ですから、ホントにこれからですよ。『戦極』としても、より多くの人に観ていただきたいということでは、地上波のテレビ局ともいろいろ相談していきたいと思っていますけども、いま現在何かが決まっているとか、そういうことはないですね。残念ながら。

——でも、可能性は高くなったと思っていいんですよね。

國保　どうなんでしょう（笑）。これは実際に僕らが決める側ではないですから、テレビ局サイドがどう考えていただけるか。

——そう考えると、デビュー戦の対戦相手を含めて、ここからが石井さんはもちろん、『戦極』サイドにとっても腕の見せどころになりますよね。

國保　そうですね。そこで「これだ」という相手にめぐり会えなければ、慌てて8月という必要もないのかなと思っていますけど。

——ゆくゆくは当然、吉田秀彦戦というカードも考えているとは思うんですけど。

國保　ええ、もちろん考えてます。観る側からしてみたら、それはおもしろいカードでしょうからね。互いにリスクも伴いますし。それに、柔道家同士の金メダリスト対決って、ありそうでまだなかった対決ですよね。

——そう言われればそうですね。8月はともかく、どこかのタイミングでの実現を期待してます。

國保　当然やるとしたら大きな大会になるでしょうし、必ずそのカードは組みたいと思っていますので、そのマッチメイクが実現できるよう調整していきたいですね。

——期待してます。話は変わりますけど、このあいだ、ひさびさにゴールデンタイムで内藤大助選手のボクシングのタイトルマッチとDREAM

吉田秀彦と石井選手の金メダリスト対決は必ず組みたいと思っています

「DREAMさんとはやりたいことが違います」

國保尊弘

の二元中継が高視聴率を獲得したわけですが、國保さんはどう思われました？

國保　事前に笹原（圭一DREAMイベントプロデューサー）さんが15パーセントを目標として言っていましたが、それを超えた16・2パーセントという視聴率を格闘技の番組で獲ったということは非常に明るいニュースだと思いましたね。

——テレビ業界というか、それこそTBSでは格闘技だけではなく、視聴率では苦戦してるみたいですけど。

國保　そうですよね。内藤選手が判定までいったとか、所（英男）選手や（山本）KID選手の試合が最終ラウンドまでいったとか、いろんな要因が重なったと思うんですけど、16パーセントを超えるというのは格闘技としては明るいニュースだと思いますし、石井選手の件も含めて、そういう明るい話題が重なると相乗効果もあるでしょうし、格闘技界的にはいいことだと思いますね。

——ただ、國保さん的には今回の『DREAM・9』で行なわれたスーパーハルクトーナメントに関しては、あまりよろしく思っていないみたいで。「あれがDREAMさんのやりたいことなんであれば、ウチとは違う」と辛口な発言もしてましたよね。

國保　そうですね。谷川（貞治）氏がどこかで「『戦極』とはやりたいことが違う」というような発言をしていましたけど、あのスーパーハルクを観て、これが「やりたいことが違う」ということなんだなと僕はハッキリと思いましたね。「なるほど」と。

——あ、谷川さんが先に言ってたんですか。

國保　ええ。地上波があるから、ああいう話題性のあることをやらなきゃいけないということなのか、逆に初めから、あれがやりたいことなのかなっていうことも考えたときに、どっちにせよ、これはウチとは違うなと思いましたね。

——笹原さんなんかも「数字を獲るため」というのは大会前から言ってましたからね。（ホセ・）カンセコなんて一番象徴的な存在だと思うんですけど。

國保　そうでしょうね。ただ、僕らはいま現在、地上波中継がないという中で言うならば、やはりリアルな試合を見せてあげたいと思うし、「やりたいことが違う」というなら、それは「おっしゃるとおりでございます」と。

——たとえばですけど、『戦極』で地上波がついたとして、今回のDREAM同様に数字を獲るためになんらかの試みが必要になってくることもありますよね。

國保　そうですね。やっぱり、協力者がいろいろ出てくれれば当然、協力者の意見というのも聞かなきゃいけないでしょうし。ただ、守らなきゃいけないラインっていうのは当然あると思いますから。『戦極』に関して言えば、石井選手が一般素人とやるとか、タレントとやるということは100パーセントありえないです。

——さすがに一般素人はないとは思いますが、元野球選手とかもないですか？（笑）。

國保　まあ、野球選手であっても、格闘技としてのスキルをしっかり持って、なおかつ実績があればこれは可能性としてあると思うんですけど、プロ野球選手の総合デビュー戦で石井選手が当たるっていうことはありえないです。やっぱり、自分の血と汗と涙の結晶で出てきている選手たちに対して、そういう選手を上げること自体が失礼だと思いますし。ウチはそうじゃないと常々言っている中で、そういったことをやる可能性はないとハッキリ言わせてもらいます。

——そうですか。DREAMに出場している選手の中でも、「スーパーハルクとは一緒にしてもらいたくない」という意見もあるみたいですけど。

國保　当然あるでしょうね。今回でいえば、カンセコ選手のような総合の経験がない選手を引っぱり出してくるというのは『戦極』では考えられません。

——しっかり総合のトレーニングを積んだ石井さんのデビュー戦とは意味が違うと？

國保　全然違いますよね。同じデビュー戦であったとしても、柔道の選手やレスリングの選手を出すというのとはちょっと違うじゃないですか。まだ、アメフトの選手とかならありかなとも思いますけど。

——アメフトはありですか（笑）。まあ、アメフトは格闘技的な要素はありますからね。

國保　そうですね。格闘技的な要素がある競技なら可能性はあるでしょうけど、何が怖いかって、総合格闘技はケガとかでどうにもならない致命傷を負う可能性も踏まえているスポーツだと思うんですよね。

——その可能性も充分ありますよね。

國保　ですから、やったことがない人が出るというのは非常に危険だなと思いますし、間違っても『戦極』ではそのラインを越えることはないと断言します。

——これまで『戦極』とDREAMは日本の二大メジャーと言われたりしてきましたが、お互いそれほど意識されたコメントは出てなかったじゃないですか。まあ、内心はわからないですけど（笑）。

國保　DREAMさんを意識するというより、やっぱり『戦極』のリングに上がっている選手には「ウチこそが一番の舞台だ」と思ってもらいたいですから。自分の闘っているリングで勝つことが、よそのリングで勝つことよりも価値があると思ってもらいたいし、また、「どこの団体よりも強いんだ」という意識を持って闘ってもらいたいですからね。

——9月23日にはさいたまSAコミュニティアリーナで『戦極〜第十陣〜』を発表してますけど、もしかしたらDREAMと同日興行になる可能性もあるみたいですね。

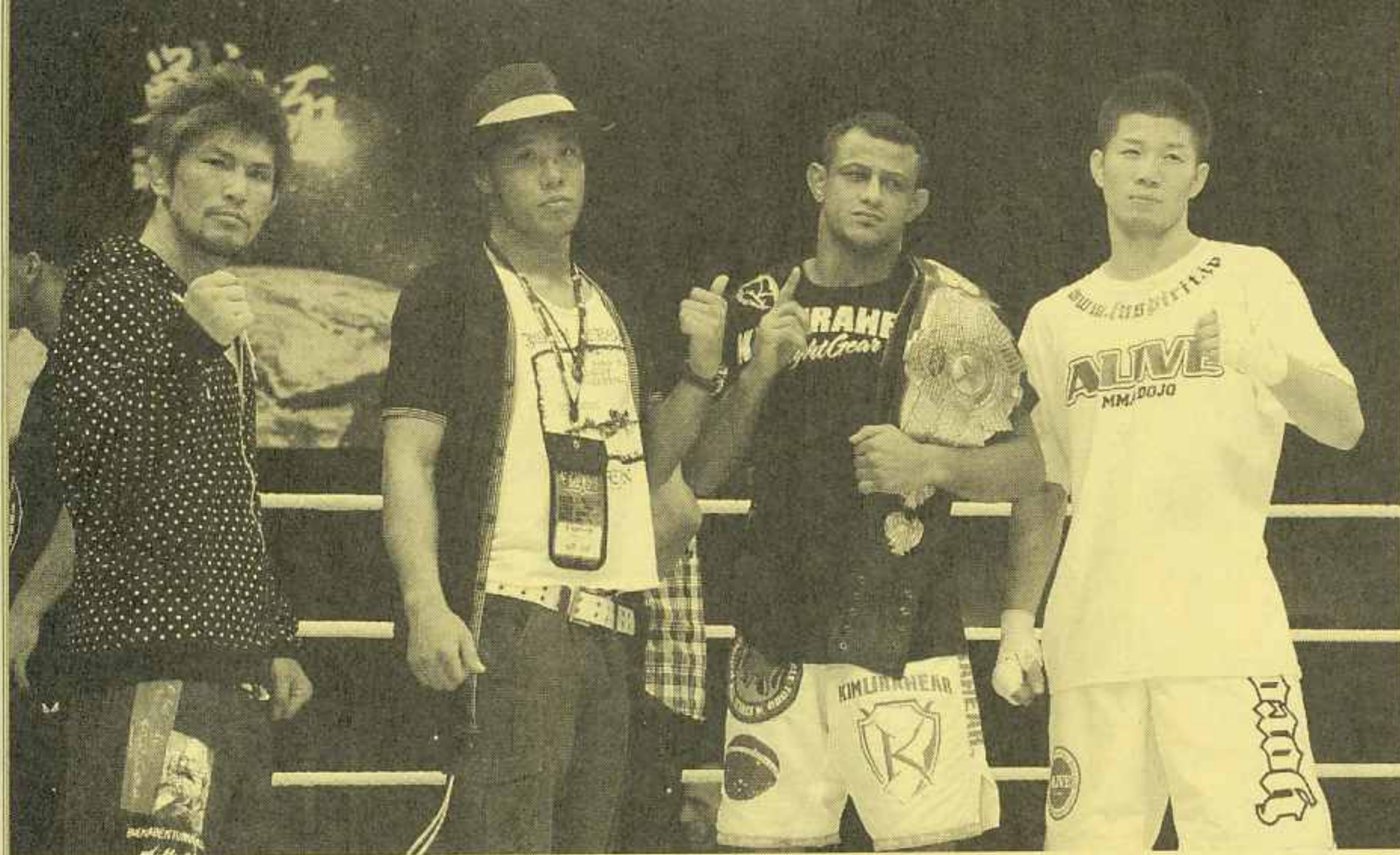
國保　はい。聞いています。

——笹原さんなんかは、「逆に興行戦争になったほうが盛り上がるんじゃないか」と言ってましたけど。

國保　僕もそう思っていますね。確かに二つに割れなきゃいけないというところで、もしかしたら両方行きたいけど片方しか行けないというファンも出てくるかもしれない。でもやっぱり、大会はドンドンあったほうが盛り上がるでしょうし、ある意味、「どっちに行くんだ⁉」「向こうには負けない」というかたちで僕らなりのやりがいも出てきますし、選手としても「こっちに来させるべく頑張ろう」という意識が出てくるんじゃないですか。まあ、いつも同じ日というのは問題があるでしょうけど（笑）。

——取材するほうも困りますね（笑）。先日の修斗での廣田vs石田戦は『戦極』vsDREAMという見方もありましたけど、あの続きが観たいという

メガネスーパーの田中社長に続くマット界のビッグスポンサーとしても知られるドン・キホーテの安田隆夫会長。格闘技マニアでもある安田会長が石井慧に続き、商品券をプレゼントするファイターは誰なんだ!?

『戦極』にカンセコ選手のようなファイターが上がることはないです

声もありますよね。もちろん、いろんな障害はあるんでしょうが（笑）。

國保　今回は修斗という舞台だったので実現できたという経緯はありますけど、あの流れが続いていけば盛り上がるとは思います。お互いにプライドを持ちいろいろなことを意識して闘っていけばよいのではないでしょうか。

――「あまりそういうことは考えていない」と言われるよりも「絶対に負けない！」とアピールしてくれたほうが観る側は盛り上がりますからね。

國保　本気で憎み合う必要性はまったくないと思うんですけど、「自分は誰にも負けない」っていう気持ちは全選手が持っていると思うし、自分たちが参戦している団体が一番だという気持ちを持って闘うということで熱も生まれるでしょうし。

――DREAMからも声がかかっていたという郷野さんも『戦極』参戦が決まったみたいですね（※このインタビューは参戦発表前に収録）。

國保　そうですね。いろいろと悩んだ末に、就職先として『戦極』を選んでいただきました。

――ズバリ言ってDREAMとの争奪戦を制したかたちになったみたいですけど、どこがポイントだったんですかね。やっぱり、お金ですか？（笑）。

國保　いや、それは違うと思う。確かに「お金だろ」って言う人も多かったですけど、実際は違うんですよ。なかなか言いづらい話なんだけど。

――まあ、プロですから、お金で判断するのも全然ありだとは思いますけど。

國保　郷野選手はホントにお金じゃないんですよ。そこはうまく書いといてよ（笑）。

――どう書けばいいのかわからないですけど、とにかくお金ではないということですね（笑）。

國保　郷野選手から聞いているのは、旗揚げ戦から解説として関わってきて、『戦極』というイベントに思い入れを持ってくれたみたいで、「自分が出たらこういうことができるんじゃないか」とか、「ここはこう変えたほうがいい」とか、いろいろ考えてくれているみたいですしね。

――解説にもこだわりを持っている人ですし、自分のことだけでなく、イベント自体をよくしていきたいっていうのは以前から提言してましたね。無駄なマイクアピールが多いというのもよく言ってましたし。

國保　そうですね。そういった部分も郷野選手には期待していますね。

――プレーイング本部長みたいなイメージですかね？

國保　そこは本人と話しながら決めていこうと思っていますけど。

――ゆくゆくはウェルター級のベルト争いに絡んでもらいたいという狙いもあるわけですよね。

國保　そうですね。ウェルター級に関しては、グランプリというよりはワンマッチをやっていく中で、ニューイヤーイベントあたりで、この人だという二人をピックアップしてタイトルマッチを行ないたいと思っているんですけど、郷野選手が中心選手になるのは間違いないと思います。

――8月1日のアフリクションで実現するジョシュ・バーネットvsエメリヤーエンコ・ヒョードル戦に関してはどう思われます？

國保　おもしろい勝負だと思いますね。日本でやったらもっと盛り上がっていたでしょうけど。

――それはありますね。でも、二人のファイトマネーを考えたら日本で、その試合を組めるイベントはないかもしれないですけど。いや、いまの『戦極』さんならやれますか（笑）。

國保　いや〜、やりたいですね〜〜（笑）。

――ジョシュなんかは自分でもネタにして「ボクのギャラは高い」ってよく言ってますけど（笑）、今後『戦極』に出る可能性はあるんでしょうか？

國保　ジョシュはヒョードル戦が決まる前から、年内に『戦極』で試合がしたいと言っているんですね。当然、金額の問題もありますけど、ジョシュにはぜひヒョードルに勝ってもらって、『戦極』で凱旋試合をしてもらいたいと思っていますね。

――そうなれば、『戦極』にとってはベストというか、おいしいとこ取りというか（笑）。まあ、〝キング・オブ・戦極〟なんてキャッチフレーズもついてましたし。

國保　そうですね。『戦極』としては、やはりジョシュに勝ってもらいたいと思っています。対戦相手も頭に浮かんでいる選手がすでにいますから。

――それこそ石井選手とかの可能性もあるんですかね？

國保　まあ、まだ先の話ですからね。また、そのときは取材に来てくださいよ。DREAMばっかりじゃなくね（笑）。

――いやいや、『戦極』もメチャメチャやってますよ。『戦極』ポーズを考えたり、北岡（悟）さんに「キモ強」というニックネームをつけたり、菊田（早苗）さんに鍋を作ってもらったり、小見川（道大）さんの猫ネタも誌面だけでなく携帯サイトでブログもやらせてもらってますし。國保さん的にはどうなのかなっていうネタではありますけど。

國保　いや、いいと思いますよ。なんかしらキャラをつけることは大切なことですよ。

――しつこいぐらいにやって、初めて浸透するところもありますからね。

國保　本人もその気になって、入場のときに猫のお面でも被って、「ニャー！」とか言いながら出てきたらいいと思いますよ。

――アハハハハ！　國保さん的にそういうのはオッケーなんですか⁉

國保　いや、私のほうから「やれ」とは言わないけども（笑）、選手が自己主張するのは大切だと思うしね。

――最近は金原（正徳）選手も対戦相手の日沖（発）選手に「プロ意識が足りない」って噛みついてますし。

國保　まあ、あれがホントに殴りかかったら困るけど（苦笑）。問題にならないことであれば選手はドンドンやっていけばいいと思いますよ。

――リング上の闘いが〝リアル〟であれば、國保さん的には問題ない、と。

國保　そういうことです。

――わかりました。今後ともよろしくお願いします！

【09年6月5日／都内・J―ROCKにて収録】

小見川も猫のお面でも被って入場すればいいと思いますよ

8.2『戦極～第九陣～』で優勝者が決定するフェザー級GP。「負けた選手があれほど泣いている大会は少ないと思う。それぐらい選手はこのGPに懸けているってことでしょう」と國保氏も期待大の今回のGP。小見川の入場にも注目だニャー!?

全面対抗戦！

VS國保発言

DREAMファイター

彼らはスーパーハルクをどう捉えたのか？

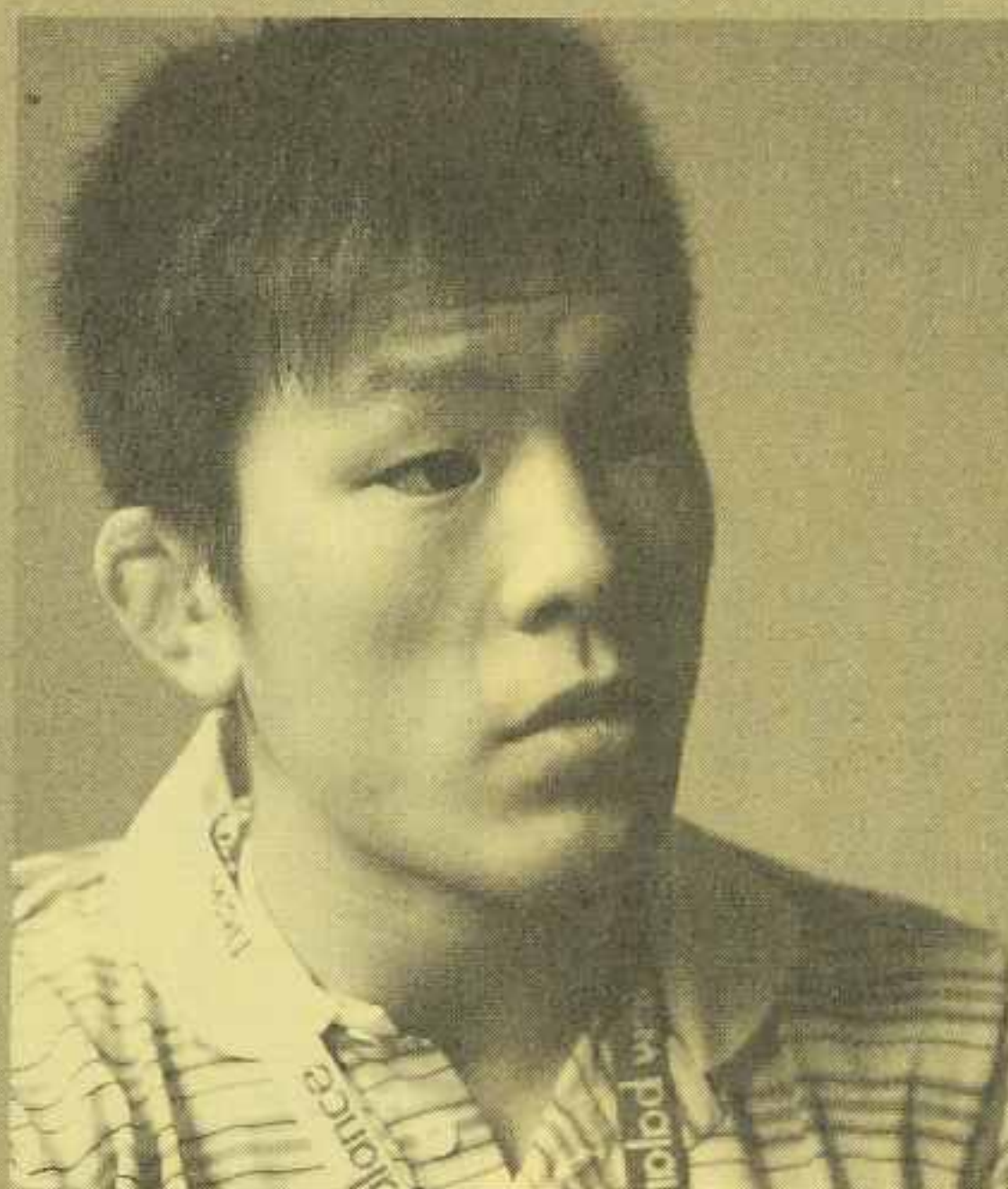
肯定 or 否定？

「DREAM vs 國保発言」勃発か!? 08年後半のマット界をおおいに騒がせた北京オリンピック柔道金メダリスト・石井慧の〝結婚相手〟がついに『戦極』に決定した。DREAMにも『戦極』にもUFCにも参戦の可能性があり、一時は「アメリカで試合することになりました」と発表していた石井。しかし、『戦極』参戦発表会見の場で、國保広報は「（石井は）柔道という競技から上がってきた選手ですから、我々が常々言っておりました『競技性の追求』という面で感じるものがあったのではないかと思います」と、石井が『戦極』を選んだ理由を分析している。

さらに〝競技性〟を重視する國保氏は『DREAM・9』からスタートしたスーパーハルクトーナメントを引き合いに出し、「（DREAMのやりたいことが）先日のトーナメントなら、『戦極』とはやりたいことがまったく違うと思います」とバッサリ切り捨てたのだ！　これはズバリDREAMへの宣戦布告!?

ただ、スーパーハルクといえば、開幕前から「そんなことをしていたら格闘技界が潰れてしまう！」など一部では否定的な意見も沸き起こっており、実際に『戦極』フェザー級のエースである日沖発は「（DREAMにはカンセコが出るが）『戦極』には実績のある人を上げてほしいと思います」とキッパリ言い放っている。

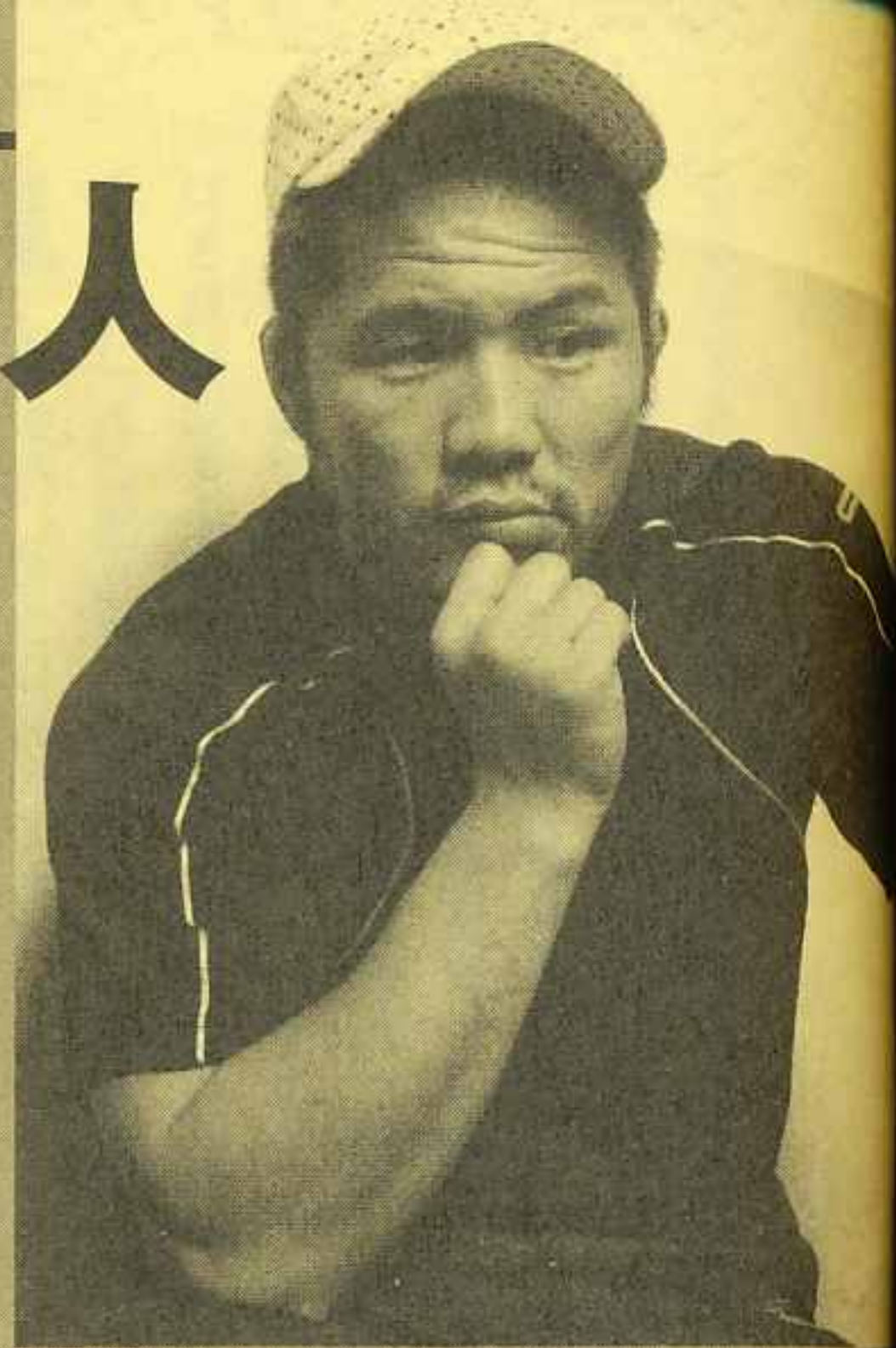
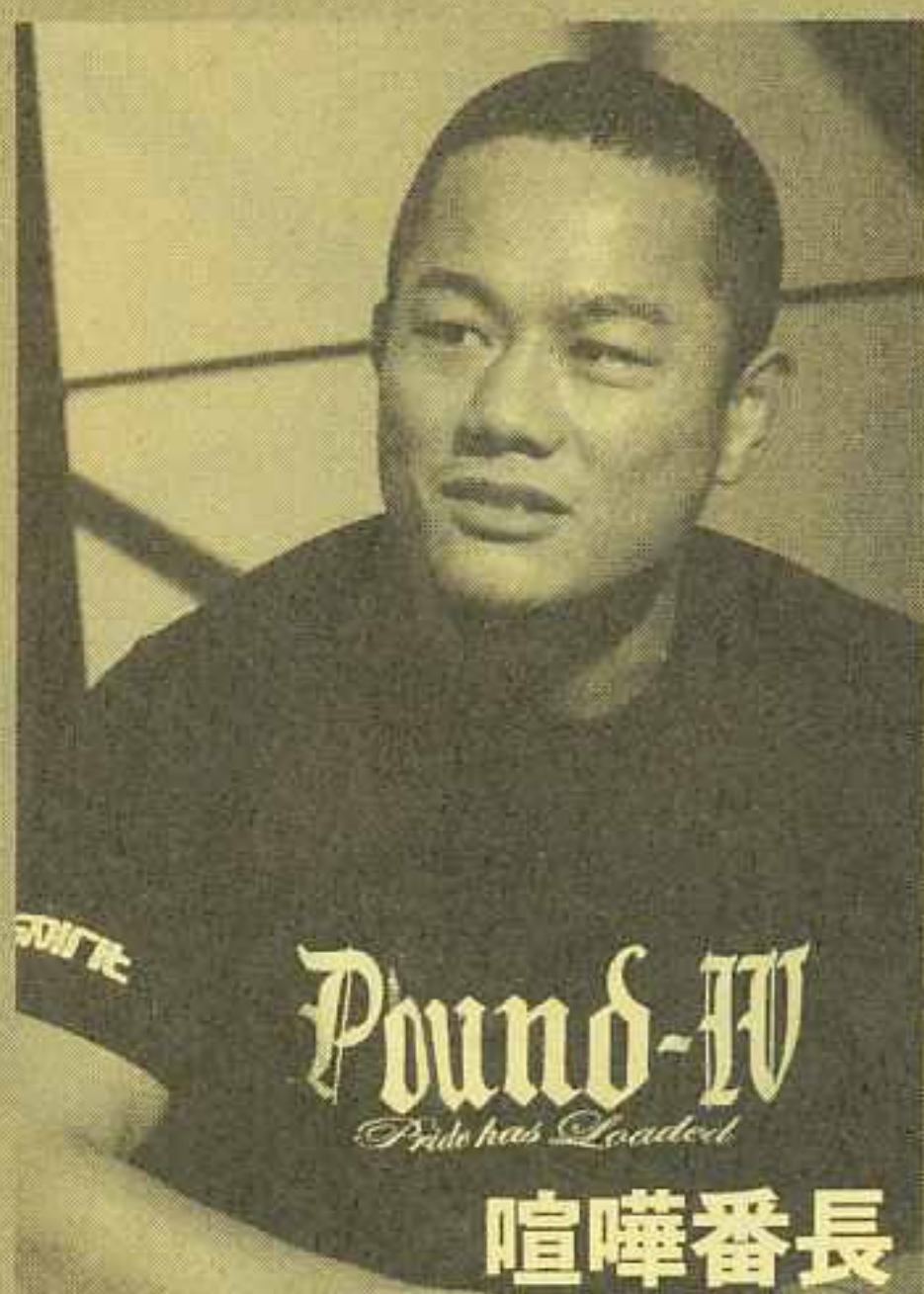
じゃあ、カンセコと同じリングに上がっているDREAMファイターたちは、いったいスーパーハルクのことをどう思っているんだ？　競技性、興行論、視聴率、世間……。いろんなポイントをはらむこの〝國保発言〟について6名の選手に回答してもらった。

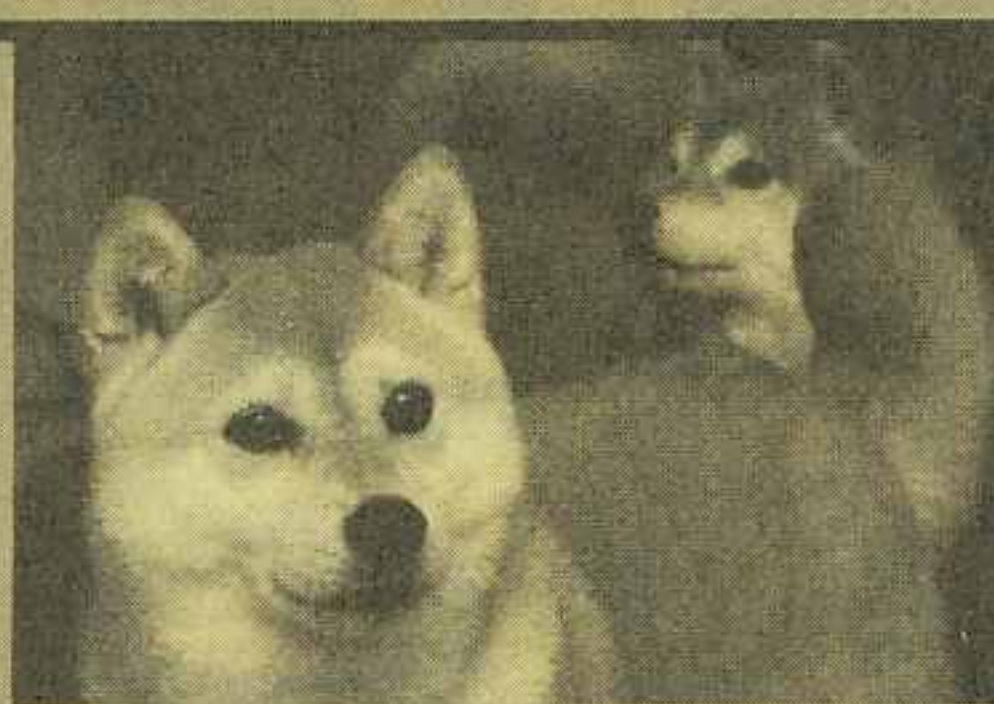
バカサバイバー 青木真也

マジメな話、向こうは向こうの都合もあると思いますし、お互いに文句を言い始めたら、いくらでもマイナスなことを言えますからね。やっている内容はお互い変わらないんだから、そんな見え方くらいでお互いディスったって何も生まれないと思います。競技性うんぬんって言うんだったら、「MMAでどっちが強化されてるか、とことん勝負しようよ！」って言い合えばいいと思うんですよ。そっちのほうがおもしろくないですか？ ボクはいつでも北岡悟とやってやりますけど。

正直、ハルクはむしろやりたいクチなんですよね（笑）。なんでそんなにみんな気にしてんのかな〜？ だって、おもしろかったじゃないですか。それにハルクとは違ったホンモノの試合もあったでしょ。ボクもホンモノをやっている自負はあります。選手が身体を張っていることは、ファンだってちゃんと見てると思うんですよね。

クラッシャー 川尻達也

DREAMも『戦極』も、それぞれのイベントごとに違ったこだわりがあってもいいんじゃないですかね。全部が同じでもつまらないし、それぞれ違う考え方で格闘技愛を持ってるほうが、業界全体の盛り上がりにつながると思いますし。僕は格闘技を世間に広めるために、僕なりの競技志向でやってるだけです。まぁ、スーパーハルクに関しては出オチでいいんじゃないですか（笑）。興味ある選手もいますけど。世間の注目を集めてくれたら、「あとは俺たちが〝本物〟見せるから」みたいな。『戦極』は毎回PPVを買って観てますよ。北岡くんは強いし、おもしろい試合をすると思います。ライト級トーナメントも楽しかったですし。イベントとして違ってもべつに選手同士は敵対してるわけじゃないですからね。僕の中ではどっちのイベントが凄いとか、そういうのはないです。ただ、ファンに向こうのほうが凄いと思われるのはおもしろくないですけどね。

野性のカリスマ 桜井“マッハ”速人

だいたい川尻くんが言ったことと同じです（笑）。ダメ？ てかさ、なんとかハルクだってべつにおもしろいじゃん。あんなデカいのが闘うんだから、そりゃ見た目もわかりやすいし、俺は好きだけどね。あちらの言ってる競技性がなんなのかはよくわからないですけど、なんとかハルクだって競技性ありますよ。要は無差別級ってことでしょ、それは競技性じゃないの？ 違う？ PRIDEだって無差別級トーナメントやってたじゃん。それに最初の頃なんてろくに階級だってなかったんだし。イベントとしてやりたいことが違うって言ってるの？ 難しいことはよくわかんないですけど、俺は『戦極』だっておもしろいと思いますよ。楽しいイベントなんじゃないですか？ まぁ、チケットくれないから行けないけどさ（笑）。

喧嘩番長 高谷裕之

確かにスーパーハルクは話題性重視だと思いますよ。それは否定できないんじゃないですかね。でも、それを言うなら石井選手も話題性があるからこそ、あれだけ注目されてるってことですよね。だから、とりあえずは石井選手のデビュー戦のお手並み拝見って感じですね。DREAMと『戦極』は競技性が違うっていっても、僕自身にはべつにイベントへのこだわりみたいなのはないですから。イベントじゃなくて、選手個人個人に興味があるっていうか。だから『戦極』でもフェザー級トーナメントに出てる中で気になる選手はいるし、日沖（発）くんなんかは実際に修斗の新人王トーナメントで闘ったこともある選手ですから。まぁ、どのイベントがどうとかじゃなく、総合格闘技全体が盛り上がれば、競技性だろうがなんだろうが、なんでもいいと思いますけどね。

撲殺執事？ DJ.taiki

『戦極』はルール的に競技っぽいと思いますけど、DREAMのほうがいいと思いますけどね。それはボクがDREAMの人間だからです。『戦極』にいたら「『戦極』でよかったな」と思うんでしょうけど、いまはDREAMにいるから「DREAMでよかったな」と思ってます。まあ、団体同士を比べても仕方ないんじゃないですか。ファイトマネーが公開されるなら比べてもいいですけど。

ハルクはぜんぜんいいと思います。それで視聴者が観てくれて、格闘技が盛り上がってくれるんだったら。MMAファイターといっても、ボクなんか世間ではニート扱いですからね。「それってボクシング？」って言われたりして。どんなきっかけであれ、一般人にMMAというものをわかってもらいたいですね。ボクの夢は「それってボクシング？」って言われなくなるのが夢なんです。

こういう競技だって説明すると、「あ、わかった。K-1か」と言われるから、「それってK-1？」とも言われたくありませんね。

リアルプロレスラー ミノワマン

（スーパーハルクトーナメントについては）僕自身は「こんなトーナメントあったらいいなぁ」って考えてたことが実現したんで、普通のことだと思ってたんですけど、「ああ、そういう意見もあるんだ!?」って思いましたね。でも、僕はパンクラスの頃から無差別級でやってきましたし、身体が小さいことがコンプレックスだったんで、それでも大きい相手を倒すっていうのが、僕にとっては避けられないことでしたから。僕自身はアスリートでもあるんですけど、それだけじゃなくて、“アート・アスリート・エンターテイナー”だと思ってるんで、このトーナメントはホントに夢がかなったし、それだけにプレッシャーにもなりましたね。

戦極が盛り上がるのはDREAMにとってもいいことです

DREAM
イベントプロデューサー・笹原圭一が
國保発言にシャキーン! と返答!

笹原信長の戦極、いざ!

石井慧や郷野聡寛の参戦をはじめ、何かと話題の多い『戦極』だが、“ライバル団体”であるDREAMのトップはいったいどう思っているのか? 取材直前に川尻達也vs魔裟斗発表会見が行なわれ、ホッと一息状態の笹原EPを直撃した。

聞き手／松下ミワ

――『DREAM・9』の高視聴率獲得で〝織田信長〟宣言をはたした笹原さんですが、今日は『戦極』さんとの〝仁義なき闘い〟についてお聞きします!

笹原　いやいや、今日は川尻選手のことをしゃべったほうがいいんじゃないですか?　ボクはそのほうがいいと思うなあ(ぶつぶつ)。

――(無視して)えー、まずは『戦極』の國保さんが「DREAMさんのやりたいことがハルクなら、『戦極』とはやりたいことがまったく違う」とコメントしたことについてですが、これに対しては率直にどう思われますか?

笹原　うーん。そうは言っても、ハルクトーナメントに関しては最初から目的がはっきりしてますからね。いまの格闘技というのはまず競技性うんぬんというよりも、世間の人に振り向いてもらわないと始まらないじゃないですか。競技だろうが競技じゃなかろうが、誰も見向きもしてくれなかったらその議論自体が不毛だと思うんですよね。だって、プロとしてやってるわけですから。

――その議論自体がナンセンスなんじゃないか、と。

笹原　ナンセンスってことはないですけど、格闘技界がここまで冷え込んでるわけですから。ハルクをやることで「まだ総合格闘技は生きているんだ!」ということを知ってもらわないといけないんです。ただまあ、そこに噛みついてもらってることはむしろいいことですよ。アンチテーゼを含めてやること自体がハルクトーナメントなので、そういう意見が出てくること自体は狙いどおりだなという感じですね。

――では、「やりたいことが違う」という意見に対してはどうですか?

笹原　いや、同じようなことをやってるんじゃないですか?(アッサリ)。

――そうなんですか(笑)。

笹原　『戦極』さんにしてみると「色が違います」という打ち出しがあったほうがやりやすいんだと思いますけど、ボクはあんまり違うとは思わないですね。もちろんDREAMのほうが凄いことをやってるという自負はありますよ。ただ、そこも一般の方々が「どう違うの?」という話だと思うんですよ。そう考えたときに世間がDREAMと『戦極』の違いを語れるほど格闘技はまだまだ伝わってないということですよね。

――なるほど。と言いつつも先日、石井慧という世間とつながるパイプを『戦極』が獲得しました。國保さんいわく、石井慧が『戦極』を選んだのは、柔道という〝ちゃんとした競技〟の延長線上で『戦極』を見てくれたからじゃないかとおっしゃってるんですよ。

笹原　ま、いいんじゃないですかね。

――石井慧が『戦極』に参戦することにつ

いてはどう思いますか?

内容でもあそこまで堂々と〝判定上等〟を

『戦極』とは同じようなことをやってる

いてはどう思いますか？

笹原　正直、日本で闘うこと自体は本当にいいことだと思います。最初は海外でやるんじゃないかという話もありましたけど、アメリカで闘うよりも絶対に日本で闘ったほうがボクはいいなあと思ってますね。石井選手は総合格闘技の経験はないですけど、注目を浴びることは間違いないですからね。

――石井選手が『戦極』に出ることで『戦極』に地上波がつくんじゃないかと噂する人も多いみたいなんですよ。

笹原　それはDREAMにとってもいいことですね。かつて大晦日に民放3局で放送してた状況から比べると、いまはTBSさんでしか総合格闘技は放送されてないわけですから。

――『戦極』にも『戦G！』がありますよ。

笹原　（無視して）で、やっぱりテレビ局って凄くシビアなんですよ。注目がない、数字が獲れない、もっと言えばおもしろくないコンテンツだったら、すぐほかのことをやりましょうとなるわけなんですね。それはテレビが世間のウインドウとしての立場があるからなんですけど、TBSさんでしか放送してないという総合格闘技の現状がある中でチャンネルが増えるのは単純に露出が増えるわけですし、ライバルがいるということも当然いいことだと思いますね。

――で、もう一人、郷野聡寛選手もDREAMと迷った末に『戦極』を選ばれました。

笹原　ボクは個人的な感覚として、郷野選手にはDREAMのほうが似合ってると思いますけどね。PRIDEのときって郷野選手のキャラはポジションとしてだんだん確立されていったじゃないですか。

――入場パフォーマンスもさながら、試合内容でもあそこまで堂々と〝判定上等〟を公言する人もいませんでしたよね。

笹原　だから、DREAMにいたほうが郷野選手のキャラクターは生きると思うんですよ。というのは、いろんなキャラがいるぶん郷野選手との比較対象となる選手や試合が多いんじゃないかなって。あとは、単純にこっちにいるほうが楽しそうにやるんじゃないかなと思いません？

――DREAMのほうが楽しくやってもらえた自信がある、と。

笹原　だって郷野選手は明るくて楽しいことをやりたい人ですよね。こっちだったら高阪さんや須藤元気さんが解説でもいじってくれるだろうし、彼を受け止めてくれる人が多いと思うんですよね。

石井慧、郷野聡寛と立て続けにネームバリューのある選手を獲得した『戦極』。今後どんな相手と闘っていくかが問われるが、笹原EPが言うとおり『戦極』がこれで自力をつければ、マット界が盛り上がること間違いなし！

『戦極』とは同じようなことをやってる ただ、やっぱり役割は違うのかなあと

――『戦極』でも、郷野さん自身が解説席に座ってくれてたら心強いんですけどね（笑）。ただ、國保さんはそういった演出面に関しても郷野さんに期待を寄せてるようなんですよ。

笹原　むしろボクはそこはあんまり期待してないですけどね。だって、べつに期待しなくても勝手にやるじゃないですか（笑）。

――UFCも会場でもいきなりDJ OZMAの格好で登場した人ですし（笑）。

笹原　だから、単純にボクは郷野選手のキャラクターや試合も含めて本人が楽しくやれるであろうDREAMのほうがよかったかな、と。でも、本人が選んだ道なんで『戦極』でも頑張ってほしいなとは思います。間違いなくいい選手ですし。

――ちなみに、修斗での廣田vs石田戦後に笹原さん自身「対抗戦はやっぱり盛り上がりますね」というお話をされてましたが、今後『戦極』と協力してやる考えってあるんですか？

笹原　可能性の話をするとゼロじゃないと思いますけど、ボクの中ではまだピンとはきてないですね。それよりも、いまはお互いに自力をつけるときじゃないかなという気がしてます。やっぱり対抗戦って気運がマックスに高まったところで「やる」とか「やらない」とか転がっていくほうが絶対に盛り上がると思うんですよ。たとえば新日本プロレスで考えたときに、UWFとの対抗戦は気運がマックスに高まったときにやってたり、全日本とはマックスに高まってやらなかったりしましたよね。だからいまはお互い侃々諤々やりながら熱を作っていったほうがいいような気がします。それと、冒頭で『戦極』さんとは同じだと言いましたけど、やっぱり役割は違うのかなあと思うんですよね。

――役割が違うというのは？

笹原　ボクはDREAMに課せられた役割というのは凄く大きいと思っています。さっきも言ったとおり、地上波で放送されているのはDREAMだけなわけですから。

――つまり、DREAMが闘ってるのはむしろ「vs世間」だということですね？

笹原　そこの責任感は凄く大きいと思ってます。だから今日も川尻選手のことをしゃべったほうがいいんじゃないかっていう話なんですよ！

――そこにつながりますか（笑）。では、そろそろページもなくなるので、笹原さんにはぜひ続きを『kamiproドットコム』のポッドキャスト『mimipro』でしゃべっていただければと思っております。

笹原　任せてください！　聞くところによると、ボクが前に出演した『mimipro』の回がアクセス新記録だったとか。山本〝KID〟徳郁ばりに〝数字を持ってる〟という感じですよ！

――さすが笹原信長、天下は目の前ですね（笑）。では、川尻vs魔裟斗戦については『kamiproドットコム』のポッドキャスト番組『mimipro』の更新をお待ちくださーい。

【09年6月10日／都内・リアルエンターテインメントにて収録】

マット界には〝お金〟が足りない!!
おもしろかなしく業界のタブーに迫ります!!

特集

お金

カ…
カテエ……!!

特集モデル／永島勝司

事情通・銀　御さん！　今月の特集テーマ
もしろいカードを組めるわけだよ。ただ、
てる。前はテレビ局から「ぜひ放送した
銀　どうしてDREAMや『戦極』がフェ

事情通・銀　銅さん！　今月の特集テーマは「お金」なんですよ。最近マット界があまりにも元気がないのは、お金がないからじゃないかなって気がして。

関係者・銅　身も蓋もない話だけどさ、たいていの問題はお金があれば解決してるんだよな、プロレスも格闘技も。

銀　8・2アフリクションで実現するヒョードルvsジョシュだって、大枚を叩かなければ実現しなかったでしょうしね。

銅　たぶんMMA史上最高金額のカードだね。

銀　あの大会、「日本向け」とか言われてますけど、ド素人なプロモーターが何も考えずに大金を払うから日本で見られなくなってるだけですって（笑）。それで今回『戦極』が石井慧を獲得したんですけど、スポーツ紙では「数試合で2億円」って報じられてましたね。

銅　石井はそれなりに高いとは聞いているけど、「2億円」だなんて、1000パーセントないよ。ホセ・カンセコの「1試合1億円」や秋山成勲の「1試合3000万円」とかもそうだけど、スポーツ新聞って、なんであんなに適当なんだろ（笑）。

銀　「推定」にもほどがあるというか（笑）。

銅　で、PRIDEっていま振り返ってみると、さいたまスーパーアリーナのスタジアムバージョン（4万人収容）を満員にして、PPVもバカ売れしてて、そのうえ地上波放送もやってたわけじゃん。

銀　PRIDEは儲けたぶんを次回大会の制作費に回してたって聞きますね。

銅　やっぱりお金があれば、そうやっておもしろいカードを組めるわけだよ。ただ、PRIDEは、PPVビジネスが成熟してるアメリカに近いビジネススキームが奇跡的にできあがっていたというかさ。

銀　いまはファイトマネーが当時より上昇しているし、日本はアメリカよりPPV市場が小さいわけですしねぇ。これは有名な話ですけど、ミルコ、ヒョードル、ノゲイラ、小川直也ら豪華メンバーが参戦した04年のPRIDEヘビー級GPのファイトマネーの総額より、わりと地味目のカードが並んだ『PRIDE・34』のそれのほうが上回っていたとか。

銅　PRIDEの場合は、テレビ中継の消滅も痛かったけどな。この業界のお金の構造を変えたのは、石井館長がテレビと格闘技をつなげたからだよ。

銀　放映権料はやっぱり大きいですね。

銅　でも、いまって「団体がテレビの枠を買う」という流れになっちゃったんだよ、TBS以外は。プロレスにしても〝枠買い〟が続いてるから、テレビ局に足元を見られてる。前はテレビ局から「ぜひ放送したい」ってお願いされてきたのにね。

格闘技をビッグビジネスに仕立て上げたのは石井和義氏。先日、自伝出版記念パーティが開催され、石井慧をマネージメントするケイダッシュの川村龍夫会長をはじめ、各界の超大物が出席した。う～ん、LEGEND!!

銀　石井慧の参戦は、そんな暗いテレビ事情を吹き飛ばす材料になりそうですよね。

銅　地上波放送は決まるんじゃないの。石井のデビュー戦はいつになるかわからないけど。おそらく決まると思う。

銀　確かに『戦極』地上波の件、いろんなウワサが流れてますね。

銅　有力候補は二つあって。まず『戦極G！』をレギュラー放送しているテレビ東京。

銀　そういえば、大晦日恒例になっている『ハッスル』のテレビ放送が今年はまだ決定してないとか。

銅　で、もう一つはなんと、……という話。

銀　ウワサの……じゃないんですか？

銅　と、みんな思うんだろうけど、やっぱり厳しいみたい。ついでにいうと……は1万パーセントないそうです（笑）。

銀　でも、あの……が候補の一つだという話を聞くと、MMAもテレビ的には○○○○○化するのかなって。要するにテレビ局からすれば○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ってことでしょ？

銅　確かにそうなんだね。業界の中にいると気がつかないけど。

銀　ところで、いまの日本格闘技界って、契約消化や再契約ができない選手が続出してますよね。

銅　1～2回使ってはみたものの、費用対効果が合わなくて使わなくなった選手は多いね。いまはさ、チケットを売るか、話題性があるか、どちらかがなきゃ。それでいうと、PRIDE系のファイターはチケットを売る。『HERO'S』系ファイターは視聴率を獲るタイプ。選手はどちらかのハードルをクリアしないと、費用対効果の面も厳しいよな。

銀　どうしてDREAMや『戦極』がフェザーGPをやってるかといえば、お金の問題につきる側面もあるわけですし。KIDは別格だけど、極端に言えば一人のヘビー級大物選手のギャラだけでフェザー級の16人が雇えちゃうと聞きますよ。

銅　あと大きいのは、スポンサーの存在だな。そもそも格闘技って、なかなかスポンサーがつきづらいんだよ。バイオレンスなスポーツだから「なんで会社の名前を出して暴力を奨励しなきゃいけないの？」って普通はなるじゃない。

銀　このジャンルって、想像以上にイメージが悪いんでしょうね。

銅　で、テレビの存続って、スポンサーがつく、つかないも大きい。テレビとスポンサーは表裏一体だから。

銀　だからDREAMファンだったら、平和とオリンピア以外のパチンコ台は打っちゃダメですよ（笑）。

銅　『戦極』ファンは、ドン・キホーテ以外で買い物しちゃダメ（笑）。まあ、いまは「スポンサー格闘技」になるか、「テレビ格闘技」になるかのどちらかということかな。

銀　ただ、スポンサーといえば、選手がバックアップしてくるスポンサーにしか向かなくなって、ファンのニーズに応えなくなりがちですよね。〝負ける＝スポンサーが離れる〟ことばかりを考えてリスクを負わないマッチメイクを求めたがるという。どこの誰とは言いませんが（笑）。

銅　ホントにそのとおりなんだけど、そこは難しい問題だよな。選手にだって生活はあるわけだし。

銀　ここ数年のネガティブなニュースを耳にするたび、つとに思うのは、選手には普通に試合するだけで儲かってってほしいってことですよねぇ……。

佐伯　今日は金の話なんだろ？

ル人のBも高かった。

んかあるわけねえよ！

け引きだよな（笑）。全部がそういう

な話、誘導とか受け付けとかのバイ

働けど働けど我が暮らし楽にならざり、じっと手をみる

プロモーターと、カネ

DEEP代表
佐伯繁

「さえ〜き、さえ〜き!」万雷のコールが会場を包み込む。彼は選手、関係者、読者から愛されてきた。
アンケートを実施すれば、きっと「好きなプロモーター1位」は確実だろうし、
逆に「抱かれたくないプロモーター」の順位も気になるが、いまはそんなことはどーでもいい。
「お金を語ってほしいプロモーター1位」、佐伯繁が純白のバスローブをまとって登場です（抱く気マンマン）。

聞き手／ジャン斉藤

特集 お金

後楽園規模の大会が毎月あったら精神的におかしくなっちゃうね

佐伯　今日は金の話なんだろ？

――ええ。格闘技界で「お金」の話といえば、やっぱり佐伯さんに聞かないと始まらないと思いまして。

佐伯　DEEPを始めて9年。まあ、金のことでいろいろあったからなあ……（遠い目で）。

――いきなりですけど、一番赤字が大きかったのはどの大会ですか？

佐伯　いきなり凄い質問するなあ。一番大きかったのは1回目かな。パウロ・フィリオとか呼んだとき。

――豪華なメンツでしたもんねぇ。さすがに億はいってないんですよね。

佐伯　億はいってない。演出はそんなに金かかってないからね。でも、ホイラー（・グレイシー）がじつはメチャクチャかかったんだよ。ファイトマネーはそうでもないんだけど、ヒクソンとかセコンドの滞在費とか、全員ビジネスクラスで来日してたりさ。選手一人に使ったお金はホイラーが一番だね。

――カードでいうとどれですか？

佐伯　う～んと、T氏vsM氏。

――あ、あの試合ですか。

佐伯　あの試合は二人合わせてけっこうな金額になったけど、ボクは安かったと思います。あの時代にT氏vsM氏をあのギャラで組めたんだから。普通は組めないと思う。

――格闘バブル真っ盛りの時期でしたもんね。

佐伯　あともう一人いた！　ブラジル人のBも高かった。

――あ～、柔術家のBさんですね。

佐伯　あれは高かった!!　でも、あれはいろいろと事情があったんですが、たぶん後楽園史上一番のファイトマネーだったと思うよ。

――そんなに！（笑）。

佐伯　あとは日本人のMさんとかも後楽園規模では高かったけど。

――それで後楽園ホールが超満員になりましたからね。

佐伯　そう。でも、満杯になってもトントンぐらいだからな（苦笑）。

――佐伯さんはダナ・ホワイトみたいに、いい試合をした選手に"佐伯ボーナス"を出したりしないんですか？

佐伯　ボーナスなんて、そんな金なんかあるわけねえよ！

――失礼しました（笑）。いまのUFCなんかにはウィンボーナスってのもあるじゃないですか。日本の場合はどうなってるんですか？

佐伯　日本の場合だったら、ファイトマネーでいくらって決まる選手もいるし、そこに勝利者ボーナスがつく選手もいる。で、一本勝ちしないとボーナスをもらえない選手もいるの。

――選手によって、いろんなパターンがあるんですね。

佐伯　そこは選手と主催者の駆け引きだったりするんだよ。たとえば、ギャラが10万の選手がいるとするでしょ。それならギャラを8万にして、一本勝ちしたらプラス5万にするとかね。そうすると、一本勝ちしたら13万払わなきゃいけないけど、判定決着だったら8万で済むじゃん。

――ず、ずるい（笑）。

佐伯　言い方は悪いけど、それも駆け引きだよな（笑）。全部がそういう契約だとは言えないけどね。だから、ほかの大会もいろんなパターンがあると思うよ。

――佐伯さんはこの業界には9年近くいるわけですけど、お金のことは興行をやりながら学んできた感じなんですか？

佐伯　うん。金から学んできたことはいっぱいあるよ。それはエンターブレインで本を出したいと思ってるから頼むよ！

――わかりました（笑）。

佐伯　その本の中で俺がやってきた大会の興行収支を出すっていうのはどう？

――それは関係者必読ですね！

佐伯　この大会はこういう収支だとか、それを見たら興行というものがわかるでしょ。おもしろいでしょ。

――でも、その興行収支を見ただけでは、主催者の大変さはわからないものなんですよね。

佐伯　そうだね。俺ら興行主なんて、いまはちっちゃい大会もやってるけど、2ヵ月にいっぺん興行をやったら、その2ヵ月のあいだは大会のために準備してるわけじゃん。そのあいだに社員の給料は出さなきゃならないし、経費も当然かかるわけ。事務所代とかさ。

――その2ヵ月にいっぺんの興行ですべてを捻出しないといけない、と。

佐伯　そういうこと。赤字になるときもある。そうなったら2ヵ月がパーだわ！

――うわ～。

佐伯　プラマイゼロでもパーじゃん。興行なんてやっとれんって！　極端な話、誘導とか受け付けとかのバイトのほうがいいよ。だって必ずお金をもらえるからな。俺らはもらえんかもしれんもん。

――ご苦労さまです！（笑）。それぐらい興行っていうのは水モノなんですね。

佐伯　そう考えると、リスクを背負うことって、やっぱりイヤなのよ。リスクが一番イヤなのよ。やっぱり「マイナスになったらどうしよう？」っていう不安があるから。たとえばリスクがなかったら、極端な話、タダでも仕事はするで。タダだったらまだマシっていう考え（笑）。

――ダハハハハ。

佐伯　でも、それくらいリスクは背負いたくない。ウチなんかは後楽園規模の大会が2ヵ月にいっぺんあるじゃん。やっぱり後楽園規模の大会が毎月あったら、たぶん精神的におかしくなっちゃうね。

――後楽園規模が毎月で？

佐伯　うん。後楽園規模が毎月あったら精神的にダメになるね！　後楽園規模だと、ウチでいったら新宿FACE大会のclub DEEPの数倍ぐらいは金がかかるから。それが毎月続いてたら、やっぱりホッとするとこがないから、精神的にツライと思うなあ……。

――DEEPの後楽園って、お客さんが入ってるほうじゃないですか？

佐伯　お客は入ってるほうだけど、お金もかかってるほうですね。たぶん後楽園規模での興行をやってる団体さんで一番予算がかかってると思いますよ。それで黒のときもあるし、赤のときもある。こうやって俺がギ

03年10月に『PRIDE武士道』が開催され、中・軽量級がビジネスとして確立することになっていく。その直前、DEEPは大田区体育館でビッグマッチを開催。長南亮のマッハ撃破が印象深いが、いまのところこの大会を最後に大会場でのイベント開催は行なわれず後楽園路線に突入する。

リギリでもメシが食えるぐらいだな。

——佐伯さんでギリギリですか。

佐伯　そりゃそうだって。ウチでいうなら、culbDEEPの新宿大会はほとんど赤です。こないだの3月の新木場（1stRING）はプラマイゼロだった。

——そうなんですか。どっちも盛況に見えましたけども。

佐伯　そうなんだけど、culbDEEPにはスポンサーがついてないから厳しいんだよ。純粋にチケットの売り上げだけなんで採算は合わないわな。culbDEEP東京大会は選手に試合の機会を与えるのがメインだからね。

——DEEPは多くの選手を抱えてますもんね。

佐伯　地方のculbDEEPとかも売り興行だったらリスクはないけど、一昨年に自主興行で大阪や仙台と続けてやったら全部赤字になったからね。これはダメだと思って、ちゃんと考えてやろうってなって。

——考えてといいますと？

佐伯　ぶっちゃけ、いいカードばかり組んだってチケット売れへんのですよ！　〝ボクらのいいカード〟って一般人が見ていいカードとわからないですよ。

——まあ、そうでしょうね。

佐伯　ある程度、通が聞いて「お～‼」って思うだけの話じゃん。そうすると言い方は悪いんだけど、いいカードプラス、チケットを売る選手を入れていかないとトータルが合わないんですよ。

——思ったのは、DEEPってほかの団体と比べてファイトマネーがよさそうですよね。

佐伯　いや、それはね、あのね……（口ごもって）。

——なんですか？（笑）。

佐伯　最初が甘かったんですよ、基準を知らなかったから。それにボクがDEEPを始めた頃っていうのはPRIDEがまだ中・軽量級をやってなかったわけですよ。

——『PRIDE武士道』前夜のことでしたね。

佐伯　で、中・軽量級は『PRIDE武士道』が始まって、『戦極』が始まって、『HERO'S』が始まって、あたりまえのように中・軽量級をやってるじゃないですか？

——はいはい。

佐伯　あの頃って、どっちかというと、選手を上の舞台に持っていかれる、取られるっていうのはあんまりなかったわけですよ。それが『武士道』が始まったことによって、ウチ、ZST、修斗、GCM、パンクラスは一気にインディーになってしまったんだわ。ということは、いい選手をメジャーはほしいわけじゃん。

——ほしいでしょうね。

佐伯　そうすると、自分の立ち位置を考えていかないといけないわけで、やっぱり上の舞台に合わせたギャラを出せるわけでもないし。自分の位置をちゃんと確立してやるしかないし、いまはある程度、ほかの団体を含めて、ギャラはそんなに変わらないと思いますよ。

——ほかの団体とそんなに差はないんですか？

佐伯　あんまり変わらないと思う。ただ、ウチの場合はベルトがいくつもあるし、やっぱり現役王者と元王者が多いからな。チャンピオンじゃなくなったからって、ギャラを一気に下げるわけにはいかないじゃん。やっぱり、じわじわギャラが増えていったこともあるから極端には下げられないの。

——ギャラダウンのタイミングは難しいんですか？

佐伯　うん。ほか団体から来た選手なんかには最初から「悪いけど、こんだけしか出せないけど、どうする？」っていう言い方をするわな。ただ、自分のところからレギュラーでやってきた選手に関しては、ギャラを下げるときはタイミングもあるんですよ。なんだかんだ言って、昔払ってた額よりもいまは下がってるからね、みんな。

本文中でも触れられているが、じつはDEEPのタイトルマッチの契約はけっこう細かいことが判明。佐伯さんは苦労人だけあって、しっかり者だ!

タイトルマッチをするときに次回防衛戦のギャラを契約する

——でも、DEEPの場合はチャンピオンにはなればある程度の額を保証してるって聞いてますよ。

佐伯　うん。ほかは知らないけど、ウチはタイトルマッチをするときって、次の防衛戦のギャラが契約に入ってるんですよ。

——へぇ～、そこまでやってるんですか。

佐伯　タイトルを獲ったらいくらで、来年の防衛戦はいくらっていう条件も決まってるんです。試合前にそうやって決めておかないと揉めるんですよ、あとから。だってそうじゃん。1年のあいだにメジャーで活躍して「その額じゃ出ない」って言われても困るし。

——ありがちなパターンですね。それで防衛期限が切れたままウヤムヤになっていくという。

佐伯　今回だったらMIKUちゃんがタイトルマッチをやるじゃないですか。MIKUちゃんは今度2回目の防衛戦なんですけど、勝ったら3回目の防衛戦のギャラはいくらっていうのは契約書に書いてますよ。チャレンジャーがベルトを獲った場合も次の防衛戦はいくらって決まってるよ。ほかにも1年以内に主催者の指定した防衛戦を行なうという項目もある。もし1年を超えた場合でも、主催者がオッケーすればオッケー。ケガで1年を超えたときは自動延長。半年間延長するんだけど、そのあいだはどこのリングにも出られない。

——ちゃんとしてますねぇ。

佐伯　この俺がそんなふうに見えないでしょ！（笑）。

——ダハハハハ。

佐伯　そのへんウチはキッチリしてるよ。前も言ったように、ウチはドクターが選手全員のカルテを持ってて、試合ごとにケガした箇所とか体調なんかを全部チェックしてるから。そうすれば、レフェリーもドクターもストップの仕方が判断しやすいでしょ。いいかげんに見えて、意外とウチはいろんなことはしっかりやってるほうだと思うよ。

——そういったシステムはどこで学んだんですか？

佐伯　いや、選手と揉めないためだよね。なんでもそう。揉めないために考える。たとえばこれはボクの失敗例なんですけど、選手がちゃんと練習ができる環境を作るために、年間契約してファイトマネーを月割りで払うときがあるんですよ。

——月割りですか？

佐伯　ファイターって3ヵ月にいっぺんの試合で1年間で4試合が普通だけど、4試合の試合が1試合50万とします。ってことは4試合で200万でしょ。

プロモーターとカネ

——そうなりますね。
佐伯 それを12で割って毎月振り込むってことをやってる選手もいますね。そうすると、確実にメシを食っていける、と。ところが、大きな問題があって、ケガしたときに年間4試合の契約を消化できなくなるんですよ。
——格闘技ですから何が起こるかわからないですよね。
佐伯 それと給料で毎月もらえると、意外と選手は闘いたくなくなるんですよ（笑）。わかるでしょ？
——安定すると戦闘意欲がなくなってくるというか（笑）。
佐伯 だって、そのギャラでメシを食わなきゃとなったら「すいません、試合させてください！」ってなるじゃん。だけど、安定して毎月給料もらうと、最初はありがたくても、半年、一年ぐらいすると、それがあたりまえになってくるんですよ。そうすると「いやー」とか言いだすんだわ。
——ダハハハハ！
佐伯 もちろんホントにケガしてる選手もいるけどさ。ぶっちゃけ契約を消化できない選手はいっぱい抱えてるわけよ！
——たいへんだ（笑）。
佐伯 それで俺がいま考えてるのは、一試合50万のギャラだったら年間200万、その半分の100万を12で割って毎月振り込む、と。で、試合が終わるたびに25万を渡すという感じがいいんじゃないかなぁって。
——いろいろ考えてるんですねぇ。ファイトマネーの前払いはしないんですか？
佐伯 「前金でくれ」って言われたことはあるよ。でも、そんなことやりだしたら、こっちが大変だよ（笑）。
——佐伯さんのもとへ選手が殺到しそうですね（笑）。ほかの団体もそんな感じでバリエーションは豊富なんですか？
佐伯 やってるとは思うけどね。ただ、わかんないよね、実際には。多少はそういうのもやってるんじゃないかなぁって思うんですよねぇ。
——まあ、DEEPの場合は興行数が多いですから、考えざるをえないところはあるんでしょうね。
佐伯 後楽園を定期的にやってるのはウチと修斗しかないもんね。パンクラスもできなくなっちゃったし。なんでかっていうとね、後楽園ホールって大きいんですよ。なんだかんだ言って。リングサイドにスポンサー席を作って、マスコミ席や立ち見を入れたら、けっこうな数になるんですよ。たとえばディファ有明の満員は、後楽園の3分の2って考えたほうがいい。
——後楽園の3分の2って、けっこうガラガラですね。
佐伯 だろ？ ディファと新宿FACE合わせて後楽園が埋まるって感じ。けっこうデカいのよ。それに後楽園だと使用時間の関係もあって試合数を多く組めないんだよ。
——え？ DEEPは試合数がけっこう多いイメージがありますけど。
佐伯 できるんならもっと組みたいよ！ みんなウチは試合数が多いって言うでしょ。じゃあ各団体、ZSTとパンクラスとキックのディファ大会の試合数を見てみ？ みんな20試合超えてるときもあるじゃん。アウトサイダーもそう。やっぱり試合数が多ければ客も来るし、ただ問題もあるんだよ。
——なんでしょう？
佐伯 目当ての試合を観て帰っちゃうんだよ、そうなると席が空いちゃう（笑）。
——あ～（笑）。
佐伯 やっぱり、ディファだと一日中借りれるから試合数を組めるっていういい点はある。準備とかも余裕だし、後楽園なんて15時にならないと入れないからね。ホントに開場を待ちかまえてるからね。
——話は変わりますけど、メジャー団体と言われる『戦極』やDREAMと、DEEPのギャラに大きな差はあるんですか？
佐伯 この企画、ほかには誰に話を聞くの？
——いろんな選手や関係者に聞こうかな、と。
佐伯 あのね、実際にわかってない人って多いんだよ。ホントのこと知らない人いっぱいいるよ。でも俺は興行主だから。興行主は知ってるよ。たとえば、よくマスコミが「今日はお客さん入ってますねぇ」って言うけど、これは招待券か売れたのか全部わかるもん。
——では、ここ最近で実券が売れたイベントってなんですか？ 僕が知ってるかぎりだと、凄くさかのぼって『やれんのか！』になっちゃうんですけど。
佐伯 『やれんのか！』は売れたみたいだね。それぐらいかな～。あと魔裟斗が出た大会は売れてるんじゃないの？ 佐藤嘉洋とやったときと、その前の武道館は売れたと思う。まあ、「売れてますね」って言ってもさ、それが実券なのか招待なのかなんなのかっていうのはすぐわかるね。実際のことをわかってるのはどんだけいるかと思うよ。選手のことに関してもそうだと思うし、人それぞれ捉え方が全然違うと思うしさ。だから、KID vsジョー・ウォーレンの試合の判定の話でも俺はテレビのモニターで観てたんで、3－0でウォーレンだと思ったんですよ。でも、リングサイドの選手や関係者は「KIDが勝ってる」って言うんだよな。ビシバシ、パンチが入ってたと。それくらい人によって捉え方って全部違うんだよな。あとレフェリーは競技をやってたヤツがいいとかね。プロモーターも選手だったヤツがいいとか言うけど、それに答えなんてないんですよ。
——簡単に答えがわからないから、

現役王者、元王者、メジャー経験者にその予備軍。DEEPは有力選手の行き来が激しい格闘交差点の様相を呈している。後楽園大会で一番予算がかかってしまうのはうなずける話だ。

王者はギャラがかかる！
佐伯さんも悲鳴!?

DEEP 王者リスト

〈メガトン級〉
（現王者）川口雄介

〈ミドル級〉
上山龍紀
桜井隆多
長南亮
（現王者）中西裕一

〈ウェルター級〉
中尾受太郎
長谷川秀彦
（現王者）池本誠知

〈ライト級〉
帯谷信弘
横田一則
ハン・スーファン
（現王者）菊野克紀

〈フェザー級〉
今成正和
（現王者）三島☆ド根性ノ助

〈バンタム級〉
（現王者）今成正和

〈女子ライト級〉
渡辺久江
（現王者）MIKU

〈女子フライ級〉
（現王者）しなしさとこ

これらのDEEP王者以外にも、他団体の王者クラスの選手やメジャー団体経験者（＝ギャラが高い）が参戦する機会が多いDEEP。絶好のカードはマッチメイクされやすいが、佐伯さんの懐が痛むというわけですな。

プロモーターとカネ

ジャッジが3人いるわけですよね。

佐伯 そうそうそう。なんでもそうだけど、完璧なことってできないんですよ。ちゃんとした判定を求めるなら、ポイント制にするしかないんだね。

――最近話題のブログの高瀬（大樹）さんが「強いだけじゃなくて、かわいがられることも必要だ」みたいなことを書かれてるじゃないですか。

佐伯 そんなの、あたりまえの話だっちゅうの!!

――あ、あたりまえですか。

佐伯 だって、この業界じゃなくたって、話が通じんヤツと仕事はしたくないだろ？ べつに高瀬くんは話が通じないって言ってるわけじゃないけど（笑）。たとえば実力も集客力も似たような選手が二人いたとする。ギャラも同じ。で、どちらかを選ぶことになったら、話を通じるヤツを選ぶよ。かわいがってる選手を使うに決まってるわ！

――そこは人情ですね。

佐伯 あたりまえのことだと思うよ。で、なんの話だっけ？

――メジャーとインディーのギャラの差ですね。

佐伯 まずね、ボクが思うのはその団体で育った選手、その団体で光った選手っていうのは、やっぱりほかから来た選手と比べてやっぱり安いね。上がる速度もゆっくりだね。たとえば他競技で活躍してたヤツを引っぱって使ったときのほうが高いわね、実際。それはいま朝青龍を連れてきて、1000万、2000万で総合をやるかっていったら、やるわけないじゃん。

――正直、その程度の額じゃ無理でしょうね。

佐伯 でも、格闘技をやってるヤツからしたら「1000万？ ふざけんなよ、素人が」って思うでしょ。でも、朝青龍のほうがそれだけ話題になるし、それが現実。結局は費用対効果なんですよ。ハッキリ言って、メジャーもPRIDEのときみたいにバブリーな時代ではないですね。昔は一度でもPRIDEに出たら、一攫千金でもう一年ぐらい働かなくても済むわっていう時代もあったじゃないですか？

――はいはいはい。

佐伯 その時代とは違いますね。それは現実的にそうなってますよね。UFCにしても、試合で勝たないとギャラは上がっていかないわな。

――ホントに腕が問われる時代なんですねぇ。

佐伯 大変だと思うよ。だいたい年間4試合ぐらいの感じじゃないですか。いま成人男性が一人暮らしをして、仕事をせずに練習だけで食っていける環境って、最低でも月20万は必要だと思うんですよ。月に20万ってことは、一試合60万を超えないといけない。でも、インディーで一試合60万円を超える選手って、ぶっちゃけなかなかいないぜ？

――そうかもしんないですねぇ。スポンサーとかがいないとやっていけないですね。

佐伯 やっていけない。でも、そう簡単にはつかないよ、スポンサーなんて。ジムの指導とかあわせて合算してやっていけないといけないよね。

――そうか。格闘技だけで食っていくっていうのは一試合60万のギャラが必要なんだ。

佐伯 そういうことです！

――でも、そこまで行くのも大変ですよね。

佐伯 大変！ それで月20万だからね。普通に働いたほうがいいよ（笑）。税金抜いたら手取りで20万円もらえないぐらいだから。それで8万ぐらいの家賃に住んだら、遊びにはいけないでしょ。

――青木さんなんかも家賃5万弱のところに住んでるみたいですけど。

佐伯 青木？ あの男はね、まったく参考にしちゃいけない。

インディーで一試合60万円を超える選手ってなかなかいない

――ダハハハハ。

佐伯 だってアイツは練習だけできればいいんだもん。異常だわ。だって、家にテレビがないでしょ？ ということは、練習とパソコンがあればいいんだよ、アイツは。

――そのパソコンもDEEPジムのものを勝手に使ってるんですよね。

佐伯 そうそう（笑）。たぶん、アイツは安定志向なんですよ。だから、いまのウチに貯め込もうっていう考えなんだよ。間違いなく、そう！

――安定志向ならあのまま警官を続けてますよ。

佐伯 い～や、たぶん、今頃通帳を見ながらニヤリとしてると思うよ。

――ダハハハ！ 青木さんはそんなに稼いでるんですかね？ PRIDEバブル後の選手だから、スタートは安かったと思うんですけど。

佐伯 でも青木は試合数をやるからな。年間で5～6試合やってるじゃん。それを考えたら、去年とかもけっこうな額だよなぁ。

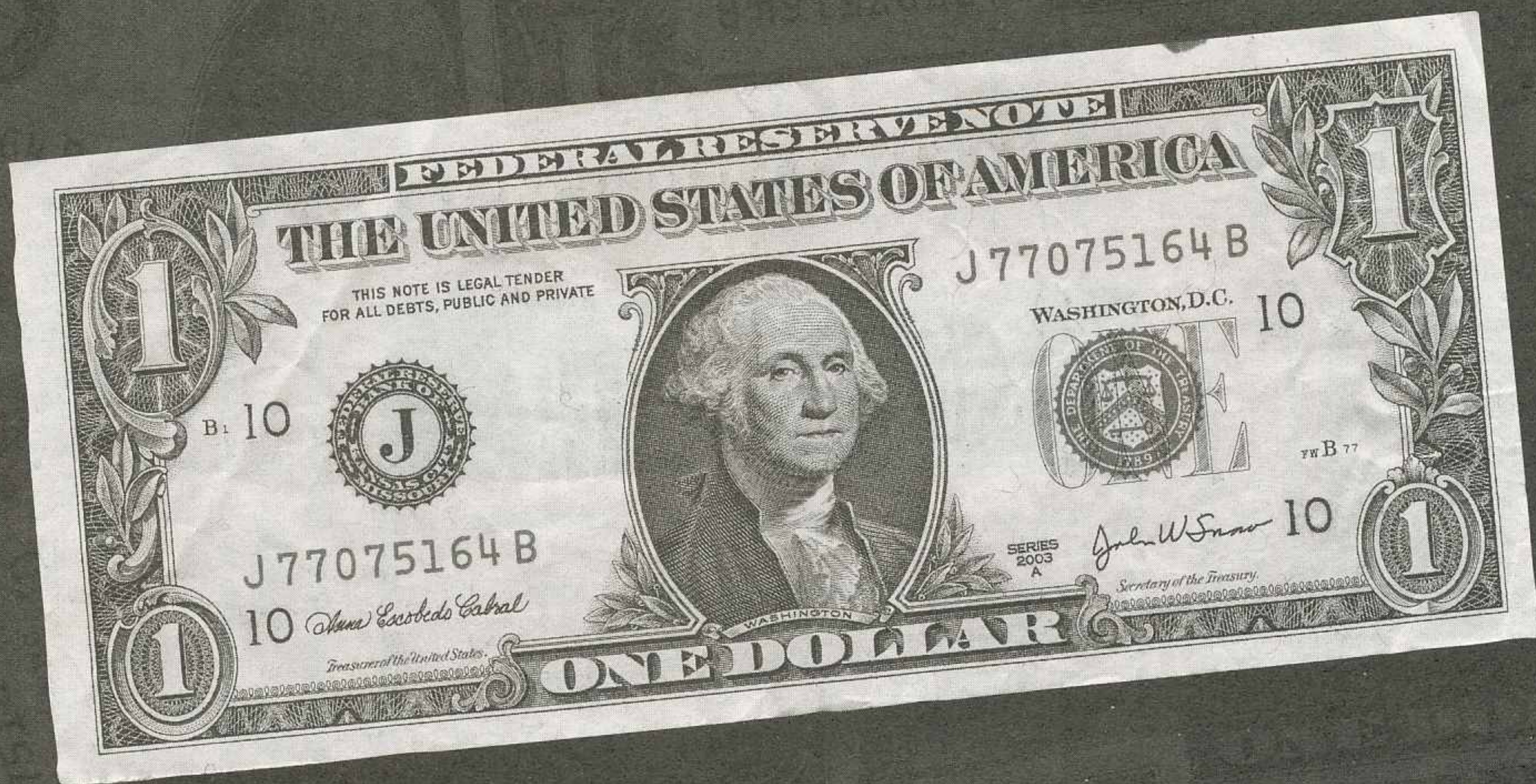
――マット界で生き残るのは青木真也だけですかね？（笑）。

佐伯 間違いない！ 将来は青木に養ってもらうかなあ……。

――養子にでももらったほうがいいですね。"佐伯真也"とかゴロは悪くない（笑）。

【09年6月2日／都内・DEEPジムにて収録】

テーマはオカネ、カミプロ・テレフォンショッキング。サエキさんが紹介したのはワオ木さん。通帳をニヤニヤ見ているとウワサのワオ木さんのインタビューは66ページにGO!

契約金、スポンサー、PPV収益……etc.
ナニ!? ファイトマネーより副収入のほうが多いって!?

アメリカMMA ファイトマネーのヒミツ

アメリカ在住ライター&スポーツマネージャー

シュウ・ヒラタ

アメリカ格闘技界はまだまだ景気のいい話がいっぱいだった!
今回は海外事情通のシュウ・ヒラタ氏にUFCを中心とするアメリカ格闘技イベントのお金の話をたっぷりお聞きした。仰天するようなその構造とはいったい!?

聞き手／ジャン斉藤　写真／Josh Hedges（UFC）

世の中不況といえどもアメリカ格闘技界のバブルはまだまだ健在か⁉
　今回「お金」特集を組むにあたって海外、とくにアメリカMMA界のお金の話を探ろうと、アメリカ在住のスポーツマネージャーであるシュウ・ヒラタ氏にお話をうかがった。ヒラタ氏というと、以前本誌ではボードッグに関するインタビューを行なっているが、最近ではヒラタ氏がマネージャーを務める赤野仁美の試合において、対戦相手のクリス・サイボーグの豪快な計量オーバーをめぐり大激怒したことが話題となった人物（詳細はヒラタ氏のブログ『シュウの寝言』で！）。
　そのブログ上では計量オーバーにまつわるお金（罰金）の話にも細かく触れており、それを機に（？）今回の特集の一つとしてアメリカMMAのファイトマネーや契約問題の話をうかがったのだ。
　本インタビューはまさにその内情が丸わかりな内容になっている。これを読めば、夢と厳しさを併わせ持つアメリカMMAの現状が見えてくる！

──日本とアメリカの格闘技界ではお金に対する温度差が凄くあると思うんですね。そうなる理由はいくつか挙げられますが、まず決定的に違うのは、アメリカの場合は選手のファイトマネーが公開されてますよね。

ヒラタ　おっしゃるとおり、基本的にファイトマネーが公開されてますね。ただ、もっと正確なことを言うと、ファイトマネーの公開の仕方は各州のアスレチックコミッションのポリシーによって違うんですよ。たとえばネバダ州やカリフォルニア州などはコミッションの意向でファイトマネーを一般公開しますが、アトランティックシティがあるニュージャージー州は公開しないんです。だから郷野（聡寛）選手がサブミッション賞（5万5000ドル）を獲得した大会はたしかニュージャージーだったので、あの試合は彼のファイトマネーは公開されてないはずですね。

──へえ～、そういうもんなんですか。

ヒラタ　それから郷野選手はイギリスでも試合をしてますけど、このときも公開されてないと思います。原則としてヨーロッパではファイトマネーは公開してないですから。ただ公表する州のほうが多いので、ファイトマネーはだいたいほかの選手にも伝わるもんだという認識はありますね。

──ヒラタさんはマネージメントの立場として、ギャラを公開することについてはどう思われてるんですか？

ヒラタ　僕はいいことだと思いますよ。だって、ほかのプロスポーツは契約更改を公にしてますよね？　やっぱりギャラを公開することはファイターにとってモチベーションになると思いますよ。アメリカンドリームの根本は「成功するとこんなに稼げるぞ」ということですし、ほかのスポーツと同じようにクリーンな競技だという認識を確立するためにも、ファイトマネーの公開は凄くいいことだと思います。

──ただ、日本だと公開することによっていろいろな軋轢が生じる部分もあるようなんですよ。たとえば交渉の駆け引きに使われてしまったり。

ファイトマネーの公開はアスレチックコミッション次第なんです

ヒラタ　でも、とくにUFCの場合は「勝ってる選手はファイトマネーが高くなる」という基本が確立されてますからね。たとえば日本における桜庭選手や、アメリカにおけるブロック・レスナー、ティト・オーティズみたいに、勝ち負け関係なく高いギャラを払ってでも集客のために呼びたいという選手もいますけど、そんな選手はかなり稀だと思いますね。

──そうなんですか。そもそも一般的に公開されてるギャラというのは正確な数字なんですか？

ヒラタ　これはですね、仕組みを話すと、UFCやストライクフォース、どの団体も同じなんですが、まずは団体側と選手がプロモーション契約と複数試合契約を結ぶんです。で、実際に試合をするとき選手は各州のアスレチックコミッションと試合合意書という契約を交わさないといけないんですよ。

──試合合意書ですか？

ヒラタ　これは団体との契約書ではなくて、選手が「この州でこの試合をやります」という契約書なんですね。で、この試合合意書に記入されている金額が一般公開されるファイトマネーなんです。ですから複数試合契約をして、プロモーション・フィーという名目でお金をもらう場合は、そのお金は試合合意書に反映されないわけなんですよ。たとえば、ストライクフォースにフランク・トリッグが出たときに公表されたギャラはたしか1ドルだったはずなんですね。

08.12.27 UFC 92
米国ネバタ州ラスベガス MGMグランドガーデン

◯ラシャド・エバンス **$130,000**（勝利ボーナス$65,000を含む）
×フォレスト・グリフィン **$100,000**（勝利ボーナスは$150,000）

◯フランク・ミア **$90,000**（勝利ボーナス$45,000を含む）
×アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ **$250,000**（勝利ボーナスは$150,000）

◯クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン **$325,000**（勝利ボーナス$100,000を含む）
×ヴァンダレイ・シウバ **$200,000**（勝利ボーナスなし）

◯クラレンス・バイロン・ダラウェイ **$20,000**（勝利ボーナス$10,000を含む）
×マイク・マセンジオ **$5,000**（勝利ボーナスは$5,000）

◯シーク・コンゴ **$90,000**（勝利ボーナス$45,000を含む）
×ムスタファ・アル・ターク **$7,000**（勝利ボーナスは$7,000）

◯岡見勇信 **$32,000**（勝利ボーナス$16,000を含む）
×ディーン・リスター **$19,000**（勝利ボーナスは$19,000）

◯アントニー・ハードンク **$28,000**（勝利ボーナス$14,000を含む）
×マイク・ウェッセル **$4,000**（勝利ボーナスは$4,000）

◯マット・ハミル **$20,000**（勝利ボーナス$10,000を含む）
×リース・アンディ **$15,000**（勝利ボーナスは$15,000）

◯ブラッド・ブラックバーン **$14,000**（勝利ボーナス$7,000を含む）
×長南亮 **$18,000**（勝利ボーナスは$18,000）

◯パット・バリー **$10,000**（勝利ボーナス$5,000を含む）
×ダン・エバンセン **$4,000**（勝利ボーナスは$4,000）

UFCのお祭り的イベントともいえる年末の大会では、ノゲイラ、ランペイジ、ヴァンダレイら高額ファイターが続々登場。やはりPRIDEからの移籍組のギャラが目立っており、生え抜きのグリフィンよりも高いことがわかる。

──たったの1ドル⁉（笑）。でも、トリ
いうことなんです。
めに契約したときに、契約書にサインした
ルぐらいもらえるんですよ。

PPVの収益は1世帯あたり1ドルぐらいでも、もらえる選手はほんの一握りです

――たったの1ドル⁉(笑)。でも、トリッグのファイトマネーが100円ということはないんじゃないですか?

ヒラタ もちろん。だから、要するにアスレチックコミッションとの試合合意書に表示された金額が1ドルだというだけなんです。でも、プロモーション・フィーという違った名目でお金をもらってるんですね。

――はぁ～、そんなカラクリがあったんですか!

ヒラタ これは法律的に違反でもないし、プロスポーツの世界ではよくあることなんです。ただ、UFCやWECなどはよっぽどのスター選手じゃないかぎりそういう特例はやらないから、UFCの選手に関しては公表されるギャラがまあ正確な金額だと思いますよ。

――プロモーション・フィーとファイトマネーを分けるのはどんな意味があるんですか?

ヒラタ 簡単に言うと税金対策ですよね(笑)。外国人選手がアメリカで試合をすると、アメリカは外国税として30パーセントほど源泉(徴収)されてしまうんです。でも、プロモーション・フィーという名目だと減税されないんですよ。アメリカ人の場合でも、たとえばさっきのフランク・トリッグでいうと、もし総額500万円のギャラだとしたら、ファイトマネーとして申請するのは100円だけですから、残りの499万9900円はトリッグの持ってる会社とかに振り込めば個人の収入にはならないから、ここで税金対策ができるということなんです。

――はっはー(笑)。

ヒラタ あと意外と知られていないのは、契約金の存在ですよね。ブロック・レスナーやランディ・クートゥアークラスになりますと、まず契約金が発生するんです。

――けっこうな大金が動くもんなんですか?

ヒラタ 正確な額はちょっとわからないですけど、スター選手だと大金が動きますね。たとえば僕はエディ・アルバレスとは家族付き合いをしているからよく事情を知っていますが、『ベラトール』と今年の初めに契約したときに、契約書にサインしただけで契約金15万ドルをもらってますからね。

――契約金だけで1500万円⁉

ヒラタ そう、サインしただけで(笑)。ですから、クートゥアーがUFCと仲直りして契約したときにどれだけの契約金が積まれたかはわからないですけど、かなりまとまった金額は出てると思いますよ。

――再契約したくなる額だったということですよねぇ。

ヒラタ ま、そうでしょう。それからPPV収益の契約もありますね。

――PPVの収益に応じてもらえるボーナスですね。

ヒラタ PPVの収益は普通でしたら1世帯あたり1ドルぐらいもらえるんですね。そうすると60万世帯だったら60万ドルぐらいもらえるんですよ。

――ファイトマネー以外にそんなに!

ヒラタ ただですね、これは本当に一握りの選手だけなんですよ。PPVの収益を間違いなくもらえるのはレスナーとクートゥアーぐらいしかいないんじゃないですかね。あとミルコもそういう契約になってると思いますけど、もしかしたら次からGSPがもらえるかな?ぐらいの感じですね。

――あ、GSPクラスでも特別待遇はされてないんですか。

ヒラタ もらってないと思いますね。BJペンももう一歩じゃないでしょうか。

――そんなに狭き門なんですね。

ヒラタ 厳しいですね。過去に一番売れたPPV大会というのを見ても、やっぱりランディやチャック・リデルがダントツなんですよ。そういうデータがあると、ランディはPPVの収益に関しては凄くいい交渉ができると思いますね。

――現在パウンド・フォー・パウンドの呼び声も高いアンデウソン・シウバは?

ヒラタ まだです。スポーツ的観点からすれば、そろそろもらってもいいんじゃないかというような感じがしますけど、やっぱりPPVシェアを獲れる選手というのは強いだけじゃなくてやっぱり人気もなくちゃいけないわけですよね。たとえばボクシングの世界では、マイク・タイソンがチャンピオンじゃなくてもタイソンが出たらPPVが売れると言われてた時代と同じでありまして、アンデウソン・シウバがかわいそうなのは彼の一般人気はまだまだですからね。あとアンデウソンもLYOTOもラシャド・エバンスもGSPもみんなそうですけど、4試合契約とか6試合契約になってるわけじゃないですか。

09.05.23

UFC 98

米国ネバタ州ラスベガス MGMグランドガーデン

※敗者の勝利ボーナスは各自調査で!

○LYOTO **$140,000** (勝利ボーナス$70,000を含む)
×ラシャド・エバンス **$200,000**

○マット・ヒューズ **$200,000** (勝利ボーナス$100,000を含む)
×マット・セラ **$75,000**

○チェール・ソネン **$50,000** (勝利ボーナス$25,000を含む)
×ダン・ミラー **$15,000**

○フランク・エドガー **$40,000** (勝利ボーナス$20,000を含む)
×ショーン・シャーク **$40,000**

○ドリュー・マクフェドリーズ **$34,000** (勝利ボーナス$17,000を含む)
×シャビエル・フォウパ・ポカム **$6,000**

○ブロック・ラーソン **$42,000** (勝利ボーナス$21,000を含む)
×マイク・パイル **$15,000**

○ティム・ヘイグ **$10,000** (勝利ボーナス$5,000を含む)
×パット・ベリー **$7,000**

○カイル・ブラッドレー **$8,000** (勝利ボーナス$4,000を含む)
×フィリップ・ノヴァー **$10,000**

○クリストフ・ソジンスキー **$16,000** (勝利ボーナス$8,000を含む)
×アンドレ・グスマオン **$5,000**

○吉田善行 **$16,000**
(勝利ボーナス$8,000を含む)
×ブランドン・ウルフ **$3,000**

○ジョージ・ループ **$16,000**
(勝利ボーナス$8,000を含む)
×デイブ・カプラン **$8,000**

LYOTOがライトヘビー級王者に君臨した『UFC 98』。UFCで根気よく勝ち続けてきたLYOTOだけに、ようやく勝利賞含めて1400万円ほどのファイトマネーに。負けてもラシャドはすんごくもらってる。

その契約途中だとそういう交渉はできないわけですから。そういったタイミングの問題も出てくるわけですよね。

──日本だとわりと視聴率がものさしになりますけど、視聴率よりPPV件数のほうがわかりやすいですね。

ヒラタ だから、PPVがガンガン売れてる大会になると、PPVの収益が大きな収入になるわけですよね。あとじつはファイトマネーより重要なのがスポンサー・フィーの収入なんですね。

──選手個人とのスポンサー契約ですね。

ヒラタ UFCはやっぱり視聴者数が多いですから、ほかのMMAイベントと比較しても選手たちのスポンサー・フィーはもの凄く高いんですよ。ですから、たとえば水垣偉弥選手がWECに出てますけど、彼はこの前のミゲール・トーレスとの試合で一気にアメリカ国内での知名度と人気が高まったので、次の試合はファイトマネーよりもスポンサー・フィーのほうが高くなりますね。あの試合以来、営業をかけてない企業からも『タケヤのスポンサーになるにはいくら必要なんですか？』という問い合わせがありましたから。

──そうなんですか。だったら選手もスポンサーのTシャツを喜んで着るはずですよね。

ヒラタ 判定のときと入場のときはTシャツを着ないといけないという契約になってるんですよ。日本でもスポンサーがついたりすると商品提供がされますけど、アメリカの場合は商品提供はもちろん、1試合ごとにフィーを払ってくれるんです。たとえば吉田善行選手がジョシュ・コスチェックとやった試合はメインだったから、そのときのスポンサー・フィーはけっこう高くて、たぶん彼のファイトマネーを上回ってるはずですね。僕らマネージャーが必死でやるのは試合契約ももちろんなんですけど、いちばんは選手が勝てる環境を作ることなんです。トレーニング環境はもちろん、現地に入ってからのすごし方も含めて。それからセコンドの渡航費なども考えると、そのためにはやっぱりスポンサー獲得は必要不可欠なんですよね。

──そういう話をうかがうと、凄くわかる気がします。

ヒラタ しかも、一回スポンサーになってくれたら、アメリカの企業は試合契約を切られないかぎりずっとスポンサードし続けてくれるんですよ。それに勝てばどんどんスポンサーもついていきますし。そういえば、じつはこっちで七不思議と言われてることがあるんですけど、「なんで○○○○○にはスポンサーがつかないんだろうね」ってみんなに言われてるんですよ。

──どんな七不思議なんですか（笑）。

ヒラタ いや、本当に（笑）。あんなに強いんだから、誰か営業してあげればいいのに、かわいそうだってみんな言うんですよね。

──そんなにスポンサーついてないんですか？

ヒラタ 少なく見積もっても1試合100万は損してますね。

──はあ（笑）。

ヒラタ それくらいスポーツ選手にとってスポンサーというのは大きな収入になりますし、ゴルフでもテニスでもスポンサーをつけて試合してるじゃないですか。ですからそれはプロスポーツ選手としてもっと評価されてもいいんじゃないかとは思いますね。契約金、PPV収益、スポンサー収益、この3つは公開されないですけど、けっこうな金額になってると思いますね。

──公開されてるギャラだけで選手を判断できない、と。

ヒラタ ただ、最近はアメリカも不景気なので、スポンサー・フィーの取り立てもけっこう大変なんですよ（苦笑）。全体的に値段が下がっているのもあるんですが、支払いが遅れがちなんです。中には踏み倒されてる選手もいますからね。

──MMA界にもアメリカ不況の足跡が刻まれてるんですねえ。

ヒラタ ええ。潰れる会社もあれば、広告費削減で撤退するスポンサーもいますし。たとえば、一時期多くのUFCファイターをスポンサードしていた家電メーカーのSOYOやCondomDepot.comなんて、その最たる例なんです。去年の12月の試合のぶんをまだ払ってもらっていないなんて選手もいるんです。

──なるほどお。あといつもよく聞くのは、UFCの場合、バックステージボーナスというのが出るというお話がありますよね？

UFCのボーナスは最高試合賞、KO賞、サブミッション賞、そして……

ヒラタ ええ。UFCのバックステージボーナスというのは二つありまして、一つは有名な最高試合賞、KO賞、サブミッション賞なんですけど、そのほかにダナ・ホ

09.01.24

アフリクション

米国カリフォルニア州アナハイム ホンダセンター

○エメリヤーエンコ・ヒョードル **$300,000** (勝利ボーナスなし)
×アンドレイ・アルロフスキー **$1,500,000** (勝利ボーナスは$250,000)

○ジョシュ・バーネット **$500,000** (勝利ボーナスなし)
×ギルバート・アイブル **$30,000** (勝利ボーナスは$9,300)

○ヴィクトー・ベウフォート **$200,000** (勝利ボーナス$80,000を含む)
×マット・リンドランド **$225,000** (勝利ボーナスは $75,000)

○ヘナート・“ババル”・ソブラル **$90,000** (勝利ボーナス$30,000を含む)
×ソクジュ **$50,000** (勝利ボーナスは$50,000)

○ポール・ブエンテロ **$90,000** (勝利ボーナス$20,000を含む)
×キリル・シデルニコフ **$10,000** (勝利ボーナスは$25,000)

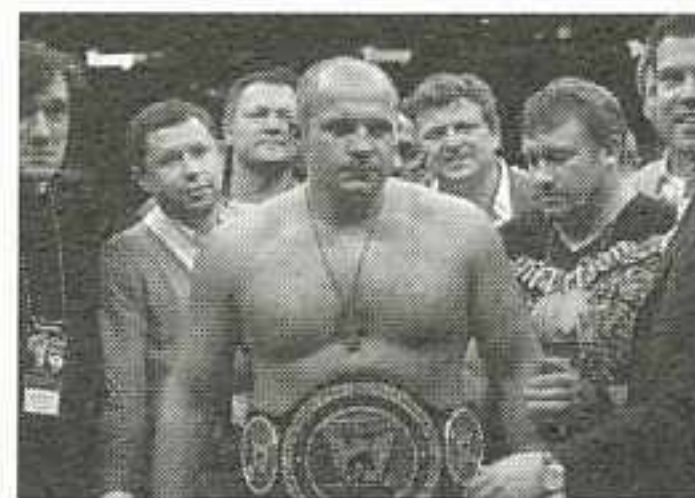
○ダン・ローゾン **$12,000** (勝利ボーナスなし)
×ボビー・グリーン **$4,000** (勝利ボーナスは$4,000)

○ジェイ・ヒーロン **$45,000** (勝利ボーナス$25,000を含む)
×ジェイソン・ハイ **$10,000** (勝利ボーナスは$5,000)

○アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ **$150,000** (勝利ボーナス$30,000を含む)
×ウラジミール・マティシェンコ **$50,000** (勝利ボーナスは$30,000)

○L.C. デイビス **$14,000** (勝利ボーナス$7,000を含む)
×バオ・クアーチ **$7,000** (勝利ボーナスは$6,000)

○アルバート・リオス **$6,000** (勝利ボーナス$3,000を含む)
×アントニオ・デュアルテ **$3,000** (勝利ボーナスは$2,000)

○ブレット・クーパー **$10,000** (勝利ボーナス$5,000を含む)
×パトリック・スペイト **$2,000** (勝利ボーナスは$3,000)

高額なギャラで有名なアフリクションだけに、ジョシュ、ヒョードル、そしてアルロフスキーはケタ違い! しかし、ヒョードルがこんなもんなはずがない! と想像すると、皇帝は別名目でもっともらってる可能性も大きいぞ。

こうなってくるとヒョードル獲得は本当にダナの意地だと思います（笑）

ワイト様の気まぐれなボーナスがあるわけなんですよ（笑）。

──ジャイアンの〝オレ様ボーナス〟ですか（笑）。

ヒラタ　ですからサブミッション賞などの試合賞はすぐに発表されて渡されるんですけど、そのほかにダナ様のボーナスは気に入った選手がいたらその場でチェック（小切手）を書いて選手に渡してくれるんです。100万円、200万円ぐらい平気で。

──気軽にそんな大金を（笑）。

ヒラタ　アメリカは小切手カルチャーなんで、小切手をポンと渡すんですけどね。で、サブミッション賞やKO賞はファイトマネーと同じように外国人選手は30パーセント源泉されちゃうんですけど、ダナ様チェックは関係ないですからね。

──じゃあ、みんないい試合をしようと頑張りますよね。

ヒラタ　試合賞は勝者も敗者も同額もらえますし、最優秀試合賞とサブミッション賞を同時に獲ることもできるわけですよ。だからマーカス・デイビスって選手は最優秀試合賞とサブミッション賞（またはKO賞）を2回続けてダブル受賞してますから、要するに2試合でファイトマネーやスポンサーフィーのほかに2400万円近くもらってるんですよね。

──凄いなあ（笑）。そのうえ有名になっていけばPPV収益ももらえるようになるわけですし。

ヒラタ　それは本当に限られた選手だけですけどね。

──逆に言うと、レスナーやクートゥアーというのはある意味、化け物みたいなものなんですね。

ヒラタ　まあ、僕もダナに言われたんですけど、ランディだってチャックだって、本当にスター選手になるまでUFCで10回ぐらいは勝ってるよって。確かにそうなんですよ。彼はUFCがあまり有名じゃない時代から何十試合も闘って、いまの地位になってるわけですから。で、唯一の例外はレスナーとかミルコだと思うんですよ。

──彼らは従来の常識が当てはまらない選手なんですね。

09.04.11

ストライクフォース

米国・カリフォルニア州サンノゼ HPパビリオン
※敗者の勝利ボーナスは各自調査で!

○ニック・ディアス **$39,950**（勝利ボーナス$10,000を含む）
×フランク・シャムロック **$369,790**

○ギルバート・メレンデス **$49,890**（勝利ボーナスなし）
×ホドリゴ・ダム **$9,190**

○スコット・スミス **$49,940**（勝利ボーナス$25,000を含む）
×ベンジー・ラダック **$16,940**

○クリス・"サイボーグ"・サントス **$18,000**（勝利ボーナス$10,000を含む）
×赤野仁美 **$1,450**

○ブレット・ロジャース **$39,940**（勝利ボーナス$20,000を含む）
×アボンゴ・フンフェリー **$3,205**

○ルーク・ロックホールド **$6,000**（勝利ボーナス$3,000を含む）
×バック・メレディス **$1,540**

○エリック・ロウゾン **$9,950**（勝利ボーナス$2,000を含む）
×ウェイロン・ケンネル **$1,950**

○ラウル・カスティーリョ **$7,890**（勝利ボーナス$3,500を含む）
×ブランドン・マイケルズ **$1,500**

○ジェイムス・テリー **$3,940**（勝利ボーナス$2,0000を含む）
×ザック・ブーシャ **$1,500**

○シンゴ・コハラ **$940**（勝利ボーナスなし）
×ジャレミー・タバレス **$940**

さすがにUFCやアフリクションと比べるとお手頃なファイトマネーであるストライクフォース。
それでもフランク・シャムロックだけは一ケタ上がってUFC並みの額であるからビックリ。

ヒラタ　よっぽどのことがないかぎり、彼らのような選手は出てこないしょうね。

──ヒョードルはどうですか？

ヒラタ　いやあ、難しいと思いますよ。PPVの実績もないですし。だからヒョードルを獲得しようとしてるのは、こうなってくると本当にダナの意地だと思いますよ（笑）。ヒョードルはストライクフォースもほしがってますけど、彼が求めているのはかなりの金額ですからね。

──ジョシュ・バーネットも自らのファイトマネーを「タカイ」と言ってますね。

ヒラタ　ジョシュはランディに勝ってますし、最年少にしてUFCチャンピオンになった選手じゃないですか。でも、かわいそうなことにあの当時のUFCはまだみんなに見られてない時代でしたから、PPV収益ランキング100位にも入ってないんですよね。ジョシュのネームバリューがそこで収まってしまうのがかわいそうなところなんですけどねぇ。

──かつて五味選手の獲得にUFCが名乗りを挙げたことがありましたが、それでも五味選手は『戦極』を選んだことがありました。日本のトップスターいえども、UFCは大型契約を結ばないんもんなんですか？

ヒラタ　そういうことになりますよね。ファイトマネーはUFCの場合、ほぼもらえる額を公開するじゃないですか。だからいくら五味選手といえども、一人だけ高くするとほかの選手とのバランスがとれなくなってくるんですよね。

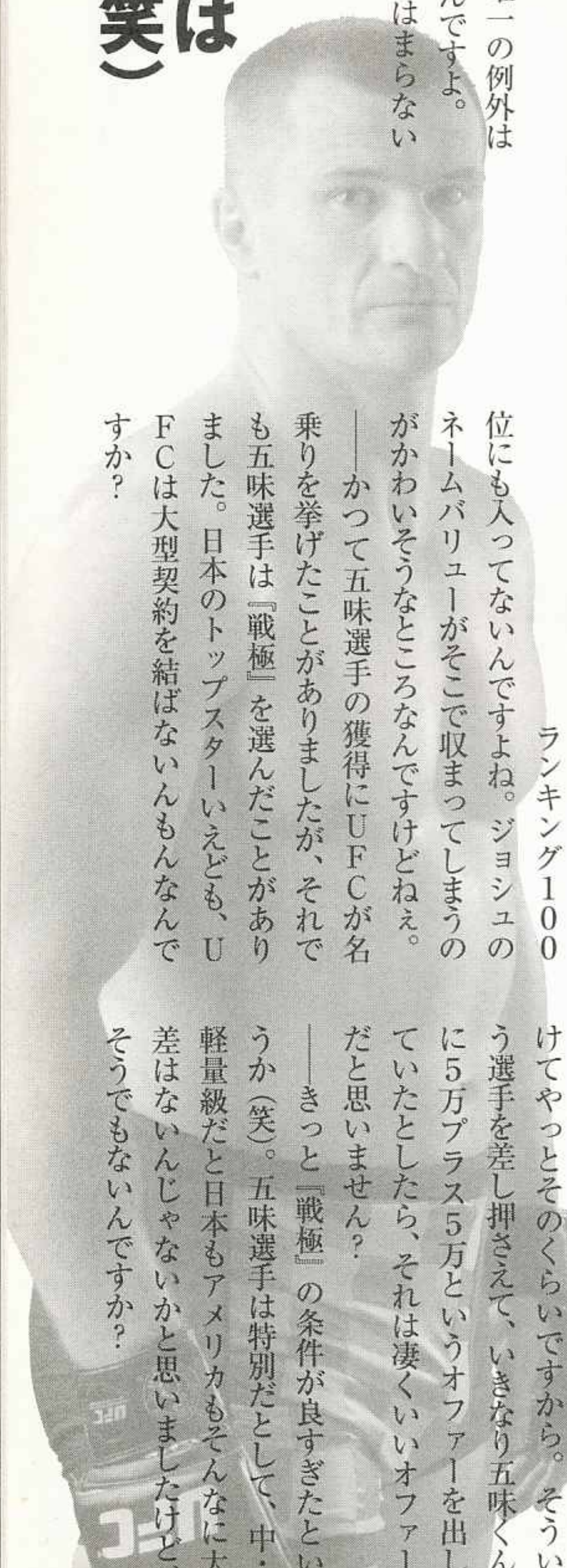
──そりゃそうですね。

ヒラタ　たとえばヒカルド・アルメイダの最初の契約は2万ドルだったんですよ。で、キム・ドンヒョンは韓国人選手だからなんか違ったルートがあるらしくて、いきなり4万ドルで試合しましたね。でも、ほとんどのファイターは、ギャランティ6000ドルプラス勝利賞6000ドル、8000プラス勝利賞8000とか、1万プラス勝利賞1万のスタートじゃないですかね。ですから五味選手に関しても頑張って5万ドルプラス勝利賞5万ドルぐらいかな。それでも凄くいいオファーだと思うんですよね。

──UFCからすれば破格の条件なんですね。

ヒラタ　そうなりますね。五味選手と同じライト級でやってるケニー・フローリアンやジョー・スティーブンソンはもう何試合もやってるのにやっと3万プラス3万とかなんですよ。ケニーだってなんだかんだいって6、7試合やってるし、勝ち続けてやっとそのくらいですから。そういう選手を差し押さえて、いきなり五味くんに5万プラス5万というオファーを出していたとしたら、それは凄くいいオファーだと思いません？

──きっと『戦極』の条件が良すぎたというか（笑）。五味選手は特別だとして、中・軽量級だと日本もアメリカもそんなに大差はないんじゃないかと思いましたけど、そうでもないんですか？

アメリカに来て一番稼げるのはKID選手かもしれないですね

ヒラタ　やっぱりファイトマネー以外の部分が大きいから大差はありますね。フェザー級に関していえばWECのほうが稼げます。ただ、日本の場合はGPで優勝したら優勝賞金があるから話は別ですけど。

——ライト級はどうですか?

ヒラタ　ライト級は日本のほうが稼げてもおかしくないですね。ただ、そのスター選手でも2～3週間前ぐらいまで対戦相手が決まらないというのはかわいそうですよね。アメリカの場合は2～3ヵ月前に決めてくれますから。

——そうなると選手もスケジュールは立てやすいですしね。

ヒラタ　トレーニングにもお金を費やすわけですからね。たとえば吉田選手とカロ・パリジャンの試合が直前で消滅したことがありましたよね。そうすると、アメリカの感覚としてはファイトマネーのことを「ショーマネー」とも言って、要するに計量をパスしてショーアップしたらもらえるということなんですよね。ですから試合がなくなっても吉田選手がお金をもらえたのは、ちゃんと〝ショーアップ〟したからなんですね。勝利賞のお金は試合をしてないから当然もらえないですけど。

——そういうトラブルがあったとしても基本のギャラはもらえるんですね。

ヒラタ　そこはルールがしっかりできてますよね。たとえ対戦相手がケガで欠場することになってもお金はくれますから。ただUFCの場合、勝てば倍になるわけですし、最高試合賞というのがあることを考えると、やっぱり試合できないことは選手にとって悔しいとは思いますけど。

——やっぱりいろいろオプションがあって夢がありますねえ。

ヒラタ　だからスポンサー・フィーでもテレビで流れる選手と流れない選手には差があって、放送されると倍になるんですよね。たとえば50万円で契約している選手がPPVに入ると100万になる。だから僕らなんかマネージャーはPPVをずっとチェックしてますもん(笑)。

——PPVに映れ!　と(笑)。

ヒラタ　でも、こういったことは何かというと、プロスポーツとして認めてくれてるということですよね。アメリカでのMMAは一般のスポンサーも認めてくれてるプロスポーツになってるんですよ。だからこそプロとしてギャラ、勝利賞、契約金、スポンサーと、試合そのものから発生する以外のお金が取れるようになったんですよね。で、僕がそれを実感したのは、三島(☆ド根性ノ助)くんとケニー・フローリアンが試合したときなんですよ。

——三島選手が負けた試合ですよね。

ヒラタ　あの時代はいまほどUFCの人気がなかったから三島くんのスポンサー・フィーはそれこそ15万円ぐらいだったんですけど、ケニーはもう有名選手だったからスポンサー・フィーが凄くあったんですね。だから三島対策のために柔術の選手やコンディショニングコーチ、それから栄養士を雇ったというんです。彼は三島を倒すために凄くお金を使えたんですね。これ、選手にとっては大きいと思うんですよ。

——強くなるためにはお金は必要なんですね。逆に日本は「お金じゃないんだ」というような風潮もありますよね。

ヒラタ　あのー、なんとなくわかるんです。選手それぞれに哲学があると思うんですけど、でもやっぱりプロスポーツ選手って寿命も短いし、アメリカだとお金の話をしっかりできないのは〝子ども〟だと言われちゃいますからね。だからプロ野球選手の契約更改の交渉時みたいにお金のことはどんどん前面的に出してもいいと思いますよ。たとえば若い選手が「総合やりたい」と言ったときに、親の説得に困ると言うんですよ。「おまえ、いくら稼げるんだ」と言われたらなんにも言えないって。ところが野球だったら「イチローみたいになりたいんだ」と一言言えばわかりますからね。そしたら親だって「もしかしたら……」と思うかもしれないですし。

——その点、アメリカだと「ランディみたいになるんだ」と言えますよね。

ヒラタ　そういうことです。たとえば一時期の桜庭選手だったら清原和博と同じぐらい稼いでないとおかしいんですよ。それが一つでも表に出ていれば、みんなそれを目標にできるわけですからね。でも、いまはそこが不透明というか。

——なるほど。最後に、日本人ファイターでアメリカに来たらもっと稼げるんじゃないかという選手はいますか?

ヒラタ　青木選手なんかがUFCに来るのであれば話題になるし、あれほどの徹底的なグラップラーは受けると思います。いちばん稼げるのはKID選手かもしれないですね。ただ、いかんせんWECというのは赤字経営なんです。ですからWECはそんなに大きな契約金で引っぱることはできないんですけど。まあ、日本には若くておもしろい選手はいっぱいいますから、ぜひアメリカに挑戦してほしいですね。

——そのうち日本の若手は根こそぎ持っていかれそうですね(笑)。今日はたいへん勉強になりました!

【09年5月22日/電話取材にて収録】

しゅう・ひらた■米国ニューヨーク在住のライター兼スポーツ・マネージャー。海外格闘技界の事情通としてライター業をしているかたわら、女子格闘家をはじめとするスポーツ・マネージャーとしても活躍。自身のブログ『シュウの寝言』(http://ameblo.jp/shu1968/)では世界格闘技のさまざまな出来事が書かれており、必読の内容となっている。

06.10.21
PRIDE.32
米国ネバダ州ラスベガス トーマス&マックセンター

○エメリヤーエンコ・ヒョードル **$100,000**
×マーク・コールマン **$70,000**

○マウリシオ・ショーグン **$25,000**
×ケビン・ランデルマン **$40,000**

○ジョシュ・バーネット **$60,000**　×パウエル・ナツラ **$20,000**

○バタービーン **$30,000**　×ショーン・オヘア **$15,000**

○ダン・ヘンダーソン **$50,000**
×ビクトー・ベウフォート **$30,000**

○フィル・バローニ **$15,000**
×西島洋介 **$15,000**

○中村和裕 **$10,000**
×トラヴィス・ガルブレイス **$2,000**

○ロビー・ローラー **$10,000**
×ジョーイ・ヴィラセニョール **$3,000**

ファイトマネーを吊り上げたといわれるPRIDEだが、アメリカ大会で公表されている金額はUFCよりも小額。しかし、これにもまた別名目でのギャラがあるに違いないが……ヒョードルとジョシュはやっぱり高い。

――今日はお金の話なんですよ。
堀辺　お金ですか。お金を貸してく

ね。ただ、とりわけ戦闘を業とする
武士というのは、とくに命のはかな

命」という言葉も出てくるわけです
から。

息絶えるわけですけど、死ぬ間際に
「義経のためにこの命を使った自分

城で包囲された話をやってたんです
よ。そのとき上杉景勝に対して、兼

“ファイトマネー至上主義”になりつつある格闘技界に喝!!

いま格闘家に必要なのは 人は一代 名は末代 という侍精神である!!

日本武道傳骨法創始師範
堀辺正史

かつてのマイナーな時代を脱却し、いまやスポーツビジネスとして、規模が大きくなった格闘技界。しかし、ビジネスとして大きくなり、ファイトマネーの額が多くなるにつれて、格闘技本来の精神というものが若干薄れてきているとも言われる。そんな現在のマット界に堀辺師範が警鐘を鳴らす。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／森鷹博

リアリズムとロマン主義を併わせ持つ それが日本の侍文化なんですよ

——今日はお金の話なんですよ。

堀辺　お金ですか。お金を貸してくれって話じゃないですよね？（笑）。

——はい。ターザン山本さんの話じゃありません（笑）。いま格闘技がすっかり大きなビジネスになっていますよね。

堀辺　そうですね。ここ15年ぐらいで、普通のプロスポーツビジネスに近づきましたよね。以前は格闘技のプロというのはほとんど存在しなかったのが、いまはあたりまえになった感じがします。

——ただ、それによって若干失なわれつつあるものもあるんじゃないかと思うんですが。

堀辺　もちろんありますね。ものごとは必ず光が当たると影ができますよね。だからプロ格闘技になってよかったことと、プロ格闘技になったがゆえに失なうことというものは当然出てくると思います。

——それを踏まえたうえで、今日は「侍とお金」というテーマでお話をうかがえたらと思うんですよ。

堀辺　わかりました。まずね、侍を表わす文化の中には、いろんなキーワードがあるんですけど、その一つとして「人は一代、名は末代」という言葉があるんですよ。

——「人は一代、名は末代」ですか。

堀辺　この中の「人は一代」というのは、べつに侍だけでなく人間の命とは誰しも一回しかないものですよね。ただ、とりわけ戦闘を業とする武士というのは、とくに命のはかなさ、命の一回性というものを自覚していたんですよ。だから「人は一代」。これはきわめて現実直視のリアリズムなんです。

——武士にはまず「命は一つ」というリアリズムがある、と。

堀辺　このリアリズムに関しては、古今東西、世界中の軍人、兵士にとって共通した思いなんですよ。闘う者の命はきわめてはかないものだという。ね。しかしね、日本の侍文化が他国の戦闘者の文化とあきらかに違うところがあるんです。それが「名は末代」という言葉。

——「名は末代」こそ侍を侍たらしめている精神ですか。

堀辺　これはどういうことかっていうと、侍はリアリズムに徹しながら、なおかつある種のロマン主義でもあるんですよ。そのロマンというのは、一度限りの命をどのように使ったら侍として素晴らしいのかという自覚を伴なってるんですよね。「人は一代、名は末代」という言葉には。

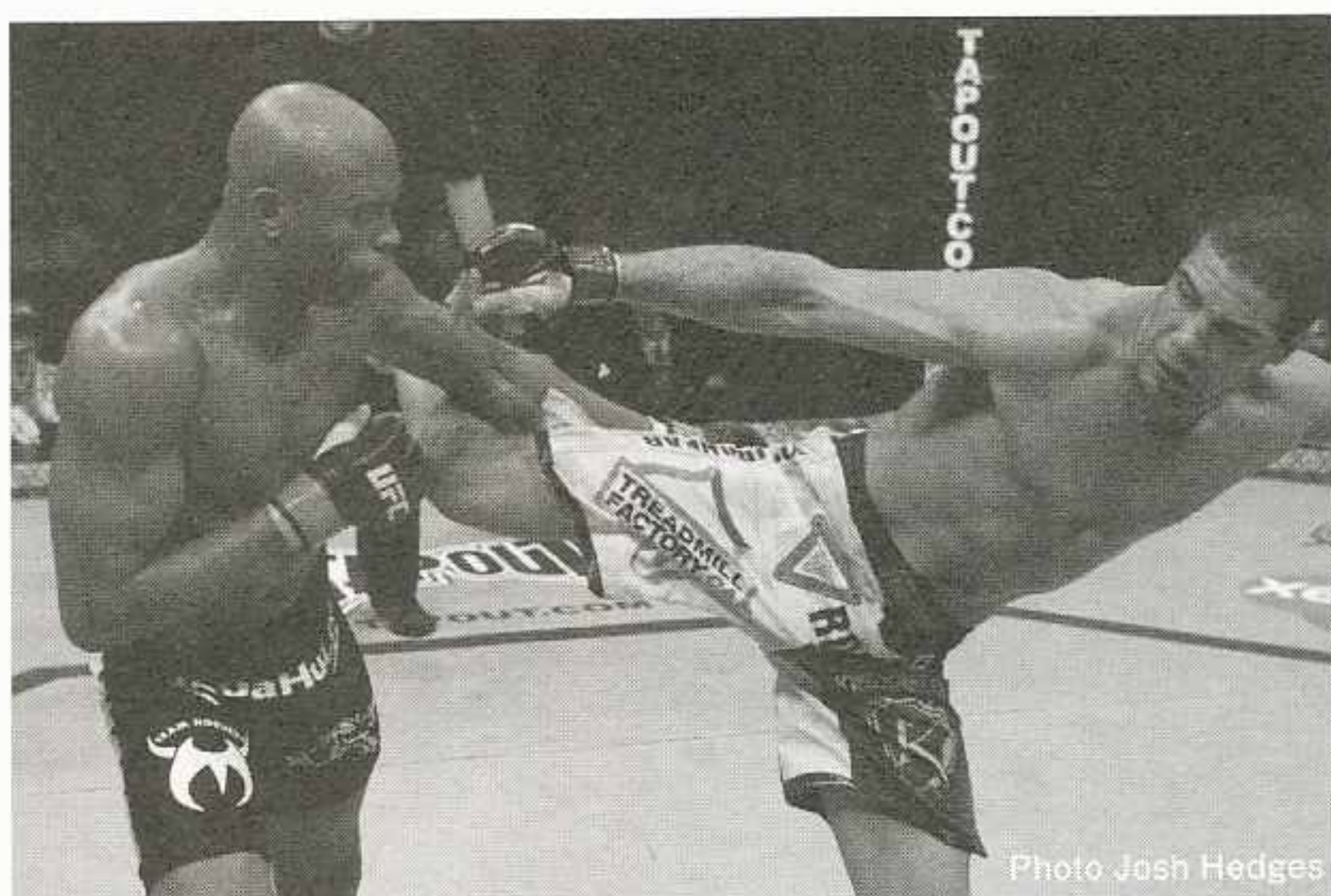
——いかに生きるか、いかに死ぬかという。

堀辺　そういうことですね。「命」をどのように「使う」か。そこから「使命」という言葉も出てくるわけですから。

——なるほど。

堀辺　だから侍の命っていうものは、なんのために使うのか、我が一度の命をどのように使ったら侍として、ひいては人間として立派なのか。あるいは自分として納得がいくのかっていうことを追求し続けた。これが侍たちなんですね。で、「名は末代」とは何かというと、これは一つの例でお話しします。平安時代の武将、源義経という人は有名ですよね？

——はい。いまでも非常に人気がある武将の一人ですよね。

堀辺　その義経の家来に佐藤継信という人がいて、彼は源平合戦のとき、義経に向かって平家側から矢が放たれたとき、反射的に身体を乗り出して身代わりになったんですよ。それで息絶えるわけですけど、死ぬ間際に「義経のためにこの命を使った自分の行為が、永遠に語られることが望みだ」ということを言ったわけです。

いまや本場アメリカのプロボクシング並みのビッグビジネスとなったUFC。しかし、そのことによって、興行主の力があまりに強くなりすぎるという弊害があると堀辺師範は指摘する。

——まさに名を残すことを望んだ、と。

堀辺　そうです。名を残すことによって、命は果てるけれど、人々の心の中に永遠に生きるということですね。それが「名は末代」ということなんです。だから日本の侍は合理主義という前提を持ちながら、それで終わらず、人間としてどう命を使えば美しいのか、素晴らしいのか、ということを追求する。リアリズムとロマン主義を併わせ持ったものが侍文化だと、まず理解してほしいんですね。これを理解しないで、日本の格闘技観というのは理解できない。

——日本のファンは格闘家に対しても、そういった侍精神を求めているわけですね。

堀辺　そうです。自分のファイターとしての価値観を保つために、苦手な相手との試合を回避したり、ファイトマネーを吹っかけたりするファイターに対しては、やっぱりいくら強い選手でもファンは尊敬しないんですよ。それより、負けるかもしれない闘いに、自分のすべてを懸けて向かっていく選手を応援しますよね。

——試合以前にそういう姿勢にしびれますよね。

堀辺　負けるとわかっていても、一泡吹かせてやろう、と。これも侍の生き方なんです。いまNHKで『天地人』という大河ドラマをやっていますけど、先日放映した回では、上杉景勝が織田信長に攻められて、魚津城で包囲された話をやってたんですよ。そのとき上杉景勝に対して、兼続が「もうこれはダメだから引き返せ」と言うんだけども、景勝は「我々はここまで闘った以上、やられたとしても最後まで闘う。それが上杉の誇りだ」ってことを言うわけですね。日本人が侍に惹かれるのは、そういう考え方、負けるとわかっていても命懸けで闘うその精神なんですよ。

——映画『ロッキー』が日本で人気があるのも、同じような感じですよね。

堀辺　ああ、『ロッキー』はそうですね。やっぱりロマンに命を懸ける姿を見せられると、しびれるんですよね。

——損得抜きっていうヤツですね。

堀辺　まさにそうです。損得を考えない、もの凄くピュアな精神。ただ、格闘技もプロ化が進んでいくことで、そこが少しずつ失なわれつつあるんじゃないでしょうか。

——勝敗レコードにこだわるために、なるべく〝負け戦〟はしないようにすることもあるでしょうね。

堀辺　やはり勝つことでファイトマネーが上がり、負けることでファイトマネーが下がる。そうすると「こいつと闘ったら負けるんじゃないか」と思われる試合は、できるだけ組んでほしくない。できるかぎり避けたいというふうになりますよね。そういうことを選手も関係者も認めるような状態が続いてくると、マット界はロマンを失なってしまう。

——リスクが大きい試合ほどファンは観たがるものですけど、そうした試合は組まれなくなっていく、と。

いま格闘家に必要なのは「名は末代」という侍精神である!!

堀辺　試合で実際に命は奪われなくても、〝選手生命〟に影響を与えるような試合は、なるべく避けたいと思うようになるんですよね。でも、格闘家がそういう生き方をしていたら、このシャバの世界で、資本主義の競争の中で生きている普通の人たちと、ほとんど同じになっちゃうんですよ。

――職業が違うだけになっちゃいますね。

堀辺　できるかぎりリスクを減らして、いいとこだけを取りたいっていう、これは世俗の人の当然の欲求であり、生き方ですよね。

――簡単に言うと「楽して儲けたい」みたいな。

堀辺　まったくそうです。商売の一番のコツっていうのは楽して儲けることですから。その資本主義の理屈に格闘家の精神までが支配されつつある。それが問題なんじゃないでしょうか。やはり、日本人というのは、普段は侍の生き方についてなんて考えてませんけど、やっぱりまだ心の中では髷を結っているですよ。

――心の中に侍の遺伝子が残っている、と。

堀辺　西洋人みたいになったつもりで、茶髪なんかにしてる人も増えたけれども、深層心理の中ではチョンマゲしてるんです。だからこそ、格闘家という特殊な人間が、侍のような無謀な闘いをすることに拍手喝采する文化的遺伝子を持っているんですよね。

――やはり侍の生き方に憧れるのは、そうした損得抜きの部分があるからですよね。

堀辺　そうです。リアリズムとロマンチシズムという二つの足で侍は立ってるわけですね。やっぱり侍といえども、リアリズムというものが前提になってるわけですよ。だから現実の闘いをどうやって切り抜けて勝ち抜くかという知恵とか技術とか体力とかさまざまなものは、そのリアリズムから引き出されるわけです。しかし、侍文化の特徴的なものは、究極においてどれだけ人の心を感動させるか、人が打ち震えるような神々しい闘いができるかっていうところに最後は落ち着くんですね。

――その侍の究極の部分に我々は惹かれている、と。

堀辺　たとえば、いま歴史ブームなんて言われてますけど、戦国武将の中でとくにいまの女性に人気があるのは、真田幸村らしいんですね。この真田幸村という人は、大阪夏の陣で、3000人ぐらいの兵隊で、1万5000人の徳川軍に向かっていき、あと一歩で家康の首を捕るところまでいったわけですよ。しかし、その闘い方はどう見ても無謀。自分が殺されるリスクのほうが圧倒的に多い。しかし、本陣を目指すことによって闘いを逆転させる可能性が一分でもあるなら、それに懸けたわけですよ。

――まさに命懸けでハイリスクな闘いにうって出たわけですか。

堀辺　豊臣家を守ろうにも、このまま合理的な闘い方をしていたら、戦局を長引かせることはできても、究極においては負けることがわかってしまったわけです。ならば、ほんの小さな可能性であっても、そこにすべてを懸ける潔さ。真田幸村はそれをやったわけですね。で、徳川家康は真田に命懸けで本陣に向かってこられて、もう慌てふためいて、侍にあるまじき行為をとるわけですよ。

――どういう行為ですか?

堀辺　田んぼの中に逃げていって、肥溜めの中に飛び込んで、そこに隠れたわけです。

――家康が肥溜めに隠れましたか!

堀辺　侍の考えでいうと、そんなところに入ってまで命をまっとうするなんてことは、考えられないわけですよ。だから、肥溜めまでは攻めなかった。それで家康は命拾いした。だから家康というのは、リアリズムに徹した武将なんです。そして天下を獲ったわけですけど、リアリズムだけだから人気がない。

下馬評では圧倒的不利と言われながらも、すべてを懸けてヒクソン・グレイシーとの初のバーリ・トゥード戦に挑んだ高田延彦。堀辺師範はこの高田の精神を高く評価している。

「楽して儲ける」資本主義の理屈に格闘家までが支配されてはならない

――家康は〝歴女〟たちにまったく人気がありませんか(笑)。

堀辺　確かに天下を獲ったというリアリズムにおいては、家康は究極の勝利者なんだけども、肥溜めに身を潜めてまでも、天下を獲るというリアリズムに徹したことで、我々の心が打ち震えるようなピュアな侍魂を家康には感じることができないわけです。だから〝タヌキジジイ〟とか、そういう嫌なイメージがつきまとうわけですね。

――天下を獲った男なのに、ずいぶんな呼ばれ方ですよね(笑)。

堀辺　それに対して真田幸村というのは、最後の散り際がじつに爽快。まさにロマンに懸けた男の姿というものに我々は心を支配されてしまうんですよ。だから、真田幸村は家康に滅ぼされたけれど、のちの人々の心を支配しているのは、圧倒的に真田幸村のほうなんです。「名は末代」という言葉どおり、彼の生き様は永遠に人々の心の中に生きている。こういう歴史の逆説というものに侍は生きたということですね。

――そして日本の格闘技ファンというのは、潜在意識の中で、格闘家にそういう生き方を求めている、と。

堀辺　そうなんです。リスクを知りつつ、あえてそこを突破していこうというバカな男、そのバカさかげんが、武士道でもあるんですよ。確かに世俗の価値観からすると、バカバカしいことかもしれない。でも、ほかのスポーツと違い、ファンがリングに求めているのは、そういうギリギリの闘いなんじゃないですかね。

――確かにそうですね。

堀辺　格闘家がそういう世俗的な資本主義の価値観の中で闘うと、リングで闘う選手よりも、興行主のほうが上の人のように、ファンも感じ始めてしまうんですよ。

――ああ、雇用主と労働者という図式がファンにも見えてしまう、と。確かにUFCのトップファイターより、ダナ・ホワイトのほうがはるかに偉そうですよね(笑)。

堀辺　それが見えてしまったら、一般大衆の人間関係と何も変わらない。これって夢があると思います?

――夢は感じませんね。

堀辺　だから、格闘技がプロ化してビジネスが大きくなるにつれて、選手よりも興行主のほうが偉いみたい

な感じが、だんだんと出ていますよね。それってマイナスなんじゃないかと思います。だって闘いのロマンは本来、リングの中にあるわけですから。ところが、興行主が上位概念にあることが見えるというのは、ちょっとね……。

——本来ならリング上で戦国絵巻を観るような興奮に浸りたいわけですよね。

堀辺 そうなんですよ。

——格闘技界が大きくなって、ビジネスになって、凄い試合もたくさん観られるようになったけれども、一方でそういうのが失なわれてきてる。

堀辺 そういう危険が背中合わせにあるんですよ。だから、選手も関係者も、どうやって格闘技が本来持つロマンの部分を取り戻すのか。そこを考えないと、格闘技独自の魅力というものが失せてしまうと思うんですね。逆に言えば、いまこそそういった侍精神を持った選手がプロのリングに現われたら、私は凄いことが起こると思います。

——リスクを顧みない男を待望する、と。

堀辺 私はそういう男の姿を、初期UFCのホイス・グレイシーに見たんですよ。確かにあの大会はグレイシー一族がビジネスのためにやったことかもしれない。でも、第3回UFCぐらいまでのホイスの闘いというのは、まさに命懸けでしたよね。

職業という意味でのプロではなく素人に対する玄人に現われてほしい

ほぼノールールで未知の相手と、体重も無差別で対峙するわけですから。私はあの大会が、グレイシーが一発逆転で自分たちの柔術を世界にアピールし、金儲けをしようとしたリアリズムの中で行なわれたことは認めます。しかし、それだけではなかった。ホイス・グレイシーという男が、命懸けでグレイシー柔術の優秀さを証明しようとした、そういう一面があったんですよ。

——命懸けで世の中をひっくり返そうという、ロマンを感じたわけですね。

堀辺 その部分があったからこそ、UFCとグレイシーというのは世界中の人々の心をとらえたんですよ。いまの総合格闘技にはあの雰囲気がない。私はビジネスとしての格闘技、プロ格闘技というものは否定しません。ただ、プロの商売としてのリアリズムに毒されずに、侍精神の中で修行をした人間が、プロのリングで凄い闘いを展開して、その闘いを通して金も入ってくるという選手に現われてほしい。

——リスクを背負える男に。

堀辺 だからプロフェッショナルという言葉が、金銭を取らないアマチュアの対語としての意味だけでなく、素人に対する玄人という意味合いを強く帯びたプロフェッショナルですよね。そういう意味でのプロ格闘技になってほしい。

——闘いの玄人ですか。

堀辺 そう、その玄人ではなく、ただお金をもらえるようになったからプロという選手が増えてしまうと、格闘技界にとってこれは由々しき事態を迎えてしまうんです。そうではなく、侍根性を持った、闘いの素人とは違う、玄人たちが闘うリングが誕生したら、私は最高だと思う。その日本文化を継承してほしいし、そうでなければ、ビッグビジネスとなったUFCに日本格闘技界が勝つことは不可能ですよ。

現在、プロ格闘技に背を向け、短刀を使った命懸けの武術に取り組んでいる骨法。先日はその噂を聞きつけたヨルダン王国の近衛兵たちが、その技術を学ぶため来日したのだ。

——金銭だけでは勝てないわけですからね。

堀辺 一時のPRIDEにはね、莫大なファイトマネーを稼ぐという意味でのプロフェッショナルと、本当に素人にはできない闘いを見せる玄人という意味でのプロフェッショナルの両方があったように思うんですよ。プロとして金が稼げるということと、いま言った玄人、あるいはロマンに懸ける生き方。そういうものが、うまく縦糸、横糸に編まれていて、それで熱気を作ってた時代がね、一時期のPRIDEにはあったと思う。

——存在を懸けてリングで闘うことによって、大金を手にしていた感じがありますよね。

堀辺 それなんですよ！ 私が言いたいのは。ただ、そのリングを作るためにもね、骨法のような金銭度外視で、命のやり取りを修行する道場がなければ、再びかつてのグレイシーみたいなものは出せなくなってしまうんじゃないか。そういう思いで、いま私は道場をやってるんですよ。

——玄人養成道場ですか。

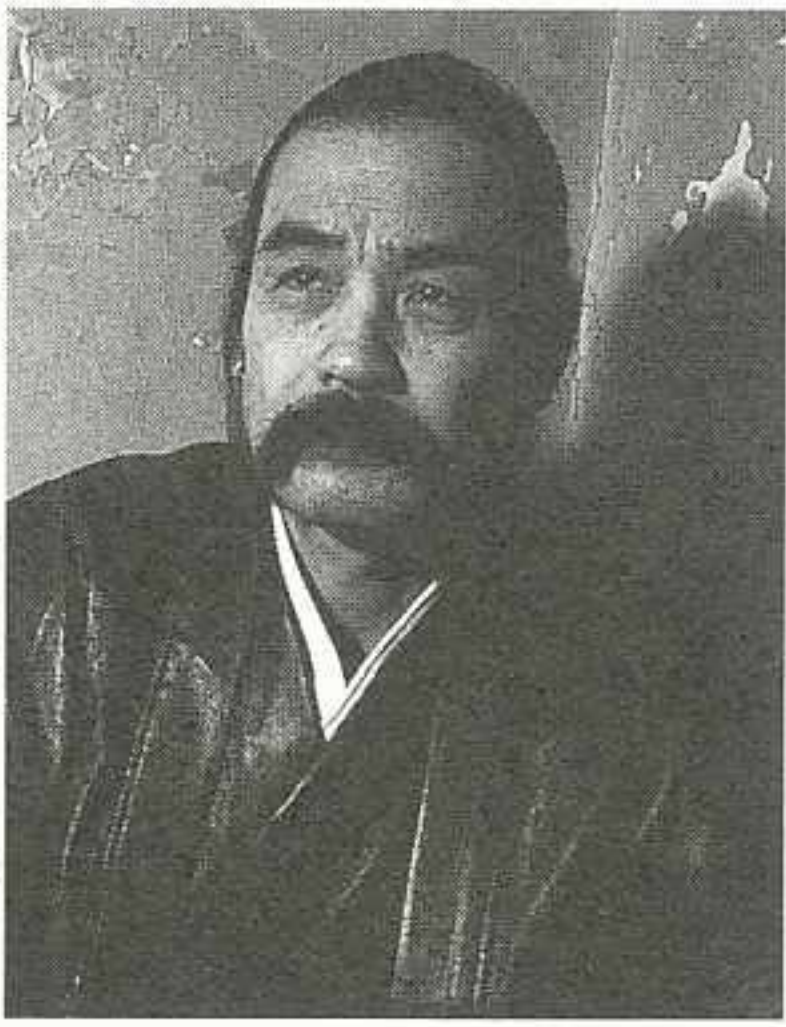
堀辺 やっぱり、そういうバカな人間、おかしな人間、時代錯誤な人間を養成する道場がないと、ロマンにすべてを懸けるような男は生み出せませんからね。そういう人間が生まれないと、私は格闘技界だけでなく、日本という国も衰退させると思う。

——リングだけでなく、日本にもロマンに命が懸けられるバカな男が必要ですか。

堀辺 必要です。いまの日本は精神的に衰退してると思うんですね。経済がダメだ、政治がダメだ、何がダメだっていうけども、そのダメな原因は何かっていうと、スピリットにおいて日本人が負けてるんですよ。そこに活を入れる。私はそこを目指したいんですよね。

——リング上まで、そういった侍が持っていたスピリットが衰退したら、最悪ですよね。

堀辺 最悪です。観る価値がなくなってきますよ。だから、私の言うような玄人が必要なんです。そこに西洋的なプロフェッショナルというものが融合すれば、凄いものが生まれると思う。武士の精神と、資本主義的にガッポリ稼いでやろうという逞しい精神が合体すれば、凄いリングが誕生すると思いますよ。日本のプロ格闘技団体は、そこを目指してほしいですね。

【09年6月4日／都内・骨法武術館にて収録】

ほりべ・せいし■1941年、茨城県出身。50年にわたる命懸けの求道の末、喧嘩芸骨法、さらに全局面打撃制koppoを創始。最近はヨルダン国王護衛の近衛団にも武道を指導するなど、多方面で活躍中。格闘技・武道評論の第一人者でもある。

マット界の酸いも甘いも噛み分けた"背広レスラー"

「WJの金の話はしたくないんだよ」
永島勝司

カ、カテェ!!

特集 お金

「カ、カテェ!」でおなじみの永島のオヤジが登場! 我が世の春を謳歌した90年代の新日黄金時代、そして放漫経営で消滅したWJでの地獄の日々まで、"平成の仕掛人"が昼から酎ハイをあおりながら振り返る!

聞き手/阿修羅チョロ

―いい雰囲気の居酒屋ですねぇ。ここは永島さんの行きつけなんですか?

永島 そうそう。昼間からやってるから打ち合わせなんかでよく使ってるんですよ。何より安いしね。

―真っ昼間から酒を飲みながら打ち合わせをしている、と(笑)。せっかくですし、一杯いかがですか?

永島 いや、このあとに猪木さんに会う用事があるから、酒臭いとちょっとまずいんですよ。

―え、猪木さんですか? もしや、かつての名コンビで何か仕掛けるとか?

永島 いやいや、そんなたいしたもんじゃないけどね。いま俺は『内外タイムス』で働いてるんだけど、その関連イベントで猪木さんに協力してもらおうと思って。まぁ、でもせっかくだから一杯だけもらおうかな。

―了解です(笑)。永島さんがWJ崩壊後に『内外タイムス』で仕事をしてたというのは聞いてましたけど、もう辞めているという噂も耳にしましたが。

永島 2年半くらい前に1年ちょっと編集長をやって、一度離れたんだけど、またお呼びがかかりましてね。じつはこれ以外に別の仕事もしてるんだけど、それはちょっといまは言えないですね。

―いまでも、いろいろと企んでいる、と(笑)。さて、今回は「マット界とお金」がテーマなんですけど、お金でいい思いも悪い思いもされてるマット界関係者といえば永島さんしかいないんじゃないかと思って、話を聞きに来ました。

永島 いい思いなんかしてないですよ(キッパリ)。

―あらっ。でも、90年代の新日本プロレス黄金期にかなりいい思いもされてるんじゃないですか。

永島 まぁ、ドームをバンバンやってた頃にいい思いをした人はいっぱいいると思いますけどね(ニヤリ)。

―意味深ですね(笑)。人づてには永島さんも相当羽振りがよかったと聞きますけども。

永島 そりゃ、あの頃は会社自体は儲かってましたからね。Uインターとの対抗戦のときも凄かったしね。

―そもそも永島さんは『東京スポーツ』の記者時代に新日本に引き抜かれたかたちになるんですよね?

永島 まあ、簡単に言うとそうなるかな。『東スポ』には大学卒業して昭和40年から21年間勤めて、最終的には第二運動部長で終わってね。俺、『東スポ』を辞めてから新日に入るまでに空白の7ヵ月があるんですよ。

―空白の7ヵ月!? そのあいだは何を?

永島 『東スポ』のあとに知り合いの企画会社に移ったんですけど、そこでプロサッカーを仕掛けようとしてたんです。

―Jリーグよりも早くプロサッカーを仕掛けようとしていた、と。

永島 そうそう。いまでいうJリーグみたいな感じでね。その話にある生命保険会社が関わってたんだけど、そこの会長が亡くなったことで結局は頓挫しちゃったんだよね。

―いろいろと暗躍されてたんですね(笑)。

永島 俺も実現に向けて各地方都市

Uインターとの対抗戦のときは上層部が相当もらってたらしいね

に行ったりしたんだけど、いま思うとちょっと時期が早かったかなって。その頃の新日の大阪大会とかで、その企画を煽ってもらったりもしたしね。

——へぇ～。入社前からそういった部分で新日本とはつながりがあったわけですね。

永島 そうだね。で、その時期に俺の教え子みたいな人間が「ロシアにボクサーでプロに転向したがってるのがいるけどどうか？」って話を持ちかけてきたんですよ。ただボクサーはギャラが高かったから「レスリングでいないか？」って聞いたらゴロゴロいるっていう話になって、そこからいろいろ始まったんですけどね。

——サルマン・ハシミコフに代表されるロシアのアマレス強豪選手のプロ転向ですね。

永島 そうそう。そこで猪木さんと話を進めていく中で、「もうおまえ、ウチに来いよ」って誘われて新日に入ったんです。最初は「ほかにやりたいことあるから嘱託みたいなかたちにしてよ」ってお願いしたんだけど、すぐに社員にさせられましたね（笑）。

かつて小さい頃の『紙のプロレス』17号にて実現した猪木×永島対談。野心とロマンにあふれる男たちは"闘魂二人三脚"として、ソ連レスラー誕生や北朝鮮での「平和の祭典」など、マット界に世間を巻き込むようなさまざまな話題を提供した。

——ぶっちゃけ、新日に入って『東スポ』より待遇面はよくなったんですか？

永島 いや、条件的には『東スポ』のほうがよかったと思うね。でも、1年も経たないで俺は新日の取締役になったのかな。そこからは給料もドーンと上がって、『東スポ』の頃よりもはるかにもらうようになって。でも、『東スポ』も俺が辞めてからボーナスが年5回出てた時期があったみたいだから、どっちがよかったんだろうなぁ（笑）。

——それもまたずいぶん景気のいい話ですね。

永島 だから俺ももう少し我慢してりゃよかったなって（笑）。それで家を買った人がずいぶんいたらしいしね。でも、そんなにボーナスが頻繁に出るのも長くは続かなかったみたいで、ローン組んだ人はあとからヒーヒー言ってたっていうからね（笑）。だから結果的には新日に入って正解だったのかな。

——永島さんが新日在籍時、一番景気がよかったのはUインターとの対抗戦のときですか？

永島 ピークはそうだろうね。でも、俺は89年の初めてのドームのときから、ある程度は交際費が自由に使えるようになったからロシアに何十回も行ったりしてね。それで自分の幅が広がったというか。

——経費として会社のお金を使い放題だった、と（笑）。

永島 さすがに使い放題とまではいかないけども、いまのご時世みたいに「タクシーはいけない」とかそういうのもなかったしね。

——なるほど。当時の新日の営業はゴルフ三昧だったり、銀座や六本木の高級クラブで豪遊してたっていうのもよく耳に入ってきましたけど、それは本当なんですか？

永島 ゴルフはしょっちゅうでしたね。興行で上がった金を使ってたらしいけど。酒に関して言うと、俺は高級クラブとかは嫌いなんですよ。わけわかんないお姉ちゃん相手に飲むのがおもしろくないっていうかね。それよりこういう赤ちょうちんみたいな居酒屋が大好きなんです。人情味があるしね。

——そういう面では、それほどお金はかからなかった、と（笑）。

永島 そうそう。俺は身なりもそんなに金かけたりしないしね。贅沢するって気持ちはあんまないんですよ。ゴルフ場も安いところをわざわざ探したり、麻雀とかギャンブルもしなかったし。……でも、貯蓄はしなかったな（笑）。

——90年代の新日は両国7連戦や4大ドームツアーみたいなビッグイベントを次々に成功させていきましたけど、特別ボーナスみたいなものはあったんですか？

永島 いやいや、出なかったですよ。俺と長州が仕掛けたUインターとの対抗戦のときは実益で2億くらい上がったんですよ。それで北朝鮮でやった『平和の祭典』の8000万の借金も払ったし、銀行から借りてたぶんも返したし。

——それは会社に対して凄い貢献ですよね。

永島 そう思うでしょ？ で、会議で「いやぁ、永島さん、ご苦労さまでした。謝礼として会社から100万円出します」って言われて。

——2億の仕事で報酬が100万じゃ少ない気もしますが。

永島 だから俺と長州は「ゼロが一つ違うんじゃないの？」って言ったんだけど、倍賞（鉄夫）っていうのが「永島さんは役員なんだから、こういう大きな仕事をやってあたりまえなんですよ。謝礼をもらえるだけでも幸せだと思わないといけない」って言われて、「ああ、そう。ありがとう」って（笑）。

——とりあえずもらえるものはもらっておく、と（笑）。

永島 でも、あとで聞いたところ、あのときは裏では上層部が相当もらってたらしいですけどね。あくまで"らしい"ですけど（苦笑）。

——そうなんですか（笑）。

永島 まぁ、俺はそういう部分に関しては非常に無頓着っていうかね。

——お金に対する執着心はあまりな

復活ピンタで急転
内外
地獄の淵から
再生内外の新「新聞名」を公募します
60年目に大変貌ダァーッ!!
人に優しい創造力
TSC
ソフトウェア開発のご用命は……

今年6月1日、創刊60周年を迎えた『内外タイムス』は、部数低迷を苦に前代未聞の"新聞葬"をディファ有明で開催。式典には我らがアントンも登場、闘魂ビンタを乱れ撃ち! もちろんこれは永島氏の仕掛けなのだ。イ、イテェ!

い？
永島　ないですよ。……いまはありますけどね（笑）。
——ダハハハハ！
永島　だってWJが失敗して、いまだに借金を被ってるんだからたまんないですよ。あれで俺の人生変わっちゃったんだから。
——そのWJに関してもお話を聞きたいんですが、最近も別冊宝島の『プロレス下流地帯』の実録漫画で話題になって……。
永島　（さえぎるように）そもそもあれは団体をやるって話じゃなかったんですよ。最初はリキナガシマ企画っていうプロダクションを作って、長州や越中（詩郎）をマネジメントするっていう話だけだったんだから。
——それがスポンサーとして福田（政二）社長が1億円出資するというところから話が加速していくわけですね。

“目ン玉が飛び出るようなストロングスタイル”がキャッチフレーズだったWJ。旗揚げ戦前から2億円の資本金や道場の開設、巡業バスの購入や著名人を招いての忘年会などが話題となった。しかし、その後ホントに目ン玉が飛び出るような深刻な経営難に陥るとは……。

WJが失敗したおかげで俺の人生変わっちゃったんだから

永島　そう。福田さんも永島と長州はドーム規模のイベントをあれだけ成功させてるんだからうまくいくだろうと思ったんだろうね。俺は時代の流れもあるし「そう簡単にはいきませんよ」って言ったし、長州も最後まで考え込んでたんだけど、現金1億円をドーンと見せられてね。金の魔力にやられちゃったのか……（しみじみと）。
——結局WJは失敗に終わってしまったわけですけど、当初は永島さんもいけると思った部分はあったんですか？
永島　う〜ん……。俺が一番心配になったのは、やっぱり佐々木健介が入団したときなんだよね。目玉選手である健介を俺は長州の反目に置くつもりだった。でも長州が「いいんだよ、そういう仕掛けは」って言ったときに「ちょっと待てよ、この団体どうなっちゃうんだ？」って思ったからね。
——そこで出たのが例の「カ、カテェ！」っていうセリフですよね（笑）。一部ではかなり話題になってますけど。
永島　なんかそうみたいだね（苦笑）。
——「カ、カテェ！」っていうのは実際に言ったんですか？
永島　言ったかどうかは覚えてないけど、長州がカタいというか、変わらないという部分を持ってるのは確かだね。彼にはプロレス界のど真ん中を行くんだっていう信念があったし、「新団体やるなら全部俺の色に染めるぞ」っていうのを覆さなかったから。天龍（源一郎）、大仁田（厚）を絡めて何かやろうってこっちが提案しても「いや、いらない」って言われて、これはまずいなって。
——誰も長州さんを止められなかったんですね。WJがなぜいまだにファンの注目を集めてるかというと、永島さんは当事者だから他人事じゃないでしょうけど、放漫経営な部分とかツッコミどころが多いからだとは思うんですけど……。
永島　（さえぎるように）俺、そういう部分に関してはあんまり話したくないんだよ。
——やっぱりWJの話題になると永島さんも「カ、カテェ！」ですね（笑）。ちなみに4月のZERO1の後楽園大会で永島さんがトークショーをやったときに、〝カテェコール〟が起こったみたいですけど。
永島　うん。そのときに思ったけど、いまのファンっていうのはわかんないもんだね〜……（しみじみと）。ニーズをつかむのがホントに難しいね。
——新日時代のほうがつかみやすかったですか？
永島　そうだね。お客さんは選手が一番嫌がることをやれば一番喜ぶ。これを実現することが俺の最大のテーマだったね。だから長州とも猪木さんとも衝突したけど、結局、興行

WJはトラブルJ？ズンドコエピソード集

※これはほんの一部です。

旗揚げシリーズからハプニングのど真ん中！

03年3月18日の群馬大会。天龍が〝頭部打撲〟を理由にこの日から欠場。旗揚げシリーズの目玉だった長州vs天龍の6連戦はわずか3戦で頓挫することに。しかし、永島勝司著『地獄のアングル』によれば、実際は天龍ではなく長州のアキレス腱負傷がその理由。エースの欠場は団体イメージが悪くなると考えた永島の頼みに、天龍が心意気を見せた格好だ。もちろんケガをしたのは長州なので、長州本人も翌19日の埼玉大会から〝全身の倦怠感〟を理由に欠場。さらに翌20日の千葉大会では、当時国会議員だった大仁田厚が国会からの「禁足令」により欠場。旗揚げシリーズから目玉選手を3人欠くという波瀾万丈なスタートに。

ベルトなき初代王者？丸腰だなんて……ヴァー！（涙）

03年7月20日の両国大会。WJ最強決定トーナメントの決勝、佐々木健介が鈴木健想を下して初代WMG（ワールド・マグマ・ザ・グレーテスト）王者となるも、海外で製作中だった同ベルトが「輸送上のトラブル」のため間に合わず。ベルトなき戴冠劇、「正直、すまん！」じゃすまされないお粗末ぶりだ！

まさかの金網崩壊！みんなで支えりゃ怖くない？

03年9月6日の横浜大会。興行不振のWJが総合ブームに便乗、金網イベント『X−1』を開催するも、大会途中で肝心要の金網がなんと崩壊！関係者が金網を押さえながら試合を行なうという前代未聞の事態に。これにはイベントプロデューサーである長州も、コメントを出さずに会場をあとにする投げっぱなしぶり。起死回生を狙ったイベントで、逆にいろんな意味で追い込まれてしまうとは……。

〝聖地〟とは縁がない？後楽園で連続ハプニング！

03年9月16日、発表済みだった10月22日の後楽園ホール大会がボクシング興行とバッティングしていることが発覚！のちにWJで正式に会場を押さえていなかったことが判明。WJはお詫びとともに大会中止を発表。また04年3月1日のWJ1周年記念興行では会場費を全額支払えず、後楽園ホール担当者が永島氏を軟禁。数時間後、知り合いにお金を持ってきてもらって難を逃れた永島は、帰りにヤケ酒を飲んでトボトボ帰ったとか。

会社は人いれてナンボだから。

——WJではそれが……。

永島　（さえぎって）できなかった。結局、全部を長州のやりたいようにさせてたし、結果的には俺もそういう方針でいこうと賛同したわけだし。あと、やっぱりまずかったのは、俺と長州が経営者側に入ったことだろうね。俺はプロデューサーとしていろんなものを作ったり仕掛けるぶんにはいいんだろうけど、経営者になるような器じゃないから。

——そうなんですかね。

永島　WJ失敗の最大の原因はそこにあると思うよ。まぁ、俺らに羽振りのいい頃の新日の体質が抜けなかったのもまずかったと思うけどね。

——そういう自覚もあるにはあった、と？

永島　あったよね。そういえば、誰かが「WJってのはトラブルJだ」って言ってたよ（笑）。

——うまいんだか、うまくないんだかよくわかりませんが。谷津さんは旗揚げの時点で「この団体はダメだ」って思ったと言ってましたよ。

永島　そうなの？　なんで？

——旗揚げ戦の純利益が2億3億ぐらいのつもりで目論んでたのが、チケットが思ったよりも売れてないことに気づいて直前でドタバタしてるのを見て、このままの状態で続けてたら長続きしないってことがその時点でわかった、と。

プロレス団体？ 10億円積まれて好きにしていいならやるかも（笑）

永島　まあ、彼には言いたいこと言わしておけばいいんじゃない？（笑）。そもそも長州が谷津を入れるって言ったときに、俺は「発表の第1弾がこれかよ。ちょっと違うんじゃないの？」って思ったからね。

——谷津さんが所属第1号選手なんですよね。

永島　まぁ、長州の頭の中では谷津には営業もやってもらうっていうのがあったから。谷津はいま何をやってるの？　元気なんですか？

——いまは何かの会社の社長をやってるみたいですけど、必要以上に元気ですね（笑）。

永島　ハハハハハ！　まぁ猪木じゃないけど「元気が一番！」なんじゃないですか（笑）。

ながしま・かつじ■1943年1月6日、島根県出身。東京スポーツ新聞社を経て、88年に新日本プロレスに入社、渉外・企画宣伝部長として、Uインターとの対抗戦などを仕掛ける。02年にWJプロレスに参加するが、WJは04年7月に経営悪化により活動休止。現在は『内外タイムス』で編集統括プロデューサーを務める。

——永島さんのWJ時代の給料はどんな感じだったんですか？　崩壊間際は未払いだなんだって、だいぶ騒がれてましたけど。

永島　旗揚げが3月だったけど、ちゃんともらってたのは4月までで、5月からはピタッと止まったから、そりゃ苦しかったよ。必要経費は会社から出てたけど、給料が出なきゃどうにもならないし。そこからずーっと団体の最後まで給料なんか出なかった。

——それは大変でしたね。選手たちもそういう状況であれば、引き止めるのも難しいでしょうし。

永島　ホントそうだよね。

——そういった環境の中で体調を崩したりとかはなかったんですか？

永島　ストレスでとっくに胃潰瘍とか胃ガンになっててもおかしくないと思うんだけど、なぜか俺はならないんだよ（笑）。会場の未払いだ、特効の業者だ、小さいところだと花屋からまで、毎日ひっきりなしに携帯電話に取り立ての電話がかかってくるんだけど、俺はちゃんと全部出てたから。

——逃げも隠れもしなかったわけですね。

永島　そう。で、「いつ払ってくれるんですか？」って言われるんだけど、あてがないんだもん。本当に地獄だったよ……（しみじみと）。

——地獄のど真ん中だった、と。

永島　でも不思議と身体は大丈夫だった。なんなんだろうね？（笑）。

——ボクにはわかりませんよ（笑）。でも、金の切れ目が縁の切れ目なんて言いますが、関係が悪くなってしまった人もいたんじゃないですか？

永島　それはやっぱりいましたね。

——そういう状況で人間不信になったりは？

永島　あんまりないんだよね。さすがにWJのときは多少なったけど、新日本のときはなかったし。そもそも俺は腹に思ったことをすぐ言っちゃうから。

——溜め込まないというか。

永島　猪木さんに対してもみんな遠慮しちゃうけど、俺はそうじゃないしね。電話でガンガンやり合って、猪木さんが「勝手にしろ！」って言ったらこっちも「勝手にするよ！」って感じだったから（笑）。

——ちなみに永島さんはいまでもWJの負債を抱えているとのことですが、現在の返済状況はどんな感じなんですか？

永島　まぁ、具体的には言えないけども、なんとか頑張って返していってますよ（苦笑）。

——そんな状況でも好きなお酒はやめられない？

永島　そうだね。タバコと酒はやめられないね。まあ、やめるつもりもないんだけどね（笑）。

——そうですか。ちなみに、WJでさんざんつらい思いをされたと思うんですが、まだプロレスは好きですか？

永島　う～ん、最近はあんまり観ないですね。

——かつて“平成の仕掛人”と呼ばれた身としてプロレスでもう一回復活したいという思いは？

永島　ないです！　そういうパワーもエネルギーもないです。

——また、どっかのお金持ちのスポンサーが1億とかボーンと現ナマで持ってきて「新しいWJをやってくれ」と言われても？

永島　1億じゃやらないね（キッパリ）。まあでも、仮に10億円積まれて返さなくて好きにやってくれって言われればやるかもしれないけど（笑）。

——1億ぐらいの元手でプロレス団体をやるものじゃない、と？

永島　そうだね。もうね、とにかく金のないところではやりたくない！

——ダハハハハ！　ゼヒ、新生WJを永島さんに復活させてもらいたいところですけどね。

永島　いや～、こんな時代にそんな人はもういないでしょ。いまはこうして真っ昼間から飲んでるときが一番幸せだよ（笑）。

【09年5月25日／都内・新橋の永島のオヤジ行きつけの居酒屋にて収録】

第43回

DVDでTUFを観てるけどおもしろい

花くまゆうさく

豆リングの汁

先月のUFC、LYOTO完勝&意外にたくさんしゃべったマイクが印象深いが、ブラック・ラーソンvsマイク・パイル戦もよかった。パイルが下から、僕好みの仕掛けを次々トライするので観て嬉しくなった。最後は、上からじっくり潰され肩固めで負けちゃったけど、ああいう闘い方は好きよ、好印象。

DREAMは、所選手が勝って嬉しい。攻めてくる相手なので、試合も噛み合いよかったね。3連敗といっても、寝技は逃げに徹底してくる山本戦、階級が違う中村戦、植松に完勝するほど強いDJ戦と、負けも仕方ないのでは。あれで、所は弱いとかいう人もどうかと思う。それも、『HERO'S』やDREAMでしか所を観たことないような人が。

ビビアーノvs今成戦は、寝技の強さがウリのビビアーノが寝技勝負にいかないから残念。ビビアーノがあれだけ相手の寝技警戒して深入りしなかったのは、小室戦以来じゃないかな。

次は、ビビアーノvs高谷、ウォーレンvs所がいい。高谷戦ならビビアーノも寝技いくだろうし、所も下からウォーレン極める技術あるし（それをバスターで叩きつけられるかもしれないけど）。所がウォーレンに勝ったら、KIDとのストーリー再開できるしね。リザーブで、KID vs十段を思うのは贅沢でしょうか？

Hanakuma Yusaku
◎ヒョードルvsジョシュも小向美奈子も観たい。

撮影／乾晋也

kamipro Moveで好評連載中!

ニュース特選!★kamiの1週間

傑作編

石井慧『戦極』と契約&北岡の凱旋

（6.9更新分より）

◎『kamipro Move』で毎週火曜日更新の人気連載「ニュース特選! kamiの1週間」。このコーナーではプロレス&格闘技好きなカントリーロックバンド「アニーラッズ」のボーカルの松さんとギターの竹内さんが、1週間のマット界で起こった気になる出来事を語りまくり! 興味を持った方は『kamipro Move』にレッツ・加入!!

松　『戦極』参戦を発表した北京オリンピック柔道金メダリストの石井慧が6月4日にファン公開で契約書にサインした。

竹内　公開記者会見とはUFCのPRIDE買収やフジテレビの放映打ち切りを彷彿とさせるね。

松　縁起でもないことを思い出すんじゃないよ！　会場となった新宿ステーションスクエアには、平日の夕方にもかかわらず多くの観衆が集まってたね。

竹内　イベントでは、参加者全員で「一、十、百、戦極！　戦極!!」の戦極ポーズも披露された。

松　されてないよ！　それどころか戦極ポーズはなかったことになってるだろ。

竹内　戦極ポーズ推進派のジョシュが「キング・オブ・戦極」と呼ばれていたこともなかったことになっています。

松　やかましい！　それにしても、『戦極』にとって石井の参戦は大きいね。

竹内　ライバルイベントであるDREAMではなく、『戦極』を選んだというのは、確かに世間にアピールする大きな材料になる。

松　石井自身は、『戦極』を選んだ理由について「ドン・キホーテの安田会長から商品券をもらったので」と発言。

竹内　森田健作千葉県知事と同じですね。

松　全然違うよ！

竹内　ちなみに石井の柔道五段も森田健作の剣道二段同様、"自称"とのことです。

松　石井はちゃんと五段取得してるよ！　一緒にするな!!

竹内　石井のデビュー戦の日時は発表されてなかったけど、吉田秀彦との柔道金メダリスト対決に期待したいな。

松　うん。吉田との試合となら、勝っても負けても話題となる。

竹内　もし石井が負けたら、吉田に「一緒に戦極ポーズやってください！」ってアピールすればいいしな。

松　小川直也のハッスルポーズじゃないんだよ！

竹内　この戦極ポーズを吉田が拒否したら、またブーイングされたりね。

松　嫌なこと思い出させるな！　『戦極』と協力関係にあるパンクラスも6月7日にディファ有明で大会が開催された。

竹内　こちらはファイトマネーが激安の殿堂と呼ばれています。

松　呼ばれてないよ！　ふざけたこと言うな！　この大会では北岡悟がパンクラスに凱旋出場し、坂口征夫をアキレス腱固めで見事に下した。

竹内　会場も超満員となり、まさに北岡効果があったと言えるね。

松　勝った北岡は「僕が出たときにお客さんがいっぱいになってるパンクラスは初めて」と感慨深そうだった。

竹内　「ちなみに僕が出たときにお客さんがいっぱいになった『戦極』はまだありません」ともコメント。

松　言ってないよ！　でも、いまの『戦極』は郷野聡寛の参戦も決まり勢いが出てきたから、8月2日のさいたまスーパーアリーナ大会は期待できそうだ。

竹内　『戦極』と契約した石井慧には、小向美奈子ばりの集客力も期待したいね。

松　ストリップと一緒にするんじゃないよ！　いいかげんにしろ!!

三者三様それぞれの現実
リング外の金銭闘争徹底ドキュメント

総合格闘家お金事情

金、カネ、マネー!! PRIDE消滅、そして100年に一度の経済恐慌もあいまって、超収縮傾向にあるといわれる総合格闘技界。実際に現場で活躍しているファイターたちは、お金とどんな闘いをしてるんだろう。三者三様のマネー話から格闘技界の行方を占え!!

ポッと出の選手（マッハ調）
青木真也

団体経験者
金原弘光

女子格ファイター
石岡沙織

練習、指導、時々試合。

お金をまるで使わない生活

おじゃましま～す！
家賃4万8000円のアパートに潜入!!

変態的ミスター・ストイック

青木真也

青木真也は金持ちだ～、メガジム建てた、蔵建てた～♪
佐伯繁いわく「通帳を見ながらニタニタ笑う男」だという青木真也さん（26歳、格闘家）。ワオ木さんがお金を使わないという話はたびたび耳に入ってきているが、実際はどんな生活ぶりなのか。1Kのアパートに潜入ですよ！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／丸山剛史

青木　いや、昔はあったんですけど、ぶっ

青木　いやいや、溜まるとだから（苦笑）。

てないから結局のところ、その人たちの気

「お金を使わない男」青木真也の生活ぶりを探るべく、彼が住むアパートにおじゃますることになった今回の取材。西武新宿線の某駅でワオ木さんと待ち合わせ。そこから歩くこと約10分――、閑静な住宅地の中に位置するアパートに到着したのだが、なんとビックリ、部屋のドアが開けっ放しじゃんか！ ってことは30分ほどこのままだったなんて、不用心にもほどがあるよ！ というわけで、修斗、警察学校、PRIDE、『やれんのか！』を経て形成された経済観念に迫ったぞ！

――青木さん、アパートのドアが開けっ放しでしたよ？

青木 なんで？ いいじゃん、べつに！

――田舎じゃないんですから物騒ですよ（笑）。ひょっとしたら、いつも開けっ放しなんですか？

青木 さすがにそれはないよ。いつもは鍵をかけたり、かけなかったりしてるし。

――鍵をかけないって、そのうち泥棒に入られますよ。

青木 それは大丈夫。ボクが泥棒みたいなもんだからね！

――意味がわかんないですけど（笑）。

青木 だってボクの部屋、金目のものは何もないよ。朝練して部屋に帰ってきて昼寝して、また夜に練習して帰ってきて寝る。もう寝るためだけの部屋ですから。

――確かにこれといって何もないですね。失礼ですけど、ここの家賃っておいくらですか？

青木 1Kで4万8000円かな。PRIDEに出てたときから、ここの家に住んでるんですけどね。

――しかし、噂どおりテレビがないですね。テレビは観ないんですか？

青木 いや、昔はあったんですけど、ぶっ壊れちゃって。そのままテレビがなきゃないでなんとか生活できるから、じゃあテレビなんていらないやって。

――パソコンもないですよね。どうやって『kamipro.com』のブログを書いたり、ウェブをチェックしてるんですか？

誌上初公開！ これがワオ木さんの住む1Kの部屋。睡眠をとるだけの部屋だけあって必要最低限なもの以外は何もない。この部屋と道場の往復を繰り返すことで青木真也は強くなっていったのだ。次回の取材ではアルバレスとカルバンをこの部屋に連れてきて鍋パーティをやる予定です。

青木 自分の携帯で書くときもあるし、DEEP事務所のパソコンを使うときもあるから、家にパソコンはいらないなあ。なんかね、自分の部屋からものをなくしていきたいんですよ。本やCDも溜まると捨ててるんです。『kamipro』も溜まると捨ててるんですけどね。

――二度と送本しませんね。

Shinya Aoki

青木 いやいや、溜まるとだから（苦笑）。

――で、今日のテーマは「お金」なんですよ。こないだ佐伯（繁）さんにお話を聞いたら「青木は預金通帳を見ながら、ニタニタ笑ってるような男だ」そうですよ（笑）。

青木 シゲルの野郎、ウゼエなあ（笑）。「青木真也ケチ説」を作るの、やめてくださいよ。全然ケチじゃないのに！

――いやいや、ウチがケチ説を流してるわけじゃないですよ。

青木 佐伯さんがそういうことをちょいちょい言うんだよね。佐伯さんは焼きもち焼きで寂しがり屋じゃん。

――つまり青木さんにかまってもらいたいと？（笑）。

青木 そうそう。大変なんですよ、相手をするのもさ。

――佐伯さんはともかく、青木さんの場合は「お金がない」というより「お金を使わない」みたいですね。

青木 そうだね。使わないっていうより、お金を使うヒマがないの。だって毎日練習してたら使うヒマないよ。ボクはお酒を飲まないし、タバコもやらない、ギャンブルもやらないし。練習と試合ができればそれでいいの。

――青木さんって、MMAバブルのあとにやってきた選手じゃないですか。

青木 だからいまの生活に満足してるのかもしんない。華やかな世界なんか知らないもん。ボクがPRIDEに上がったときって、もうテレビでやってなかったから。

――そんな華やかな世界に踏み込んでたら、もしかしたら生活が狂ってたかもしれないんですかね？

青木 狂ってないでしょう。……とボクは思いたいですけどね。でも、狂ってたのかもしんないね。ボクはバブルを味わってないから結局のところ、その人たちの気持ちはわからないんですよね。

――バブルをうらやましいと思ったりしませんか？ たとえばファイトマネーだって違うわけですし。

青木 ボクの基準は早稲田大学の頃なんです。大学の頃と比べれば、ホントにいまはありがたいっすよ。大学のときなんて、死ぬほど金はなかったから！

――バイトはされてたんですか？

青木 やってない。修斗の試合がバイトだもんね。

――バイトがてらチャンピオンになってましたか（笑）。

青木 でも、さすがにファイトマネーじゃキツイよね。大学生だったから生活できたけど。あとは柔術の指導をやってたけど。いまのファイターもレッスンプロが多いんじゃないですか？ 実際、いまのボクも生活自体はレッスンプロみたいなもんだもん。レッスンしたお金だけで暮らしてるからね。

――大学時代はどれくらいのペースで指導してたんですか？

青木 週1回ですよ。たま～にセミナーをやるぐらい。あとプロ柔術の試合がちょこちょこあって、平均するとどのぐらいもらってたんだろうな。

――大学生一人が生きてくぶんには問題なかったというか。

青木 学生だったら問題ないかな。普通に社会人だったら、ほかに仕事を持ちながらじゃないと厳しいだろうなあと思いましたよね。

――そういう環境って、ファイターとしてどうでした？

青木 そういうもんだと思ってたというか、当時の教育がそういう教育だったか

ら。「お金なんか関係ないんだよ！」みたいな。だって計量が終わったあとにファイトマネーを知ることがありましたからね（笑）。

――ダハハハ！　それくらいお金はどうでもよかった（笑）。どういう心境で試合に臨んでたんですか？

青木　気分は趣味！（キッパリ）。

――趣味がてらチャンピオンになってましたか（笑）。修斗をステップアップの場にしてメジャーのリングを見据えている選手もいたわけじゃないですか。

青木　トップクラスの選手が稼いでるっていう話は聞いてたけど、ボクはもう趣味として開き直ってたから。もうね、PRIDEとか『HERO'S』をあえて見ないようにしてた！　「あんなものはこの世に存在しないんだ～～～!!」って。

――か、かわいい（笑）。

青木　笑ってるけど、こっちはもの凄く葛藤してたんだから（笑）。

――いやあ、すいません。しかし、どうして「存在しないもの」としてたんですか？

青木　だってそれはさ、アッチは高瀬（大樹）さんのブログの世界だって教えられてたからさ。

――因果律の世界ということですか？

青木　違う違う、光と影の世界！「あの舞台は八●長だぞ！」みたいな。

――どんな子ども騙しなんですか！（笑）。

そうして格闘技をやめて警察官の道を選んだ、と。

青木　だって悲しいかな、格闘技じゃ食っていけないと思いましたからね。親が金持ちだったり、ジム経営をやってたりするんなら大丈夫でしょうけど。多くの選手は後ろ盾が何もないわけで。

――青木さんは修斗の世界チャンピオンだったわけじゃないですか。それが食えないから格闘技を引退して、一度は就職したわけですけど、客観的に考えたらもったいないと思うんですよね。

青木　でも、それは凄く賢い選択だったと思うけどね。いまはなんとか食えてますけど、あの当時はそんな可能性なんてわからないじゃないですか。でもね、べつにお金がなくたってよかったんですよ。結局は信用の問題だったから。

――といいますと？

青木　じつはあのときに……（諸事情により泣く泣く割愛）。

――ダハハハハハハハハハハハハ!!

修斗のチャンピオンになった青木真也だが、一度は格闘技を離れた。あのまま警察学校を辞めずにいたら、格闘技界の歴史はどうなっていたのだろうか。運命の歯車って怖い!!　ぱいーん!!

青木　そんなにおもしろい？（笑）。

――おもしろいなあ。なんて二枚舌な野郎なんですかね（笑）。

青木　もうね、「ふざけんな！」って感じですよ！　あのときボクが格闘技から離れたのは、そういった信用の問題でもあるんです。こういう対人関係の中でやっていけるわけがないって。

――PRIDEの単行本のときに聞いたお話では、プロとしてやっていけると思ったのは、警察学校のときにUFCからオファーがあったからなんですよね？

青木　そうなんですよね。ボクは警察官になっても柔道は続けたかったんです。でも、修斗王者の経歴が引っかかって、柔道の試合に出られなくなったんですよ。

――柔道はプロ活動に厳しいですもんね。

青木　で、そんなときに警察学校にUFCからオファーが来たんですよ。

――警察学校に（笑）。

青木　ある知り合いのガイジンを通じて。そのときに提示されたギャラは○○ドルくらいで、相手はBJペン。

――BJペン戦で○○ドルですか。

青木　これを年に4回やればなんとかなるだろうって。

――へえ～。じゃあUFCから条件を提示されて、初めてプロでやっていけるんじゃないかなと確信したんですか？

青木　と思いました。で、いまボクのマネージャーをやってくれている公武堂の長谷川さんに相談したんですよ。「UFCからこういうオファーが来てるんですけど」って。そうしたら「ファイターとしてちゃんとやっていくんだったら、もっとじっくり考えたほうがいい」ってアドバイスしてくれて。あのとき何も考えないでUFCに上がっていたら、試合はそれなりにできたと思うけど、いまのような格闘家としての環境はなかったかもしれないですね。

――PRIDEにも出てなかったでしょうし。

青木　それで『武士道』に出ることが決まったときに、ある人に『結局はお金ですか？』って嫌味を言われて、「お金も凄く大事です！」って言い返した思い出がありますけどね。

――そういう人間こそボランティアで格闘技の仕事をやってほしいですけどね。

青木　ホントに「なんで自分の価値観を選手に押しつけるんだ!?」って話ですよ！　毎日メシ食って、練習できて。それ以上何かをよこせって言ってないんだから。

――やっぱりお金って大切ですね。腕や理念があっても、稼げなかったら意味ないわけですからね。

青木　ホントにそうだと思いますよ。いくら強くたって食えないと意味がないですから。だからPRIDEに上がったときは凄く怖かったですけどね。運良く勝ち続けてこうして生活できてますけど。

――いまのファイトマネーはどうしてるんですか？

青木　おふくろが管理してますね。通帳にいくらあるのかボクも把握してないんですけど、将来的に自分でジムをやるときに使いたいなって。ボク、メガジムをやりたいんですよ。ケージやリングがあって、打撃ができるスペースがあって。指導するのが好きだから。

――そのためにお金を貯めてる、と。

青木　貯めてるというか、ぜんぜん使わないというか。自分のメシ代は指導で稼ぐみたいな感じっすよね。週2日。トイカツ道場と、水曜と土曜のDEEPジムの指導だけ。その指導料だけで生活してます。

昔は計量が終わったあとにファイトマネーを知ることがあった（笑）

Shinya Aoki

——ちなみに指導だけでどのくらいもらってるんですか？

青木　全然、大きい額じゃないですよ。自炊しているし、外食するのは土日ぐらいだし。一般人と同じ生活水準っすよね。

——あと青木さんは、柔術のセミナーで全国各地を回ってますよね。

青木　6月も仙台に行くよ。

——オファーはどのくらいのペースであるんですか？

青木　年間2～3回じゃない？　頼まれたら行くみたいな。去年は3つ行きました。高知、秋田、愛媛って。なんかね、それは単純に楽しいんですよ。旅行がてら知らない土地に行ってちょっと遊んで、お土産を選んでさ（しみじみと）。

——余生を楽しむお年寄りじゃないんですから（笑）。年3回のセミナーというのは多いほうなんですか？

青木　少ないのかな。中井（祐樹）先生とか死ぬほどやるしね。中井先生は（指導料が）安くてもいいから広めたいみたい。ボクも基本的にそうなんです。だって格闘技を広めることによって、いつかは業界に返ってくるわけだし、それは自分にもつながってくる。それに指導とかセミナーで稼いだお金で生活してると、格闘技に携わる人間として、生きている実感が湧いてくるんですよ。

——地に足が着いてるというか。

青木　そうそう。俺、格闘技をやってるなって。

——あと、いまの格闘技界ってスポンサーって重要じゃないですか。

青木　海外もそうですよね。日本の場合は物品のところもあるし、現金のところもありますね。物品でも充分、助かるんですよ。練習着とかサプリメントがもらえるってだけでも充分ありがたい。実際、練習着のスポンサーがついている選手がどれだけいるのかっていったら、なかなかいないでしょ。

——そういえば、そうですね。お金のほうだと海外のほうが恵まれてるんじゃないかってイメージがあるんですよ。

青木　そんなことないですよ。だってUFCの選手も、そんなにもらってないでしょ。要は上下の差が凄く激しいんですよ。それは日本でも同じです。下にいたら厳しいけど、上の選手の際限はハンパじゃない。まあ、ボクは日本でもアメリカでも、格闘技に携わっていける環境を作りたいです。

——環境作りですか？

青木　たとえばセミナーをやったり、こうしてインタビューを受けたり、解説をやったり、ブログで技術論や地方格闘技のことを書いたりするのも、格闘技の環境を作ってると思うんです。格闘技のおもしろさや楽しさを広めれば、ファンは増えてくるし、いずれ自分に跳ね返ってくるじゃん。

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。03年にDEEPでプロデビュー。06年2月に修斗世界ミドル級王座奪取、同年6月にPRIDEに参戦。昨年はJ.Z.カルバン、宇野薫、エディ・アルバレスを撃破。180cm、70kg。

——つまり、パイが増えれば格闘技は盛り上がるし、青木さんや格闘家の仕事も自然と増えてくるってことですね。それは一山当ててって感じではないですね。

青木　一山狙ってもいいけど、ホームランを狙ってるヤツはヒットは打てないから。ヒットを狙うからホームランになる。チームプレーができないヤツばっかじゃアメリカには勝てないですよ！

——なんか青木さんって、いい意味で「プロになってトップになったら、こんなに稼げるぜ！」っていう匂いがしないですね。

青木　（急に小声になって）それね、いろんな人に言われる。

——それはどうなんでしょ（笑）。

青木　「あれ？　なんでこんなところでメシ食ってるんですか？」って言われたりするからね。だいたい「プロになったら、こんなに稼げるぜ！」なんて生活スタイルは長続きしないですよ！

——それこそホームランを狙いすぎてスイングが雑になるというか。

青木　お金で上がる団体を決めるのもいいとは思いますけど、結局、自分がその環境に適合するかってことは大事だと思うんですよ。自分がどうやるのが生きやすいかっていうのが一番、大事です。たとえば、給料が高いから幸せなのかっていったら、わからないじゃない。だから自分の好きなようにすればいいと思いますよ。

——要は、人それぞれの幸せがあるってことですかね。

青木　青木真也は好き勝手やってるし、いまが一番楽しい!!　ボク、酒が飲めないでしょ。もう合コンとか行けないのよ。イライラしちゃうの。イチから説教したくなるんですよ、長渕剛的に「いまの日本はコノヤロー！」って。

——説教したくなりますか（笑）。

青木　「そんなんでいいのか、ヤマトナデシコー!!」って説教したくなっちゃう。それに昔はポコチンもけっこう頑張ったんだけど、いまは元気がないしね。

——元気のないポコチンの件は前田日明に相談したんでしたっけ？（笑）。

青木　そうそう。こないだ『DREAM・9』のバックステージで前田さんに言われましたもんね。「オマエ、絶倫じゃなきゃダメだ！」って。だから前田さんにポコチンが元気になるコツを聞いたんですよ。そうしたらいろいろ教えていただいて。

——いったい大会中に何をやってるんですか！（笑）。

青木　なんかね、漢方薬みたいなものを教えられて。薬局で1000円以下で買える安い漢方薬で、それはドーピングにもならないんですよ。

——薬局で買ったんですか？

青木　はい。買わせていただきました！

——そんなことにはお金は使うんだ（笑）。

青木　いやあ、飲んだら元気になりましたねぇ。「前田日明、スゲエ！」って。ボク、一気に前田信者ですよ！

——青木さんは幸せだなあ。1000円でポコチンも元気になるし（笑）。

青木　これでシャオリン戦も頑張れますよ！　押忍!!

【09年6月4日／ワオ木さんのアパートで収録】

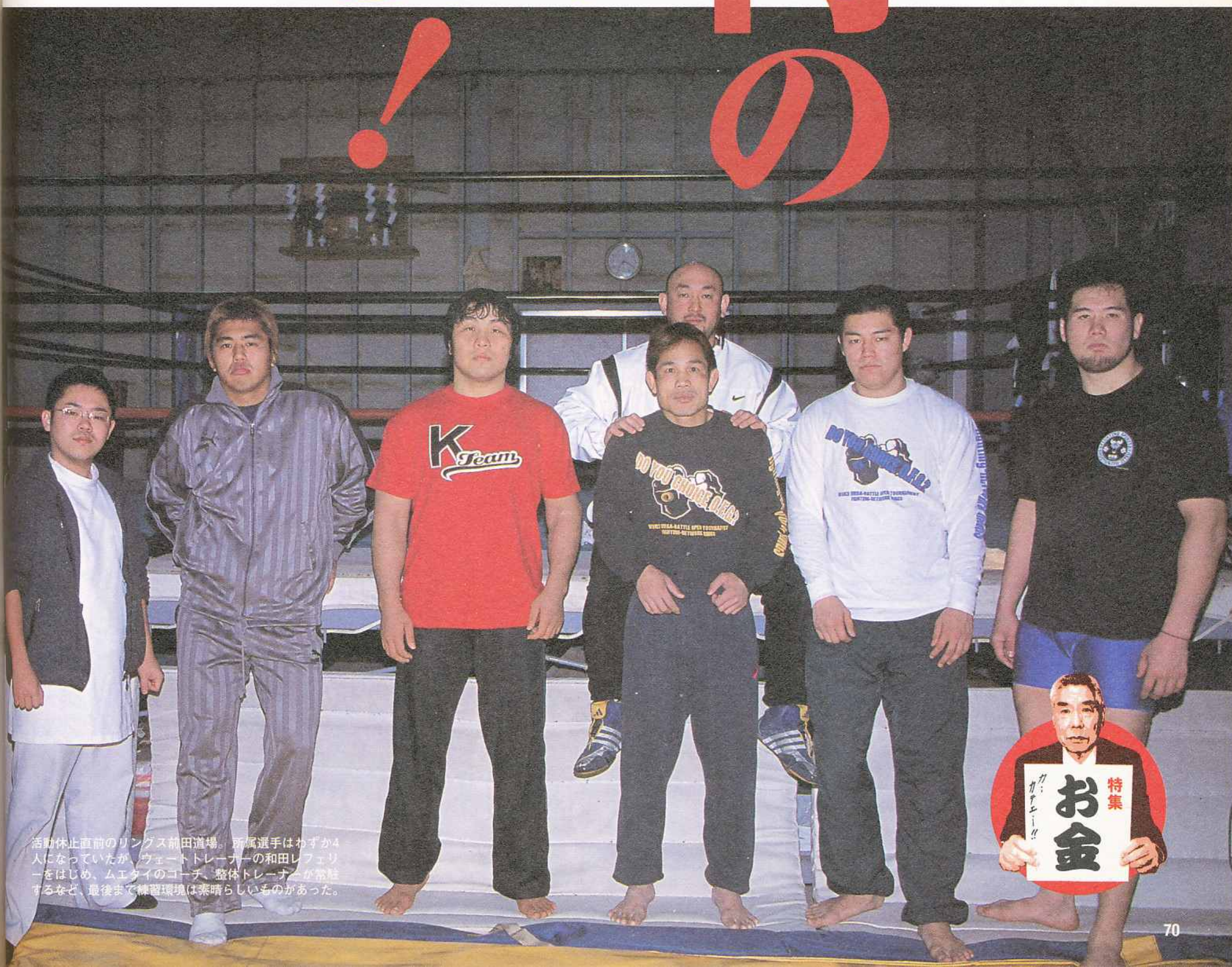
Uインター、キングダム、リングスを渡り歩いた金ちゃんが語る団体のありがたさ

フリーが団体所属時代と同じ練習をするには

月30万円のコストがかかるよ！

金原弘光

かつてUWFインターやリングスといったU系団体に所属し、その後、フリーとしてPRIDEやDEEPなどで活躍するベテラン金原弘光。この団体所属とフリー、両方の生活を知っている金ちゃんが、いまあらためて〝団体〟が選手を育てる重要性、そしてフリーの大変さをボヤキつつ語ってくれた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇

活動休止直前のリングス前田道場。所属選手はわずか4人になっていたが、ウェートトレーナーの和田レフェリーをはじめ、ムエタイのコーチ、整体トレーナーが常駐するなど、最後まで練習環境は素晴らしいものがあった。

金原　いやあ、いつも『kamipro』
だからね。
かったよね。
金原　そしてリングスでは、それプラス、

金原　いやあ、いつも『kamipro』にはインタビューや対談、コラムの仕事がもらえてフリーにはありがたいよ。こうして取材ではメシも食わせてもらえるしね（笑）。

――じつは、ちょうど今回は、そんなフリーの大変さをうかがうインタビューなんですよ（笑）。

金原　あ、そうなの？　俺もフリーになってみて初めて団体のありがたみがわかったからね。

――リングスやUインターがいかに素晴らしい環境だったか、わかりましたか。

金原　ホントそうだよ。でも、団体に所属してるときは、隣の芝は青く見えるじゃないけどさ、フリーがうらやましく感じたんだよね。やっぱりリングス時代は「PRIDEに出てる選手は、1試合で何百万、ヘタしたら何千万もらってる」とか、そういう話を聞くじゃん。

――当時のPRIDEは桜庭（和志）さんや、エンセン（井上）さんといった金原さんと仲のいい選手が大活躍してましたからね。

金原　それでいろんなところから、いい話を聞いてたのよ。でも、実際にフリーになったいまわかったのは、団体に所属してるっていうのが、いかに素晴らしい環境だったかってことなんだよね。

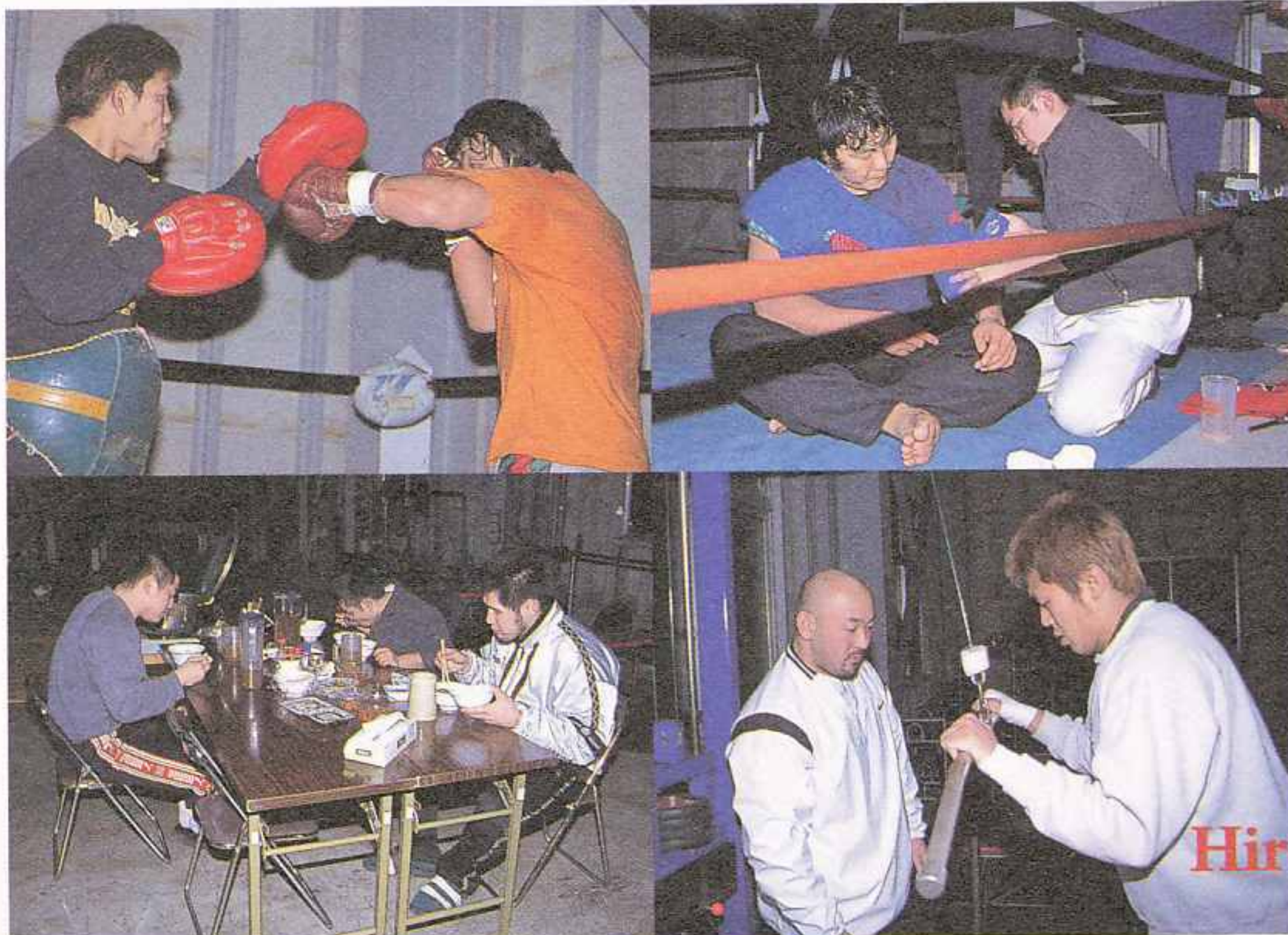
――それは金銭的に。

金原　うん。金銭的というか、なんといっても強くなるための環境が揃ってたんだよ。練習生の頃はあまりにも雑用が多すぎて大変なんだけどさ、選手になって後輩ができたら、練習し放題だからね。それで寮があるから寝るところはあるし、ちゃんこがあるから飯は食い放題だし、果汁100パーセントのジュースとかも飲み放題だからね。

――給料もそのまんまもらえて、経費がかからないというか。

金原　そうだよ。全然、金を使わないから若手の頃はお金が貯まる一方だからね。練習生の頃って、最初の試用期間が月3万円でそのあとデビューするまでは月5万円の給料だったから、金額としたら少ないと思うでしょ？

――金額だけだったらバイト以下ですよね。

金原　でも、忙しくて使う暇はないし、衣食住はほとんどタダだから、毎月5万円ずつ貯金できてたんだよ。それがありがたかったよね。

かつてのリングス前田道場の練習風景。タイ人のトレーナー相手に打撃練習を行ない、専門トレーナーの元ウェートトレーニングも行ない、練習後はトレーナーからアイシングが施され、みんなで栄養のバランスがとれたちゃんこで食事。すべてが揃っていたのだ。

――いまの若い選手は貯金どころかバイトしなきゃいけないわけですからね。

金原　そうでしょ？　デビューして後輩ができたら、雑用がなくなって自分の練習に専念できるし、しかも、Uインターの場合、コーチやトレーナーが凄く充実してたからね。和田（良覚）さんみたいなウエートトレーニングのトレーナーがいて、ムエタイのボーウィー・チョーワイクンがいて、キングダムになったら安達（巧）さんというレスリングのトレーナーがいるわけでしょ？　強くなれる環境っていったら、もう凄いよね。

――その道の一流ばかりですよね。これをもしフリーの選手が個人で雇ったら……。

金原　大変だよ！　全員パーソナルで雇ったら、それこそ大変な額になるよね。あと関節技は先輩とスパーリングしたり、自分たちの昔からの技術があるわけじゃん。だから打・投・極、それからフィジカルも含めて一つの道場で全部できるわけだから。しかも移動しなくていいから時間の節約、交通費の節約にもなるし、午後は昼寝して、また夜に練習してもいいしね。

――一つのところで全部練習できることで、みっちりとトレーニングをしながら、身体を休める時間も作れたわけですね。

金原　そしてリングスでは、それプラス、身体のケアをしてくれるトレーナーが道場に常駐してたのよ。やっぱり練習してたらケガとかつきものじゃん。でも、リングスは道場でケガしたら、すぐその場で治療してくれるし、道場で鍼治療もできたし、電気流して電気治療もできたからね。

――大ケガにならずに済むわけですね。

金原　あと練習して痛めた場所をすぐにアイシングしてね。この練習後すぐにアイシングするっていうのは、プロスポーツの世界では、ホントはあたりまえなんだけど、それを格闘技界でできてたのってリングスぐらいじゃないかな？　Uインターでは身体のトレーナーが試合当日は来てたけど、普段は自分で通院してたからね。

――そういった面でリングスは進んでいた、と。

金原　そうだね。プロ野球なんて、どこの球団でもトレーナーがいるでしょ。それをリングスは格闘技団体としてできてたんだよ。あとスパーリングするにしても、プロの選手が揃ってるわけだから、一つのチームみたいな感じでできたしね。いま考えると、その環境は何ものにも代えがたいよ。しかも毎月の給料がもらえて生活も安定してるしね。

――ファイトマネーは給料制だったわけですか。

金原　年に一回、年俸で契約して、それを12で割って毎月もらってたの。だから、これはUインターのときもそうだったけど、もしケガして試合に出られなくても、契約

若手の頃は衣食住ほとんどタダで
練習し放題だから給料全部貯金できた

しているあいだは毎月の給料は保証されているわけだから。それが一番ありがたいよね。

――そこが一番の違いじゃないですか？

金原　そうだね。フリーはケガしたら収入はないわ、治療費は出ていくわ、踏んだり蹴ったりだからね。でも、リングスやUインターに所属していたら、試合はしなくても毎月給料が出て、治療費も出してくれるわけでしょ？　こんな素晴らしい環境はないよ。でも、俺の場合、団体に雇われてるときはケガしなかったのに、フリーになった途端に大ケガして入院しちゃったからね（苦笑）。これが痛かったよ〜。

――リングスが活動休止になって、PRIDEでヴァンダレイ・シウバとやる直前にヒザ靭帯損傷の大ケガをしたんですよね？

金原　そうそう。ケガして1年半試合ができなくてさ、その間のファイトマネーは

リングス活動休止後、フリーとしてPRIDEに参戦し、いきなりヴァンダレイ・シウバ戦のチャンスをつかんだが、試合直前にヒザ靭帯損傷の大ケガに見舞われた金ちゃん。この後、長期欠場となりフリーで荒稼ぎの夢は儚く消えた。

フリーでケガして試合ができないとき確定申告したら年収38万円だったよ

もちろんゼロ。治療費も自分持ちだからね。なんでそ〜なるの⁉って感じだよ〜。

――あまりにもツイてませんね（笑）。

金原　だってケガで試合ができなかった年に確定申告したら、年収が38万円だよ！　さすがに焦ったよ。

――年収38万円は焦りますね。

金原　「これからフリーとして稼ぐぞ！」って張りきってるときにケガしてさ、年収38万円の多くは『kamipro』のコラムのギャラだったからね（笑）。

――ダハハハ！『kamipro』のギャラが主な収入源でしたか（笑）。

金原　ホントに『kamipro』に助けられてましたよ（笑）。

――そこからフリーになって、トレーニングやいろんなことでお金がかかるようになるわけですよね？

金原　だからフリーになると大変なのは、まず練習場所だよね。ウェートトレーニング一つするにしてもスポーツクラブに入会金払って会費も払わなきゃいけないし、打撃の練習するにもボクシングジムに同じように入会金と月会費がかかるわけでしょ。俺の場合は、プロで長くやってきてたから、知人のツテとかで、会費なしで練習させてもらえたりして、ありがたい部分もあるけど。まだ名前がない若い選手とかはさ、たとえばボクシングジムに行っても、そこの会長がいきなりタダでやらせてくれるかっていったら、やらせてくれないよね。

――そりゃそうですよね。

金原　それはボクシングにかぎらず、どこも一緒だよね。だから新人って一番お金がなくて、一番練習が必要なのに、お金がないと練習もままならないから強くなれないんだよ。

――なるほど。

金原　その点、Uインターやリングスといった団体に所属してたら、最初はそんなにお金はもらえないけど、練習は一流のトレーナー相手にし放題だし、飯食い放題、ケガしても保証がある。この違いはとてつもなく大きいと思うよ。だから、いまの時代、トップに這い上がるのが難しい環境だよね。

――団体所属時代と同じ練習環境や食事を、フリーの選手が全部自分のお金でやろうとするとどのくらいかかるんですか？

金原　どのくらいかなあ。まずウェートトレーニングやるにも、スポーツクラブに月1万円払って、和田さんみたいなパーソナルのプロトレーナーについてもらったら、1時間1万円ぐらいはかかるでしょ。それを週に3回ついてもらうとして、4週で12万円。

――スポーツクラブの使用料も含めたら、ウェートだけで月13万円ですか。

金原　あとキックボクシングやボクシングのジムに通ったら、それも月1万円はかかるよね。あとマッサージなんかも、俺はリングス時代の先生にやってもらってるから、格安でやってもらってるんだけど、普通に払ったら1回1万円。それを週1回ちゃんとケアしに行ったら、それだけで

バイトのために練習時間が減ってる
いまの若い選手はかわいそうだよね

4万円。あとは食費が大きいね。

―ちゃんこがないですからね。

金原　ちゃんこだけじゃなく、道場では玉子の白身とか納豆は食べ放題で、100パーセントのジュースも飲み放題だけど、それが全部自費だからね。サプリメントなんかも、歳をとってくると飲む種類が多くなるしね。だから、ざっと見積もって月に最低30万円ぐらいはかかる計算になるよね。そう考えると恐ろしいよ！

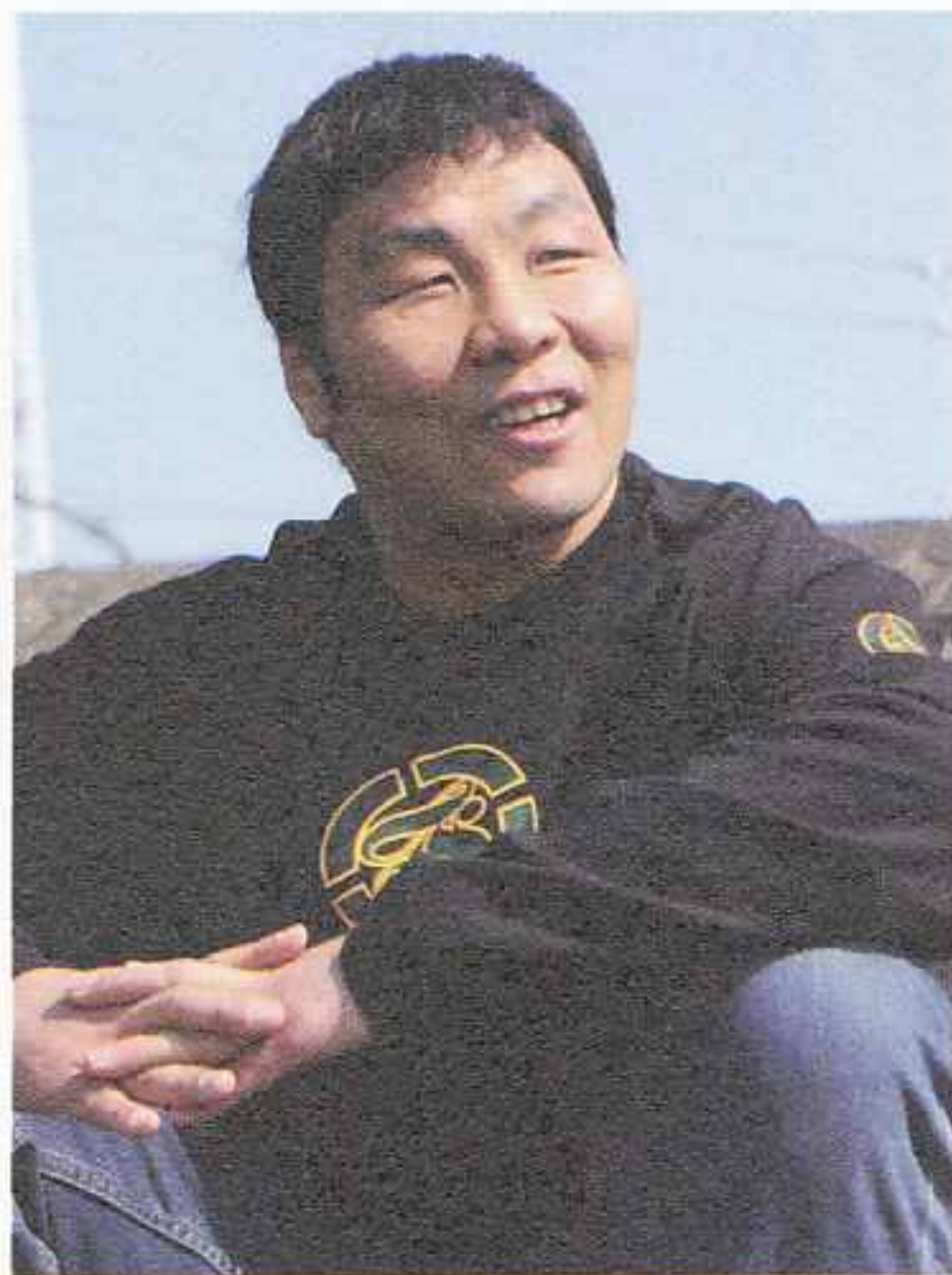
―そんなの若手選手じゃ絶対に用意できませんよね。

金原　不可能でしょ。だから凄くありがたい環境だったんだよね。強くなるための環境だったんだよ。だって相撲部屋だってそうじゃん。食べるものと寝るところがあって、練習し放題。タイに行ってわかったけど、ムエタイも同じシステムなのよ。道場の2階に住んで、食事も道場で取ってね。だから強くなる環境っていうのは、かつての団体システムが一番なんだなって思うよね。

―プロ野球なんかもそうですよね。若い選手には寮が用意されて、栄養を考えられた食事が出て、コーチやあらゆるトレーナーが揃ってて。

金原　Uインターやリングスは、プロスポーツ選手としての環境を整えてくれてたってことだよね。いまになって髙田さんや前田さんへの感謝の気持ちっていうのが、あらためて出てくるよ。だから、さっきも言ったけど、これから若い選手が出てくるっていうのは、難しいだろうな。やっぱりファイトマネーだって、最初は数万円から始めるわけでしょ。だから普段生活するためにバイトしなきゃならないし、そうすると練習時間は少なくなるし、悪循環だよね。

―練習するだけでもお金はかかるわけですからね。

金原　だから、いま若くて素質があって、いい選手がたくさんいるんだけど、練習に集中できる環境がないから、かわいそうだよね。だから俺は金持ちになって、スポンサーになって若い奴らの環境を作ってあげるっていうのが目標だよ。

かねはら・ひろみつ■1970年10月5日、愛知県出身。91年にUWFインターでデビュー。その後、キングダム、リングス、PRIDE、パンクラスなどで活躍。6月30日にはDEEPで桜井隆多と対戦。リングス金原道場で後進の指導にもあたっている。178cm、83kg。

Hiromitsu Kanehara

―なんかマット界もボクシング界に近くなってますよね。ほとんどの選手がバイトしてる環境というのが。

金原　そうだね。でも、総合格闘技のほうがお金がかかるんだよ。

―そうなんですか？

金原　ボクシングって、朝ロードワークして、あとはジムワークだけでほとんど事足りるでしょ？　ウェートとかやってる人、ほとんどいないもんね。でも、総合はウェートもやるし、打撃も寝技もレスリングも、あらゆることをやらなきゃいけないから、大変なんだよ。いろんなところで練習すると、そこに行くだけで毎回交通費もかかるからね。

―そういう問題もあるんですね。

金原　たとえばキックの道場に行くのに、毎回電車賃500〜600円かかるとするでしょ。練習するたびにそれだけかかったら、今週は金が厳しいから練習いいかな、とか思うこともあるんじゃない（笑）。

―節約のために練習やめとこうっていう（笑）。

金原　俺も昔はどこに行くにも車で行ってたの。でも、ある日考えたんだよ。たとえば日体大にレスリングの練習に行くのにも、往復で32キロぐらい距離があるのね。俺の車の燃費はリッター6キロだから、32キロ走ったら5リットルはガソリン使ってる。で、いまは1リットル130円ぐらいだから、一回練習に行くのに650円かかるんだよ！　それは気合い入れて練習しなきゃって思うよね。

―ガソリン代の元を取ろう、と（笑）。

金原　駐車場がないところは、それプラス駐車場代がかかるでしょ？　昔は交通費のことなんて考えたこともないけど、いまは凄く考えるようになったよ。そういう自分が悔しいんだよね（笑）。

―交通費のことを考えている自分が嫌だ（笑）。

金原　でも、フリーになったら考えざるをえないんだよ。ガソリン代が650円もかかるなら、身体にもいいから自転車で行こうかな、とかね。どんどん地球にやさしくなってきてるよ（笑）。

―節約のために自然とエコになってますか（笑）。

金原　もっと細かいことを言ったらさ、団体に所属してた頃は、薬局で湿布薬を買ったりしても、領収書さえ取っておけば、全部出してくれたからね。でも、いまはフリーだから湿布なんかしないもんね。ちょくちょく湿布貼ってたら、カミさんに「え？　痛いぐらいで湿布買うの？」って言われちゃうよ（笑）。

―細かい節約を強いられてるわけですね。

金原　マッサージなんかも、ホントは週に一回は行きたいんだけど、お金がかかるから、カミさんに「ちょっと揉んで」って言って揉ませたり、足を踏んでもらったりとかさ。あとはたまに電気屋に行ったときに、マッサージチェアに座ったりしてるからね。

―店頭のマッサージチェアで無料マッサージですか（笑）。

金原　この前なんかさ、カミさんが買い物してるあいだ、マッサージチェアに座って時間潰してたのよ。そしたら「お疲れさまです」って声かけられて、誰かと思ったら中村（和裕）くんがいてさ。恥ずかしかったよ。

―マッサージ節約現場を目撃されましたか（笑）。

金原　「いや、これはカミさんと待ち合わせしてるだけだよ」って言いたかったけど、言い訳するのも恥ずかしいしさ（笑）。

―フリーはそんなつらさもあるということですね。

金原　というわけでスポンサー募集してま〜す（笑）。

【09年6月4日／川崎市『聘珍楼』にて収録】

収入はバイト代と指導料と少々のファイトマネーです

女子格ファイターの生活

石岡沙織

7.11ジュエルスでフジメグ戦決定！

女子格ファイターっていったいどんな生活をしているの？今回の「お金」特集にかこつけて、そんな素朴な疑問に答えてくれたのは、いま人気急上昇中のジュエルス・ファイター石岡沙織。バイト、練習、指導、日常生活など、半日間のほぼ密着取材で彼女の一日を追った。

聞き手／松トミワ　撮影／乾晋也

いったいどうして『セブンイレブン』!?　このページを開いた瞬間、そんなことを思った方もいるかもしれないが、今回は女子格ファイターの日常生活、とくに「お金」の面でどういう生活をしているのかに迫るため、現在、女子格イベント・ジュエルスで活躍している石岡沙織のバイト先『セブンイレブン』潜入から取材を始めたのだ。

石岡は、08年に旗揚げされたジュエルスで現在3連勝しており、7月11日の新木場大会でフジメグこと藤井恵との対戦が決定している選手。5月の新宿大会では自らリング上でフジメグに対戦をアピールし、念願かなってこのたび対戦が決定したのだ。このカード発表記者会見の場で石岡は、「バイトを休んで、カードで50万借りて藤井戦に臨みたいと思います！」と言ったことで話題を呼んだ選手でもある。

女子格ファイターの生活が垣間みられたこの一言だが、石岡自身、2年ほど前に地元広島から格闘技をするために上京し、現在一人暮らしでバイトをしながら格闘技を続けているファイターだ。

「ファイトマネーだけで生活できるのは男子でもトップファイターだけ」という話はよく聞くが、いったい女子格ファイターはどんな生活をしているのか。石岡の話からその実態を探ってみた。

——今日はバイト先の『セブンイレブン』の裏側から空手教室まで見せていただいて、たいへんおもしろかったです！

石岡　いやいや、私なんかの取材のために一日潰させてしまったみたいで、本当スミマセンでした！　13時から来ていただいて、いま16時だから……このお仕事って時給ですか？　日給ですか？

——ワハハハハ！　石岡さん、バイトのしすぎです（笑）。『kamipro』編集部員は社員なので、何時間取材してもあまり関係ないんですよ。

石岡　あ、そうなんですか。いや、バイトしてるとやっぱりそういうことが気になって気になって。

5月の新宿大会でフジメグに対戦をアピールしたことが本人にも届き、なんと7.11ジュエルスで石岡vsフジメグ戦が決定。この"壁"をブチ破れば女子格世代交代となるが、フジメグも「望むところ!」と気合い充分だ。

——今朝は『セブンイレブン』で働いている姿をたくさん撮影させていただきましたが、いまの収入源というと、やっぱりバイトとファイトマネーという感じなんですか？

石岡　主な収入は『セブンイレブン』で働いたぶんですね。普段はだいたい朝の8時から17時まで入ってるんで、その収入がホントにメインです。バイトはこれだけしかしてませんから。

——社員並みの労働時間なんですね。

石岡　あとの収入はファイトマネーと、それから空手教室の指導料みたいなものをちょこっとだけもらってますけど、それはホントにお小遣い程度です。「これがないと生活できないだろ？」って言われて気持ちもらってるみたいな（笑）。

——あの……たいへん下世話な質問なんですが、だいたいどのくらいの収入なのか教えてもらえますでしょうか？

石岡　ぜんぜんいいですよ（アッサリ）。バイト代は月10万ぐらいで、指導料は2～3万ですね。あとはファイトマネーなんですけど、それはまだバイト代よりは少ないんですよねえ。詳しくは言えませんけど。でも、試合も毎月あるわけじゃないから、だいたい収入はご想像されてるぐらいだと思います（照）。

——しゃべりにくい話を、どうもありがとうございます（笑）。じゃあ、ほぼバイト代で生活してるということは、かなりの時間をバイトに割いてる感じなんですね。

石岡　普通は9時間やってますからね。自分の練習は19時30分から禅道会の小金井道場でやってるんで。まあ、少年部の指導や今日みたいに女子部の指導があるときはバイトは昼までにしてもらってるんですけど、当然指導がある日も夜は自分の練習です。

——かなりキュウキュウなスケジュールなんじゃないですか？

石岡　意外とそうなんですよ。だから、バイトが終わって夜の練習まで時間があるときは、ここ小金井道場で寝てるんですよね。

——あ、ここで⁉

石岡　で、起きてすぐ練習みたいな。そのほうが便利なんで（笑）。

——地元広島から東京に出てきたのは2年ほど前だとうかがいましたけど、当時からそういう生活だったんですか？

石岡　最初はまず家がなかったので、ここで生活してました。

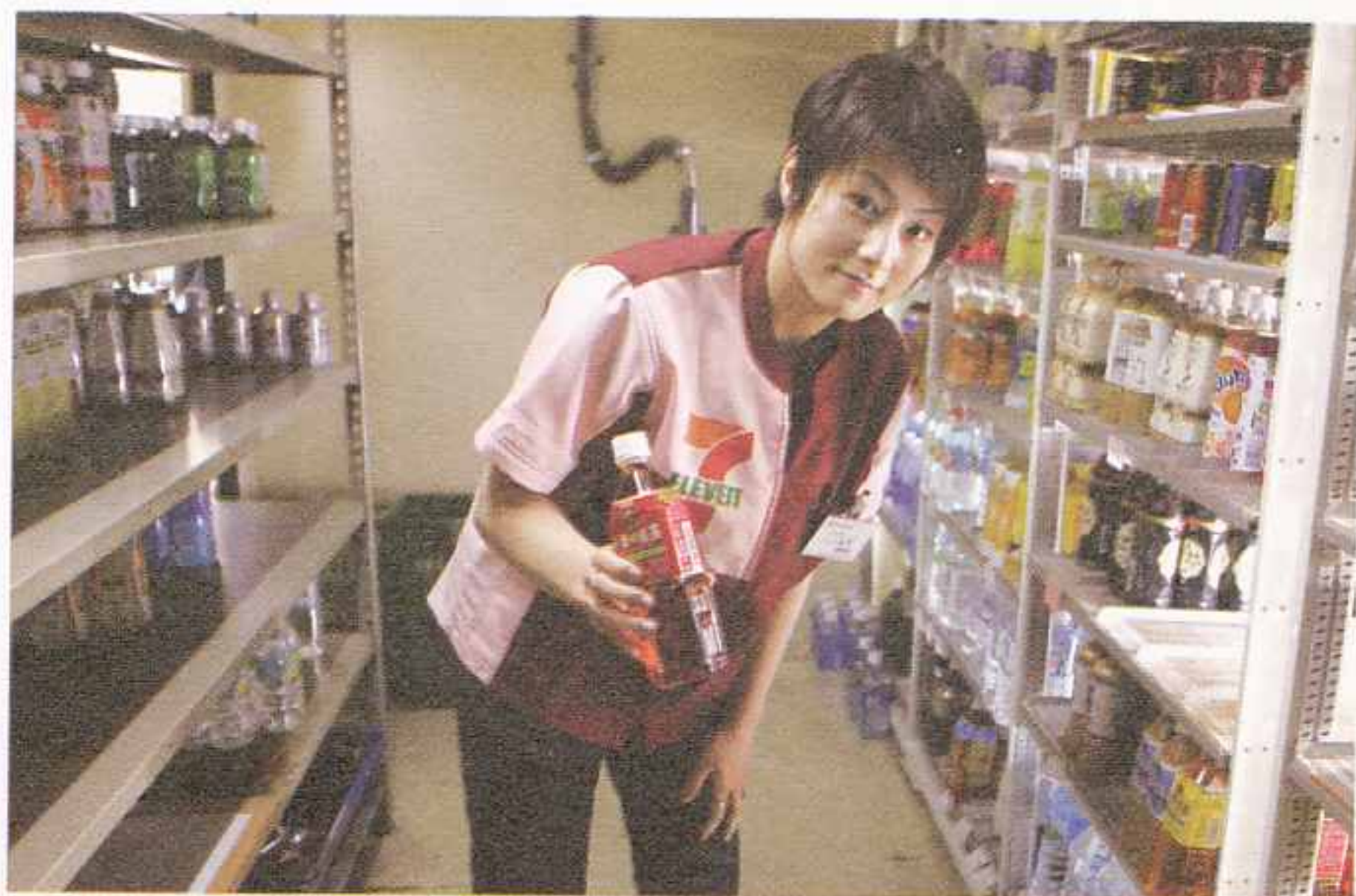
——道場で寝泊まりしてたんですか！

石岡　最初、ここの道場長の西川さんに「東京に行って本格的に格闘技やりたいんですけど」って相談したときに、「じゃあ、寮を準備しておくから来い」って言われたんです。西川道場長とはちょうど東京で試合があったときに初めてお会いして、そのときにちょこっと話しただけだったんですけど。でも、そう言っていただいたので東京に行ったら、実際は寮も何もなかったんですよ（笑）。

——だからって、ここに寝泊まりを？

石岡　西川道場長は「ホントに来たのかよ！」ってビックリしてましたからね。私も「行くって言ったじゃないですか！」って言い返しましたけど。だから、ある程度は「来るんだろうなあ」と思ってたと思うんですけど、そんな親しかったわけでもないし長くしゃべったわけでもなかったので、そういう感じだったんだと思います。だって、寮を用意してたってすぐに実家に帰

Saori Ishioka

貯金は20万ぐらい貯めて、あとは身体一つで東京に出てきました

られたら道場だって大赤字ですから。

—でも、よくそんな状態で生活できてましたね。

石岡 貯金は20万ぐらい貯めてきましたけど、あとは身体一つで来ました。私、ホントになんにも持ってこなかったですよ。

—「なんにも」というのは本当に何も?

石岡 ええ。だから最初の1～2週間ぐらいここにいたんですけど、そのあいだに家を探したり、バイトを探したり、ここを拠点に凄く活動してました。でも、やっぱり20万じゃ敷金しか払えなかったんですよねえ(笑)。だから、残りは貸してもらったんですけど。

—はー。しかし、そこまでして東京に出てきた理由はなんだったんですか?

石岡 やっぱりV一(ヴィー・ハジメ)さんに負けたからです。スマックガールのトーナメント1回戦だったんですけど、私自身は総合3戦目で、なんかちょっと気持ちが変わったんですよ。

—その当時はまだ広島にいながら、試合があるときは東京に出てきてたという感じなんですよね。

石岡 そうです。広島でも禅道会に通いながら半年ぐらいやってたんですよね。だからV一さんとの試合のあとから東京に来て試合をするようになったんです。やれるところまでやって、ダメだったら帰ればいいやっていう軽い気持ちだったんですけど、なんかこの世界に巻き込まれたかな、みたいな(笑)。

—ご家族の方には反対されませんでした?

石岡 さあ、どうなんですかねえ……。もともとやりたいことはやらせてくれる親だったので、まあイヤだったんでしょうけど直接は言われなかったですね。「いいじゃん、やれば」って。

と。そこから3～5万仕送りしてます

—でも、手ぶらで東京へ向かう娘の背中を見るとかなり不安だと思いますけど。

石岡 やっぱりそうですよねえ。エヘヘヘ……。

—しかし、ただ格闘技をやりにきたといっても、道衣なりグローブなり、それなりに物いりじゃないですか。そのへんは大丈夫だったんですか?

石岡 それがあんまりお金はかかってないんですよ!(得意げに)。練習着なんかはリバーサルさんが提供してくださってるんです。上京して一番初めに試合した吉田正子戦で勝ってからリバーサルさんが衣装提供してくださるようになったから。あと、グローブも禅道会の大会で勝ったときの景品がグローブだったんで、それを使ったりしてました。ほかに必要なものっていったらTシャツと短パンぐらいですよね。

—じゃあ、わりと生活できちゃいますか。

石岡 身体があれば大丈夫ですね。べつにラッシュガードじゃないと試合も練習もできない、とかじゃないし。ただ、最初は会費も払えてなくていまだに一年ぶんぐらい滞納してるんですけど、最近やっとなんとか払い始めたので、今年は去年のぶんを全部払えたらなと思ってるぐらいです。

—そのほかにも、生活するにあたってお金が必要なことっていっぱいありますよね。

石岡 でも、家賃が3万でしょ、光熱費がだいたい1万、食費が1～2万……。

—家賃が3万で、食費が1～2万⁉

石岡 はい。小金井の家ってなんか安いんですよ。それに私、たまに先輩に米10キロとかいきなりもらったりすることがあるんです。

石岡沙織の総合全戦績

[09.2.4ジュエルス]
○ vs 小林華子
(1R 2分20秒 TKO)

[08.11.16ジュエルス]
○ vs 長野美香
(2R終了 判定3-0)

[08.8.6格闘王国ミニLIVE]
○ vs HARUMI
(1R 2分45秒 腕ひしぎ十字固め)

[08.2.14スマックガール]
× vs ハム・ソヒ
(2R終了 判定0-3)

[07.12.26スマックガール]
○ vs トリーシャ・プーヴィ
(1R 4分18秒 腕ひしぎ十字固め)

[07.11.25格闘王国 LIVE]
○ vs 有賀美由紀
(2R終了 判定3-0)

[07.9.6スマックガール]
○ vs 吉田正子
(2R終了 判定3-0)

[07.5.19スマックガール]
× vs V一
(2R 1分24秒 ヒザ十字固め)

[07.4.28スマックガール]
○ vs YOKO
(2R終了 判定3-0)

[07.3.11スマックガール]
× vs 高林恭子
(2R終了 判定0-3)

──凄い！　そんな太っ腹な先輩がいるんですか。
石岡　ラッキーですよね！　しかもちゃんと自炊してるから食費はそのくらいで収まるんですよね。あと出費と言ったらへんですけど、地元で〝やんちゃ〟してたときに親に借りたお金があるんで、それを毎月3万、調子がいいときは5万ぐらい返してるぐらいで、ほかはあんまりないんですよね。
──じゅ、13万円プラスアルファの収入から、仕送りまで捻出してるんですか!!
石岡　はい（アッサリ）。
──石岡さん、偉すぎますよ！　そんな人、いないですよ！
石岡　そうですか？　ま、それは自分が借りたものなので、しょうがないんですけどね。……あ、でも出費でいうと、イヤなのはやっぱり交通費ですよ。これはかかりますねえ。あの、小金井近辺はぜんぶチャリンコで移動してるんでなんともないんですけど、週に2〜3回は23区内で指導とか練習があるんですよ。木曜日は六本木だから往復1000円、あと道場の使用料が700円なんですよね。で、金曜日は新宿まで往復600円……。
［突然、西川道場長が道場に姿を現わす］
西川　なんか、セコい話してんなあ！（笑）。
石岡　だ、だって、けっこうかかるんですもん！　もう、六本木までチャリで行こうかなと思ったこともあるぐらいで。あとは、冬になると電気代がかかりますよねえ。普段は3000円とか4000円なんですけど、ピークだと6000円とか7000円とかまでいきますからね。「はー！　ヤバいなあ！」って。
──そういう毎日を送る中で、「もっと稼ぎたいなあ」と思ったりします？
石岡　思います、思います。私、ホントにすんごいお金稼ぎたいんですよ。
──そのためには、やっぱりファイトマネーを上げていきたいですよね？
石岡　そうですねえ。でも、それだけ自分に価値があるのかというのはよくわからないし、ファイトマネーは何が基準なのかもよくわからないですよねえ。たとえば藤井さんが1000万とかもらってるんだったら自分も「100万もらいたいです」って言えますけど、雰囲気を探るかぎりはトップの人もそこまでもらってるような感じではないので、やっぱりやるなら底上げしないとダメかなって思ってます。
──そうすると、昨年はジュエルスとヴァルキリーと、立て続けに女子格イベントができたことは大きいですね。
石岡　そう思いますね。でも、最初は「また新しく自分が試合をできる場所ができてよかったなあ」ぐらいにしか思ってなかったんですよ。藤井さんとか辻さんのようなトップ選手みたいに、自分が引っぱっていく感覚じゃなかったというか。

Saori Ishioka

収入はだいたい13万ちょっと。そ

──逆にいまはそういう感覚が芽生えてきてる、と。
石岡　ジュエルス旗揚げ戦で初めてメインで使ってもらってから変わりました。興行全体の流れ……までは考えられないですけど、自分がどんな試合をしないといけないのかは考えるようになりましたね。でも最初はメインの意味もよくわからなかったんで、「どうしよう、どうしよう」みたいな。「入場曲を変えたほうがいいのかな？」とか、そんなことを考えたりしてましたね（笑）。
──いや、プロなんでやっぱりそういう部分を求められることもありますよね。しなしさとこさんのようにブロマイドを配ったりして、精力的にパフォーマンスしている選手もいますし。
石岡　ああ、でもそういうのはマネしていきたいです！　ブロマイドとか、「しなし応援シート」を作る余裕はないですけど、しなしさんはチケット買ってくれた人に手紙を書いてたりしてるんですよ。それを知って自分もチケットを買ってくれた人にチケットと一緒に手紙を送ったりするようになりました。
──はー、そういう努力まで。でも、それもお金かかりますね。
石岡　でもやっぱりお客さんはお金かけて観に来てるわけだから、それなりのことはしたいと思ってます。
──話を戻すと、現状ファイトマネーだけで食べていくのって難しいじゃないですか。そうすると格闘技に対するモチベーションが低くなったりしませんか？

石岡　でも、いま女子格は上がってる途中なんじゃないかなと思うんですよ。最近はK－1の中にも女子の試合を1試合入れたいとかいう話もあったじゃないですか。そうなるとファイトマネーも変わってくると思うんですよ。テレビで放送されたりしたらなおさらで。いまそういう話がちょこちょこ出始めたところなんで、踏んばりどころかなって。そういうところは、自分たちで作っていきたいなと思ってます。

――理想としてはファイトマネーだけで生活したいという思いもあります？

石岡　ファイトマネーだけに頼るのも心もとないんで、スポンサーさんがついてくれるぐらい女子格闘技に価値ができるといいなとは思います。私、女子格の歴史みたいなのはあんまり知らないんですけど、西川道場長からは「ここで女子格の根を絶やしたら終わるぞ」ってさんざん言われてるんですよ。だから、そういう意識じゃないとダメなんだというのはあるんですよね。

――そういうプロ意識が今回の藤井戦の挑戦につながってたりしてるんですね。ジュエルスのリング上でも藤井選手にさんざん対戦をアピールしてて、先日の会見でも「バイト休んで、藤井戦に臨みます！」って言われてましたし。

石岡　そうですね。藤井さんはまだ雲の上の人だと思ってるんですけど、やっぱり格闘技をやるならそういう人とやっておきたいなって。

――今回は、打倒フジメグの最右翼と言われているMIKU選手の前に対戦が決まりました。

石岡　ホント、MIKUさんには申し訳ないなと思いますけど……おいしいなって（ニヤ）。でも、胸を借りたいじゃないですけど、実際、本気でぶつかりたいと思ってます。

西川　あのー、じつはまだ対戦が決まるぜんぜん前の話なんですけど、コイツ、フジメグさんに「今度出稽古行っていいですか？　藤井さん対策を研究しに行きたいんです！」って言ったこともあるんですよ（笑）。

――えぇ!?　なんという突飛なフジメグ対策！（笑）

石岡　い、いいじゃないですか、その話は（照）。いや、でも藤井さんやさしいから大人の対応をしてくれたんですけどねえ……。

いしおか・さおり■1987年9月13日、広島県出身。高校まで続けた柔道をバックボーンに禅道会に入門し、07年3月高林恭子戦で総合デビュー。08年のジュエルス旗揚げ以降、怒濤の3連勝を築き上げ、7月11日にはなんと女子格の頂である藤井恵との対戦が決定。大一番に注目が集まっている。156cm、51kg。

Saori Ishioka

西川　ホント、フジメグさんが大人でよかったよ（笑）。

――そのフジメグ対策はかなりバイトを休んで本格的にやる予定なんですよね？

石岡　今週から休み始めて練習を増やしてますね。

――そのあいだの生活費は「カードで借ります！」とも言われてました。

石岡　……これがですね、知人や母親に借りるぐらいでなんとかなりそうなんで、大丈夫かな？　みたいな。最初は50万借りて仕事も辞めようという話をしてたんですけど、意外とそこまで生活が苦しくならなかったんで。

いま女子格は上がってる途中だから自分たちで底上げしていきたい

――そうなんですか。でも、その宣言自体が凄くカッコいいなって思いました。

石岡　そのくらいやりたかったし、9月に試合をするんだったらそうするつもりだったんですけど、7月と試合も近いし休みも取れなかったんで、10万ぐらい無利息で借りて生活できそうです。

――でも、今回藤井選手と試合するとなると、今後もそんな甘い相手とは試合できないんじゃないかなと思うんですけど、またバイトの時間を削る可能性もありますよね？

石岡　でも今回、1ヵ月なら1ヵ月間集中して自分を追い込む練習をしてるじゃないですか。そうすると、ある程度自分に力がつくと思うんで、そこからは先はそれにプラスして練習していけばバイトを休む必要もないのかなあとは思ってるんですよね。今回みたいにガッとなる試合があれば、あとはなんとかなるのかなって。

西川　まあ、藤井さんに勝ったらそれなりのギャラになりますよ。

――あ、確かにそうですね。

石岡　ただ、正直なことを言うと、勝ったあととか負けたあとのことは考えられないんですよね。その先のイメージまでできてないんです。いまが必死なんで。

――なるほど。ちなみに、いま石岡さんが一番ほしいものってなんですか？

石岡　ほしいもの、ですか？　……ええっと、睡眠時間ですかねえ。

西川　オイ！　なんか、もっと高そうなもの言っとけよ！（笑）。

石岡　じゃあ、チャ、チャリンコ……かなあ。

――チャリンコでいいんですか（笑）。

石岡　ダメ……ですかね？

西川　ダメ！　まあ、藤井戦に勝ったら「この道場を建て替えます！」ぐらい言ってほしいなあ。

石岡　じゃ、じゃあ、それでいいです！

――いきなりハードルが上がりましたけど、大丈夫ですか？

石岡　はい。いっぱい稼いで寝泊まりしてたこの道場に貢献したいと思います（西川道場長の顔をチラ見しながら）。

――了解しました！（笑）。では、大一番藤井戦に期待しております！

【09年6月6日／小金井市・禅道会小金井道場にて収録】

トリプルHと並んでも遜色なし!! アッコさんも大興奮!!

世界で一番お金持ちのプロレス団体 WWEが7月7日、8日に日本武道館へ上陸

世界一の金持ちプロレス団体WWEが、7月7日、8日の二日間にわたって日本武道館で大会を行なう。こんな不景気なご時世に武道館2daysを敢行するなんて、PerfumeかWWEぐらいのものだろう。ひさびさに景気のいい話である。

WWEのトップ中のトップであるトリプルHがディーバのミシェル・マクールを伴って来日し、大会をプロモーションする記者会見が5月29日に都内で開催された。そこに〝ゴッド姉ちゃん〟こと和田アキ子が出現したのは、すでに新聞やニュースサイトでも報じられているとおり。

上の写真を見てもわかるだろうが、アッコさんの存在感はビンス・マクマホンの娘婿トリプルHに一歩も引けをとらない堂々たるものだった。いや、逆にアッコさんの前でも存在がかすまなかったトリプルHをたたえるべきなのかもしれない。日本の芸能人だってアッコさんと並ぶと迫力で圧倒されてしまう人が大多数なのだから。さすがはWWEスーパースターだ。

だが、会見はアッコさんの独壇場だった。「トリプルHって凄い身体してんのよ！」と興奮気味に脱衣を要求して、会見中も15分以上にわたって天下のトリプルHを脱がせっぱなしという凄い光景が繰り広げられた。世界広しといえども、トリプルH相手にそんなことが可能なのはアッコさんぐらいだろう。

会見後の囲み取材では「デスとも競演してるしね」とアッコさん。デスって誰だ？ 〝ドクター・デス〟ことスティーブ・ウィリアムス？ ではなくて、正解は『うわさのチャンネル』で共演したデストロイヤーのことだった。力道山先生のライバルだったデストロイヤーの頭をハリセンでバシバシ叩いてた。まあ、貫禄があってあたりまえだ。

では、芸能界の頂点に君臨するアッコさんに対して一歩も引けをとらなかったトリプルHとミシェル、彼らに共通する魅力はなんだろうか？ 言葉では説明しづらいが、パッと目を引く華やかさだろう。人を惹きつけるスター性と言い換えてもいいだろうが、こればかりはお金をかけたところで手に入るものではない。

7月の日本大会はテレビ収録のないハウスショーで、よけいな演出はない。スーパースターの〝華〟が堪能できる絶好のチャンスだ。

「オファーがあれば（歌で）ぜひ参戦したい」とギラギラと目を輝かせていたアッコさんが、オープニングで唄ったりしたら盛り上がると思うのだが、そのへんはいまだ未定らしい。期待して待て！ （坂井ノブ）

WWEはこんなにお金を稼いでいる!!

今年4月5日に米国テキサス州ヒューストン・リライアントスタジアムで開催された『レッスルマニア25』は、記念すべき節目の大会ということもあり、WWEもかなり気合いを入れた大会となった。その結果、天文学的な数字の売り上げを記録している。WWE.comで公表されている数字を見るだけでとんでもないことになっているのがわかるだろう。

入場者数が7万2744人で、この数字は今年フロリダ州タンパで開催されたアメリカンフットボールNFL『スーパーボウル』を上回った。総売り上げが約5200万ドル（約52億円）で、このうち全世界でのPPVの売り上げが4300万ドル（約43億円）を占めている。この5200万ドルという数字は、2009年に開催されたライブイベントの1日の売り上げ額としては最高だという。またチケット売り上げが740万ドル（約7億4000万円）、グッズ売り上げが150万ドル（約1億5000万円）と発表されている。

椎名基樹のサムライ三昧

第38回

『打倒ヒョードルの一番手』

©Josh Hedges(UFC)

5月23日、ラスベガスで開催された『UFC98』で王者ラシャド・エバンスを２ラウンドKOで下し、日系人初のUFC世界王者となったのが“アントン最後の愛弟子”リョート。この勝利でリョートは03年、新日本での謙吾とのMMAデビュー戦から無傷の15連勝！　ス、スゲー!!

なんといってもリョートであろう。

ラシャド・エバンスとのMMA無敗対決を制して、UFC世界ライトヘビー級王者となった、マチダ・リョート。驚くべき強さであった。ラシャド・エバンスは、筆者が昨年のベストバウトに選んだ試合で勝利した選手であり、接戦を予想したが、何もさせない展開で、リョートが一方的に勝利を奪った。

過去にこのコラムでリョートの良さについて「戦術が個性的で、それでいてそれが自身の中で練られ完成されていることだ。この先MMAの可能性を広げる選手になるかもしれない」と書いたのだが、この大会のWOWOW解説を務めた高阪剛氏も「いままで常識とされていた間合いや戦術の真逆をやっている」とリョートを評していた。

試合後のインタビューで「カラテ・イズ・バック！」と絶叫したとおり、リョートのバックボーンは実父から習った空手である。桜庭や戦闘龍と同じようにMMAのシーンの中で軽視されつつあった自分のバックボーンたる格闘技の名を叫ぶ姿は、すがすがしくもあり、MMAの原点が異種格闘技戦にあることを再認識することができて、非常に好感をおぼえる。

ところで、空手がバックボーンのMMAファイトスタイルとは、他の選手といったいどこが違うのだろう。空手のことはよくというか、ほとんどまったくわからないので、この試合におけるリョートの特徴的な部分を挙げてみたい。

まず一番の特徴は間合い。蹴りでエバンスにプレッシャーをかけ続けているので、通常の試合より長い距離を保ったまま向かい合うことになる。そこから、拳法の拳法たる所以である多彩な足技が繰り出される。もっとも圧巻だったのは、サウスポーに構えた前足の右ローから対角線の頭部に左ハイのコンビ。当たりはしなかったが、こんな難易度が高い技を出されたら、相手にとっては相当なプレッシャーだろう。

この試合で、リョートが戦術の基本としていたコンビが、左ミドルを出しながら、いわゆるスーパーマンパンチの要領で左ストレート。一度目のダウンはこれで奪った。それ以外でもこれで一気に距離を詰めて、もろ差しを取ったりして多用していた。ローのフェイントからパンチを出す、スーパーマンパンチを使う選手は多いが、ミドルを当ててなおかつパンチまでつなげるのはリョートくらいだ。

リョートは前蹴りも多用する。結局、リョートの個性的な闘い方の根本は、蹴りの距離で闘うということになってしまうが、一発の蹴りの威力がなければ、脅威を与えるに至らずに、途端に距離を詰められて、パンチの間合いで闘うことになるだろう。さらに蹴りやフェイントを出すタイミング、相手の呼吸を読むのにも長けていなければならないだろう。

サウスポーに構えて蹴りの脅威でプレッシャーをかけるそのスタイルは、どこかで見たことがあると思ったら、ミルコだ。ミルコの格闘技歴の入り口は15歳でテコンドー、17歳で空手というから、それもうなずける。そしてPRIDEでミルコがスターになったわけは、敗北からの復活のストーリー以上にこの唯一無比の蹴り主体の華麗なスタイルに負うところが大きかったはずだ。もっとももう一生強くならぬだろうと思えるミルコの寝技に比べ、リョートはそれも強い。

パンチよりずっと遠くからずっと強い打撃が繰り出せる蹴りであるが、誰もがMMAで使いこなせるわけではない。足は強いかわりに腕よりずっと不器用だからだ。またかつてUWFの選手が蹴りを多用するのを見て、カール・ゴッチは自ら片脚立ちになりバランスを崩すことを否定していた。さらに、初期バーリ・トゥードでは、ミドルキックは蹴り足をつかまれるという理由でタブーとされ、「ギロチンチョークは極まらない」と同じくそれがセオリーだった。ジャブパンチの代わりにミドル、前蹴りで距離を測るスタイルは、熟練と才能が必要だ。そして、空手をはじめ拳法は足技を磨くことにアイデンティティがある。

また、リングで闘うことを目的にしたボクシングに対し、空手は野外実戦を主としているかと思うのだが、そのせいかリョートはオクタゴンの広さを充分に利用しているようにも感じる。「真っ直ぐ下がるな」は打撃の基本だが、リョートはわりとヤバイとみるや、脱兎のごとく素早く真っ直ぐ下がって距離を作る。真っ直ぐ下がることはやはり危険なことだろうが、リョートはそれを承知で、より自由に本能的に動いているように見える。

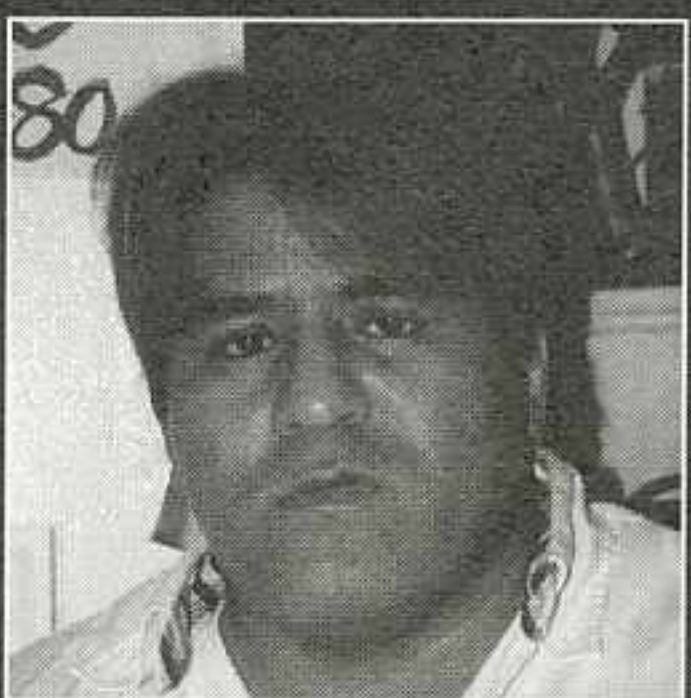
思えば一番最初に「なんでもあり」の闘いに挑んだのは空手家の市原海樹であった。そして、K-1、MMAとより制限が少なくなったルールの格闘技が確立するにしたがって、その煽りをくらい、強さの幻想がもっとも揺らいだのが空手だったような気がする（曙一人のせいで、最も株を下げたのは相撲だという意見もあるでしょうが）。

GBR熊久保編集長は、DEEPのテレビ解説を務めた際、空手出身の菊野克紀の圧倒的強さを見て、「いまは菊野、リョート、セーム・シュルトと空手が格闘技界を席巻しているんですよ、ブシャシャシャシャ」と嬉しそうに、いまにも得意の大山倍達モノマネをせんが勢いで（つーかオレはそれを期待していた）語っていた。今回のリョートの「カラテ・イズ・バック」発言には、きっとおしっこくらい漏らしたに違いない。これから本当に空手の時代が来るかどうかは、楽しみに見守るとして、とにかく、現在、打倒ヒョードルの一番手にいるのはリョートである、と筆者は確信している。

検証

いかにしてプロレスラーはお金を稼いでいるのか？

メジャー代表 TAJIRI

インディー代表 黒田哲広

どインディー代表 三宅綾

かつては「リングの下には金が埋まってる」と言われたプロレス業界も最近はすっかり様変わり。
あるところにはうなるほどあるし、ないところにはとことんない。
そんなリアルで嘘みたいな"お金"の話をメジャー、インディー、どインディーと
それぞれのフィールドで活躍している（していた）プロレスラーに直撃してみました。

トップ選手は年収10億!!

プロレスで世界の頂点を見た男 TAJIRI

「働けば働くほど稼げるのがWWEです」

『kamipro Special 2009 JULY』で映画『レスラー』を観た感想として「プロレスの夢のある部分が描かれていない」と指摘したTAJIRI。では、その夢とはどんなものなのか？ 世界最大のプロレス団体WWEに在籍して、頂点を見てきたTAJIRIに夢の世界のことを話してもらった。聞いてると「へぇ～」とか「凄い!」とか、そんな言葉しか出てこないスケールの違う話ばかりでした。

聞き手／坂井ノブ　扉撮影／菊池茂夫

プロレスで初めて1万ドル（約100万円）貯めたとき嬉しくて何回も数えてました

――今回のインタビューはお金がテーマなんですけど、やはりWWEは一番お金のあるプロレス団体というイメージがあるんです。こないだ映画『レスラー』を観たときに「あれは底辺で、本当の頂点は全然違う」とおっしゃっていましたよね。で、今日はその上流地帯のお話をうかがいたいなと思っています。

TAJIRI なるほど。最近ではGMが潰れたりしてますけど、なんだかんだ言ってもアメリカはお金がダイナミックに動く国ですよ。

――それをTAJIRIさんは肌で感じたわけですよね？

TAJIRI 僕はECWに参戦する前は、ずっとメキシコにいて貧乏だったんですけど、初めてアメリカで手にしたギャラが800ドルだったんですよ。もうメキシコにいれば何ヵ月も生活できる金額です。それで僕のアメリカの印象が決定づけられましたね。

――ちなみにメキシコだと1試合いくらでしたか？

TAJIRI 僕がメキシコで一番最後にやった試合は、メキシコシティの外れのサーカス小屋でやった6人タッグだったんですけど、セミファイナルで組んでたのがアトランティスで対戦相手にはフィッシュマンもいるっていうカードだったんですね。その試合のギャラが日本円で400円ぐらいじゃないかな。

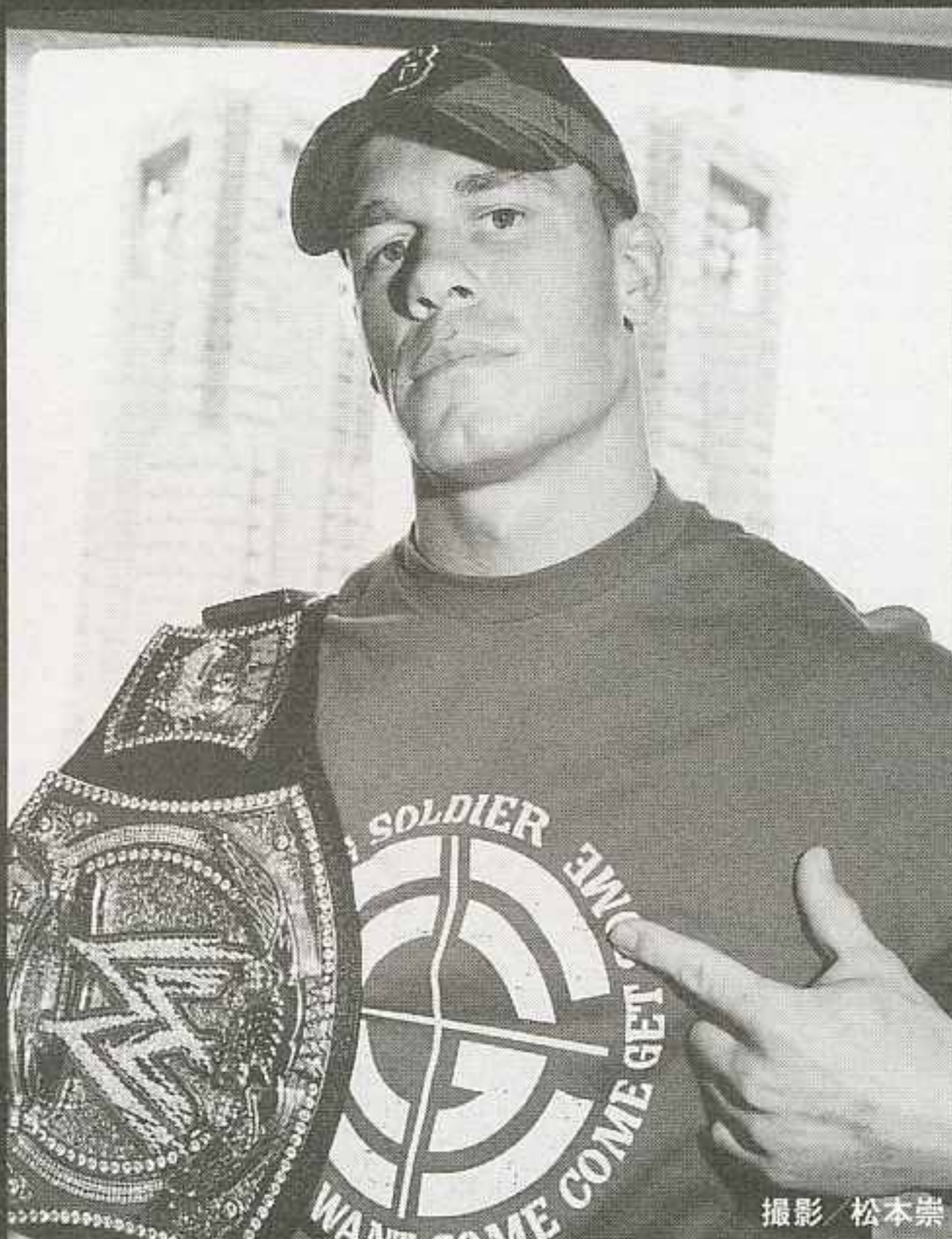
――なんでそんなに安いんですか？

TAJIRI 90年代は経済状況がどん底だったんですよ。アレナ・メヒコみたいな大会場でやるテレビマッチに出ても僕みたいな中堅クラスだとテレビ放映権料を含めても5000円にもならないような時代でしたから。トップ選手もけっこう副業をやってましたよ。

――厳しいですねぇ。

TAJIRI そんな時代にアルカンヘルがプロレスだけじゃ食えないからってアイスクリーム屋を始めたんですけど、店にピストル強盗が入ってすぐやめちゃいましたね（笑）。

――景気が悪いうえに治安まで良くない。

TAJIRI そのオープニングのセレモニーに僕とマスカラ・マヒカとオリンピコとリンゴ・メンドーサが呼ばれて行ってきたんですよ。その帰りにリンゴ・メンドーサと地下鉄が一緒だったんですけど、「5ペソ貸してくれ」って言うから貸したら、「グラシアス」って言ってそのまま電車を降りてったんですよね。

撮影　松本崇

ジョン・シナは00年代のWWEで最もブレイクしたスーパースターの一人。映画や音楽（ラップが得意）などにも進出、若くしてスーパースターの座に登りつめた。一時期、TAJIRIはシナ、フナキ、バッシャム・ブラザーズとレンタカーで移動をともにしていたのだ。

――5ペソって日本円でいくらですか？

TAJIRI 50円ぐらいですね。あの5ペソで伝説のルチャドールが何を買ったのか謎なんですよ、いまだに返ってこないし（笑）。金がないわけではないと思うんですけどね。

――そんな状況のメキシコからアメリカに渡って1試合800ドルですか？

TAJIRI 週800ドルですね。それがおそらくECWの最低ラインのギャラだったんじゃないかな。でも、プロレスでそんな金額は手にしたことなかったですからね。僕と同時にECWに入ったスペル・クレイジーと一緒にペンシルバニアの田舎にあるけっこう広いアパートに住んでたんですけど、家賃が600ドルだったかな？ お金を使わないから貯まっていく一方でした。

――二人で、その金額は安いですね。

TAJIRI プロレスで初めて1万ドル（約100万円）を貯めたときは凄く嬉しかったなぁ。銀行に預金してもよかったんですけど、お札が封筒の中で増えていくのが楽しくて、タンスの中に入れておきました。1万ドル貯めたときは一日に何回も数えたり、お札をきれいな順に並べてみたり、いろいろやってましたよ（笑）。当時はECWで全米放送が始まる前で、ギャラもちゃんと払われてました。

――ECWのトップだったポール・E（デンジャラスリー＝ポール・ヘイマン）がお金にはルーズだったと聞いていますが。

TAJIRI ルーズというか、まあ、なんというか●●●ですね。プロレスのプロデュースにかけては天才なんですけど。そういう部分も含めてステキな人だなと思いました。

――それ以外の部分はまるでダメ、と。

TAJIRI なぜかプロレス界はそういう人間が凄く多いですよね（笑）。僕もそういう人を一人知ってますけど（笑）。最後の頃は大変でしたよ。数ヵ月間、ギャラが出ませんでしたからね。でも、「この体験をいつかお金に換えるチャンスがある」と思って、当時の状況を記憶にインプットする作業をしてましたね。

――不安になりませんでしたか？

TAJIRI その1年前にWWEからオファーがあったのを断ってるんですよ。だから、WWEもWCWも入れないわけがないと思ってたんでわりと気楽でした。

――で、WWEに入るわけですが、そこでまたギャラが跳ね上がったんですか？

TAJIRI いろんな契約スタイルがあるらしいですけど、僕の場合はまず年間の最低保障額の契約をしました。ただ、最低保障額とはいっても長期欠場しても払われるというものではないんです。

――ある程度のハードルをクリアしないと保障はされないわけですか。

TAJIRI 凄く複雑な契約なんですけど、簡単に言うと普通に試合をこなさないと保障されないんです。それプラスしてハウスショーの客入りに応じてもらえるギャラ、テレビの視聴率によってもらえる手当て、PPVに出場することでもらえる手当て、マーチャンダイズのロイヤリティ、いい試合をするとビンスがポケットマネーでボーナスをくれるんです。それがつくと嬉しいですね。いろんなオプションがどんどんついてけっこう大きい金

額になっていくんです。働けば働くほど稼げるのがWWEですね。

——割合が大きいのはどれなんですか?

TAJIRI　PPVの手当ては大きいですね。ストーンコールドが年間何億と稼いでたことを考えると、あの当時クルーザー級で闘っていた僕らの10倍はPPV手当てをもらってたと思うんですよ。

——上のポジションに行けば手当てのパーセンテージも変わってくるんですね。

TAJIRI　それと大きいPPV大会、たとえば『レッスルマニア』とか『サマースラム』に出ると金額も上がります。購入者数が多いから。『レッスルマニア』でPPVに乗らないダークマッチや無料放送枠の試合に出るだけでも、通常のPPVの真ん中ぐらいのギャラが出ます。

——へえ。そういうふうに会社側もイベントの格づけを考えてやってるんですね。

TAJIRI　だから、みんな『レッスルマニア』に出たいって思うんですよ。いい試合をすれば稼げるっていうのは、そういうシステムなんです。

——なるほど。下世話な話で恐縮ですけど、WWEでTAJIRIさんはどれぐらい稼いでたんですか?

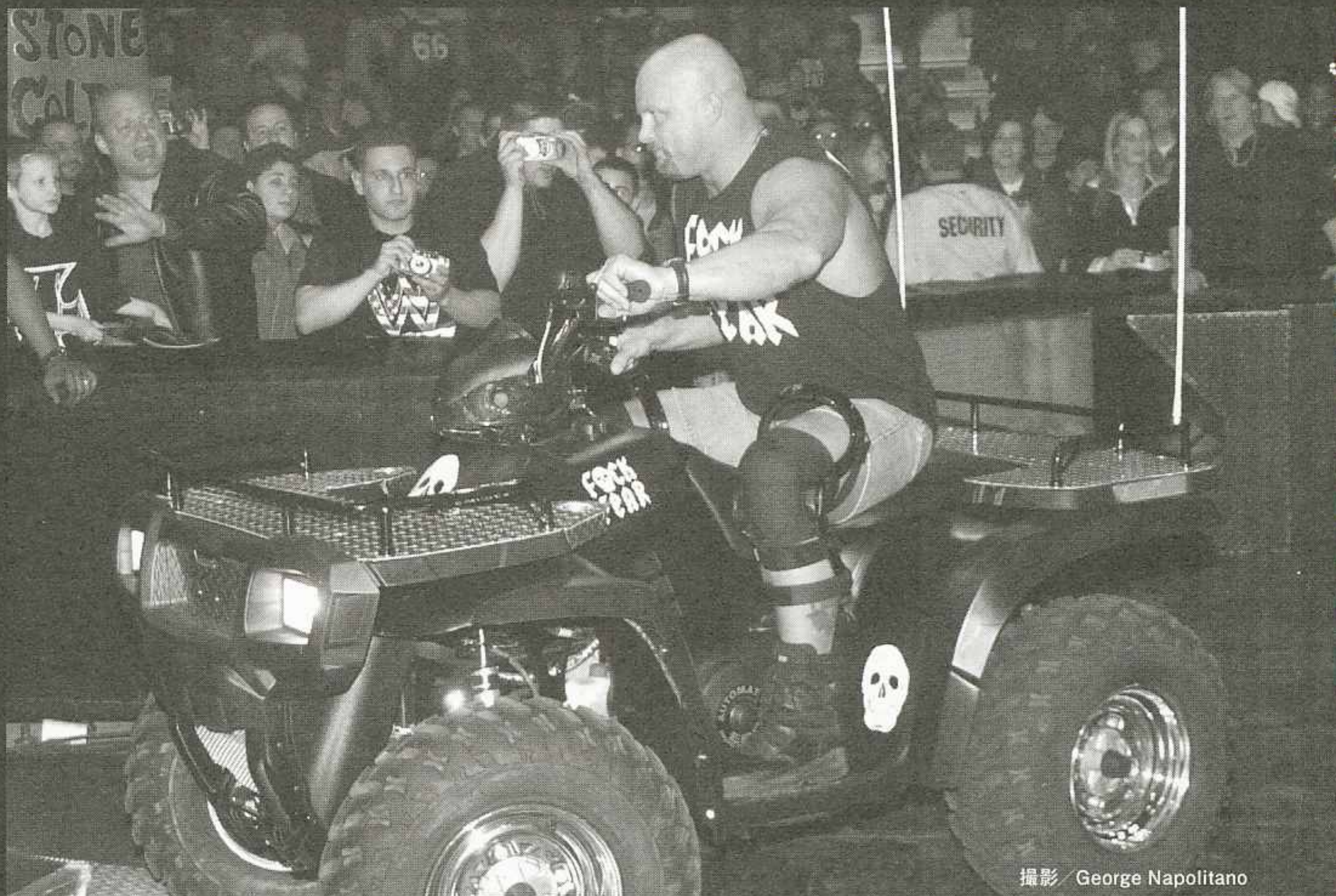
TAJIRI　まあ、これぐらいですかね（と両手を広げて指で数字を見せる）。

——スゲエ!

TAJIRI　ちなみにWWEで初めて出たハウスショーのギャラが80万円でしたからね。

——1試合でそんなに!

TAJIRI　当時はハウスショーもお客さんがよく入ってたんですけど、その日はとくに客入りが良かったんですよ。

——う～ん、おそるべしWWE……。で、その頂点にいるのがマクマホン・ファミリーですけど、彼らのリッチさは間近で見ていかがでしたか?

WWE最大のスーパースターといえば"ストーンコールド"スティーブ・オースチン。90年代後半から00年代前半までWWEが大ブレイクしたときの中心人物である。PPVやTシャツは売れまくり、年間億単位のギャラを稼ぎ出していた。

撮影／George Napolitano

マクマホン一家は歩いている姿を見るだけで、凄くお金を持ってるのがわかります

TAJIRI　あのあたりになると私生活が見えないからよくわからないですけど、とにかく歩いてるのを見るだけで「もの凄くお金を持ってるな」というのが一瞬でわかると思いますよ（笑）。僕が私生活まで知ってる中で、一番仲が良かったうちの一人がジョン・シナなんですけど、親分肌なところがあるヤツなんですよ。

——具体的にはどんな感じなんですか?

TAJIRI　売れ始めた頃に、みんなで割り勘で借りてたレンタカーもジョンが自分で一人で払うんですよ。僕たちには一銭も出させようとしないで「いいから!」って。泊まるホテルも自分で予約しておいて、黙ってそこに運転していって、自分で先にお金を払っちゃうんですよ。「ここ高いよ」って言っても「気にすんなよ」って。そんな感じでしたね。ただ、ジョンが売れ始めてからは、スケジュールがビッシリで会社のリムジンであちこち移動させられるようになっちゃって、一緒に行動することはなくなったんですけどね。

——売れて大物になると、みんなのぶんを負担したり、パーっとおごったりするものなんですか?

TAJIRI　いや、WWEでそういう人は少ないです。でも、それは自分が命を削ってお金を稼いでるのを実感してるからなんですよね。だから、そんなにお金を使わないんです。ジョンの場合はみんなを喜ばせるのが好きってことなんですよね。

——凄いなぁ。

TAJIRI　一度、ジョンの家に遊びに行ったことがあるんですけど、フロリダの田舎にお城みたいな家を買ってましたね。7000万円ぐらいって言ってましたけど、田舎だからとにかくバカでかいんですよ。まずドアを開けて入ったら、ここ（エンターブレインの社員食堂『殿堂』）の半分ぐらいの大きさのスペースがあって、そこを通り抜けると本番の玄関があるんです。

——なんですか、その謎の空間は（笑）。

TAJIRI　意味不明でしたねぇ……。それで、彼はゲームが好きだから、家の中にゲームセンターがあるんですよね。

——ハハハハ!

TAJIRI　ゲーム機をいっぱい買ってきて、かなり広い空間にズラッと並んでましたね。さらにフットボールも好きだから、別の部屋にはNFLの全チームのユニフォームだけを飾った部屋もありましたね。博物館みたいですよ。

——趣味の数だけ部屋があるんですか。

TAJIRI　ちなみに、最上階にあるのは猫のための部屋でした。

——はぁ～、凄すぎる!

TAJIRI　庭にはプールもあってですね、フロリダの田舎だからたまにそこらへんのワニが勝手に入ってきて泳いでるらしいですよ。

——もはやマンガですね（笑）。

TAJIRI　僕が遊びに行ったときは「冷蔵庫のビール、飲んでいいよ」って言

試合の帰りにロックのチャーター機に乗りました。家までのリムジンもおごりでした

TAJIRI

うから、開けたらコロナビールがギッチリ入ってて、「なにこれ？　ジョン、あんまり飲まないだろ？」って聞いたら「TAJIRIがコロナ好きだから買っておいた」って。わざわざ一晩のために50本ぐらい買って冷やしておいてくれたんですよ。

——凄いなぁ……。ジョン・シナ以前の時代のトップ選手、たとえばロックやストーンコールドはいかがでした？

TAJIRI　彼らとはあまり接点はなかったんですけど、一回ロックのチャーター機に乗ったことありますよ。その日は東海岸で試合があったんですけど、ロックは試合のあとにハリウッドで仕事があるからチャーター機を用意してたんですね。僕がロスに住んでるのを知ってたから「今日、試合が終わったら一緒に帰らないか？」って声をかけてくれて。ほかにもレイ・ミステリオとチャボ・ゲレロとチャック・パランボがカリフォルニア在住だったから、みんなで帰ろうってことになったんです。

——マヌケな質問なんですけど、ほかのお客さんは一切乗ってないんですよね。

TAJIRI　ええ。パイロットと客室乗務員と僕らだけでしたね。

——ぜいたくな空間だなぁ……。

TAJIRI　僕はロスの空港に車を停めてたからそれで帰ったんですけど、チャボはロスから車で1時間ぐらいのオレンジカウンティに住んでて、ミステリオとチャックは2時間ぐらいのサンディエゴに住んでたんですね。で、そんな彼らのためにロックが長いハマーのリムジンを用意してくれてて。それで帰っていきましたね。もちろん、ロックのおごりでした。

——うわぁ……（絶句）。

TAJIRI　あの頃のロックは映画にも出てたし、年間10億ぐらい稼いでたんじゃないかなぁ。

たじり■1970年9月29日、熊本県出身。写真左の浅野金六こと浅野起洲社長率いるIWA JAPANでデビュー。大日本プロレスを経て、メキシコで活躍。ECWには崩壊まで在籍してWWEへ。世界の頂点を知る数少ない日本人プロレスラーだ。06年からは『ハッスル』を主戦場に活躍している。172cm、85kg。

——自家用飛行機を持ってる人は？

TAJIRI　ブロック・レスナーが買ってたみたいですけどね。でも、そんなものは持ってても不便なだけだと思いますよ。不便なものや時間をロスするものにお金を使わないんですよ。ブランド品なんかも身に着ける時間がないから買わないし。

——無駄使いもしない、と。移動の費用は経費で落ちるんですか？

TAJIRI　そうです。さらに向こうのレスラーは節税対策でみんな会社を作ってましたよ。僕も「JAPANESE BAZZSAW INC」って会社を持ってました。税理士に500ドル払うとすぐに作ってくれるんですよ。あと、アメリカでは家を買うと凄く節税になるんです。だから僕も買いましたよ。アメリカ人って人生でだいたい3回ぐらい家を買い換えて、だんだんグレードアップしていくのが一般的なんです。

——日本じゃ一生に一度の買い物なんて言いますけどね。TAJIRIさんの家も『週プロ』に載ってましたね。ロサンゼルスの海辺の凄くいい一軒家で。

TAJIRI　ええ、当時の『週プロ』には1億円でキャッシュで買ったって言ったんですけど。まあ、実際には6500万円ぐらいでしたね。しかもキャッシュで買うと損するからローンを組んだんです。そのほうが節税になるから。おかげで僕も年間300〜400万円は節約できましたね。

——それだけで20〜30代サラリーマンの平均収入並みじゃないですか（笑）。WWEのマーチャンダイズは凄まじい売り上げですけど、ロイヤリティもけっこう大きかったんじゃないですか？

TAJIRI　凄いですね。ビデオゲームが一番大きくて、あれに入ると最低でも一本につき数百万円は入ってきますね。

——ゲームって『ロウ』と『スマックダウン』で別々に出てましたよね。両方に入ればそのぶん、おいしいわけですか？

TAJIRI　ええ、そうですね。売れ続けているかぎりは、ロイヤリティが入ってくるんです。いまだにありますからね。

——在籍していた頃に出たゲームがまだ売れているということですね。

TAJIRI　まあ、ゲームはだんだん減ってるんですけどね。最近はミステリオとかエディ・ゲレロとかいろんな選手のDVDが発売されて、その中に僕と組んだり闘ったりした試合の映像が使われますよね。そのロイヤリティも入ってきますよ。いまも年4回の支払いがありますから。明細はもの凄く分厚くて、それこそ数セントまできっちり全部記載されてるんです。僕の場合はロイヤリティが一生入る契約になってるんですけど、WCWが潰れてから入った選手はあまり条件が良くないみたいですね。

——TAJIRIさんはプロレスで稼いで、蓄えもあると思うんですけど……。

TAJIRI　いやいや、お金なんてありませんよ。貧乏ヒマなし。だから、お金ください！　……これは浅野金六（起洲）イズムなんですけど（笑）。

——金六イズムが成功の秘訣でしたか。

TAJIRI　ええ、間違いなくそうです。

——今日から見習いたいと思います！

［09年6月5日／エンタープレイン社屋内『殿堂』にて収録］

――黒田さんって、じつはプロレス界一

たら買えるお金はあるんですけど。

特集 お金

プロレスで1000万円貯める方法

お金、サイコーッ!!

プロレス界の貯金王 黒田哲広

「最高—ッ!!」でおなじみの我らが哲っちゃんが、じつは「貯金、最高—ッ!!」なレスラーだということをご存知だろうか？　な、な〜んと、金銭にルーズなプロレス界において4桁（万円）を超える貯金をしてるのだ。いったいどうやったらそんなに貯まるの？ 哲っちゃん教えて!!

聞き手／鈴木佑

——黒田さんって、じつはプロレス界一の貯蓄家らしいですね。

黒田　プロレス界一とは大げさな（笑）。

——いやいや、コツコツコツと貯められて、なんと4桁（万円）を超える貯金があるって聞いてますよ。

黒田　まあ、否定はしないですけども。

——凄いなあ。どうでしょう。『kamipro』と一緒にプロレス団体でも興しませんか？

黒田　（即座に）嫌ですよ！　プロレス団体なんて絶対に儲からないんだから。なんでみんなやろうとするのかわからない。

——ダハハハ！　でも、4桁を超える貯金はそのプロレスで貯められたわけですよね？

黒田　そうなんですけどね（笑）。でも、ちゃんと節約してるんですよ。

——あの～、こんなこと言うのもなんですが、黒田さんってけっこうケチだったりするんですか？

黒田　いやいや、ケチではないですよ。若手のレスラーと一緒に食事をする機会があれば、ちゃんとおごったりするし、まあ財布のひもをきっちりと締めてるだけです。

——ちなみに貯金をするうえでの目標ってあるんですか？

黒田　ありますよ。ボク、田舎が北海道なんでレスラーを引退したら、できれば北海道に家を買いたいんです。東京は土地代が高いですからねぇ。東京でも小さいマンションだったら買えるお金はあるんですけど。

——そのための財テクなんですね。

黒田　そうですね。だから外貨貯金とかもやってるし、貯金はだいたい定期にしちゃってるんです、おろせないように。あと『日経新聞』も読んでますし。……なんかこういうことを人前で話すのは恥ずかしいですね（笑）。

——いやいや、どうすればウン千万貯められるのかという企画ですから。やっぱり経済番組とかも見たりするんですか？

かつてはZERO-ONE、『ハッスル』、あまたの"どインディー"のリングなど、哲っちゃんは月に20試合近くこなしていた。00年以降のプロレス界はフリーにとっては絶好の稼ぎ時だった模様。しかし、ここ2～3年にフリーになったレスラーからは景気のいい話は聞こえてこない……。

デビュー当時は月に2試合くらいで一試合のギャラは1万円の世界でした

黒田　ニュースは見ます。テレ東ワールドの株価情報も見ますね。家にいれば朝と夕方のニュースは確実に見ますね。

——さすがですねぇ。周りのレスラーとは、こういう込み入ったお金の話はしないですか？

黒田　周りとはあんまりしないですね。たまに「どう節約してるか」みたいな話をするぐらいで。

——奥さんも倹約家なんですか？

黒田　いやあ、ウチの嫁は金村（キンタロー）さんタイプなんでダメです。あるだけ使っちゃうみたいな（笑）。とてもお金は預けれないですねぇ。

——じゃあ、家計の舵は黒田さんが握ってるというか。

黒田　自然と役割分担はできてるんですけどね。基本的に買い物は自分がやってて。まず近所のスーパーに行って何が安いかを把握しますね。スーパーによって、魚が安い、肉が安い、野菜が安いって特色があるので、それを頭に把握して。だから値段は全部、頭に入ってます。「キャベツがこれぐらいだったら買うけど、今日は高いからいいや」とか。

——それこそ10円、100円レベルの話ですか。

黒田　そうですねぇ。あとこれは常識ですけど、値段が安くなる閉店間際に買いに行きます。近所の東急とかは夜9時以降だと刺身が70パーセントオフとかになるんですよ。

——70パーセントも！　普通に買うのがバカらしくなっちゃうような値段ですね。

黒田　そうなっちゃうと普通に買えなくなるじゃないですか。だって70パーですよ！　半額でも安いですけど、70パーと思ったら普通の値段で買えないなって。あと、お肉もけっこう安くなるじゃないですか。まあ野菜はそんなに変わらないですけど。

——ほかに節約で気をつけていることってあります？

黒田　水道や電気代に気を使うのはもちろんですけど、あとは金券ショップで安くなってるチケットを買いに行きます。商品券もそうですし、もちろん映画を観るときも金券ショップに必ず行きますし。

——そのへんはさすがですねぇ。そもそもいつぐらいから貯金に目覚めたんですか？

黒田　21歳の頃ですね。W★INGにちょっと上がって、オリプロさんにも上がってましたけど、当時はインディーの団体ってそんなになくて月に2試合とかそんな感じで。それでギャラが一試合1万円の世界ですからね。

——月2試合は厳しいですねぇ。

黒田　常に財布に万札が一枚も入ってない状態ですから、もし万が一、おふくろとかが倒れたら「お金をどうしよう？」貯めないとあかんなあ」と思って、そこから貯め始めたんです。

——先々のことを考えて。

黒田　それにPWCで金がもらえなかったことが影響してますね。

00万円
める方法

—黒田さんがデビューした伝説の団体ですね。

黒田　だから「これ、食いたいな。飲みたいな。ほしいな」と思っても、基本的に財布に金が入ってないじゃないですか。やっぱガマンというものを覚えるわけですよ。

—給料制になったのはFMWに入ってからですか？

黒田　いや、給料制というわけではないんですけど、シリーズ終了後にもらえるんですよ。それでキャリアを積んでいくうちにギャラが上がっていくという感じですね。「ちゃんとギャラがもらえるんだ」と思いました（笑）。

—革命的なことですか（笑）。

黒田　あとFMWには寮があって食事もできたし、生活するのにお金がいらないんですよ。何もしなければ全部、ギャラが小遣いになっちゃうんで。

—黒田さんみたいに貯蓄してるレスラーってほかにいました？

黒田　ボクほど貯金してる選手はいなかったですね。っていうか、いまでもインディーにそんな人いないですからね。「なんでそんなに貯めてんだ？」とか言われますもん。

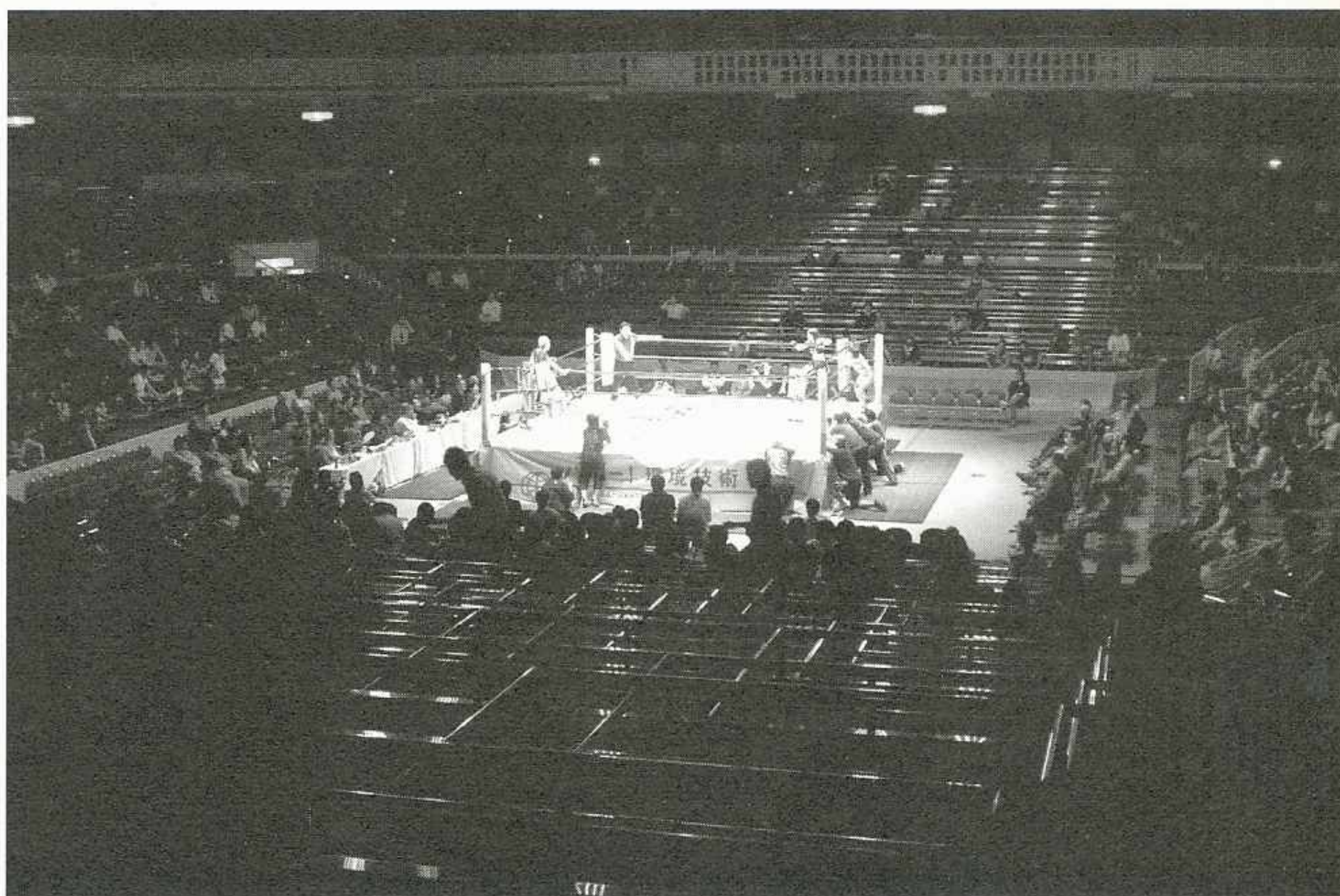
—FWMではどのくらい貯金されてたんですか？

黒田　FMWではもう4桁の貯金がありました。4桁をちょうど超えたぐらいですね。

—FMWの時点で！　同世代のサラリーマンでそこまで貯める人ってなかなかいないんじゃないですか？

黒田　そうでしょうねぇ。さっきも言いましたけど、FMWには寮があるし食事も用意されてるので、基本的にお金は使わなくていいんですよ。巡業中の食事もボクはターザン後藤の付き人だったんで、まったくお金がかからなかったですしね。

—それに黒田さんは大仁田（厚）さんとも近い関係にありましたよね。

黒田　そうですね。新生FMWのときは「一緒に組むから浦安に引っ越してこい！」って言われたりして。当時、FMWの寮は川越にあったんですけど、大将（大仁田）の家は浦安だったから。

最近では招待券を配ってもお客が来ないプロレス界。ガラガラっぷりが冴え渡る写真のプロレスエキスポは極端な例だが（そもそもプロレスエキスポを知らない人が多いでしょうけど）、格闘技界同様、"スポンサープロレス"に移行している。

プロレスは儲からないですからねぇ いまは副業しないと生活できない

—その引っ越し資金とかはどうなったんですか？

黒田　たぶん会社に払わしたんじゃないですか。

—ムチャしますねぇ。大仁田さんからお小遣いなんかはもらってたんですか？

黒田　もらってました。ちょこちょこもらってました。

—もしかして、それも貯蓄に回したりとか。

黒田　もちろんです！（笑）。あの頃から自分で家計簿みたいなのを書いてましたしね。

—買ったものを記録してるんですか？

黒田　そこまでじゃないですけど、「今月はこれくらいギャラがもらえる」ってわかるじゃないですか。小遣いはこれだけ、余ったぶんは貯金というふうに記録してました。で、貯金したお金はよっぽどじゃないかぎり使わない。

—何かお金を貯める哲学ってあります？　一番、心がけなきゃいけないこととか。

黒田　どうなんだろ。「ホントにほしいもの以外は買うな」ですかね。

—黒田さんにはお金のかかる趣味を持ってたりしなかったんですか？

黒田　なかったです。趣味って言われると、とくにないですね。逆に言うと、趣味は貯金になっちゃいます（笑）。まあ、あとパチンコぐらいですけど。

—一時期はパチンコ依存症だったとか。

黒田　そうですね。ボク、トータルで1000万くらい負けてますね。それがなければもっと貯金してたんでしょうけど。

—1000万負けてもまだ貯金できるのも凄いですよね（笑）。車はお持ちなんですか？

黒田　車は買ってないです。もう10年以上、ペーパードライバーです。

—じゃあ、免許証は身分証として使ってるぐらいで。

黒田　そう。東京で車に乗るのは金がかかるし、交通事故が怖いじゃないですか。車は駐車場も高いし、こっちだと平気で3万とかしますからね。

—黒田さんからすると、とんでもない金額ですか（笑）。

黒田　3万ですからねぇ。函館だったら5000円ぐらいですから。もちろん車は維持費もかかりますし、移動するだけなら電車のほうがいいですよ。

—徹底してますねぇ。最近のプロレス界って、それなりの地位にある選手でも違う仕事をしないといけない状況じゃないですか？

黒田　プロレスは儲かんないですからねぇ、笑っちゃうぐらい。

—笑っちゃうくらいって（笑）。

黒田　ホントに。でも「副業をするぐらいならプロレスを辞める」というのがボクのポリシーなんで。実際はみんなほかに仕事を持ってますけどね。いまは副業しないとプロレスも生活もできないから。

――インディーで一番景気がよかったのっていつ頃ですか？
黒田　5～6年前ぐらいですかね。FMWを辞めてゼロワンや『ハッスル』に上がったりしてたときは景気がよかったです。そのときは年間1000万とか稼いでましたからね。
――年間1000万！　メジャーレスラーと遜色ないですねぇ。インディー出身でそこまで稼いでた方ってそんなにいなかったんじゃないですか？
黒田　そうですね。ギャラの交渉は金村さんに任してたんですけど。
――どうして金村さんにお任せしてたんですか？
黒田　そこは安心して任せてました。金村さんから電話がきて、「これでどう？」「はい、わかりました。よろしくお願いします」って感じです。
――黒田さんって、上がる団体を選ばないじゃないですか。どんな"どインディー"にもオファーがあれば上がってるというか。
黒田　まあ、呼ばれるならという感じで。とりあえずリングがあれば上がりますよ。リングがなければ無理ですけど。いまはリングがないところもあるじゃないですか。それは無理です。そこだけはこだわりです（笑）。
――「この金額以下ならやらない」というギャラの線引きはあるんですか？
黒田　前はありましたけどね。でもいまは不景気ですから、そんなことは言ってられないので。
――へんな話、インディーでギャラが出なかったところはありますか？
黒田　いや、遅れることはあっても、ギャラをもらえないってことはないですね。基本的にインディーは取っ払いですし。
――ギャラがピークだった6年前に比べて、いまってどのぐらい下がってるものなんですか？
黒田　ぶっちゃけ、もう50パー以上は落ちてますね。
――そんなに！
黒田　けっこう大変ですよ。いまは月平均4～5試合ですからね。稼いでいたときは20試合以上で、しかもいまはギャラ

プロレス団体は絶対にやらないです 貯金がなくなっちゃいますよ!!

くろだ・てつひろ■1971年11月23日、北海道出身。高野拳磁率いるPWCでプロデビュー。その後はFMW、ZERO-ONE、『ハッスル』などで活躍。どんな"どインディー"でも試合をすることで知られている。じつはクロダーマンの正体であることは秘密である。アパッチプロレス軍所属。180cm、90kg。

Tetsuhiro Kuroda

プロレスで 100 貯める

の単価も安くなってますから。正直、去年今年はそんなに稼いでないです。まあ、それでもなんとかやってますけどね。最初はちょっと危機感ありましたけど、「まあ、なんとかなるかな～」って。
――どういう今後のビジョンを持たれてるんですか？　景気は不透明じゃないですか。稼げなくなったら引退、またはお金が貯まったら引退という感じですか？
黒田　どっちもですねぇ。貯まったら貯まったでやめますし、稼げなくなったらもう辞めるしかないですよね。貯金を食い潰すぐらいだったら、プロレスはもう辞めます。
――冒頭でもお聞きしましたが、たとえば団体をやろうと思ったことはなかったですか？
黒田　絶対にやらないです！（キッパリ）。それはみんな言ってますよ。
――団体はやるもんじゃない、と？
黒田　ええ。「やらないか？」って誘われたこともありますけど、絶対にやらないです。プロレス団体は絶対にやらないです。儲からない。もし手を出したら貯金が全部なくなっちゃいますよ。
――それはいままでいろんな団体を見てきたから言えることなんですか？
黒田　そうですねぇ。この業界に入って知ったのが、「プロレスは儲からない」ってことですから。
――どうしてプロレスは儲からないんだと思います？
黒田　やっぱりお客さんが入らないとかいろいろありますけど、いやあ、儲からないでしょ。
――とにかく儲からないと（笑）。インディー団体もあれだけ潰れてますし。
黒田　それもあるし、選手のギャラとか安くしても、実際キツイと思いますよ。いまのプロレスはホントに底ですからね。いや、さらに底があるかもしれないし……。ホンットに儲かんないです。
――団体までいかなくても自主興行をやったりもしないんですか？
黒田　実際にはやったことないです。名前を貸したことはありますけど。自主興行をやるなら引退のときぐらいですかね。
――やっぱり興行っていうのはそれくらい博打ですか。
黒田　博打だと思いますよ。ボクからしたら、なぜやりたいのかわからないですけどね。
――シビアな話、プロレスで儲けるのは難しいという感じですか？
黒田　プロレスは厳しいと思います。
――これからプロレスが爆発的に人気になるっていうのは……。
黒田　いやあ、まだまだ下がると思うんですけどね。日本経済よりも下がるんじゃないですか（笑）。
――そんなに下がりますか（笑）。
黒田　ホントに。プロレスの再浮上は厳しいと思いますよ。団体も多すぎますし、レスラーも多すぎる。だから、貯金はしたほうがいいですよね、絶対。だって将来性がまったくないですもん。辞めても保障はゼロじゃないですか。マイナスはあってもプラスはないじゃないですか。失業保険もないですし、国民健康保険、退職金もない。家も何もない状態から就職活動をしなきゃいけないってことですよね。
――プロレスは儲からないから貯金しろ！　という結論ですかね。
黒田　そうですねぇ。なんかおかしな話ですけど（笑）。

【09年5月27日／都内某所にて収録】

実録！プロレス借金地獄!!

裏稼業に手を染めたインディーレスラー 三宅綾

"マニアのあいだで話題沸騰中の"本音ブロガー"が本誌初登場！

FMWをはじめ、90年代インディーシーンで活動していた三宅綾。しかし、ある日を境に4年ものあいだリングから遠ざかってしまう。いったいその空白の期間にどこで何をしていたのか？"流血の重鎮"が金に翻弄された壮絶な半生を激語り!

聞き手／鈴木佑　試合写真／平工幸雄

デビュー戦のギャラは3000円、W★INGでは月収9万円でした

――三宅さんのブログ（『★ブログ～本音でよろしいですか？★』）はプロレスマニアのあいだで評判いいですね～。過去のレスラー生活が赤裸々に書かれていて。

三宅　そうですか？　ありがとうございます（ニッコリ）。けっこうレスラーが見てるって聞いてますよ。

――同業者も気になるわけですね。さて、今回は数々のインディー団体を渡り歩いてきた三宅さんに、お金をテーマにお話を聞きたいと思いますので、一つ本音でよろしくお願いします！

三宅　よろしくお願いします。

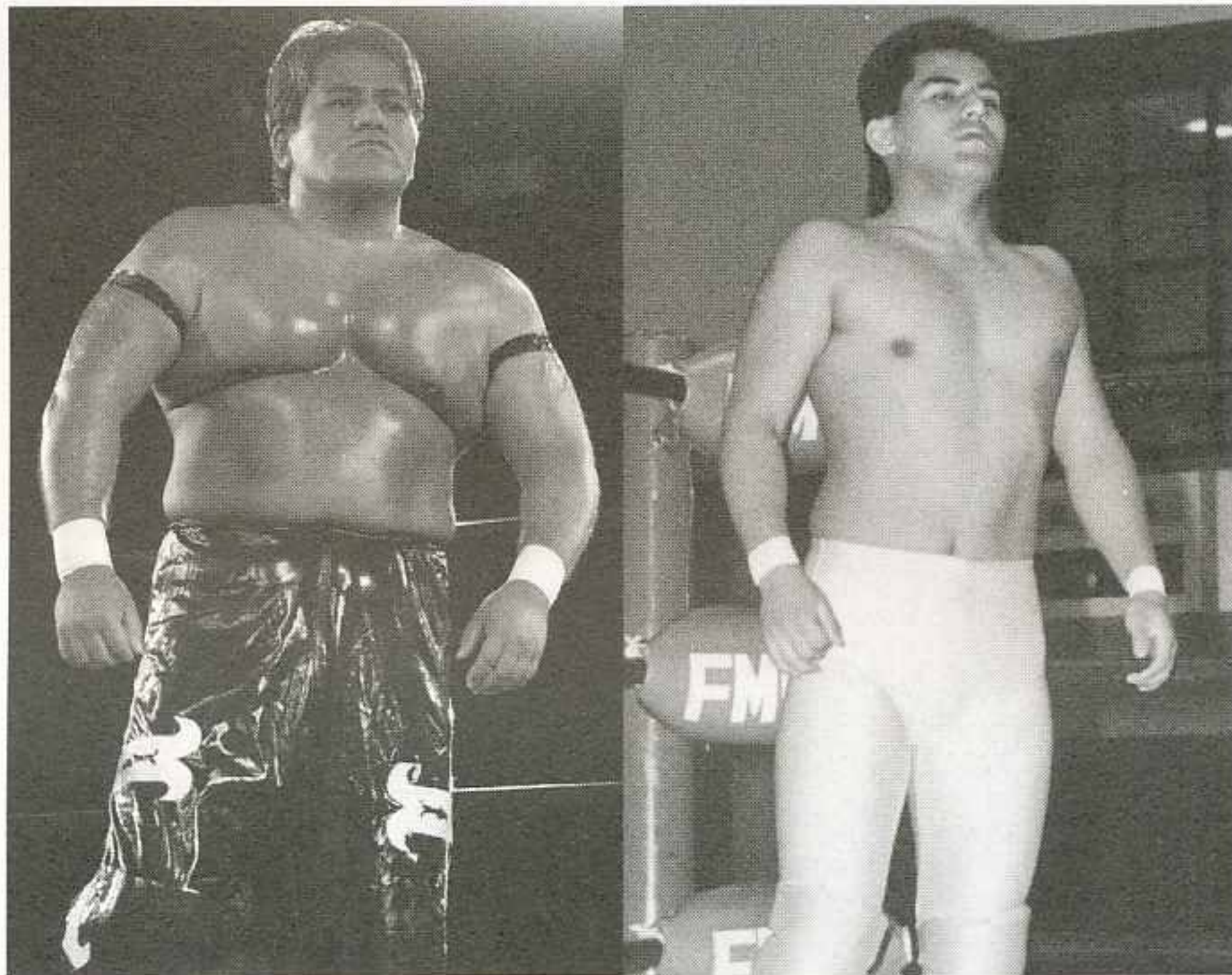
――まず5月のIWAジャパン15周年記念大会は4年ぶりの復帰だったわけですが、現在はプロレス以外に本業があるということですよね？

三宅　はい、いまは犬のブリーダーをやってます。一日中犬のウンチを拾ってますよ（笑）。まぁ、この仕事にたどり着くまでにはいろいろとありましたけどね……（しみじみと）。

――何か意味深ですね。順を追って聞いていきたいんですが、そもそもレスラーになる前はリング屋だったとか？

三宅　そうです。自分は中学出てから地元の金属工業会社で働いていたんですが、どうしてもレスラーになりたかったんで東京に出てきたんですね。それで恵比寿の新聞販売所に住み込みで入るんですが、それと並行してプロレス業界にも接点を作ろうと思って、全日本プロレスでリング屋の手伝いを始めたんです。当時、リング屋のギャラは一日5000円だったんですけど、嬉しかったのが天龍（源一郎）さんが自分みたいなリング屋にまで小遣いをくれるんですよ。

――さすが天龍さん、太っ腹ですね！

三宅　しかも直接くれるんじゃなくて、リング屋のリーダーの（和田）京平さんに渡すんですよ。で、京平さんから「天龍さんにお礼言ってこい」って言われて挨拶しにいって。渡し方一つとっても天龍さんはかっこよかったですね。まぁ、結局自分は仲田龍さんから「おまえは全日本じゃ無理だから、大仁田さんがやる新団体に行けよ」って言われてFMWに入団することになるんですけど。

右の写真がデビュー時、左が今年5月に復帰したときの三宅。4年のブランクをまるで感じさせない見事にビルドアップされた肉体だ。ちなみに三宅はブログで、W★ING入団直前にステロイドを使用していたことを告白。しかし、その後18年間はまったく使用していないとか。

――FMWというと若手レスラーは『フランスベッド』でバイトしてた話が有名ですよね。

三宅　そのバイトも一日5000円とかでしたね。でも、プロレスデビュー戦のギャラは3000円だったんですよ（笑）。

――バイト代より安かった、と（笑）。プロレス界の厳しい現実を知ってどうでした？

三宅　FMWが貧乏なのはわかってたし、その当時は小学生の頃からの夢をかなえたっていう充実感のほうが勝ってましたね。でもすぐに1試合5000円くらいになりましたよ、それ以上は上がらなかったですけど（苦笑）。

――その後、三宅さんはW★INGやNOWといったインディー団体を転々とするわけですが、プロレスをしながらバイトをすることについて思うところはありました？

三宅　顔じゃないと思われるかも知れないですけど、やっぱり当時は恥ずかしかったですよ。いまでこそバイトをしてるレスラーのほうが多いでしょうけど、90年代初期はレスラーがバイトしてるなんて、人には言えなかったですから。そんなのFMWが初めてじゃないですかね？　ボクシングだと日本王者レベルでもバイトするのはあたりまえですけど、レスラーだと「えっ？」って思われた時代ですから。自分なんてW★ING時代にジムの友だちには「月に30～40万もらってるよ」ってウソついてましたからね。

――レスラーとしてのプライドというか。

三宅　本当の金額は言えないですよね。FMWにしろW★INGにしろ雑誌にもけっこう載ってるわけですし、周りからも「30～40万でも少ないね」って言われてましたから。これは本当のこと言ったらまずいなと思って。

――ちなみにW★INGの頃は本当の給料は？

三宅　月収9万でした。だから食えないんでいろんなバイトをやりましたね。宅急便の仕分け作業に土木作業や鳶職……たぶん20個くらいやったと思います。でも、プロレスしながらだとバイトもだんだん難しくなっていくんですよ。肉体的にもキツくなってきますし、巡業があると長期間休まざるをえないわけですから。

――それにW★INGは茨城清志代表がいいかげんで、ギャラの支払い遅れが日常茶飯事だなんて言われてましたよね。

三宅　茨城さんは最終的にはくれるんですけど、日にちを守らなかったり小出しで支払ったりするんですよ。だから生活していくためには借金をしなきゃならないんですよ。自分なんかは普通にサラ金から借りてましたから。

――そうでもしないとレスラーとしてやっていけない、と。

三宅　だから、その頃は行くあてもなかったので実家に転がりこんでました。周りの若手レスラーも借金してる選手が少なくなかったですよ。とにかくプロレスをやってるとお金の面で人に迷惑をかけちゃうんですよね。借金の取り立て電話がガンガン来るし、借金取りが実家まで直接来ることもあったし。でも茨城さんの支払い方だと、こっちも計画を立てられないから返済できないんですよ。

――そんな状況であってもまだレスラーを続けたかったですか？

三宅　やっぱりそういう気持ちがあるん

気づいたらサラ金や信販会社含めて8件からの借金総額は300万に

ですよね。リングに上がれるってだけで充実感がありましたから。でも、W★INGも最終的には未払いのギャラに加えて、こっちが立て替えた経費ももらえなくて、このままじゃ生活できないところまで追い詰められたから退団することになるんですけど。そのあともいろいろなインディーに上がりましたけど、どこも厳しい状況ではありましたね。

――金銭的には恵まれなかったわけですが、その頃に何かいい思い出ってありますか？

三宅　やっぱりWARに参戦して天龍さんと対戦できたことですね。自分にとっては天龍さんがそこにいるだけでメジャー以上の価値がありましたから、試合したときはもう死んでもいいって思うくらいでしたよ。天龍さんも自分のことをよく覚えててくれて、試合では敵対する側だったんですけど、リングを降りれば凄くかわいがってくれましたし。自分もリング屋時代に70キロしかなかったのが100キロ近くになってたので、「練習、頑張ったんだな」ってほめてくれたり。

――苦しい中でもそういうこともあったからプロレスを続けられたわけですね。

三宅　そうですね。でも借金は一向に減らず、雪だるま式に膨れ上がっていって、結局は東京プロレスのときにレスラーを続けることに限界を感じることになるんですけど……。

――でも東京プロレスって、3億円ベルトや両国国技館大会を開催したり、インディーにしてはバブリーなイメージもあるんですが？

三宅　実態は全然違いましたよ。当時、社長の石川（敬士）さんがボディガードの仕事を副業でやってたので、自分もお手伝いしてたんですね。また、そのときに夢みたいなことを言うわけですよ。「プロレスで30万、ボディガードで30万、芸能で30万、月に100万近く稼げるぞ」って。

中学生時代の三宅。その前でしゃがんでいるのは、ともにレスラーを目指してFMWに入門した上野幸秀。三宅のデビュー戦の相手であり、そしてFMW最後の相手もこの上野だった。

――芸能関係の仕事というと？

三宅　要はソッチの世界にも顔が利くってことですよね。確かにウッチャンナンチャンや明石家さんまの番組とかにチョイ役みたいな感じで出たこともあったんですけど、結局一回2万とかなんで月に30万も稼げるほどの仕事じゃないんです。もちろん自分も石川さんの話を丸々信じ込んでたわけじゃないですし、その3つのうちの一つでも軌道に乗れば30万だからいいやって納得してたんですけど、結局は全部うまくいかなかったですから。プロレスのギャラも約束と全然違って、「このままレスラー続けてちゃダメだな」って思いましたね。会社がビッグイベントだなんだで見栄を張れば張るほど下の人間は苦しくなりますし、凄く裏切られた気持ちになったっていうか。

――だんだんプロレスに対して絶望感を持ってきた、と。

三宅　もうその頃になるとサラ金からお金も借りられなくなってましたから。どこに行っても審査で引っかかるようになっちゃって。情けない話ですけど、当時自分は付き合ってる女の家に転がり込んで、半分ヒモ状態だったんですね。しかも、その家も母子家庭で大変なのに。その彼女は保険の外交員だったんですけど、自分がプロレスでお金に困ってるからって、夜は飲み屋で働くようになって……本当申し訳なかったですね。

――せつなすぎますね。

三宅　結局は借金が300万くらいになってしまって、その彼女にも見捨てられて。本当は150万くらいだったんですけど、サラ金や信販会社含めて8件くらいから借りていたので、利子も含めて倍ぐらいに膨れ上がっちゃったんですよ。べつに自分は酒もタバコもギャンブルの趣味もないですし、贅沢は一切しないんです。でも、プロレスを続けていくために借りて返してを繰り返していたら、最終的にそういう状況に追い込まれてしまって……。もうレスラーをやっていくだけの金銭的な体力はなかったですね。それで一旦、97年にプロレス界から足を洗うことになるんです。

――その後、01年にIジャで復帰するまで

インディー街道まっしぐら！ 三宅綾ヒストリー

1990年
▼1月17日　FMWでマスクマンのザ・シューター2号としてvs上野幸秀戦でデビュー。
▼5月13日　素顔の三宅綾として登場。以後、ザ・シューター2号と使い分ける。
▼8月末　FMWを退団（夜逃げ）。

1991年
▼6月21日　ミスター・ポーゴに誘われるかたちで『世界格闘技連合W★ING』の設立発表記者会見に出席。
▼8月7日　W★ING旗揚げ戦で金村ゆきひろと組んで、ザ・ヘッドハンターズと対戦。
▼11月19日　W★INGのフロント陣が分裂、WMAとW★INGプロモーションに分かれる。三宅はW★INGプロに参加。

1994年
▼1月14日　ギャラの遅配が原因でW★INGプロを退団。
▼2月26日　NOWにフリーとして参戦。以後、レスリング・ユニオン参戦を経て、5月16日よりNOW所属となる。
▼6月30日　WARに参戦。WAR認定世界6人タッグ王座決定トーナメントの1回戦で、憧れである天龍源一郎と初めて対戦する。このあと、NOW所属としてユニオンプロレスや剛軍団、IWA格闘志塾、SPWFなどさまざまなリングに参戦。
▼11月　NOWから東京プロレスへ移籍。12月7日の旗揚げ戦から参戦する。

1995年
▼3月25日　第三次W★INGに参戦。
▼5月5日　大仁田厚の引退試合が行なわれたFMW川崎球場大会に参戦。古巣に5年ぶりに里帰りをはたす。

1996年
▼5月25日　東京プロレスを退団。
▼6月29日　FMW時代に付き人を務めていたターザン後藤率いる真FMW入りをはたし、IWAジャパンを主戦場とする。
▼12月7日　古巣の東京プロレス両国国技館大会に参戦。

1997年
▼8月4日　WARクラブチッタ川崎大会を最後に、"腰椎の損傷"を理由にプロレス活動を停止。

2001年
▼4月17日　フリーとしてIWAジャパンに参戦、約4年ぶりにプロレス活動を再開する。

2003年
▼11月30日　スティーブ・ウィリアムストのコンビで第9代IWA世界タッグとなる。レスラーとしてベルト初戴冠。

2004年
▼7月20日　この日の大会を最後にIWAジャパン離脱。

2005年
▼5月2日　レッスルエイドに参戦。以後、4年にわたってリングから遠ざかる。

2009年
▼5月24日　IWAジャパンプロレス15周年記念興行に出場。メインの6人タッグに出場する。

裏稼業に手を染めたインディーレスラー

債権回収に風俗店経営……最終的に法に触れて警察の世話になりました

三宅といえば相手の技の受けのよさと同時に流血がトレードマーク。自身のベストバウトとする真FMW旗揚げ戦（97年6月17日、vsターザン後藤）でも、豪快な血まみれ姿を見せた。

に4年近くブランクがあるわけですが、このあいだは何をしてたんですか？

三宅 ……自分、その頃はアウトローだったんですよ。

——え、どういうことですか？

三宅 W★ING時代にお世話になったプロモーターの方がいるんですね。いわゆる渡世の方で、自分はいまでもオヤジさんって呼んで慕ってるんですけど、その親分さんに全面的に協力してもらってシノギに手を染めました。

——……。

三宅 こういう話をすると「三宅はヤ●ザだ」って誤解を招くかも知れません。でも隠したらこれまでの自分自身を否定することになりますから、自分にウソはつきたくないんです。

——……どういったきっかけでその世界に入ることに？

三宅 東プロを辞めた直後、家に東プロ関係者からガンガン電話がかかってきたんですよ。でも自分はプロレスのことを考えるのも嫌になってたので当分行方をくらまそうと思って、そのオヤジさんのところに身を隠したんです。そこからいままで以上にオヤジさんと親密になっていったというか、こんなにドン底な自分でもとことん面倒見てくれる姿に心酔していって。それと同時に〝弱きを助け、強きを挫く〟という任侠道の素晴らしさも教わりました。社会のつまはじき者みたいに思われがちですけど、あの人たちから教わる部分もたくさんあると思うんですよ。もちろん悪い部分を真似する必要はないですけど、なによりも義（利害を捨てて条理に従い人道のためにつくすこと）を重んじるところはプロレス界よりよっぽど立派ですし。そういった付き合いをしていく中で、自分は俗にいう〝企業舎弟〟になってました。

——企業舎弟というのは主にどういったことをするんですか？

三宅 切り取り（債権回収）もやりましたし、風俗店の経営もやりました。その頃はもうレスラーでいたいっていうよりも、お金がなくなることのほうが怖かったですから、生きていくためには仕事を選ばなかったですね。逆にレスラーを「こいつら、スポットライト浴びてるけど実際は借金まみれなんだろ？」みたいに見下すようになってましたし。

——その頃には自分の借金も返済したわけですか？

三宅 少しずつ解決していきました。オヤジさんが後ろ盾にいたおかげで、羽振りもよくなって。時代もまだよかった。当時は月収が手取りで120万は取るようになってましたから。

——は〜、レスラー時代からは考えられない額ですね。

三宅 マンションに引っ越して、仕事の拠点として都内に事務所も構えて、車もセルシオに乗ったり……一気に生活レベルが上がりましたね。

——それは相当お金を豪快に使ってたんじゃないですか？

三宅 そうですね、当時は飲み食いから女遊びまで派手でしたね（笑）。たとえば焼肉屋に行くにしろ、いつも5、6人連れて歩いてましたし。服装もベルサーチとか普通に買ってましたから。当時のアウトロー仲間の中でも自分が一番か二番くらいに景気がよかったですね。

——そこまでくるともう怖いものなしというか。

三宅 自分の性格が悪いほうにガラッと変わりましたね。もうガマンすることは恥だと思ってましたから。警察に逮捕されることをまったく恐れない状態ですからイケイケでしたね。ずっとプロレスでガマンしてた反動もあってか、貧乏に対する恐怖心があって。東プロの頃は「これだけ借金を抱えてたら人間として終わってるな。こんなんじゃ普通の友だちができない、絶対に盛り返さなきゃ」って思ってましたから。それはプロレスじゃ無理だってわかってましたし。

——周りのプロレス関係者は三宅さんがその世界の住人になったのは知ってたんですか？

三宅 知ってる人は知ってましたが、ほとんどいなかったと思います。でも当時、たまに仕事の息抜きでプロレスを観に行ってたんですけど、関係者の中には自分の姿を見て「三宅、ここまで落ちぶれたか」って思ってた人もいたかもしれませんね。でも、こっちはこっちで「こいつらかわいそうだな」って憐れんでたんで、逆にレスラー仲間や顔見知りのスタッフにバッタリ会うとポンポン小遣いをあげたりもしましたね。

——お金で苦しんだ身としては、かたちはどうあれ順風満帆だったというか。

三宅 いや、やっぱり世の中そうはうまくいかないんですよ。自分、最終的には警察のお世話になりましたから。

——……え⁉

三宅 お金って怖いですよ。大金を手にして冷静な判断ができなくなってた部分もあったんでしょうね。シノギで手を広げすぎて、最終的には法に触れてしまったわけですから。自分の場合は執行猶予3年、

懲役1年のしょんべん刑だったので、弁護士に頼んで保釈金を払って20日で出れたんですけど。

——そんなことがあったんですか……。

三宅　（唐突に）鈴木さん、逮捕されて拘留されたことってあります？

——え？　い、いや、ありませんけど（汗）。

三宅　あの中って、本当に凄く寂しいんですよ。あんなに孤独を感じる場所はないです（しみじみと）。そんな留置場で自分が毎日のように思い出してたのが、天龍さんと闘ったことだったんですよ。「俺にもあんないい時代があったんだな」って思い返してたら、無性にプロレスをやりたくなったんです。それで釈放されてから、浅野（起州）さんに頼んでIジャに出してもらうことになったわけです。

——そういうことだったんですね。

三宅　もうその頃にはプロレスにお金は期待してないですから。そう割り切ると気持ち的にも楽になりましたね。浅野さんには感謝してますよ、普通の経営者だったら「前科者なんてとんでもない」って思ってもおかしくないのに受け入れてくれて。Iジャでは（スティーブ・）ウィリアムスと組んでタッグリーグで優勝して、初めてプロレスでチャンピオンになったんですけど、いつもベルトをアタッシェケースに入れて持ち歩いてましたよ（笑）。またプロレスやれてよかったなって、凄い嬉しかったのを覚えてます。

——その後、05年のレッスルエイド参戦を最後に、また4年にわたってブランクが空きますよね。

三宅　この頃にはもうブリーダーをやりたいなって思ってたんですよ。

——そもそもブリーダーを志したのは何がきっかけだったんですか？

三宅　子どもの頃からプロレスラーのほかに、犬のブリーダーをやりたいっていう夢もあったんです。小学生のときに野良犬にエサをあげたらついてきて、かわいいから家に連れて帰ったんですけど、親の許しが出なくて泣きながら捨てたことがあったんですね。で、次の日に学校に行こうとしたら、玄関先でその犬が待ってるんですよ。それを見たときにこんなに素晴らしい生き物がいるんだなって感動して。まぁ、エサをあげたからなついたんでしょうけど（笑）。

みやけ・りょう■1970年12月8日、神奈川県出身。90年1月、FMWのvs上野幸秀戦でデビュー。その後はインディーシーンを中心に活躍。現在は過去の過ちを反省し、第二の夢（犬のブリーダー）に奮闘中。犬たちに囲まれた穏やかな日々を送っている。170cm、102kg。ブログ『★ブログ～本音でよろしいですか?★』http://blog.livedoor.jp/rose_color2002/

——ブリーダーとしてのノウハウはどちらで？

三宅　Iジャにいた頃に犬の世界の師匠に出会いまして、その人からいろいろと学んだんです。当時は何かでちょっとした小金が入ると、すぐ犬の買いつけに全国を回ってましたね。もちろん最初は大変でしたよ。犬を10匹飼ってもその犬が子どもを産むのは1年後ですから、そのあいだはお金にならないわけですし。

——どのあたりで軌道に乗ったんですか？

裏稼業に手を染めたインディーレスラー

お金は魔物以外の何者でもないです いい意味でも悪い意味でも人を変えます

三宅　当時、自分はブリーダーで食えないのでレッスルエイドの代表に「運転手をやらせてください」と頼んだんですよ。そうしたら代表が「こんなことやらずに本腰入れてブリーダーをやってくださいよ」ってお金をポンと支援してくださったんです。それを元手に広げていって、最初の年は年商３００万だったのが次の年には４５０万、去年は７００万になって。まぁ、経費も２００万近くかかるんですけど（苦笑）。いまは大きく儲けようという気はなくて、大好きな犬に囲まれて暮らせるなら、細々とでも食べていければいいかなって思ってます。

——なるほど。もういわゆる裏稼業はやってないんですか？

三宅　一切やってないですね。時代も変わりました。裏稼業に甘みはありません。いまは庭つきの一軒家で60頭近く犬を飼ってるんですけど、昔のように何かに巻き込まれて犬の世話ができなくなると困りますし。

——え～、一人でそんなに飼われてるんですか⁉

三宅　本当、プロレスとまでは言わないまでも過酷な肉体労働ですよ（笑）。朝起きたら犬を全部庭に出して運動させて。そのあいだにウンチを拾って掃除して食事も与えて。それだけで一日終わりますからね。なおかつ、お産があるとどこにも出かけられなくなるんですよ、二日間くらい徹夜するときもありますし。でも、やっぱり購入していただいたお客さんから犬の近況を教えてもらったときなんかは嬉しいもんですよ。プロレスでいい試合をしてお客さんに拍手をもらうのと同じような喜びがあるっていうか。

——いまは本当に充実してるんですね。

三宅　ここまでけっこう波瀾万丈でしたけど、自分は幸せなほうだと思います。自分がやりたかった二つの夢を、周囲の仲間や先輩方の力添えもあって結果的に両方とも実現できたわけですから。昔、オヤジさんに「おまえは自分の趣味をシノギに変えるよな」って言われたんですよ。そのつもりはないんですけど、結果的にはそうなってますからね。

——これまでを振り返ってみると、お金によって天国と地獄も経験したと思うんですけど、三宅さんにとってお金ってどういうものですか？

三宅　……魔物以外の何者でもないですね。いい意味でも悪い意味でも人を変えますし。金があるときは自分で自分を止められなくなっちゃいましたから。やっぱり自分にとっては逮捕、拘留されたことがターニングポイントでしたね。

——大金を手にすると、場合によっては破滅と隣り合わせというか。

三宅　いまはああならないように、ならないようにって日々心がけてますよ（笑）。まぁ、結局生きることはみんな修行ですから。若い頃のインディー時代のことも、裏稼業をやってたこともみんないい経験になってます。

——これからプロレスとはどう関わっていきたいですか？

三宅　いまはブリーダーが本業ですから、プロレスはタイミングと試合をする意義が見出せればリングに上がるって感じですね。実際、今回復帰したことでほかの団体からもオファーをもらったんですが、プロとして生半可な気持ちや身体では上がりたくないですし。自分にとってプロレスはそのくらい大切なものなんですよ。

【09年6月1日／神奈川県・某所にて収録】

本誌じゃ読めないインタビュー
ここに載ってます!!

kamiインタビュー

DEEP
女子ライト級王者
MIKU

「6.28DEEP富山大会の見どころと女子格闘技で“やりたいこと”を語る!!」

このほかにも最近は宮田和幸、映画『チョコレート・ファイター』主演女優ジージャー、日沖発、小見川道大、金原正徳、菊野克紀など濃厚インタビュー掲載中!!

美女格闘技『ジュエルス』BLOG

注目の美女格闘技イベント『ジュエルス』のBLOGを毎日更新中。月替わりの6月担当はDEEPジム所属の新人アミバです!!

新日本プロレスNOW通信

最近リング内外が変わりつつある新日本プロレスからライセンス事業部・阿部タケシ氏が登場して最新の情報をお届けします!!

こちらプロレス村役場ドットコム

元『週刊ゴング』編集長・金沢“GK”克彦氏が、プロレス界の最前線で見てきたこと、取材したことを週1回のコラムで激筆!!

青木真也の『週刊ワオ木真也』

7.20『DREAM.10』でビトー“シャオリン”ヒベイロとの対戦が決定した“バカサバイバー”青木真也が心境を綴る!!

ポッドキャスト番組『mimipro』

カリスマ司会者・原タコヤキ君がお届けするプロレス&格闘技トーク番組。多彩なゲストも登場、ここでしか聞けない話もあります!!

試合速報

注目の試合の内容をいち早く速報します。試合の写真はもちろん、試合後のコメントなども細かくレポート!! 生観戦後も必読ですよ。

ニュース

カード発表や重大発表など、規模の大小にかかわらず記者会見の模様を素早くお伝えします。最新情報はここで読もう!!

最新号情報

次号の表紙は? 内容は? そんな疑問にいち早くお答えします。雑誌『kamipro』およびkamipro booksシリーズの発売情報はこちらで!!

このほかにも読者プレゼントなど嬉しい企画を多数ご用意してます

紙

プロレス&MMAのニュースサイト
kamipro.com
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
カミプロドットコム

無料です!

レッツ毎日アクセス http://www.kamipro.com/

イラスト◎ゴローちゃん

今月も抱き枕を股間に蟹バサミした状態でお届けする梅雨時じっとりコーナー、掟ポルシェの『萌え萌え女々苑』。今月のゲストは女子格きっての美形ファイター杉山しずか選手！　職場から直行したという地味目の私服にクラクラきながらお届けします！　マジ萌え!!

掟　格闘技を始めたきっかけが、「自分に向いてると思った」ということですけど、それは……ケンカが好きだってことじゃないですよね？

杉山　いや、向いてると思ったのは、この体重でこの身長だったからですね。普通の女の人よりはおっきいじゃないですか。

掟　べつに学生時代ケンカ三昧だったとかではない？

杉山　いやいや、人と組み合ったこともなかったんで。

掟　組み合わずに、ワンパンチで倒す！とかじゃなくて？

杉山　それはないです（笑）。

掟　失礼しました。唐突ですが、どんな男性が好みですか？

杉山　男っぽい人です。

掟　確かに、女っぽい男が好きって人、あんまりいませんもんね。神取忍さんだけは昔言ってましたけどね、「YOSHIKIは見た目が女みたいでキレイだから好き」って（笑）。

杉山　アハハハハ。まあ、言う人が言うと違うな。あとは、おっきい人がいいです。

掟　チェ・ホンマンとか？

杉山　さすがにちょっと違うかも……。じゃなくて、（体型が）ゴリマッチョの人たちはカッコよく見えますね。

掟　道場に行くとゴリマッチョだらけですよね？　これ、杉山さん的には相当危険じゃないですか？

杉山　危険ですね。密林ですねぇ（笑）。でも、全然アプローチはないです。

掟　いや、こんな美女を野獣の檻に入れて何もないってことないでしょう！

ジュエルススタッフ　DEEPジムで練習するときは猛獣が出現しない時間帯に練習時間をズラしてるんですよ。

掟　ホッとしました（笑）。青木真也選手をはじめ、DEEPジムの男子は基本全裸でウロウロしてるっていいますから。

杉山　あ～、クソ～ッ！（笑）。

掟　「全裸が見たかったのに！」と（笑）。ちなみに、スポーツ歴は「ラグビー」ってことですけど、女子では珍しいですよね？　観るのもやるのも好き？

杉山　はい。最初は観るのから入ったんですけど、観てるとやりたくなって、やりだして。本格的ではないんですけど、大学が体育学部だったんで、学校の休み時間とか男女混じってやってました。

掟　男女入り乱れて⁉　以前、何かで趣味は「ランパス」って書かれてましたけど、ランパスってなんですか？　まさかエロい意味の言葉じゃあ……。

杉山　いやいや、ラグビーのランニング・パスですよ。うしろに投げるパス。友だちからメールが来て、「今日ちょっとハマでランパスしようよ」とか（笑）。

掟　なんか、ドンドン、エロいワードに聞こえてきました！（泣）。ハメ、いや、ハマでランパスするんですか？

杉山　しますね。全速力で！

掟　全速力で息を切らしながらランパス⁉　いや～、なんか脇の下にじっとり汗かいてきました！（泣）。いまショートカットにしてますけど、堀北真希みたいになろうとして切ったとか。でも、できあがったら想像と違ったっていう。

杉山　そうなんですよぉ。試合の前に寝技の練習をしてて、髪も一緒に押さえ込まれたりして。そうすると、蝶々が貼りつけられたような気持ちになるんです。

掟　昆虫標本的な（笑）。でも、堀北真希というよりも、綾瀬はるかに俄然似てきました！　似合ってますよ！

杉山　うわ～、嬉しい！　髪をショートにしたのは試合に不利だからなんですけど、チャラく見えるかなと思ったのもあって試合の前に切りました。

掟　チャラく見えたほうがモテるんじゃないんですか？

杉山　モテ……なくていいんですよね（笑）。仕事場では。

掟　べつに苦労はしてないぞ、と。

杉山　い、いや、苦労してます（笑）。どうやったらモテるんですかね？

掟　ちょっと、信じがたいですね……。

杉山　私のこと「絶対モテないよ！」って思ってますよ！

掟　いやいや。もしかして、小中高とずっと女子校だったとかじゃないですか？

杉山　はい、ほとんど女子校でした。

掟　やっぱり！　大学に入って初めて男子がいる環境だったんですね？　それは大学がよくなかったんじゃないですかね。

杉山　そうなのかなぁ。

掟　同じ大学の男子は、みんなホモだったんだと思いますよ（根拠もないのにキッパリと）。

杉山　アハハハハッ。確かに、ガッチリが多かったですからねぇ。

掟　ガッチリでラグビーといえば全員ホモ！　新宿2丁目とか行くと、みんなラガーシャツ着てますからね。

杉山　このあいだ初めて2丁目に行ったんですけど、そういえば半ズボンでラガーシャツの人が多かったです。お店とか楽しそうだったし、公園も凄かった（笑）。

掟　公園はいわゆるハッテン場ですね。

杉山　ハッテン場って？

掟　見知らぬ男同士が、くんずほぐれつすることを目指して出会う場所です！

杉山　あ～～。凄～い。そこも行けばよかったですねぇ。

掟　行っても見向きもされませんよ（笑）。でも、グラビア誌『スコラ』にも登場するみたいですし、これからファンレターとか山ほど来るようになりますよ！

杉山　絶対来ないですよ！

掟　いや、実際もう来てるでしょ？

杉山　……街中で声かけられたり、手紙ももらったりするんですけど。「応援してます」とか、「僕も総合やってて、頑張ろうと思いました」みたいな内容の。

掟　その中に求愛的なキーワードは？

杉山　求愛なんて絶対ないッスよ！

掟　ルックスについてほめられたりすると照れます？

杉山　照れますねぇ。でも、「どうせ言ってるだけだろ」とか思っちゃいますね。

掟　そんなことないですよ！　杉山さん、写真で見るよりキレイですし。

杉山　アハハハハハッ（恥ずかしそうに顔を隠す）。

掟　どうしたんですか、突然！

杉山　そういうのが、なんかちょっと照れくさいですね（笑）。

掟　うお～！　リアクションがいちいち萌え～！（泣）。

第36回
杉山しずか
（空手道禅道会 横浜支部）
の巻

すぎやま・しずか■1987年2月11日、米国ニューヨーク出身。小中高とバレーボールに打ち込む。その後、禅道会で空手を習得し、08年11月16日のジュエルス新宿大会でのHARUMI戦でプロデビュー。現在までジュエルスは皆勤で戦績も3戦3勝と絶好調。特技&必殺技は“ばくらはぎ”（各自調査）、好きな格闘家はミノワマンにビッグ・シゲ（佐伯繁）。空手道禅道会横浜支部所属。165cm、58kg。
ブログアドレスは→http://blog.livedoor.jp/megmen/

5・16ジュエルス新宿大会ではTBSの人気番組『あらびき団』で注目を集めたキュートンのコスプレ&ダンスで入場した杉山（ちなみに前回の入場ではエアあややを披露）。試合ではヨアキム・ハンセンからの刺客にキッチリ勝利。次のネタはなんだ？　萌え～！

Okite Porsche◎掟ポルシェ■ロマンポルシェ。のライブ予定は7・3（金）渋谷club asia（03－5458－2551）、w／アーバンギャルド、7・25（土）渋谷O－nest（03－3462－4420）、w／AMGEL O.D.ほか。その他の情報は掟ポルシェブログを死ぬ気でチェック！
［http://blog.excite.co.jp/porsche/］

ターザンとお金

この取材で義理人情より「ターザンはお金である」ことが、はっきり証明された。これは一つの歴史的転換である。

週刊 メガネスーパーが殴り込み
プロレス
NO.377 5/15
天龍、全日本離脱
この事件で義理人情より
「プロはお金である」ことが、
はっきり証明された。
これは一つの歴史的転換である。
定価320円

このところ、なぜか毎月のように本誌に登場し、『月刊ターザン』状態となっているターザン山本インタビュー。今月も「お金」特集ということで、やっぱり登場してもらいました。現在、『ターザンカフェ』の日記で連日「全財産が250円」「スルメが三度の食事の代わりになる」など、極貧ぶりをアピールしているが、『週プロ』編集長時代は、稼ぎまくっていたことはよく知られている。はたして、当時のターザンはどれだけ稼いでいたのか。そしてどのようにしてお金を失なったのか？

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

特集 お金

ターザン 『kamipro』もよくボクに話を聞きに来るねえ。ボクはもう人生にしらけて隠居してるような身なのに。

—いや、今号のテーマが「お金」なんで、かつてお金があって、いまはまったくお金がない山本さんにいろいろうかがおうかな、と(笑)。

ターザン またひどいこと言うなあ。

—山本さん、いまの生活はどうなんですか?

ターザン 厳しいねえ! 今日なんて前年度分の区民税の督促状が届いててビックリしたよ。最後の4期分、16万円!

—16万円! それはなかなかキツい額じゃないですか?

ターザン 吉田豪ちゃんにも言われたけど、もう自己破産になるよ!

—16万円で自己破産ですか(笑)。まったくお金はプールしてないんですか?

ターザン まったくのゼロ。もう競馬で勝つしかないよ!

—また競馬ですか。

ターザン でも、そう思ってやると必ず返り討ちに遭うんだよねえ(しみじみ)。

—いつものことですね(笑)。

ターザン もう生きていても競馬でしか燃えられない、どうしようもない男になったんだよ……。

—でも、ターザン山本全盛期も競馬に燃えていたわけですよね?

ターザン そのときは凄かったよ! 毎月キャッシングで20万円借りても、翌々月5日の支払いが絶対に滞ることはなかったもん。

—っていうか、お金があった頃もそんなにキャッシングしてたんですか!?

ターザン ベースボール・マガジン社から歩いて3分で後楽園のウインズに行けるじゃない。そこにはこれみよがしにキャッシングコーナーがあるんだよ! 「ここを利用してください」みたいな。だから、手持ちがなくなったら、すぐにキャッシングですよ!

—見事に策略にハマッてますね(笑)。でも、スッた分以上にお金が入ってきてたわけですよね。

ターザン そうですよ。『週プロ』の編集長としてのお金以外にも、ボクはミスターX名義で本をバンバン出して、あれが売れたからさ、印税が凄いんだよね。要するに副業の収入が凄かったんですよ!

—そんな副収入は会社的に許されてたんですか?

ターザン ベースボール・マガジン社は当然、就業規則でアルバイト禁止ですよ! それどころか、あの会社は創業者以外には「目立つな」という暗黙の決まりがあって、社員は黒子でなければならない。だから『週プロ』以外の雑誌は編集後記すら書いちゃいけないわけ。だから『週プロ』が署名記事を書いていること自体、会社としてはおかしいわけですよ!

—黒子じゃなきゃいけないのに、山本さんは自分を表紙にしたりしてたわけですか(笑)。

ターザン もうテレビやラジオに出るわ、勝手に本は出すわ、やりたい放題ですよ! それであるとき、常務に呼ばれたんですよ。「山本くん、キミねえ、ウチの会社で年収が5番以内だよ」って。

—いち編集長が社内でトップ5入りですか。

ターザン 社員は二百何十人もいるんだよ!? その中で社長も含めて5番以内だからね。というのはね、ボクの副収入がどれぐらい入ってるのかっていうことも、会社の経理はわかってるわけですよ。税金の問題とかもあるから。そしたら、ボクの年収は常務や専務クラスになってたらしいんだよね。そんなことがバレたら、普通は即クビですよぉぉぉ!

—クビにならなかったのは、それだけ当時の『週プロ』が稼いでたということですか?

ポケットブック社から発行された活字プロレスシリーズ。これをターザンは「ミスターX」名義で次々と出して印税で荒稼ぎ。しかもターザンは原稿を書いたわけでなく、しゃべっただけで、実際に書いたのは現・某誌の編集長というやっつけぶりだった。さすが!

『週プロ』編集長時代は副収入が凄くて年収が常務や専務クラスになってたよ!

ターザン そう。『週プロ』が莫大な利益をあげてたから、資本主義の論理で勝てば官軍。すべておとがめなしだったわけよ。ただね、ボクがあまりにもテレビやラジオに勝手に出てたので、会社は社員がほかの媒体に出るときは、総務に届けを出すというシステムを作ったわけですよ。ところがその取り分は、7対3。会社が7割持っていくんですよ! 俺、それを聞いた瞬間、絶対に届け出ないことにしたよ。

—ダハハハ! 堂々と規則破りしてましたか(笑)。

ターザン そう。そんなのふざけんな、アホか、みたいな感じでさ。堂々とルール破りですよ。

—とんでもない社員ですね(笑)。

ターザン それにさあ、雑誌でインタビューを受けたり座談会に出たりすると取っ払いでくれるじゃない。あれがいいわけですよ。小遣い稼ぎでね。あとは、たとえば年末に『東スポ』のプロレス大賞があるでしょ? あれなんて、(選考委員として)出席するだけで5万円もらえたからね。

—出席するだけで5万円!

ターザン しかも二段になった高級なうな重を食べさせてくれてさ。その代わり、暗黙の了解というか、向こうが望んでいるとおりに投票しなきゃいけないの。

—ダハハハハ!

ターザン ハッキリ「これに入れろ」とは言われないけど、桜井(康雄)さんが来て「わかってるでしょ?」って言ってくるんですよ。しかも、選考委員って過半数が『東スポ』の人だから、外部の人間が違う人をMVPやベストバウトに推したところで、どうせ数では勝てないわけですよ。だったらボクは自分の意見を言うだけ無駄なんで、ひたすらうなぎを食いながら黙ってて、言われたとおりに手を挙げるんですよ。

—「意義なし」と(笑)。

ターザン だって超一流のVIPうな重ですよ! しかも帰りは「交通費です」って5万円だもん! そんなのもう相手の言いなりですよ!

—まあ、『レコード大賞』とかだって、裏でいろいろあるのは、もう公然の秘密みたいになってますもんね。

ターザン そうですよ! 賞レースなんて、そんなもんだよ!

—あと、昔は団体側から大入り袋なんかも、けっこう出たんですよね?

ターザン 大入り袋はよく出たねえ。それどころか、新日本プロレスと全日本プロレスが引き抜き合戦をやり合ってた頃(80年代前半)なんて、新日本の記者会見に行くだけで交通費として新日本から茶封筒が渡されて、中身はなんと5000円札が入ってるんですよ!

UWFと全女のドームでン十万円の大入り袋をもらったけど、一瞬にして競馬で消えたよ！

―記者会見に行くだけで5000円ですか！

ターザン あとは蔵前国技館でビッグマッチがあったりすると、新日本の大塚（直樹）さんが来て、試合を撮影してるカメラマンに5000円札が入った大入り袋をパーッと渡すんですよ。そして、ボクたち記者連中も大入り袋をもらって帰るわけ。

―いい時代ですねえ。

ターザン 昭和50年代の5000円だからね、凄いですよ！

―『週プロ』編集長になったあとは、UWFや全女からかなりの金額の大入り袋が出たんですよね？

ターザン うん。UWFと全日本女子は東京ドームでやったじゃない？

―89年のUWF『U-COSMOS』と94年の全女オールスター戦ですよね。

ターザン その興行が終わったあと、両方の社長がおそらくボクだけ特別の大入り袋をくれたんだけど、中身を見てビックリしたよ！ ン十万円ですよ！

―ン十万円！ 大入り袋の域を超えてますよ！

ターザン でも、このン十万円は本来、編集部の部下に分け前として配らないといけないわけよ。

―ああ、山本さんに対してというより、『週プロ』編集部に対して出した大入り袋なわけですね。

ターザン それは言ってみれば、ボクが責任者で力を持っているからボクにくれたわけですよ。でも、本来ならボクが半分もらって残りの半分は部下に分けるとか、お疲れさんの飲み会を開くとかするわけですよ。でも、それをやると、部下が次もそれを期待しちゃうでしょ？

―確かに、ビッグマッチがあるたびに、団体からお金がもらえるんじゃないかって思っちゃいますよね。

ターザン そうすると、邪念が入るんですよ。だからボクはあえてそのお金を翌週の競馬に全部賭けて、全部スッたんですよ！

―え〜〜っ！ せっかくのン十万を全部競馬でスッちゃった！

ターザン 競馬で使ったから、後腐れも罪もないわけだよ。

―充分、罪がありますよ！（笑）。

ターザン いや、これがン十万円でものを買うとか、風俗に行くとか、旅行に行くとかだったら、いけないことかもしれないよ。でも、一瞬のうちに競馬でなくなったんだから、最初からそんなもんなかったのと一緒になるんですよ！

―そんなの風俗も旅行も一緒ですよ（笑）。

ターザン （無視して）ボクは現場の士気を下げないために、あえて競馬で使ったんですよぉぉぉ！

―都合のいい解釈ですねえ。でも、ン十万円もの大入り袋が出るってことは、それだけプロレス団体も儲かってたってことですよね？

ターザン いや、UWFにしろ、全日本女子にしろ、彼らが東京ドームでやること自体が一生に一度しかないじゃない。もう晴れ舞台も晴れ舞台、超晴れ舞台だから、興奮してるわけですよ。だから気持ちが大きくなって『週刊プロレス』さん、応援してくれてありがとう！」って本人の大自己満足で大入り袋出してるんですよ。本来は神社長も松永会長もケチな人だと思うよ。

―ン十万円ももらっておいて「ケチ」呼ばわりですか（笑）。

ターザン そのケチな人（ターザン註・本当は尊敬しています。これはウソではありません。本心です）が大きな気持ちになったのが美しいわけですよ！ まあ、その彼らの美しい気持ちをまったく俺は台なしにしてるんだけどね。

89年11月に行なわれたUWF東京ドーム大会での『週プロ』スタッフ集合写真（ターザン提供）。前列には佐藤正行大編集長や安西グレイシー、後列には宍倉ジチョー、フミ・サイトー、更級四郎さん、さらにはサダハルンバ谷川の姿も！『週プロ』増刊号はこの錚々たる顔ぶれによって作られながら、ン十万円を独占するターザンはさすがなのであった。

―ダハハハ！ 一瞬のうちに競馬に溶かして、記者連中から団体が感謝されることもないわけですからね。

ターザン そういうあぶく銭は所詮、競馬に使うのが一番いいんですよ！

―でも、UWFや全女がそれだけお金を出してたんなら、SWSなんて相当大盤振る舞いだったんじゃないですか？

ターザン SWSはケタ違いですよ！ スケールが違う。でも、ボクはSWSと仲悪かったじゃない。だからお金が出たりはしてないけど、取材拒否になる前は凄かったよ。SWSは旗揚げ前にハワイで公開練習みたいなのをやったでしょ？

―ありましたね。

ターザン あれは各社の記者、カメラマン、みんな招待だからね。飛行機代だけじゃなくて、もちろんホテル代も含めて全部向こうが出してくれたんですよ。

―そんな取材に行ってみたいですねぇ（笑）。

ターザン しかも、最後に（ドン）荒川さんだか誰だかが来て、マスコミに対して「遠いところご苦労さんでした」って封筒を渡して、その中に10万円ずつ入ってたらしいよ。

―アゴ足つきでハワイに招待してもらって、なおかつ10万円ですか！

ターザン でも、さすがにみんな10万円もらうのは断って、返したんだよ。でも『週プロ』の安西（伸一）だけ、そのままもらって帰って、ほかのマスコミから大ひんしゅくを買ったわけですよ！（笑）。

全日本の武道館や後楽園のあと、呼ばれてもいないのにキャピトル東急に行くんですよ！

——ダハハハハ！　ひどい。

ターザン　ＳＷＳを応援してる記者がみんな断ってるのに、ＳＷＳのことよく書いてない『週プロ』だけもらってるんだからね。

——そして、ますます『週プロ』は業界から孤立していったわけですね（笑）。山本さんもたしか一度、メガネスーパーの田中八郎社長（当時）と会談してるんですよね？

ターザン　それはもうＳＷＳが撤退しようとしたときだね。田中社長がＳＷＳでさんざん苦労していたときに、空中（正三）さんの仲介で呼ばれたんですよ。銀座のしゃぶしゃぶのお店に。

——また、もの凄くいい店っぽいですねぇ（笑）。

ターザン　超高級店ですよ！　田中社長とは初めて会った瞬間、あうんの呼吸でツーカーになったけどね。もし、ＳＷＳができる前に会ってたら、プロレス界というか時代が変わってましたよ！

——ガンガンＳＷＳを押してたかもしれない（笑）。

ターザン　間違いなくＳＷＳが天下獲ってたよ！　それで帰りに社長が車代くれたのよ。それが目が飛び出るぐらいの○万円。

——うわ～、どんなお車代ですか！

ターザン　銀座から自宅までタクシーで帰っても１万円かからないわけですよ。それが○万円だからね。タクシーの中でそりゃもう興奮したよ！　しょんべんちびりそうになったよお！　そして社長は当然、タクシーで帰ったからね。小田原まで。

——小田原って、新幹線やロマンスカーで行くところですよ。タクシーに乗ったらいくらかかるんですか⁉

ターザン　ビックリしたよね。

——いやあ、メガネスーパーはプロレス界にとって空前絶後のスポンサーですね。

ターザン　とにかくお金を湯水のごとくつぎ込んだんじゃないかな。

——そんな素晴らしいスポンサーを『週プロ』は叩きまくってた、と（笑）。

ターザン　それは仕方ないよ！　ＳＷＳができたとき、ボクは馬場さんのほうを取ったじゃない。馬場さんのほうが断然好きだし、たとえそれで『週プロ』が負けても本望だよ。

——それで全日本プロレスを大プッシュしつつ、ごはんをごっつぁんしてたんですよね（笑）。

ターザン　馬場さんは食べることが大好きだから。後楽園大会と武道館大会が終わると、必ずボクは呼ばれてもいないのに勝手にキャピトル東急ホテルに行くんですよ。ボク一人じゃマズいんで、市瀬（英俊＝元『週プロ』全日本担当記者）くんも呼んで。そしたら、そこに（和田）京平ちゃんと（馬場）元子さんがいて、馬場さんと5人で『オリガミ』（レストラン）で食事をするわけですよ。

——そこでマッチメイクの話とかをしてたんですか？

ターザン　いや、まずその日の興行のポイントというか、どこがよかった、どこがちょっと問題あったとか、この選手がよかったとかボクが全部しゃべるんですよ、ワーッと。その日の大会の反省会だよね。で、それが終わると「次の武道館大会のカードはこれでいいですか？」という話をするんだけど、そのカードは市瀬くんが考えるの。

——マッチメイクは市瀬さんが考えてましたか！

ターザン　市瀬くんは頭がいいし、プロレス界の市場リサーチができていてファンの気持ちがわかってるから、絶妙なマッチメイクを考えてくるんですよ。でも、彼は一介の記者でしょ？　馬場さんはお殿様だから、息子ほど歳の離れたイチ記者の言うことは、鵜呑みにできないわけですよ。だから、市瀬くんが考えてきたカードを、編集長のボクがどんな意味があるのか説明して、ようやく採用されるんですよ。

『金権プロレス』のレッテルを貼り、あの手この手でSWSバッシングを繰り返してきたターザン時代の『週刊プロレス』。でもSWS旗揚げ前にターザンと田中社長が会っていたら、「天下を獲っていた」というのだから、じつに現金。

——つまり、市瀬さんが考えていたのに、馬場さんへのプレゼンというおいしいところは山本さんが持っていってたわけですね（笑）。

ターザン　そういうことですよ！（笑）。でも、馬場さんは格を重んじる人だからしょうがないんだよね。マッチメイクしたカードは市瀬くんが馬場さんの自宅に直接ＦＡＸで送ることもあったんだけど、それだと市瀬が書いた字だってわかっちゃうでしょ？

——まあ、山本さんの字じゃないことはわかりますね（笑）。

ターザン　だからね、市瀬くんからＦＡＸが届くと、元子さんが全部清書するんですよ。それを「山本さんからマッチメイクが来ました」って馬場さんに見せるの。手が込んでますよ！

——そんなことまでしてましたか。じゃあ、市瀬さんが全日本の陰の頭脳だったんですね。

ターザン　でも、それを知っているレスラーは嫌がるわけですよ。小橋とか川田とかは内心「なんで部外者の『週プロ』がマッチメイクをやるんだ」ってね。でも、その代わり『週プロ』が全日本をバックアップしていたので、持ちつ持たれつの関係なんですよ。

——全日本のレスラーも強くは言えないわけですね。

ターザン　あと馬場さんが考えたカードはレスラーの立場を重視するから、ファンからすると答えが見えてしまうんだよね。

——なるほど。ところで、市瀬さんがマッチメイクを考えていたということは、89年に札幌でやったジャイアント馬場&ラッシャー木村組vs天龍源一郎&スタン・ハンセン組で、馬場さんが天龍さんにフォール負けしたじゃないですか。あれも市瀬さんが考えたんですか？

ターザン　違う違う。あれは馬場さんですよ。市瀬が「馬場さん、天龍さんにフォール負けしてください」なんて、言えるわけないじゃない！

——そりゃそうですね（笑）。

ターザン　あれは同じ日にＵＷＦの東京ドーム大会があったでしょ？　馬場さんとしてはそっちにマスコミの注目は全部いって、札幌には〝２軍〟の記者が来て、扱いも小さいっていうのは癪じゃない。そしたら、自分がフォール負けすることが『Ｕ－ＣＯＳＭＯＳ』の話題を消す、唯一の手段だと考えたわけですよ。あれ裏にＵＷＦのドーム大会がなかったら、絶対に馬場さんは負けてないよ！

——そういう発想ができるっていうのが、一流プロレスラーの凄いところですね。

ターザン　それと同じことをやったのが、猪木さんがドラゴンスープレックスで負けたときですよ！

——ああ、85年のＩＷＧＰタッグリーグ決勝で、猪木さんがドラゴン（藤波辰巳）にフォール負けを喫したんで

『週プロ』を辞めたあとが収入的には黄金時代！でも生命保険も全部解約して競馬につぎ込んだ

ハワイのワイキキビーチ沿いにある高級ホテルで、故・ジャイアント馬場さんをインタビューするターザン。90年代は馬場さんにごっつぁんさせてもらいながら、全日本プロレスを全面的にバックアップするという、美しき共犯関係を結んでいた。

すよね。

ターザン　あのときって、ホントは（ブルーザー・）ブロディ＆（ジミー・）スヌーカ組が決勝戦に出るはずだったのにボイコットしたでしょ？　それをリカバリーするために、ボイコット以上フォール負けして、自分がのアングルとサプライズを作ったんですよ。そういうときしか彼らは絶対に負けないよ！

――確かに猪木さんが藤波さんにフォール負けしたのって、それ一回きりですもんね。

ターザン　馬場さんや猪木さんが配下のレスラーに負けるなんてことは、プライドが許さないわけですよ。でも、ここぞというときに、その切り札を切るわけよ。そこが非常に憎らしいというか美しいというか、プロレス的だよね。

――なるほど。話を戻すと、少なくともその当時は、勝敗に関してはプロレスラーの聖域だったわけですね。

ターザン　うん。だから一度ね、ボクが「ここでAという選手がBという選手に負けなきゃ、絶対にダメですよ！」って言ったことがあるんだよ。そしたら、馬場さんは怒って席を立っちゃったからね。そのまま家に帰ってしまった。アチャーだよ！

――いきすぎたマネをしてしまったわけですね。

ターザン　でも結局、ボクが言ったとおりの結果になったんですよ。だから、馬場さんは聞いてないフリをして、ちゃんと聞いてたんだよね。

――全日本プロレスと『週プロ』の蜜月時代が、全日本にとっても山本さんにとっても一番いい時期だったかもしれないですね。

ターザン　いい時期だったねえ（しみじみ）。

――でも、『週プロ』を辞めたあとも、しばらくは収入良かったんですよね？

ターザン　辞めてからのほうが収入は良かったよ！　フリーになっていろんな仕事がきて、いろんなところから本も出してさ。しかも、カミさんはいないし、子どもも家族もいないから、稼いだ金は全部自分で使えるんだから。黄金時代！　ゴールドラッシュですよ！　でも、家族がいないというのはやっぱり寂しいけどね……（寂しげに）。

――そのゴールドラッシュで稼いだお金はどうしたんですか？

ターザン　全部競馬で消えた（アッサリ）。

――やっぱりそうでしたか（笑）。

ターザン　だって生命保険250万円も全部解約して、競馬につぎ込んだからね！　それも一週間で全部消えたよ。

――ゴールドラッシュの時期に何をやってるんですか（笑）。

ターザン　そのあと『SRS・DX』では谷川（貞治）が月50万円出してくれたから、「これを貯金したら一年で600万円だな」と思ってたんだけど、それも全部競馬よ。

――あ〜、もったいない。

ターザン　それで『週刊ファイト』もなくなり、『週刊ゴング』もなくなり、もう大バチ当たりのドッボだよ！　自業自得の人生だよなあ（遠くを見つめながら）。

――逆に言えば競馬さえなければ、いま頃、凄い財産を築いていたかもしれませんね。

ターザン　そうだねえ。でもね、財産を残そうとか、お金を貯めようとしたら、絶対に運は逃げる！（キッパリ）。ツキが逃げるんだよ。俺は儲かってるのに、全部競馬でスッてゼロになるから、ハングリー精神が生まれて、ガーッと仕事をやってきたわけよ！　ゼロになるからいいアイデアが生まれるわけよ！

――で、いまゼロになってアイデアは生まれてますか？

ターザン　……アイデア以前に仕事がないんだよねえ（しみじみ）。こりゃ、やっぱり競馬で稼ぐしかないな！

――という結論で（笑）。今日はありがとうございました。

【09年5月20日／都内・『こちら葛飾区立石 極』にて収録】

たーざん・やまもと■本名・山本隆。通称・おじいちゃん。1946年4月26日、山口県出身。元『週刊プロレス』編集長。現在は競馬が仕事（本人談）。近著に女流作家（?）古関夢香との共著『62歳のボクに28歳年下の彼女ができたのだ！』（ロコモーションパブリッシング刊）がある。このたび映画監督としてもデビュー!?

元・UWFインター取締役
鈴木健が語る“最強団体”の台所事情
UWFインターはチケットがバカ売れした“WJ”だった⁉

UWFインターといえば、優勝賞金1億円のトーナメントを開催するなど、過激な仕掛けで90年代のマット界を賑わせながら、最後は1億円の借金を背負って解散するなど、何かとお金の話がつきまとった団体。そんな過激団体のフロントの長として、Uインターのお金にまつわる話をすべて知る男である、鈴木健元取締役が当時の台所事情を語ってくれた。

聞き手／堀江ガンツ

――鈴木さん、あらためましてUインター&キングダム時代の借金完済おめでとうございます（笑）。

鈴木　ありがとうございます。やっぱり10年かかったよね。でも、このお店（串焼き店『市屋苑』）で借金完済したことは、このあいだ『読売新聞』の夕刊にもカラーで載せてもらったからね。

――へえ、凄いですね。

鈴木　これ広告で出したら大変な額になるよ！

――では、そんな鈴木さんに今日はお金の話をうかがいたいんですよ。やっぱりUインターほどお金にまつわる話が多かった団体もないんじゃないかな、と。

鈴木　そうかもしれないね。

――「1億円トーナメント」をやったり、新日本から3000万円のリスク料を要求されたり（笑）。

鈴木　あったねえ、リスク料（笑）。

――それらを含めてダイナミックなお金の話がたくさんあったと思うんですけど、取締役として経営者だった鈴木さんからすると、やはりプロレス団体はお金がかかりましたか？

鈴木　かかるね。ただ、かかるけれど、当時のプロレス界はバブリーだったじゃない？

――90年代前半は一種のプロレスブームでしたよね。

鈴木　だからUインターを立ち上げるときだって、俺が6000万円用意して、高田さんが1000万円用意して、トータル7000万円用意してスタートしたんだけど、その6000万円だって簡単に集められちゃったからね。

――鈴木さん個人で6000万円ですか⁉

鈴木　いや俺の人脈でいろんな人に出してもらって。自分で出したのは300万円ぐらいだけどね（笑）。

――でも、個人の人脈でそれだけの大金を集めるって凄いことですよ。

鈴木　6000万円が4日間ぐらいで集まっちゃったからね。普通できないでしょ？　人脈が良かったのと、時代が良かったんだよね。あとはUWFの高田延彦っていう名前がやっぱり大きかったよ。

――なるほど。ただ、UWFが3派に分裂したとき、大きなバックなしで旗揚げしたのはUインターだけでしたよね。リングスにはWOWOWが全面協力でついて、藤原組はメガネスーパーが支援して。

鈴木　確かにそうだね。だからUインターのスポンサーはビデオテープだね。

――ビデオテープ？

鈴木　うん。Uインターはテレビ放送はなかったけど、そのぶん、クエストさんで売ってもらった試合のビデオテープがとにかく売れたの。毎回、800万円ぐらいの売り上げがあったからね。

――毎回800万円って、大ヒットじゃないですか。

鈴木　それで毎月のランニングコストが1500万円ぐらいだったから、そのうち800万円はビデオで賄えちゃったの。あとは興行収益やなんやで合計1500万円を上回れば、もうプラスになっちゃうからね。

――じゃあ、当初からけっこう収益は安定してたんですね。

チケットとビデオがバカ売れして2年目で3000万円の黒字が出た

鈴木　だから旗揚げ1年目はトントンで、2年目でもう3000万円の黒字だよ。普通、黒字転換するのにも時間がかかるのに、3000万も貯金があるんだから、これはイケるなって。チケットなんてバンバン売れちゃってたからね。

——でも、そのUインターも旗揚げした年の両国大会がコケたら、じつはヤバかったんですよね?

鈴木　ああ、あれがコケたら終わり。だって、もういろんなところにお金払っちゃってたからね。それでもなぜ勝負に出たかというと、最初は後楽園ホールでスタートしたから、後楽園の収益じゃ、月々のランニングコストの1500万円の利益なんて出るわけがないんだよ。それに旗揚げしたばかりだから、リングを作るのに700万円かかったり、あとオンボロの道場あるじゃない?　あの家賃も50万円取られてたんだよ。

——道場っていうか、オンボロの倉庫じゃないですか(笑)。

鈴木　そうだよ。どう考えても、せいぜい20万円だよね。でも、すぐに道場が必要だったから、そこにお願いしたら「50万円だ」って言われてね。それに俺自身がプロレス団体運営に関しては素人だったから、あらゆる相場がわからないわけじゃん。だから、「その程度なのかな」って思ってたからね。

——言い値どおりに払ってしまっていた、と。

鈴木　俺がもともとやっていた、文房具とか事務機の世界だったらいろんな金額もわかるけど、プロレス業界のことはわからなかったから。だから当時、リングの設営や撤去をある業者に頼んでたんだけど、それが一回50万円。でも、あとで知ったんだけど「ウチは8万円でやってるよ」っていうリング屋さんもあったんだよね。

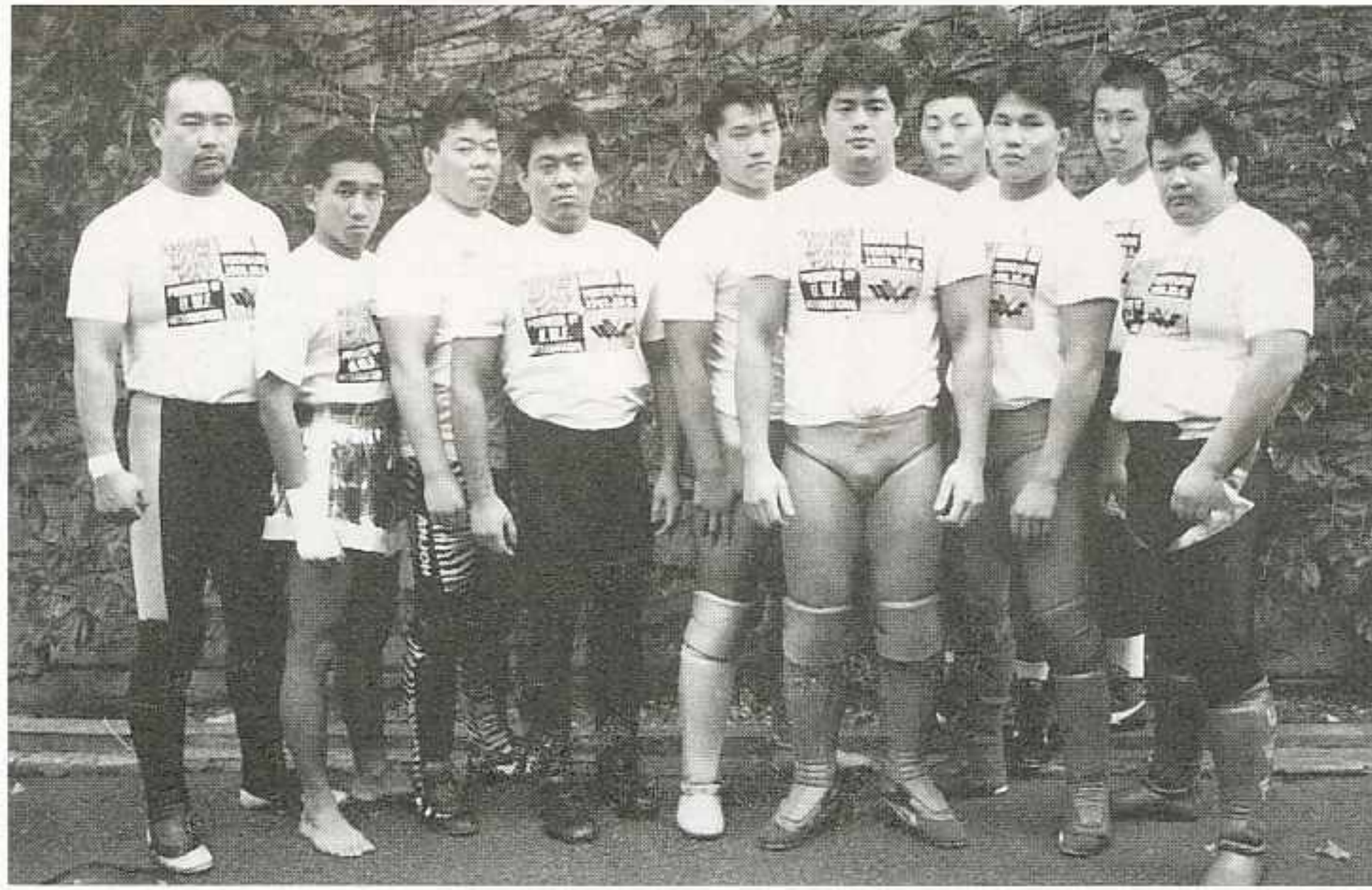
——50万円と8万円じゃえらい違いですね(笑)。

鈴木　でも、当時はそんな安いリング屋さんがあるとは思わなかったし、いろんな面で払いすぎてた部分があるんだよね。そんな感じで1年目は大変だったから、高田vsバービック戦を組んだ両国が成功しなかったらアウトだった。でも、結果的にはチケットは売れたし、ビデオも飛ぶように売れて大成功だったよ。

——そして2年目以降は絶好調だったわけですよね?

鈴木　絶好調。たしか3年目だったけど、地方に行くと経費がかかるからって、日本武道館で2カ月にいっぺん、年6回やったの。そしたら全部大成功だよ。日本武道館だけで試合やって年間黒字になった団体なんて、たぶんほかにないと思うよ。

——武道館といえば、2年目には高田vs北尾戦もありましたよね。

鈴木　純利益では、あの興行がUインターで一番儲かったね。チケットは完売だし、ビデオも売れたしね。チケットが足りなくて、スポンサーに渡した招待券まで回収したもん。

UWFインターは3派分裂したU系の中でも、最も多くの所属選手を抱えながらバックに企業がついておらず、経営は苦しかったものの、過激な仕掛けでU系ナンバーワンの人気を獲得した。

——そんな絶好調だったUインターに翳りが見えたのっていつぐらいですか?

鈴木　やっぱり、安ちゃん(安生洋二)がヒクソン(・グレイシー)の道場破りで敗れたあとだね。

——確かにあの敗戦のあと、Uインターが失速するだけじゃなく、プロレスから格闘技の時代になっちゃいましたよね。

鈴木　ただ言わせてもらいたいのは、打倒グレイシーっていうのは、プロレスを救うためにやったんだよ。だって、あのときパンクラスの(ウェイン・)シャムロックがホイス・グレイシーに負けたじゃない。

——第1回UFCで一本負けを喫しましたよね。

鈴木　それなのに、パンクラスは負けっぱなしで、そのままほったらかしにしたんだよ。ほかのプロレス団体も誰もグレイシーとやろうとしなかった。どうしてやらないの?　プロレスが負けたまんまになっちゃってるのに。だからウチがホイスと交渉を始めて、ラチが開かないので、標的をヒクソンに変えて、最終的にはああいうかたちになっちゃったんだけどね……。

——あとは93年ぐらいから、(スーパー)ベイダーだったり、ハシミコフだったり、大型外国人選手がたくさん来てたじゃないですか。それでコストがかさんだということはありませんか?

鈴木　あるね。でも、それは外国人だけじゃなく、日本人選手だって同じ。やっぱり毎年毎年、契約更改するたびに、全員ギャラアップしていったからね。

——全員がギャラアップですか。

鈴木　そう。プロレス界って、そういう慣習みたいなものがあったんだよね。だから旗揚げ当初はランニングコストが月1200~1300万円だったとしても、それが1400万円、1500万円って上がってて、結果的には2000万円以上のランニングコストがかかるようになってたから。

——ギャラは必ず右肩上がりでも、収益が必ず右肩上がりっていうことはありませんからね。

鈴木　ギャラだけじゃなくて、移動手段一つとっても全選手が新幹線のグリーン車に乗ってたの。いいホテル取ってね。対抗戦やったとき新日本に聞いたら、若手選手がグリーン車なんか乗ったことないって。ウチはそれだけ選手を大事にしてたよ。

——ちゃんと一流のプロスポーツ選手らしい扱いをしていた、と。

鈴木　そうそう、実際、一流のプロ選手だったしね。でも、あとからほかの団体のこといろいろ聞いたら、全然違うんだよね。でも、そういうのを知らなかったから、しょうがないよね。Uインターをやる前は文房具屋だったんだもん、俺。ほかのフロントだって、プロレス団体にいた人間は一人もいなかったしね。あらゆることが、おおよその勘でやってただけだから。文房具屋ケンちゃんは、プロレス団体に向いてなかったってことだよ。

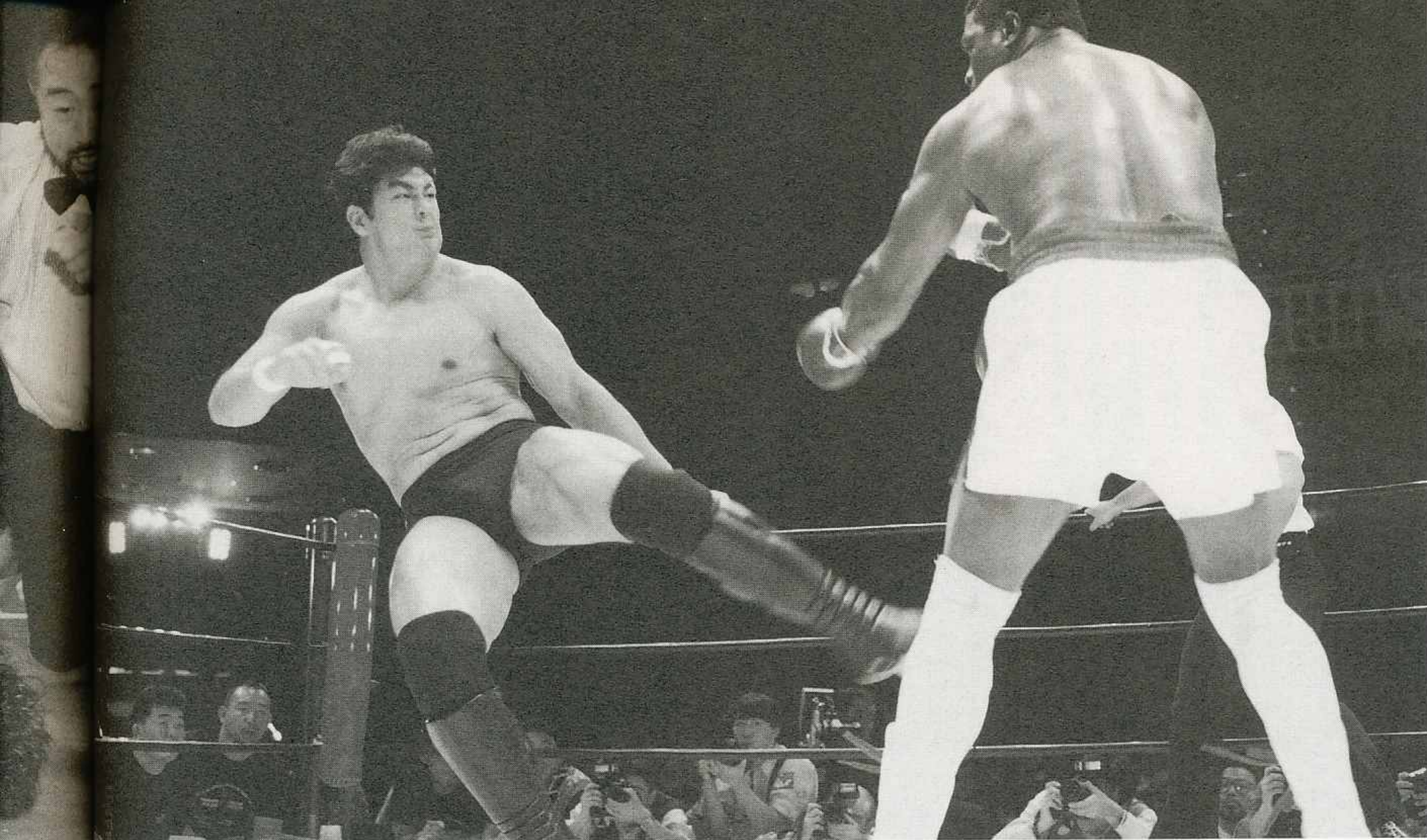
——なんか、そういった経費の使い方を聞くと、Uインターってお客が入って大成功していたWJプロレスって感じもしますね(笑)。

鈴木　WJもお金使ってたんだ。

——WJの場合は、無駄な使い方ばかりしていたんですけどね(笑)。

鈴木　ウチはお客さんが入ってたからよかったけど、経理は甘かったね。

——では、安生さんがヒクソンに負

1年目の両国が興行的にコケたら Uインターはその時点で潰れてた

91年12月20日に行なわれた、Uインター初のビッグマッチ両国大会。この大会でエース髙田延彦は、試合前に肋骨骨折の重症を負っていたが、興行失敗が即団体崩壊につながるため、手負いのまま元ボクシング世界王者トレバー・バービックとのシュートマッチに出陣。この大会の成功からUインターが勢いづいてきた。

けたあとの95年からは、そういった体質で、ランニングコストは上がっていきながら、チケットが急に売れなくなったわけですか?

鈴木　急に売れなくなったわけじゃないけど、売り上げは減ったよね。でも、ランニングコストは下がらないから、新日本と対抗戦をやった翌年（96年）の契約更改で、いろんな選手にギャラダウンを言ったの。「いま、こういう状況だから」って説明してね。でも、その条件が飲めなくて中野（龍雄）選手が辞めて、ほかの理由で宮戸（優光）選手が辞めて。でも仕方がなかったよ。新日本とやってから、チケットが売れなくなったから。

——でも、新日本と対抗戦やる前から、かなりの負債があって、ドームでの対抗戦のギャラでそれを返したんじゃないんですか?

鈴木　いや、そうじゃない。当時多額の負債があったのは新日本側だよ。北朝鮮（『平和の祭典』）で大赤字食らって、どうしてもまとまったお金が必要だったんだよ。

——それでUインターとの対抗戦を企画したんですか。

鈴木　だって俺が最初に向こうに持っていった話は、「若手同士をシュートで試合をさせて交流しながら、強い選手を育てていこう」ってことだったの。そういう提案を倍賞（鉄夫）さんと永島（勝司）さんに持っていったら、向こうから電話が来て「若手じゃなくて、上同士でやらせたほうがいい。全面対抗戦でやっちゃおう。10月9日に東京ドーム押さえちゃったから、そこでやろうよ」と。

——10・9ドームは、北朝鮮の赤字補填興行でしたか。そしてUインター側にとっても金額的に良かった、と。

鈴木　最初は選手全員まとめて5500万円って提示されたんだよ。でも、それを渋ってたら8800万円まで上がってね。それで試合前日に俺、倍賞さんに電話したの。そのとき冗談で「1億円払ってくれないと、やっぱり明日は出ない」って言ったらさ「1億円ですか……」って考えてるんだよね。あれ完全に払うつもりだったんだよね。冗談って取ってくれなかったんだよ。

——1億円払ってもいいぐらい前売りが売れてたんでしょうね。

鈴木　結局、「冗談ですよ、倍賞さん」って言ったら「ああ、ビックリした」って言ってたけど、冗談じゃなくてちゃんと「1億円ください」って言えばくれたんだなって思って。

——でも、そのドームの興行人気もUインターの興行には跳ね返ってこなかったわけですよね?

鈴木　あれは順番が違ったよ。最初にドーンとやっちゃったら、あとは尻すぼみになるよね。新日本の作戦にまんまと乗っちゃって、うまい具合に逃げられたよ。約束もことごとく裏切られたしね。これは次に出す本に書くつもりだけど。

——じゃあ、その8800万円でUインターが潰されたみたいな部分もあるわけですね。

鈴木　あるね。だって翌年5月にドームでやった髙田vs橋本（真也）戦のとき、ギャラ2000万円の約束をしてたの。それなのに試合後、永島さんが俺んとこに来て「じゃあ、1000万円は明日振り込むから」って言うのよ。

——なぜか半分になってる（笑）。

鈴木　ふざけてるよね。「え⁉ 2000万円でしょ?」って言ったら「いや、1000万円って言ったよ」ってトボけやがるの。そんなの嘘つくと思わないじゃん。当時のプロレス界は試合やるのに契約書なんか結ばないし、8800万円も契約書はないけどちゃんと振り込まれたし、天下の新日本プロレスがそんなことすると思わないじゃん。こっちだってバカじゃないんだからね、その金額を忘れるわけがない。

——それでもトボけきってたわけですか?

鈴木　だから「2000万円振り込め」って強硬に言ったら「2000万円なんて言ってないけど、1500万円でいい?」とか言ってさ。「何それ? おかしいでしょ!」って言っても、結局、1500万円しか振り込まれなかったからね。

——ひどい話ですね。

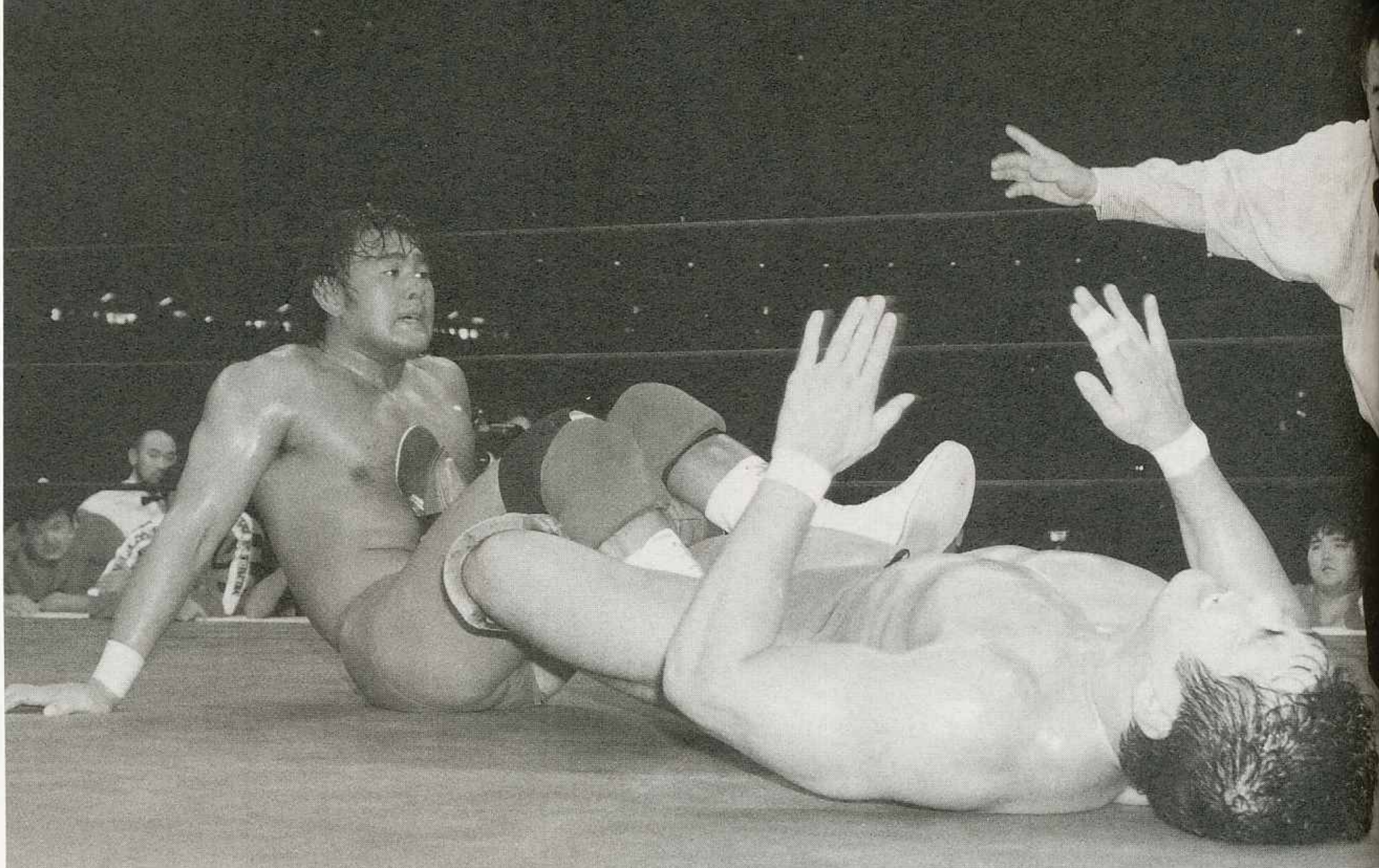
鈴木　とにかく、いまはどうか知らないけど、あの頃の新日本はアバウトで、万事がその調子だったよ。

——では、そんな新日本に食い潰されるようなかたちで、10・9ドームの翌年、Uインターは解散を迎えてしまうわけですか。

鈴木　そうだね。ただ、新日本との対抗戦の翌年、9月11日にやった神宮球場での大会。あれはホントに大ヒット興行だったよ! 宮戸ちゃんがいた頃のベスト興行が髙田vs北尾戦の10・23武道館だとしたら、9・11神宮球場は、俺一人であちこち走り回って成功させた、俺にとって忘れ

元・UWFインター取締役 鈴木健が語る"最強団体"の台所事情

UWFインターはチケットがバカ売れした"WJ"だった!?

新日本はギャラ2000万の約束をしたのに1500万しか払わなかった

空前の大ヒット興行となった95年10月9日の新日本プロレスvsUWFインター全面対抗戦、東京ドーム大会。この大会でUインターは8800万円のギャラを手にしたが、髙田延彦が武藤敬司に敗れ"最強"のイメージが崩れたことで、急速に求心力を失なっていった。

られない興行だね。「9・11」って日付も覚えやすいし（笑）。

——その神宮はメインで髙田vs天龍戦が組まれて、全日本から川田利明選手も出場した大会ですよね？

鈴木 そう。あれは儲かった。満員になった会場を見て「もう死んでもいいや」って思ったからね。前売券が売れに売れて、当日券を求めて2000人が並んでたからね。だから試合開始時間を1時間遅らせて、ホントは一番安い券は4000円なのに、急きょ外野席を解放して6000円で売ったから（笑）。

——外野の追加席なのに、ちょっと割高でしたか（笑）。

鈴木 それも全部売れちゃってさ。万札がアタッシェケースに入りきらないから、段ボールに詰めて足で踏んで自分のベンツに突っ込んで持って帰ってね。俺の家が金だらけになってたから（笑）。

——でも、そんな大ヒット興行の数カ月後にUインターは解散しちゃうんですよね。

鈴木 そうなんだよ。興行自体は儲かったんだけど、いろんな返済やら支払いやらがかなりあってね。それでも入ってくるお金がたくさんあったから丼勘定でやってたら、結果的にはマイナス1億円ぐらいになっちゃったの（笑）。

——なぜか会社が傾いちゃって（笑）。

鈴木 あのとき天龍さんのギャラとして、WARに払った額が、たしか3000万円。あと川田選手にもかなりの額を支払ったんだけど、当時は全日本プロレス所属選手だから、当然、全日本に振り込むわけじゃん。

——そうですね。

鈴木 で、最近、川田選手と仲良くなったんで「あのとき、馬場さんからいくらもらったの？」って聞いたら、Uインターが支払った額の1割5分ぐらい。残りの8割5分は全日本が持っていっちゃってたんだよ（笑）。

——それもまたずいぶんな話ですね（笑）。

鈴木 Uインターが他団体に選手を貸したとき、それぐらい会社が取っていればもっと続いたかもしれないけどね（笑）。で、Uインターは1億円マイナスで終わって、そのあとのキングダムも合わせると、トータルでマイナス2億円ぐらいになっちゃったんだよ。それを髙田さんと俺で折半して、1億円ずつ返すことになったんだけどね。

——それをついに返し終えたんですよね？

鈴木 うん。髙田さんは2年前の10月に返済終わって、俺が終わったのは去年の10月。ただ企業的に返済が終わったのは事実だけど、個人でUインターにお金を出してもらった人には、借金ではないけど大きな借りがあるからね。たとえば清水さんという、Uインターの初期に何千万円も出してくれて、キングダムでは代表もやってもらって、そこでも何千万円も出してもらった人がいるの。でも、その清水さんは自宅を担保に入れて、Uインターやキングダムにお金を出してくれていたから、そのおかげで家を持っていかれちゃったんだよね。

——Uインターのために家を失ないましたか。

鈴木 大きな家に住んでたのに、小さくてボロい借家に家族3人で細々と暮らすことになっちゃったの。ウチらのせいで。だから俺は『市屋苑』を始めてから毎月必ず30万円を振り込んでいく約束をして、今年で11年目だけど、一回も飛ばしてないからね。で、嬉しいことに、つい数カ月前にその清水さんが新しい家を建てられたの。

——へえ、それはよかったですね。

鈴木 うん。Uインターでもキングダムでもさんぜんお世話になった人だからね。それを踏みにじったら、俺は地獄のさらに下まで落ちちゃうよ。だから、企業的な返済は終わったけど、道義的な返済は、俺は一生背負っていくから。毎月30万円払ってるって偉いでしょ？（笑）。

——偉いですね（笑）。

鈴木 でも、企業的な支払いはもう終わったから、俺もまたちょっと動き出そうと思ってるからね。

——えっ!? また何か企んでるんですか？

鈴木 Uインター魂は不滅だから。まあ、楽しみにしていてよ（笑）。

【09年5月30日／世田谷区用賀・『市屋苑』にて収録】

すずき・けん■1953年生まれ。高田延彦公認ファンクラブ会長を経て、UWFインターナショナル取締役に就任。キングダムでも取締役を務める。現在は世田谷区用賀で串焼き店『市屋苑』を経営。電話03−3707−3223

ヒャッホー！ 聞いた話だと、なんと今回の『kamipro』はマニーの特集だそうじゃないか。なんでオレにインタビューしてくれないんだよお。チッキショー。ワッツ？ オレになんの話ができるんだって？ まったくユーたちはホントにオレのことを知らないんだなあ。オレは練馬のほうでは「家賃滞納の鬼」と言われるほどの男なんだぜ！ クックックック……ああ、誰か払ってくれないかなあ（涙）。こんな感じで今号もレッツゴー!!

135号へのお便り紹介

魔裟斗選手のインタビューがおもしろかったです。魔裟斗選手はただカッコよくて強いんじゃなく、凄い努力しているんだというのが伝わってきた。読んでいて勉強になったし、おもしろかった。

【福井県・大平一さん・無職・33歳】

D マサトというボーイは『kami-pro』初登場なのに、かなりのレターが来ているようじゃないか。もしかして、コイツぁスターというヤツなのかい？ しかし、ただカッコいいだけじゃなくて、しっかり努力してるというのはどっかで聞いたことがある話だな。クックックック。遠慮せずに「読者ペイジ・ジャクソンみたいだね！」って言っていいんだぜ！

おもしろかったのは石井館長インタビューです。男前発言の数々にシビレました。常々「ライバルはプロ野球、Jリーグ」と言われていましたが、FIFA、IOCとスケールアップしているのはさすがだと思いました。やはり格闘技界を先頭に立って盛り上げてください。

【神奈川県・廣木和宜さん・会社員・44歳】

D オレにだってライバルはいるぜ！ オレのライバルは……『はなまるマーケット』のヤックんだ。ああ見えて『はなまる』ももう10年以上やってるからな。ヤックくんの受けのコメントは勉強になるんだよ。

川尻達也のインタビューがおもしろかったです。「僕がカルバンに勝たないと格闘技界にとってよくないでしょ？」と言っていますが、本当に勝ったので凄すぎると思います。そう思っていてもなかなか勝てる相手じゃないと思うので。でも、負けたカルバンがケロッとした表情でビビアーノか誰かの勝利を一緒に喜んでいたのには笑いました。

【香川県・あしたもジョーさん・自営業・35歳】

D そういうときのカルバンをなんと言うかユーは知ってるかい？ 〝カルバンの大安売り〟って言うんだ。アイツは『戦極』の会場にも、いつだっているからな。あれはどうしてだい？ マック高野さんよお。

俺たちの五味隆典座談会がおもしろかった。五味選手のKO勝利はとてもうれしかったです。これで今後の五味選手の動きによって、格闘技界も変わっていくと思うので、〝妄想〟年間スケジュールを見ただけでも楽しみです。

【福島県・紺野春樹さん・会社員・29歳】

D おっと！ オレも『kami-pro』編集部が勝手に作っていた〝妄想〟スケジュールというヤツを見たぞ。あれはいい出来だな。しかしだな、ステーションボスのウワイが見たら、きっとこう言うだろうな。「大晦日にカンムリワシはいなくていいのかい？」ってね！ クックックック。

『「ハッスル」上流地帯座談会』ですが、7月で『ハッスル』が消滅するって本当なんでしょうか？ そこのところを詳しくお願いします。

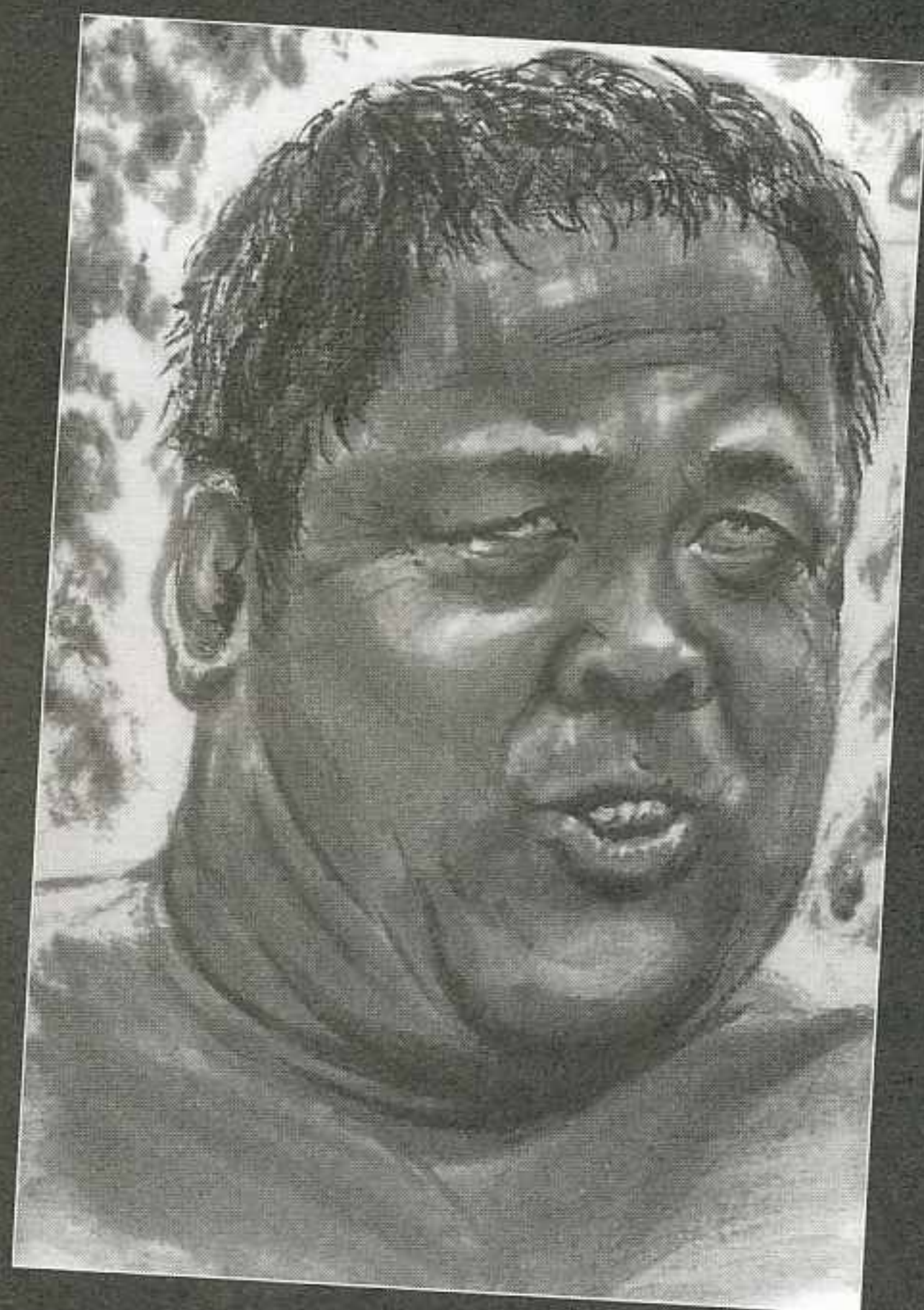
【兵庫県・春名義行さん・会社員・42歳】

D そこらへんは「アイ・アム・GM！」ってヤツに聞いてみたらいいんじゃないのかい？ ……そういえば、GMという肩書きのヤツもすっかりいなくなったじゃないか。最後のGMはGMWだって、まあ覚えてるボーイズ&ガールズもいないだろうな。アッハッハッハ！

135号
おもしろかった記事
RANKING

NO.1	石井教義
NO.2	魔裟斗
NO.3	井上京子
NO.4	K-1ズンドコ大行進
NO.5	真琴が水着で三国志を語る

こりゃあ、さすががK-1特集だぜ。カンチョーに、マサトってボーイ、そしてズンドコかあ。しかし、この読者ペイジが「おもしろかった記事」に入ったことは一回もないな…。むしろ、「おもしろくなかった記事」にはクレイジーなくらいランクインしている。そこんとこ、ちょっとおかしいなって、ユーたちも早く気づいてくれよな!

大阪府・暗黙さん／おっと、このペイジを読んでるボーイズ&ガールズにはわからないかもしれないが、これは切り絵のお便りだ。グレイトだぜ!

大阪府・剣洋人さん／ユーたちはホントに永田さんのホワイト・アイが好きだなあ。まったくジャパニーズの趣味ってヤツはいつまで経ってもドント・アンダスタンドだぜえ。

ネットやケータイがなかったら何もできないオレたちはもう、そんな時代の餌食なんだ

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

“読者ペイジ”ジャクソン

ゆでたまごの嶋田先生のインタビューは文字どおり女房を質に入れてでも読まずにはいられない内容でした。「キン肉マン＝マスクマン」が小鉄さんの何気ない一言で決まった設定とは……。さすが、トップの漫画家は違う！　臨機応変ですね！

【福島県・毒柴さん・変態福島県支部長・38歳】

D キン肉マンってヤツはオレも知ってるぜ。何を隠そう、オレもキン消しを集めてたタチだからな。しかし、オレが上京したのを機に、マイ・マザーが全部捨てちまったって話だ……。悪魔将軍とか、3体持ってたってのによお。これはまさしく「♪ははうえさまぁ～、いっきゅう～……」ってヤツだ。

K-1特集の中の榊原信行語録がおもしろかったです。いま読んでみると笑ってしまうけど、当時は真剣にこんなことを言ってたことを考えると、やっぱりPRIDEは凄かったんだなと思います。また、マット界に戻ってきてほしいと思います。

【佐賀県・柏原よし子・主婦・37歳】

D バラさんっていうミスターはナイス・コメントを出すのが得意らしいな。たまには読者ペイジにも投稿してほしいぜ！　いや、むしろバラペイジ・ジャクソンになってもらってユーたちのレターにコメントしてもらったほうがいいかもな！　アッハッハッハー！

ターザン山本！のインタビューを読むと、石井館長の鋭さがわかる。しかし、おじいちゃん（ターザンのあだ名）は自分勝手すぎると思う。そんなことだから、金がない連中、見込みがない連中に囲まれるんだと思う。あと、『ターザン山本！非公式ファンクラブ』のサイトは復活してほしいです。

【埼玉県・立石探訪さん・無職・60歳】

D ターザンってヤツは、本当におじいちゃんなのかい？　おじいちゃんになると年金が下りるじゃないだろうな。今回のインタビューを読むからって、わざとおじいちゃんと呼ばせてるんと、ますますそう思えてくるぜい。え？　本人は嫌がってる？

K-1ズンドコ大行進！の企画がおもしろかった。K-1はいろいろあったなあと思います。K-1の中に『Dynamite!!』で勃発した中尾のキッス事件と秋山のヌルヌル事件が載ってるのが凄く素敵でした。

【神奈川県・田中義郎さん・会社員・34歳】

D 『kamipro』読者はすぐ「ズンドコ」というワードに反応するようだな。じゃあ、オレのとっておきのズンドコ話を聞かせてやろうか？　え？　おまえはいいやって？　……さみしいなあ。

K-1特集とはいえ、角ちゃんのインタビューが『kamipro』に載ってるのにはビックリした。難しい話はよくわからないが、角ちゃんの氷割りの写真は凄く角ちゃんらしくてカッコいいなあと思いました。しかし、角ちゃんもずいぶん歳をとったなあと思います。まだK-1のために頑張ってほしいです。

【千葉県・長島としお・会社員・33歳】

D 角ちゃんの氷割りって、ユーはサントリー・角の回し者かい？　アッハッハッハー！　しかし、サントリー・角ならオレはもっぱらハイボールだ。しかし、しばらく飲んでないなあ、ハイボール。最近はもっぱらワンカップだ。お気に入りの場所は、上野公園だぜ！（涙）。

船木が作った映画『ザ・プロフェシー』を見たいと思いました。しかし、『kamipro』に載ってる写真を見ると、なんか凄く気持ちが悪い感じがしました。この映画はおもしろいんでしょうか？

【群馬県・ヨッシー・フリーター・37歳】

D ミスター・フナキはムービーも作るんだな！　こりゃいいこと聞いたぜ。オレもかつてはアクターを目指したクチだからな。　え？　それじゃ、言ってることがクマクマンボと変わらない？　ちょっと待ってくれよお。オレは自分から「坂上忍に似てる」だなんて言わないぜぇ。

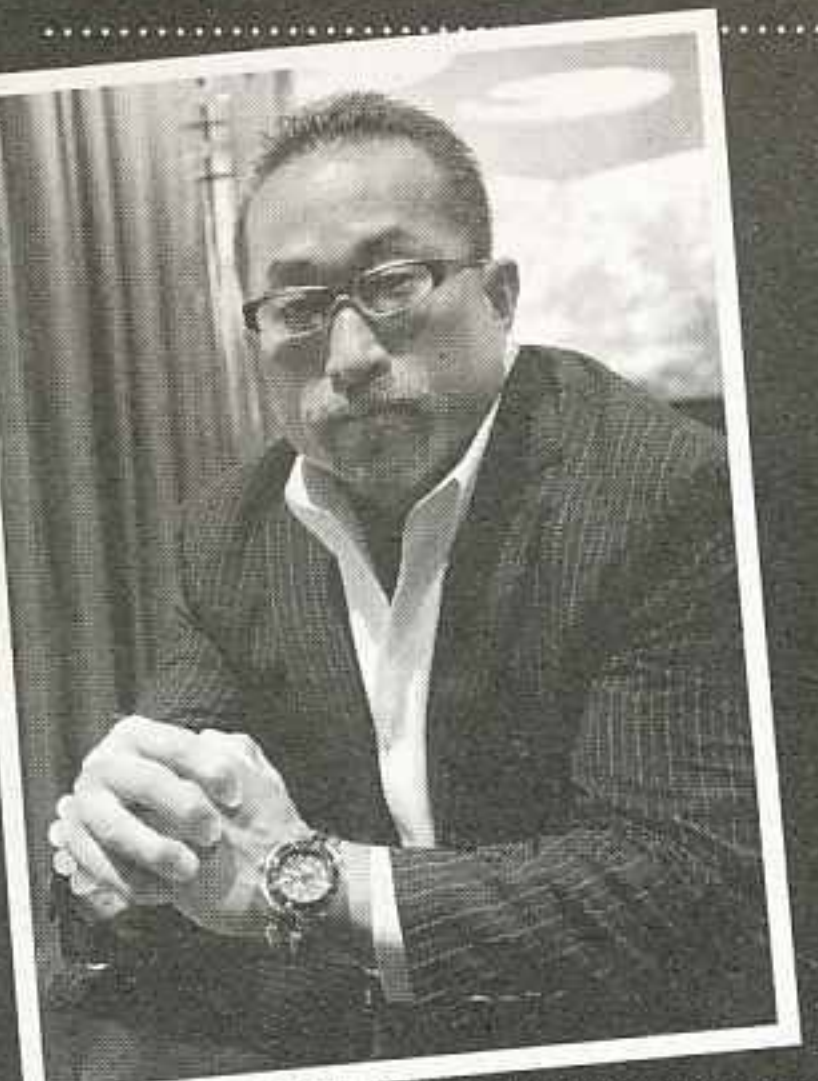
真琴の企画意図がイマイチわからなかった。なんで水着で三国志を語るんですか？　でも、個人的にはもっとこういうページは増やしてほしいと思います。

【山梨県・年間プレイボーイさん・大学生・20歳】

D ユーもそう思うかい？　オレもそう思うぜ！こりゃあ、ユーとは気が合いそうだな。どうだい？　新橋で一杯飲みにいくかい？　え？　金がない？　今回が「お金がない」特集だからって、そりゃ、勘弁だぜぇ……。

ボクはDREAMをテレビで観たんですが、カンセコの試合はおもしろかったです。そして町山さんのインタビューを読むと、カンセコという人が凄い人だったんだなとわかりました。マドンナという人は遠い国のスターだと思ってましたけど、ボクたちとの距離が急に近くなったような気がしました。

【北海道・オオノオノさん・学生・18歳】

D カンセコといえば、オレはあのセコンドについた美人マネージャーが一番気になったぜ。マドンナとの距離はどうでもいいが、あのマネージャーとの距離を縮めるにはどうしたらいいか、誰か教えてくれないかい？　それとも、もうカンセコはジャパンには呼ばないつもりなのかい？　え？　サダハルンバよお！　ええ!?　ジーエムよお！

香川県・ハワイアン・グレイシーさん／これは、なぜかグラビアが載ってたミス・マコトじゃないか。じつはオレ、ああいう切れ長のアイもタイプなんだ。クックックック。

広島県・梶間浩幸さん／これは、ヨーカイ・イマナリのジュニアのイラストじゃないか！　まったく妙な線を突いてくるヤツがいるもんだなあ。

格闘技愛あふれる玉稿を チェケラッチョ!

今月はユーたちのレターの中にこんな1枚があったぜい!　ユーたちのフェイバリットスポーツMMAのライバルはなんとジャパニーズ・ベースボールという話だ。とにかくこれはマスト・リードだぜ!

私が、PRIDEの崩壊と、K-1、プロレスの人気低迷の原因について説明します。

一言で言えば、それらが、プロ野球と大相撲の人気下落の原因のひとつになってしまったからだということに尽きる。サッカー、フィギュアスケート、バレー、ゴルフなどは「正式な」種目だからしかたがない。しかし、一般紙のスポーツ欄に、一行もK-1やPRIDEが、野球以上に目立つことは、ここ日本では絶対に許されないのだ。昭和の時代に大人気だったプロレスがつぶされなかったのは、そのころは、巨人が日本スポーツ界の絶対的王者として君臨し、大相撲も人気があり、「支配者」に心の余裕があったからにほかならない。K-1などのショーは、プロ野球、大相撲の揺るぎない人気という、前提条件が100％満たされた後にはじめて、ある程度目立つことを許されるのである。しかしそれらは、限度をはるかに超えてしまった。だから「支配者」につぶされたり、少しずつ体力を削られていっている。（一部省略）

要は「つぶしはしないが、目立つなよ。分を知れ」ということなのだ。最後にUFCの社長に伝えてほしい。日本で、ちょっとでも大口を叩いたら、すぐに日本社会全体を敵に回すことになるぞ。あんたの敵はK-1でもDREAMでもない。日本の野球界だ。WOWOWで目立たないようにしているのがベストだ。野球とUFCは全く別物だから共存できるという考えは、日本では通用しないんだよ。

【熊本県・西澤宏二さん】

おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ!
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、
お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって!　待ってるぜ!

こんな情報も24時間どんとこい!
ってヤツだ。
- 譲ってほしいもの
- タレコミ情報
- 選手に対するコメント、試合の感想
- その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・
イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「サーバ全包囲網」係まで。

携帯サイト『kamipro Move』からの投稿もできるぜ。

Mr.デンジャーがあの疑惑のドラゲー猿虐待問題を激語り!!

『kamipro』動物愛護協会発足!

松永光弘

「生き物は人間にとってかけがえのない友だちなんです」

ネットを中心に波紋が広がっているドラゲーの猿虐待問題。プロレス界のイメージ低下を招きかねないこの事態に対して、いち早く行動に移したのが"正義の人"松永光弘! 動物愛あふれるMr.デンジャーが疑惑の問題を熱く語った!

聞き手／鈴木佑　文／高崎計三　試合写真／平工幸雄

――松永さんがネットで話題のドラゴンゲートの猿虐待問題に行動を起こされたと聞いて飛んできました!

松永 いやいや、行動というほどでもないですけどね。

――そうですか。しかし、松永さんってなにかと動物と縁がありますよね。

松永 ああ、確かにそうかもしれないですね。昔は動物と試合をしたこともありますし。

――じつは『kamipro』も最近は動物づいているので、ちょっと他人事じゃないなってことで取材に来たんです。そもそもあの猿問題はどこで知ったんですか?

松永 最初は『YouTube』でしたね。同じタイミングでmixiを通じてファンの方……というよりは動物愛護の方からもメールをいただきまして。そこには「このままでは、もみ消されそうなので男としての決断をお願いします」と書かれていて、その言葉に動かされましたね。それでちょっと事態を探ろうと思い立ったわけです。

――その動物愛護の方はどうして松永さんにメールを送ったんですかね?

松永 そういえばどうしてボクだったんですかね? たまたまチョイスしたんですかねぇ……。それも動物との縁かもしれないですけど。

――実際に事態を調べてみてどう思われました?

松永 アップしている写真や該当の選手のブログも見て、正直、「何をやってるんだ? どうしてこんなブログが放置されているんだ?」と目を疑いましたよ。だから自分なりに行動に移しました。

――そうして松永さんは公式見解が出る

前に、団体にアプローチをしたわけですか。
松永　そうです。ネットで流れている情報は一応チェックしてまして。それをmｉｘｉの日記に書いたりすると、ファンの方からどんどん情報が持ち込まれて、「松永さん、なんとかしてください！」みたいな書き込みも100件ぐらい来ちゃってですね。そこでいろいろ考えたんですが、動物愛護団体に連絡したりするのはファンの人たちにやってもらえばいいわけで、自分にできるのは直接話すことぐらいかなと思って、ドラゲーさんに電話したんですよ。

——事件のことを知ってわりとすぐに？

松永　翌日ですね。日記に対する多くの反応に対して、どう収拾つけようかと思って。「ああそうか、直接電話すればいいんだ」と。

——責任感に駆られた部分もあったんですか？

松永　ありましたね。このままだとプロレス界のイメージも悪くなっちゃうから、自分の見解としては「謝っちゃったほうがいいんじゃないか」ということを電話で伝えて。もうその時点でネットには広がるだけ広がってましたからね。とにかく事態を収拾したほうがいいと伝えました。

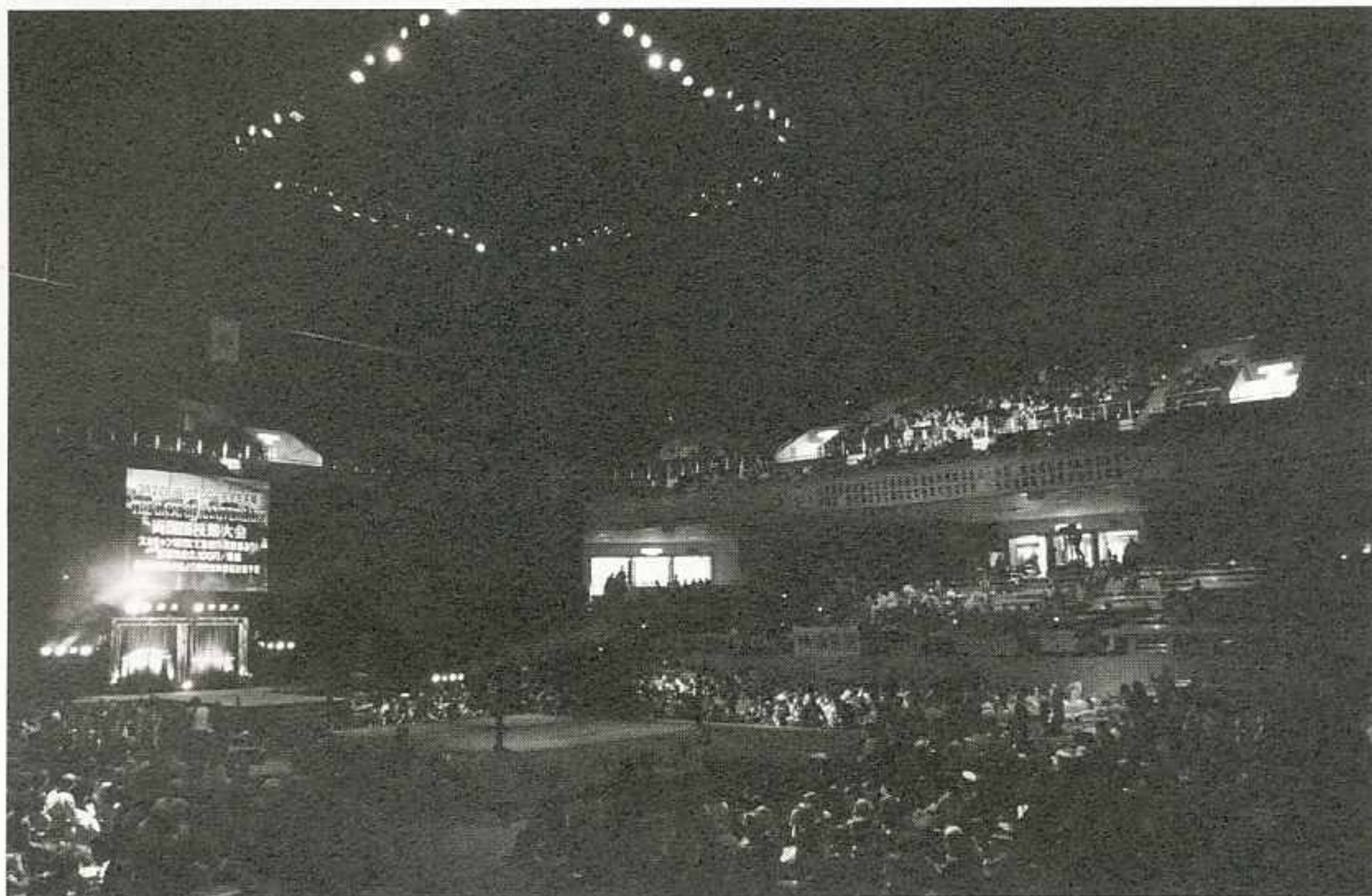
——電話では名前を名乗ったんですよね？

松永　もちろん。団体の方は自分のことはすぐわかってくれました。「社長にお伝えします」ということでした。

——ドラゲーにお知り合いは？

この騒動を知った翌日にはドラゲーに直接電話してました

松永　いますよ。岡村（隆志）社長も空手時代から知ってますからね。ドラゴン・キッドにマグニチュード岸和田、フロントにも。でも、知り合いに話すとなあなあになって、折衷案を作っちゃうんで。知ってる人にかけるより、事務所に電話したほうがいいなと思いましたね。

——それからすぐに公式見解が出たのは、もしかしたら松永さんの電話の影響が大きかったのかもしれないですね。

ドラゲーは専門誌が「ドラゲーに学べ！」と表紙のコピーに打つほどの優良団体。プロレス界随一の年間興行数を誇り、今年3月の両国国技館大会も超満員の観衆を集め大成功。長らく続くプロレス不況にあって気を吐いている団体だけに、今回の騒動は残念の一言だが……。

松永　それはちょっとわからないですけど、あの時点でけっこうな騒ぎになってましたからね。直接電話したって日記に書いたら、書き込みがまた100件くらいありましたから。

——公式見解では「できる限りの調査を行い関係省庁にも全面的に協力しながら事実解明について取り組んでいますが、インターネット上にある虐待の事実は判明しておりません」ということと、お騒がせしたことをお詫びするという内容でしたけど、それについては？

松永　公式見解を出したことで団体の責任ははたしたかもしれませんが、たぶん多くの人間はまだ「本当に虐待はなかったのか？」という感じでしょうね。「じゃあ、どうすればいいんだ？」って話になっちゃいますけど。もうね、こういうネット社会だと、ファンは不透明さを嫌いますし、いったん騒ぎだしたらなかなか収まらないじゃないですか。それこそ選手にコメントをさせるなり、今後も団体側が継続的に真摯に対応していく必要がありますよね。

——現段階では、松永さんは静観している感じですか？

松永　感情的には少し収まらない部分もありますが、団体側から公式見解が出た以上はドラゲーを信頼するしかないですよね。できることといえば、現在猿が飼われている場所に実際に行って、無事かどうかを確認するしかないですよ。だいたいボクが行動に移したのも、ドラゲーを叩くことが目的じゃないし、放っておいたらとんでもないことになるなってことですから。

——プロレスってイメージ商売ですし。

松永　そうなんですよ。実際にそう思われてしまうようなことをブログに載せるところが神経を疑うというか、そこが理解できないですよね。ドラゲーには知り合いも多いからボクとしては相当ハイリスクなことをやったわけです。ヘタすると交流できなくなるわけですし、ドラゲーには上がったこともあるし、なんのトラブルもありませんでしたから。ドラゲーが憎いわけじゃないし、逆にいまドラゲーがなくなったらプロレスがなくなっちゃう、それくらいの団体じゃないですか。

——人気団体ですもんね。

松永　だから「しっかりしてくれよ！」っていう気持ちのほうが強いです。インターネットって対処を甘く見たら本当に大変ですからね。金村（キンタロー）のセクハラ事件だってそうだったじゃないですか。だからこそ納得できる対処をしたほうがいいと。

——よくわかりました。

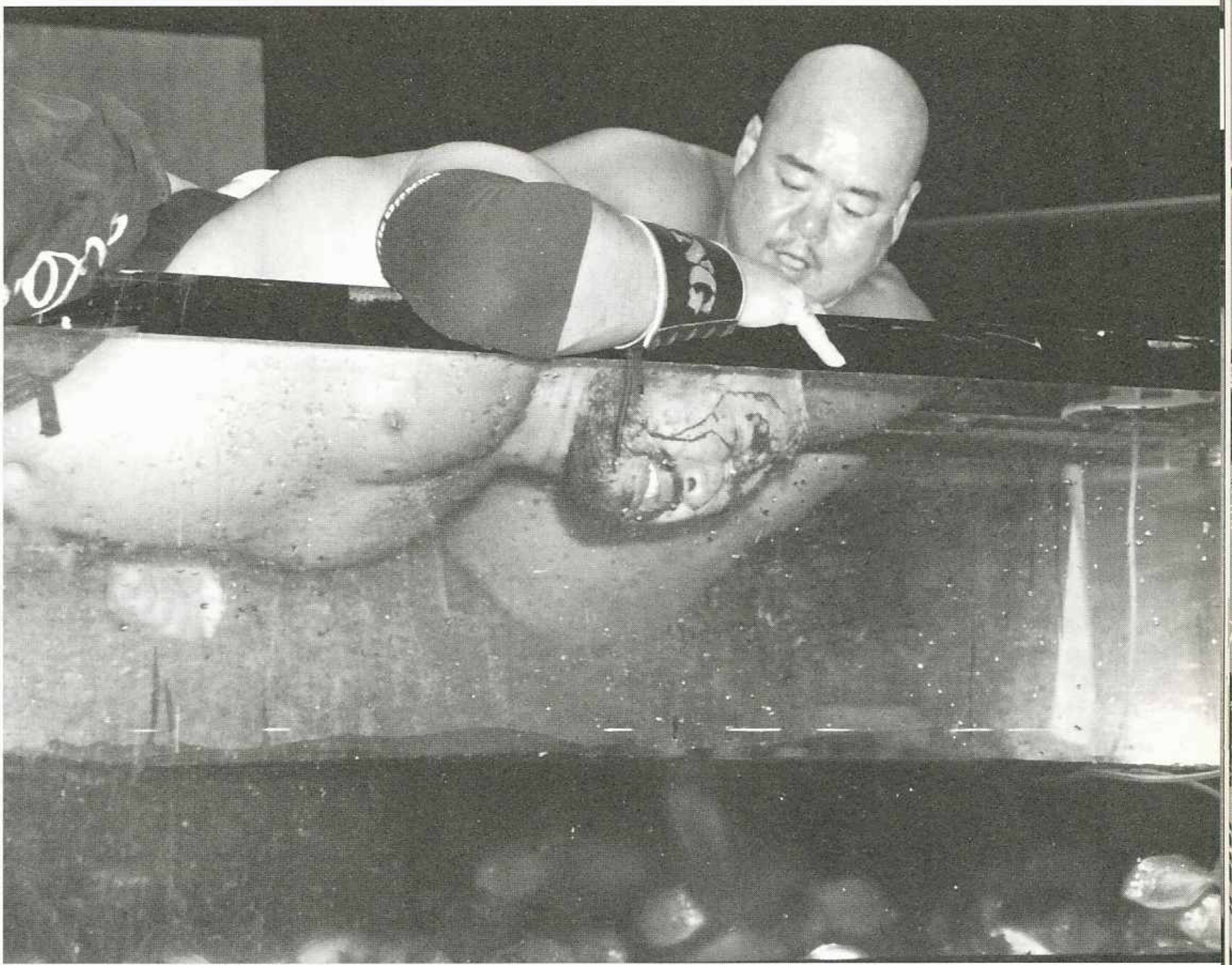
松永　この件に関しては、いろいろとボクのもとへ情報が入ってくるので何か進展ありましたらご報告いたします。

——それで冒頭でも触れましたが、松永さん自身、ペットとは縁が深いんですよね？

松永　そうですね。子どものときから犬

疑惑の猿虐待問題とは？

ドラゲー所属のレスラーが合宿所で飼っている猿を、まるで虐待していると思わせるかのような画像と記述をブログに掲載。この内容がネットを中心に波紋を広げ、ついには警察や愛護団体が動きだすほどの騒動に発展。事態を重く見たドラゲー側は公式見解を発表し、6月9日現在、「猿が行政の指導のもと、関係者の家庭で飼育されていること」、「本当に虐待がなかったのか引き続き検証を行なっていること」などを発表。公式見解の詳細はドラゲーのHPを参照されたい。

とかカメとか飼ってましたよ。中3のときに犬が死んだんですけど、それは相当ショックでしたね。「もう犬は飼わない」って決めるほどでしたから。ふだんもヒモでつなぐのがイヤで放し飼いにしてたくらいですし……キャラクターのイメージと合わないかもしれないですけど。
——いえいえ、そんなことないです(笑)。カメはいまも飼われてますよね。
松永 昔は近所の田んぼとかで探して捕まえたりしてましたね。いまは自分なりに勉強して太陽光線のライトを当てたりして育ててます。いまいるイシガメ、リクガメは飼ってから1年ちょっとぐらいで、スッポンモドキはもう15年ぐらい経ちますね。前は熱帯魚も飼ってたんですけど。
——昔、レスラー名鑑のプロフィールの趣味欄に「熱帯魚飼育」って書いてましたよ

松永は96年8月に"喧嘩屋"ケンドー・ナガサキを相手に「人喰いピラニアデスマッチ」を敢行。南米原産の血に飢えた肉食魚を実際にリングで用いたのはこの一戦のみ。いまのご時世なら実現するのは無理に違いない。

松永光弘

試合で生き物を使ったのは間違ったことをしたと思ってます

ね。
松永 そうですね。ずっと前に『週刊プロレス』さんで部屋を取材されたときは熱帯魚の水槽が9個あったんですけど、いまはお店が忙しいんでやめちゃいました。熱帯魚の飼育は手間がかかるんですよ。
——そもそも熱帯魚を飼い始めたきっかけというと?
松永 通ってたジムに熱帯魚の水槽があって肉食魚とかいたんですけど、単純にカッコいいなと思って。それでいきなりピラニアを飼ったりしましたから。あと、オフのヒマなときに熱帯魚の図鑑を見て専門店に行ったりしてましたね。
——松永さんというとさまざまなデスマッチを経験されていて、とくにピラニアマッチが有名ですけど、あのアイデアはピラニアを飼ってた経験から生まれたんですか?
松永 いや、デスマッチの企画をファン公募とかすると、絶対ピラニアが1位なんですよ。漫画でもあるじゃないですか、『タイガーマスク』のザ・ピラニアン戦とか、『1・2の三四郎2』とか。だから、誰かが一回やっとかないといけないのかなって。
——実際に試合の道具としてピラニアを使うのに葛藤はなかったですか?
松永 もう、当時はその場をしのぐことしか考えてなかったですね。アイデア勝負でプロレスをやってましたから。大日本に入って当時の経営状況を聞いたりすると、もうやるしかないな、と。それに、FMWに対する対抗意識もありましたし。そういうことで頭がいっぱいで、動物愛護の人たちの抗議には正直聞く耳を持ってなかったですね。
——やっぱり当時もそういった抗議はあったんですね。
松永 ピラニアをやる前、大日本が「レスリングベア」を招聘しようとしたときにすでに抗議は来てましたね。事務所にガンガン電話がかかってきてたのを覚えてますよ。(グレート)小鹿さんが必死に応対してました。あと、サソリを使ったときもクレームが入りましたね。
——サソリがかわいそうだ、と。
松永 サソリやタランチュラの本を書いている、富永明さんという方からクレームが来たんですよ。対談しようというようなことを人づてに言われて。
——直接対決しよう、と。
松永 結局対談はやらなかったんですが、かなり強い調子でしたね。『週プロ』に「載せてくれ」って抗議文みたいなのも送ってきたんですけど、『週プロ』も載せるわけにいかないから僕に直接渡してくれて。要はデスマッチが元で輸入規制が起きてもらっちゃ困る、愛好者はいるんだということだったらしいですけどね。
——ちなみに試合で使ったサソリはどうするんですか?
松永 やっぱりサソリもピラニアも、試合が終わったからって捨てるわけにはいかないじゃないですか? だから終わったあとは当然、友だちと分散して飼ってました。ちゃんと死ぬまで見届けましたし。

──けっして粗末に扱ったわけではない、と。

松永　まぁ、でもいまとなれば試合で使ったのはよくなかったと思いますよ。その頃はプロレス界で生き抜くために必死だったとしても、動物虐待と言われてしまえばそのとおりですし。

──後悔してる部分はあるわけですね。

松永　間違ったことをしたなとは思ってます。そのあと大日本で、CZWと生き物を使ったデスマッチをやらないかという話があったんですよ。それをマイクでアピールしたときは、さすがに専門誌で3週にわたって叩かれましたから。批判的な読者投稿も載ったりしたので、それで踏み止まりましたね。

──ワニを使ったこともありましたよね。

松永　あのときは単純に、ワニと闘いたいという純粋な気持ちもあって。いま考えるとメチャクチャなんですけど、動物と闘うというロマンはありましたね。ウィリー・ウィリアムスのクマ殺しみたいなもので。齋藤彰俊が仙台出身だったんで、「仙台にツキノワグマはいないの？」って言ったら「いる」って言うんで、二人で探しに行こうとしたこともありましたから（笑）。

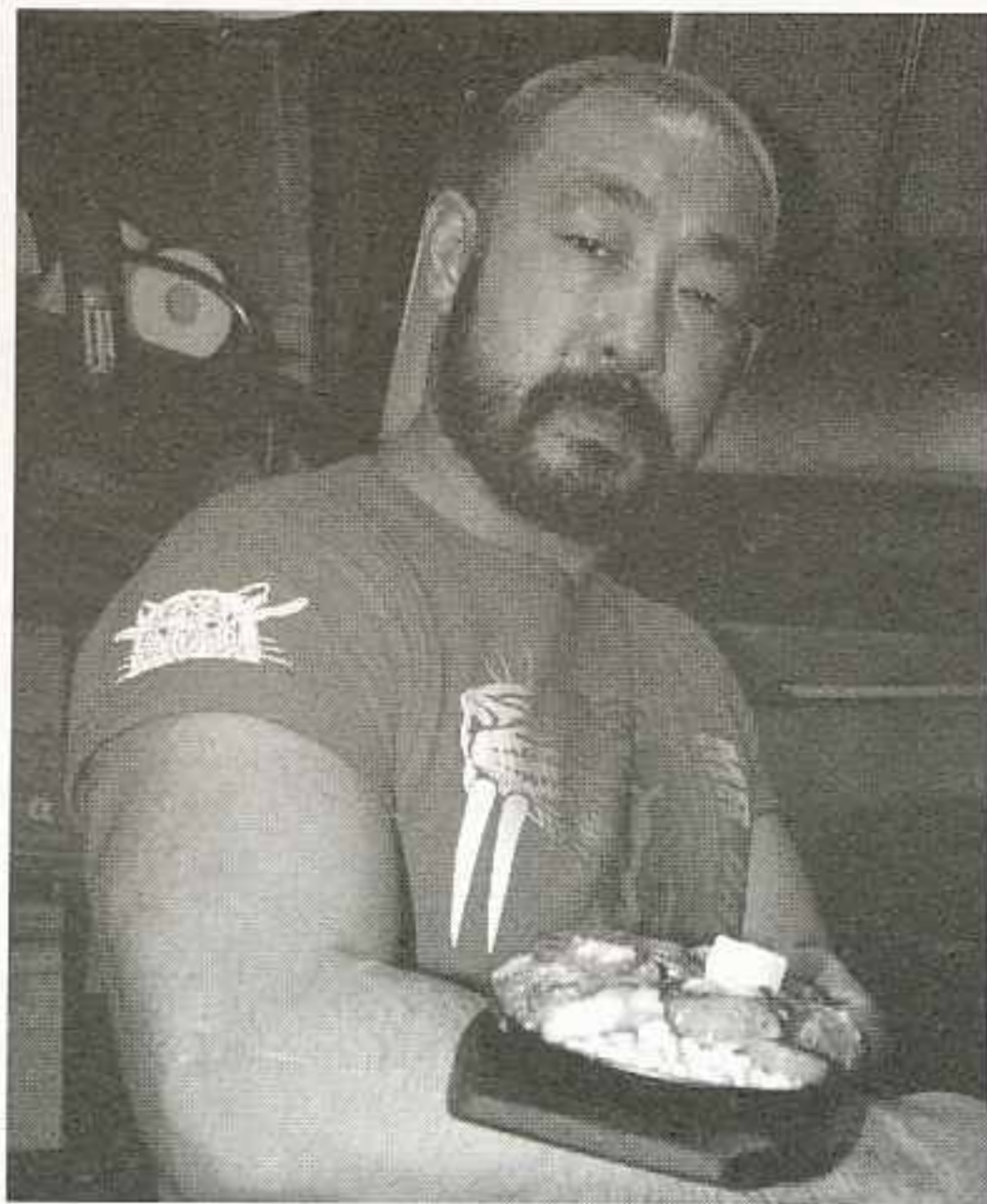
──闘う者として最強幻想の飽くなき追求というか（笑）。

松永　そうですね、人間が素手でクマやワニを倒せるという幻想ですよね。〝地上最強のカラテ〟という極真幻想と一緒で。ちょっとワニを甘く見てたっていうのもあったんですけど。

──甘く見てましたか（笑）。実際にリングに上げたワニは大きさがもう一つだったんですよね。

松永　大きいのはなかなか売ってないんですよ。ワニもカメも、この水槽だったらこれ以上は大きくならないっていうのがあるんですよね。そんな広いところで飼ってる人もいないじゃないですか。

──どれぐらいの大きさだったんですか？

松永　80センチ～1メートルでしたね。シッポ込みだし、ワニって細いからそれぐらいだとそんなに大きくないんですよ。

まつなが・みつひろ■1966年3月24日、愛知県出身。89年にプロレスデビュー。W★ING時代に後楽園ホールのバルコニーからダイブを敢行し、"Mr.デンジャー"の称号を得る。以降、あらゆるデスマッチに挑戦し続けるパイオニアとして活躍。08年5月の「ガラスレイン鉄球地獄デスマッチ」でデスマッチを引退。

8万円もしたので、ペットショップの人に貸してくれって言ったら、怒られたんですよ。「自分のところで飼ってるワニをリングに上げられるか！」って。

──それはまったく正しいですね（笑）。

松永　「だったら買っていきなよ、買っていくんだったら大目に見るよ」って言われて。

──ワニのときも抗議はあったんですか？

松永　そのときはなかったですね。「敗者ワニ葬デスマッチ」っていうタイトルにして、何やるんだかサッパリわからないようにしてましたから。あのワニはたぶん、いまも知り合いのところで生きてますよ。

──あ、ご存命ですか（笑）。

松永　友だちで、魚もカメも一通り飼って、もう飽きたってヤツがいて。ワニの話をしたら「そうか、ワニを飼えばいいのか！」って凄い楽しみにされて（笑）。たぶん、まだワニはそこにいますね。

──プロレスラーでそういうペット仲間はいましたか？

松永　金村キンタローなんかもたまに加わってましたよ。

──へ～、金村さんの趣味でいうとフィギュア集めが有名ですけど。

松永　だから「そんな生きてないものを集めて何が楽しいんだ」ってボクが言ったら、それから仲間になってカミツキガメとか凶暴なヤツを飼ってましたね。「今度はワニガメを飼う」って張りきってたんですけど、レザーフェイスが金村のウチに遊びに来たときに「カミツキガメもワニガメも一緒じゃないか。どこが違うんだ？」って言ってたらしいですけどね（笑）。

──レザーフェイスに突っ込まれるっていうのがいいですね（笑）。

松永　金村も飼い方を勉強してましたよ。でもカメって長生きするから、リピーターにはなりにくいんですよね。リクガメは50年ぐらい生きるっていうし、スッポンモドキも30年ぐらいは生きるらしいんで、自分とどっちが長生きするんだっていう世界ですから。

──やっぱりそれだけ長いと愛着もより湧くんじゃないですか？

ペットを飼うなら勢いだけじゃなく最後まで責任をはたすのが大前提です

松永　さすがに話しかけたりはしないですけどね（笑）。触るのもカメにはストレスになっちゃうし。まぁ、一人暮らしとかだと動物がいるといいですよね。だから逆にいま、ペットロス症候群っていう問題も出てきてますけど。

──ペットを亡くした悲しみから発生する心身の症状ですね。松永さんはこれからもずっとペットは飼い続けますか？

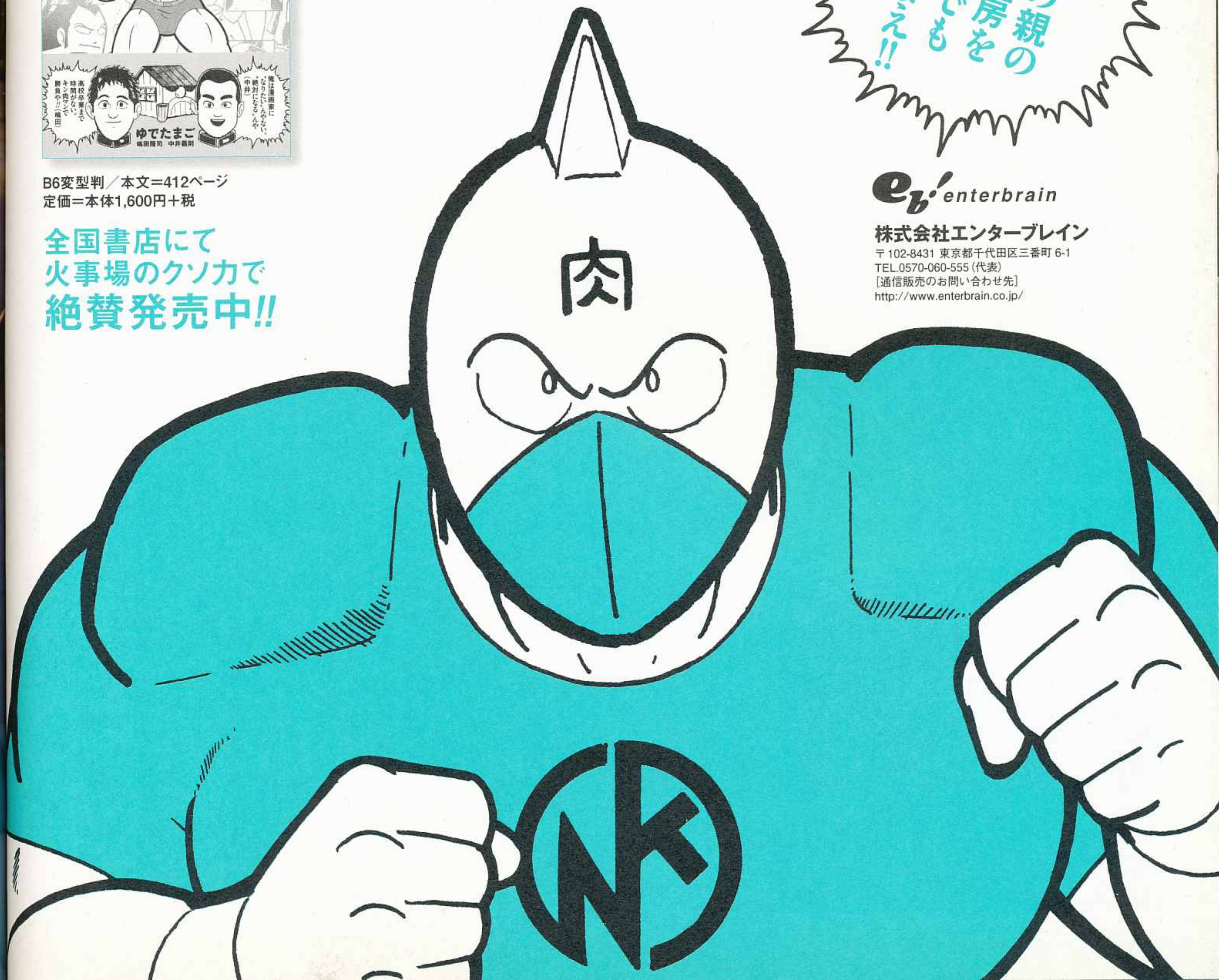
松永　そうでしょうね。カメとともに長生きするっていうか（笑）。でも、長生きだからこそ飽きられちゃうのか、カメって捨てられることも多いんですよ。それで生態系が崩れて、日本のカメが減ってるっていう問題も起こっていて。

──飼うならちゃんと最後まで飼え、と。今回の猿の問題も一緒ですよね。

松永　ペットを飼うなら最後まで責任をはたすことは大前提ですね。けっして勢いだけで飼わないこと、どれぐらいまで大きくなるかってことも把握しておく必要があると思います。とにかく動物はかわいがらないとダメですよ！

【09年6月5日／都内・『Mr.デンジャー』にて収録】

ステーキハウス『Mr.デンジャー』

松永が経営するステーキハウス『Mr.デンジャー』は東武亀戸線「東あずま駅」より徒歩3分！
東京都墨田区立花3-2-12 田中ビル1F／TEL.03-3614-8929／HP→http://www.mrdanger.jp/

打倒魔裟斗＆ウェルター級GP優勝祈願！

な、なんすか、このポーズ？

アイドルっぽくていいじゃん！

川尻達也 茨城最強師弟対談 桜井"マッハ"速人

ともに7月に大一番を迎えるDREAMファイターのビッグ対談が実現！
話は11年前の二人の出会いから振り返ろうとしたのですが……。
と、とにかく固い絆で結ばれた師弟のほほえましいムードをご堪能あれ！(汗)。

聞き手／鈴木佑　撮影／山口比佐夫　試合写真／乾晋也

――いや～、今回は〝茨城最強師弟対談〟ということで豪華な顔合わせが実現しました！　お二人の対談は他誌でも実現してますが、『kamipro』では初ということでよろしくお願いします！　まずはその出会いから聞きたいんですが？
川尻　え～と、それはほかの雑誌を見てもらうということで（笑）。
マッハ　そうだよ、もう何回もやってるんだからさ。面倒くさいなあ（真剣な表情で）。
――え？　あ、あの、よろしくお願いいたします……。
川尻　マッハさんの言うとおりですね。さ、早く終わらせましょう（笑）。
――川尻さん、悪ノリしないでくださいよ！　ウチしか読んでない読者もいますし、そんなこと言わずに。
川尻　フフフ。最初の出会いは、僕が格闘技を始めようと思って地元の土浦武道館に練習の見学に行ったときに、マッハさんが総合の指導をしてたんですよ。
マッハ　もともと川尻は新空手をやりにきたんだよな？
川尻　そうです、K－1を観て打撃をやりたいなと思って。で、K－1が載ってる雑誌にマッハさんのマセロ・アグア戦の記事もあったんで、「あ、雑誌で読んだ人だ！」と思って挨拶したんですよ。そこからの付き合いですね。
――お互いの第一印象はどんな感じでした？
川尻　大きいなっていうのと、延々とミット打ちをやられてたんで凄いスタミナだなって思ったのを覚えてます。
――なるほど。一方のマッハさんは……。
マッハ　（さえぎるように）これ、ほかの対談のときに話したよな！
川尻　そうですよね！　じゃあ、やっぱり

いまのマッチョぶりからは想像もできない、川尻（当時20歳）の初々しい姿！　そしてその川尻に指導するマッハ。その頃からいまだ第一線で活躍を続けるのだから、いやはや超人です！

マッハさんの指導は論理的で初心者の僕にもわかりやすかったです（川尻）

そのあたりのことは『格闘技通信』と『ファイト&ライフ』のバックナンバーに載ってるんで、そっちを参照ということで！（笑）。
――えぇ～⁉　ホントにカンベンしてくださいよ！（汗）。
川尻　てか、鈴木さん、マッハさんにビビってないですか？（笑）。
マッハ　すげえ、汗かいてるじゃん！　オレ、なんかした？　ねぇ？
――い、いや、取材前に川尻さんにマッハさんの取材は初めてということを伝えたら、「マッハさんはその日の気分でテンションが全然違いますよ。ちなみに僕はマッハさんの前では直立不動なんで対談になるかどうか（ニヤリ）」ってプレッシャーかけられたのと、いきなり他誌参照とか言われちゃったんで……（しどろもどろ）。
〈ここで急に席を立つマッハ〉
――あ、あれ、マッハさん、どちらへ⁉
川尻　（ニヤニヤ）。
――ど、どうしたんですか？　川尻さん。
川尻　長年の付き合いだからわかりますけど、今日のマッハさんは機嫌いいほうだと思いますよ（笑）。
――そ、そうですか？　でも無言でどこか行っちゃいましたけど……。
〈マッハがアルバムをたくさん抱えて戻ってくる〉
マッハ　ほら、川尻の昔の写真持ってきたよ。見ないと俺も昔のこと思い出せないからさ。
――あ、ありがとうございます！　うわぁ～、川尻さん、めちゃくちゃ痩せてますね！
川尻　総合を始めた頃は60キロなかったですからね～。
マッハ　ホント、モヤシくんだったよな。あ、これ見て。川尻が初めて出場した大会の写真、たっちゃんに負けたときだ（笑）。
――たっちゃんというとマッハさんの弟の桜井達也さんですね。川尻さんは総合を始めてどのくらいで大会に出場したんですか？
川尻　1ヵ月くらいでしたね。マッハさんと中尾（受太郎）さんの試合を観て、「すげえ、かっこいい！」って影響を受けたあとだったんで。
――それはマッハさんに勧められて？
マッハ　俺が「もう大丈夫だよ、出ろよ」って言ってね。
川尻　けっこう軽い感じでしたよね（笑）。でも、当時は周りのレベルも知らないし、マッハさんの言葉だから「俺、大丈夫なんだ」と思って出たんですよ。で、1回戦は総合格闘技歴5年の人と当たったんですけど、たった1ヵ月の僕が勝っちゃったんですよ。だから「ああ、俺って天才なんだな」って（笑）。
――デビュー戦で自分が天才だと確信した、と（笑）。
川尻　そしたら2回戦でマッハさんの弟さんに負けて、「ああ、俺って弱いんだな」みたいな（笑）。
マッハ　まぁ、たっちゃんも強かったからね。そのあとにアマ修斗の全日本（トーナメント）で2位になったし。

――もともと川尻さんが総合を始めたき
川尻　いやいや、論理的でしたよ。ローを
「俺もリングに立ちたい」っていうのはあ
川尻　当時はまだまだ、いまみたいに技術

ずっと練習してると酒飲んでないのに酔っぱらって凄く気持ちいいんだよ（マッハ）

──もともと川尻さんが総合を始めたきっかけはマッハさんなんですか？

川尻 そうですね。マッハさんに……。

マッハ （さえぎるように）ほら、この写真見てよ！ 俺、ちゃんと川尻に指導してるじゃん、ね？ ね？ してるでしょ？（顔を近づけて）。

──は、はい。しております！

マッハ 川尻が総合始めた話だっけ？ たぶん、俺が川尻に「やりなよ」って勧めたんですよ。その頃はまだ総合やる人あんまりいなかったし、こっちも広めていきたいっていうのがあったからさ。

──それは川尻さんに素質を感じて？

マッハ あ、それは全然ない。

川尻 アハハハ！

マッハ その頃は才能とかそういうのじゃないよね。川尻が陸上やってたのは知ってたけど、「とにかくまずやってみて」っていうさ。

──川尻さん、マッハさんの指導は厳しかったですか？

川尻 厳しかったですね～（しみじみと）。でも、教え方はうまかったですよ。僕はホントに格闘技のことは何も知らなかったんですけど、初心者にもわかりやすい指導でしたし。

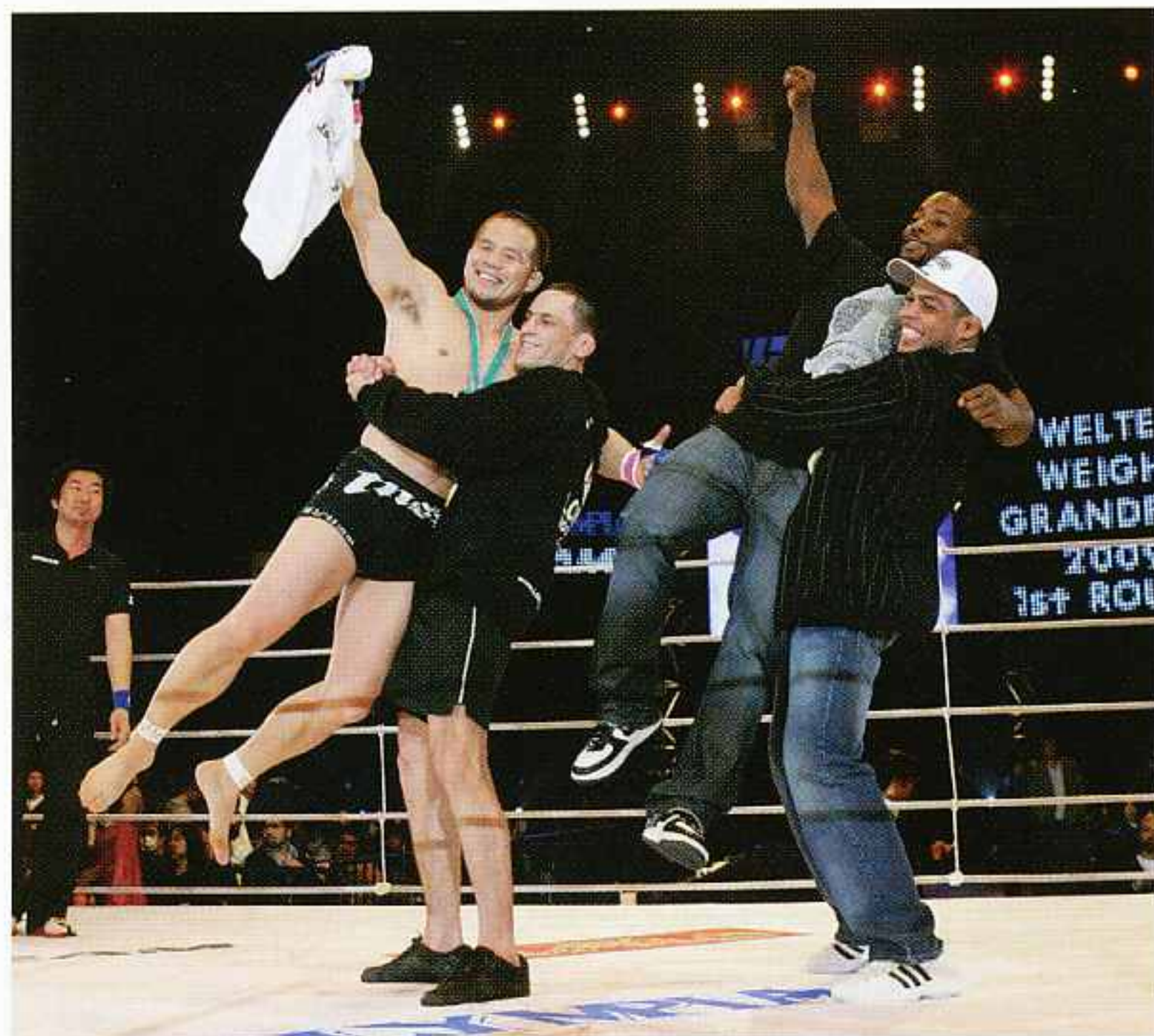
──こちらの勝手なイメージとしては、マッハさんは自然児と呼ばれるだけあって天才タイプというか、長嶋茂雄みたいに「バーンとやって、ガーンとやって」みたいな感覚的な指導なのかなと思ったんですけど（笑）。

川尻 いやいや、論理的でしたよ。ローを強く蹴る方法とか足の角度とか。その当時の僕は全部を理解することはできなかったですけど、凄い細かく教えてくれたのは覚えてます。

──マッハさん、川尻さんは生徒として優秀でした？

マッハ うん、飲み込みは早かったと思いますよ。本当にあっという間に強くなっていったんで。でも、石田（光洋）くんも岩瀬（茂俊）くんも凄い早かったな。うん、みんな早かったです。

──そうですか（笑）。川尻さんはプロになろうと思ったきっかけは？

川尻 もちろんマッハさんの試合を観て、「俺もリングに立ちたい」っていうのはありましたね。あとは弟の達也さんがアマ修斗で勝ち続けてプロになったのも大きかったです。やっぱり身近な存在の人がプロになれるとこっちもモチベーション上がるっていうか、「俺もなれるんじゃないか」って思いましたし。

ウェルター級GP決勝ラウンドに日本人最後の砦として臨むマッハ。笹原イベントプロデューサーは「ライト級、ミドル級は外国人がベルトを持っているので、絶対に優勝しないとダメ」と、マッハに優勝を義務づけた！

マッハ 川尻はプロデビュー戦こそ負けましたけど、そのあとはずっと勝ってたんで、頑張ってるんだなと思いましたよ。当時、一緒に練習してるメンツでウェルター級はあと石田（光洋）くんくらいしかいなかったですからね。二人で切磋琢磨したんだろうね。

──川尻さんがマッハさんに受けた一番大きな影響というと？

川尻 やっぱり練習量ですね。こんなに強い選手でもこんな練習するんだなって。当時、僕の身近で第一線で活躍するプロってマッハさんしかいなかったから、それがあたりまえだと思ってたんですよ。だから、弱い僕はもっとたくさん練習しなくちゃいけないと思って。でも、出稽古とかプロで試合していくうちに、マッハさんが特別であって、ほかの選手はそんなにやってるわけじゃないんだなってわかったんですけど（笑）。

──いきなり最高峰を見たわけですね（笑）。マッハさんは自分が誰よりも練習してるっていう意識はありました？

マッハ まぁ、若いし身体が元気だったんでしょうね。やることないし（笑）。疲れないと夜も寝られないしさ。効率とかなんにも考えず、練習はやればやるほどいいって思ってたんでしょ。

──科学的なトレーニングというよりは、精神面を鍛える部分も大きかったということか。

川尻 当時はまだまだ、いまみたいに技術体系やトレーニング方法も確立されてなかったですからね。僕も普通のヘッドギアをつけずに、16オンスのグローブでマッハさんにガチで殴られたり蹴られたりして死にかけてましたから（笑）。

マッハ （急に大声で）あ、思い出した！

──ど、どうしたんですか？

マッハ 練習量の話なんだけどさ、ずっと練習してるとね、酒呑んでないのに酔っぱらえるんですよ。

──……それ、ちょっと危ない兆候なんじゃ？

マッハ へへへ。それが凄い気持ちよくて、毎日の快感だったんですよ。ある意味アル中っていうかね（笑）。

川尻 僕、マッハさんから初めてそんなこと聞きましたよ（笑）。それを味わいたいから練習してたっていうことですか？

マッハ そうそう。グラグラするんだよ、無茶苦茶。それが気持ちいいの（笑）。

──……川尻さん、理解できます？

川尻 いや、まったくわからないです（笑）。常人にはわからないというか、マッハさんならではじゃないですか？

マッハ へへへへ（嬉しそうに）。たぶんアドレナリンと何かが関係してるんですよ。凄い興奮して、かつ凄い疲れて心拍数が上がるとそうなるんですよ。最近はないですけど、その頃はそういうのが好きだったなぁ。

──その状態で川尻さんを練習でボコボコに？

マッハ いやいや、その頃の川尻相手じゃそんなにはならないですよ。

川尻 マッハさんは軽く相手してるつもりだったでしょうけど、僕はライオンに追っかけられてるような感じでしたよ（笑）。

川尻は心をこめて格闘技に取り組んで人に隠れて努力をしてると思うよ（マッハ）

マッハ　でも、川尻も身体がどんどんマッチョになってってたからね。（桜井）隆多さんとつるみだしてから、急にどんどん体型が変わっていった。なんか魔法の何かがあるのかなと思ってましたけどね、ハハハハ！

川尻　隆多さんにトレーニングの仕方を教わりながらマッハさんや（佐藤）ルミナさんを見て、「ああいう身体になりたいな」って思ってたんですよ。当時は異常なほど食べてましたからね。毎日ごはんもシーチキンも山盛りで。その頃は一カ月で10キロくらい増えましたよ。

マッハ　へ～、じゃあ3カ月やったら30キロじゃない？　魔神ブゥみたいになってさ、ハハハハ！　ねぇ、そうでしょ？

——は、はい。単純計算でいえば。

川尻　ククク。

マッハ　でも、大きくなったけどあんまり太ったって感じはしなかったけどな。

川尻　その頃、逆にマッハさんはどんどん太っていって（笑）。

——マッハさんってけっこう体重の増減が大きいようなイメージがあるんですけど……？

マッハ　あんま変動するのはよくないみたいですけどね。俺は一番あったときは93キロ。いまは70キロくらいだけど。

——な、70キロ？

マッハ　冗談ですよ、ハハハハ！

——あ、冗談ですか。アハ、アハハハ……。

川尻　（ニヤニヤ）

マッハ　（さえぎるようにかかってきた電話に出て）はい、もしも～し！

——あ、あ、すいません……。

川尻　（ニヤニヤ）

マッハ　（電話を切って）あ、大丈夫ですよ、始めてもらって。

6月10日に行なわれたファン公開の対戦カード発表会見、川尻は魔裟斗と丁々発止の舌戦を展開！　上から目線の魔裟斗に対して挑発まじりにやり返した川尻には、ひときわ野太いファンからの歓声が飛んだ。この模様は『kamiproドットコム』で各自調査！

——は、はい。え～と、お二人は練習以外にプライベートとかでも交流はあるんですか？　共通の趣味とか？

マッハ　あぁ、そういうのはないよなぁ。

川尻　いま、マッハさんの趣味は自転車ですもんね。

マッハ　そうそう。昔からチャリは好きなんですけど、最近しょっちゅう乗ってるんですよ。でも、自転車は好き嫌いあると思いますよ、凄くつらいから。普通なら練習以外であんなことやりたくないって思うもん。川尻もチャリでダッシュとか練習でやるでしょ？

川尻　やってますね、凄く疲れます。

マッハ　あれをずっとやってるようなもんだもん。趣味なのに練習よりキツいですよ。

——趣味が練習よりハードですか（笑）。練習でいうと、東京のほうが茨城よりどうしても環境的に優れてると思うんですけど、地域格差みたいなのを感じたことはありますか？

川尻　いまでこそ自由に好きなところに行ったりできますけど、アマのときには差を感じてましたね。だから、東京の人たちには負けたくないなって思ってましたし。

マッハ　俺はあまり感じなかったです。昔から木口道場によく行ってたしね。あ、あれは東京じゃなく神奈川か、ハハハハ！

——川尻さんは結婚しても茨城にずっと住んでますけど、東京を拠点にしない理由は？

川尻　こっちのほうが住みやすいし、ストレスも溜まらないですから。東京は人が多くてゴミゴミしてるし、自然も少ないし。あまり長くいたいとは思わないんですよね。なんか、すぐ帰りたくなる（笑）。

マッハ　わかるよ。アメリカ行くと思うんだけど、たとえばあっちはすべてが広いんですよね。日本は道路とかも含めて小さいでしょ？　あのね、俺、どっちかと言ったら閉所恐怖症なんですよ。

——唐突なカミングアウトですね（笑）。

マッハ　いや、ホントなんですよ。知り合いの小さいヘリコプターに乗ったんですけど、シートベルトはちゃっちいし、ドアそのものもないんですよ。それでグラングラン揺れるから死ぬかと思ってさ。

川尻　それ、相当ヤバいですね。

マッハ　だからそれに乗って以来、狭いところも高いところも全部ダメになっちゃったの。ほら、DREAMとかPRIDEのオープニングで高台に乗ったりするじゃないですか？　俺、アレがおっかなくてしょうがなくて「もうダメだ、気が狂って飛び降りてしまう～」ってなるから、ごまかすために屈伸してるんですよ。ホントは座り込みたいんだけど、そうもいかないからさ（笑）。

——試合前にそんな闘いが（笑）。

川尻　でも、僕も高いとこダメですよ。DREAMで（エディ・）アルバレス戦のときに凄い高いステージから下りてきたんですけど、試合前にできるかできないか迷ってて。「ほんとにダメだったらやめていいよ」ってスタッフの人に言われてたんですけど、ほかの選手がみんなやる手前、一人だけやらないわけにもいかず（苦笑）。

——高いところが苦手とは意外な共通点ですね（笑）。さて、お互いの「ここが凄い」と思う部分を聞きたいんですが？

川尻　いや、もう僕にとっては憧れですから。やっぱりたたずまいから試合での流れるような動きまでかっこいいですよね。昔は練習にもマッハさんのビデオを観てから毎回参加してましたし。試合もマッハさんになったつもりで、名前呼ばれるところからゴングが鳴るまで真似したこともありましたよ。マッハさんはコールされたときに暖簾くぐるみたいに手を挙げるんですけど、それも完コピして（笑）。

——「まだやってる？」みたいな（笑）。マッハさんから見て川尻さんの評価してるところというと？

マッハ　ホントに努力してるところですかね。もちろん誰だって努力はしてるん

決勝ラウンドは日本人一人ですけどマッハさんならやってくれるはず（川尻）

だけどさ、その中でも精進してるっていうかね。あ、努力ってどんな意味だか知ってますか？

――へ？　意味というと……。

マッハ　（顔を近づけて）どういう意味か知ってます？

――え～っと、努力とは、その、努める力というか……（チラッと川尻を見る）。

川尻　ククク。

マッハ　（さえぎるように）違う、違う！　努力っていうのはね「物事に対して心をこめて、骨折ってでもそれを続けること」って辞書に書いてあるんですよ。川尻はホント、その言葉どおりのヤツだと思いますよ。心をこめて格闘技に取り組んでね、人に隠れて努力してるんだろうなって思うし。

川尻　やっぱり好きなことをやってるわけですからね。好きだからこそ、苦しくても楽しくやってた感じですよ。だから特別に努力したっていう感じはないですね。

マッハ　じゃあ、天才じゃん（笑）。努力じゃないなんて、言ってることが天才みたいだよ。あ、天才ってどういう意味か知ってますか？

――こ、今度は天才ですか……？（チラッと川尻を見る）。

川尻　その、困ると僕のほう見るのやめてくださいよ（笑）。

マッハ　（気にせず）あのね、天才っていうのはスタート地点に立ったときに、それまでの努力が努力だと気づかない人のことなんですよ。だから、まさに川尻はそのとおり！（キッパリ）。

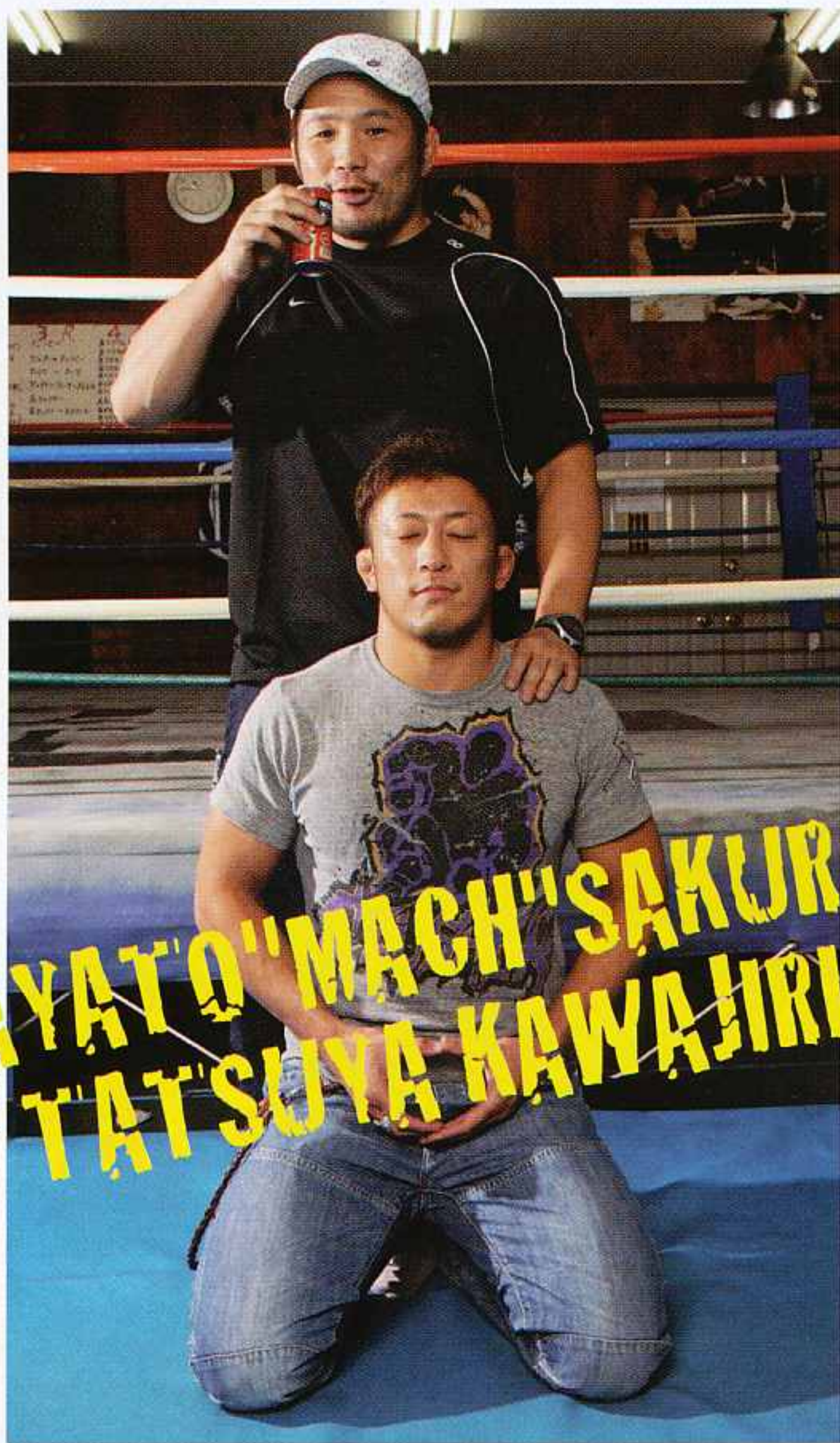
川尻　いや、僕がそうしたのはマッハさんを見て、マッハさんがこんな練習してるなら僕もやらないとって思ったからですよ。それがあたりまえだと思ってたので。そうしたら周りはそんなしてなかったっていう（笑）。

マッハ　俺の場合は努力っていうか、さっきも言ったけど快感だったからさ（笑）。あ、快感は辞書で調べたら気持ちいいって書いてあるからね、ハハハハ！

川尻　（ニヤニヤ）

――べ、勉強になります。それでお二人とも7月に大一番が控えてますね。この取材時点では正式発表はまだですけど、川尻さんは13日のK－1 MAXで魔裟斗戦、マッハさんは20日の『DREAM.10』でウェルター級GPの決勝戦トーナメント。

マッハ　魔裟斗くんとはぜひやってほしいよね！　今度、俺が魔裟斗くんに言っておきますよ、「川尻とやれや！」って。アハハハハ！

――よろしくお願いします（笑）。マッハさんはMMAファイターがK－1ルールで闘うことについてはどう思いますか？

マッハ　あのさ、MMAファイターっていうのは打撃、寝技、レスリング、どれをとっても一流目指してやらないといけないっていうか、それが使命だと思うんですよ。だって総合格闘技なんだから、総合的になんでもできないとさ。

川尻　マッハさんもシュートボクシングに出たり、アブダビに出たりいろいろやってますもんね。

――川尻さんはマッハさんのウェルター級GP1回戦には相当興奮したみたいで。

川尻　ひさびさに怖いマッハさんが見られましたからね。いままで対戦相手に恵まれなくて、苦しい思いをしてるのも知ってるんで。そんな中で青木くんみたいな強い選手を相手にファンが望む試合をして、ああいう勝ち方をするというのは、かぎられた選手しかできないことですし。決勝ラウンドも日本人一人ですけど、マッハさんならやってくれると思います。

マッハ　俺はさ、魔裟斗戦もそうだけど、川尻がMMAでチャンピオンになる姿を見たいですね。ぶっちゃけ、言葉は悪いけど魔裟斗戦は余興みたいなものじゃん（笑）。そりゃ魔裟斗くんに勝ったら知名度は高くなるけど、MMAファイターとしてランキング的には変わらないからさ。だから、魔裟斗戦の先にベルトを見据えればいいんじゃないですかね。

――なるほど……。（川尻のほうを向いて）だそうですよ、川尻さん！

川尻　だから、困ると僕に振るのやめてくださいよ（笑）。

マッハ　ねぇ、なんでなんで？　俺、ビビらせた？

――いえいえ（汗）。今日はお二人の素晴らしい師弟愛が垣間見られて嬉しかったです。ありがとうございました！

川尻　無理矢理にまとめましたね（笑）。

マッハ　え？　もうオシマイなの？　なんだよ、もっとしゃべろうよ。アハハハハ！

【09年6月5日／茨城県・マッハ道場にて収録】

HAYATO"MACH"SAKURAI
TATSUYA KAWAJIRI

さくらい・まっは・はやと■1975年8月24日、茨城県出身。98年、修斗ウェルター級王座に君臨。90年代から修斗のトップとして活躍し、総合格闘技を牽引。PRIDEではライト級GPで準優勝。DREAMウェルター級GP1回戦では青木に真也秒殺TKO勝利、7.20の決勝ラウンドで優勝を狙う野生のカリスマ。171cm、76kg。

かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。04年、修斗ウェルター級王座に君臨。PRIDEを経て、08年からはDREAMを主戦場とする。同年の『Dynamite!!』では初のK-1ルールで武田幸三からKO勝利。今年5月にJZカルバンを撃破、7.13K-1 MAXで魔裟斗戦に臨む。171cm、69.9kg。

クラッシャーの名参謀が語る魔裟斗戦!

魔裟斗戦は宝くじだ!

川尻達也のトレーナー 山田武士

「K-1をナメるな!」みたいなことを言うなら「一発も触らせないで勝ってくれ」と。

聞き手／鈴木佑　撮影／山口比佐夫

——山田さんは川尻さんが魔裟斗選手とK-1ルールで闘うことには反対なんですよね?

山田 オレは反対だね。それは「やるべきじゃない」ってことじゃなくて、相手の土俵でやって負けてもさ、MMAファイターが下に見られることになるわけだよな。要は、魔裟斗くんとやるっていうのは、川尻のネームバリューを上げるためなんだろ。

——それに伴って、総合格闘技やDREAMの存在を知ってもらうきっかけになるというか。

山田 そこが凄くせつないよね。「総合格闘技ってそういう立ち位置なの?」みたいな。ただ、なんで魔裟斗くんからケンカを売られてるのか、ビックリなんだよなあ。「どうしてそんな怒ってんの?」みたいな。べつにこっちはナメてないのにね。

——大晦日にK-1勢が惨敗した件もあるし、格闘技界を盛り上げたいんじゃないですかね。ところで山田さんは鈴木悟選手が魔裟斗さんと試合されたときにセコンドにつかれましたが、魔裟斗さんの凄さっていうのはどういうところだと思われますか?

山田 いやあ、もうとにかく凄いでしょ! ウチの元東洋チャンピオンは魔裟斗くんとスパーをやったことあるんだけどさ、ホントに凄い選手ですよ。キックで言ったら立嶋篤史が世の中で一番練習してると思ってたんだけど、それに匹敵するか、超えてるぐらいの鬼気迫る練習。ホントに脱帽ですよ。

——技術的にはどのへんが優れてるんでしょうか?

山田 努力でしょ。

——技術を超えて努力!

山田 努力でしょ、やっぱり。佐藤(嘉洋)くんや(アルトゥール・)キシェンコに倒されたあとに盛り返したのなんて技術じゃないからね。気持ちと努力じゃないの。そこは凄いと思う。

——山田さんは魔裟斗対策を練ってるんですか?

山田 対策? ある? 逆に教えてよ。『kamipro』的に。

——そうですねえ。〝スーパー川尻マン〟になるとか(『kamipro Special 2009 JULY』の「川尻達也 vs 魔裟斗を100倍楽しく観る座談会」を参照)。

山田 ……は? 何言ってんの。

——僕らは祈るしかないんです!

山田 オレだって祈るしかねえよ!(笑)。

——武田(幸三)戦は奇跡的じゃないですけど、100回に一回の勝利って言われてたじゃないですか。

山田 そうだねぇ。魔裟斗くんに勝つのは100回どころじゃないでしょうね。何万回に一回じゃない?

——何万回!

山田 もしだよ、川尻達也がボクシングの世界チャンピオンとボクシングの試合をするとしたら、一発も触れられないと思う。間違いなく、川尻は一発も触れられない。だからK-1チャンピオンの魔裟斗くんはK-1ではそれぐらい強い。

——そこまで差がありますか

山田 うん。だから魔裟斗くんが「K-1をナメるな!」みたいなことをオレたちに言ってくるんだったら、「一発も触らせないで勝ってくれ」と。それぐらいの格の違いを見せてほしい。だってMMAだったら川尻は魔裟斗くんを1分ぐらいで倒せるでしょ。

——そういうことですよね。で、試合まで一ヵ月しかないですが。

山田 これハッキリ言っとくけど、準備期間が一年あっても一緒だから。一年で魔裟斗くんの実績には追いつけないから。だからこのままヘタクソなままでいったほうがいいんじゃないの? 多少うまくなるよりは、ヘッタクソなまんま勢いでいくほうがいいんじゃないかなって思うけどね。しっかし、凄いギャンブルだよなあ。宝くじの一等を当てにいくようなもんだよろ、これ。

——何がなんでも当てたいですよねぇ。いままでのトレーナー生活でこんな勝負ってありました?

山田 ないね。……ないよ! 悟がやったときは、「もうやらせてもらえるだけでありがとう!」みたいな。まあいい経験になったし。

——あのときはローを効かされて負けましたけど。

山田 そうだね。ただ、今回はああいう終わり方はできないっていうか、あの経験を踏まえて言うわけにもいかないんだけど、魔裟斗くんを知らないわけではないってことだよね。スパーリングもやってるし、考えるところはあるってこと。

——山田さん、なんとかお願いしゃす!(川尻調)。

山田 簡単に言うよな(苦笑)。ただ、ちょっと休みたかったなあ。5月のDREAMで忙しかったらさ、それが終わったら子どもたちと沖縄旅行の約束してて。それがな～んで7月に決まるかね。魔裟斗だなんだってさ、ウチの家庭をメチャクチャにするなっつうの。

——山田さん、沖縄旅行は勝ってから行きましょう!

山田 勝てなかったら行けなくなっちゃうじゃないの。

——世間どころか家族も巻き込む試合ですね(笑)。

山田 世間はどうでもいいけど、ウチの家族が心配だよ、オレは!!

【09年6月5日／都内・JBスポーツにて収録】

やまだ・たけし■ボクシングジム・JBスポーツのトレーナーであって、決して風貌だけで職業を判断してはならない。沖縄旅行を断念させた川尻以外にも、高谷や石田などが指導を仰ぐ存在。選手と同じ練習メニューをこなすタフな男。

フェザー級GP優勝を狙う喧嘩番長が"ワル時代"を激語り！

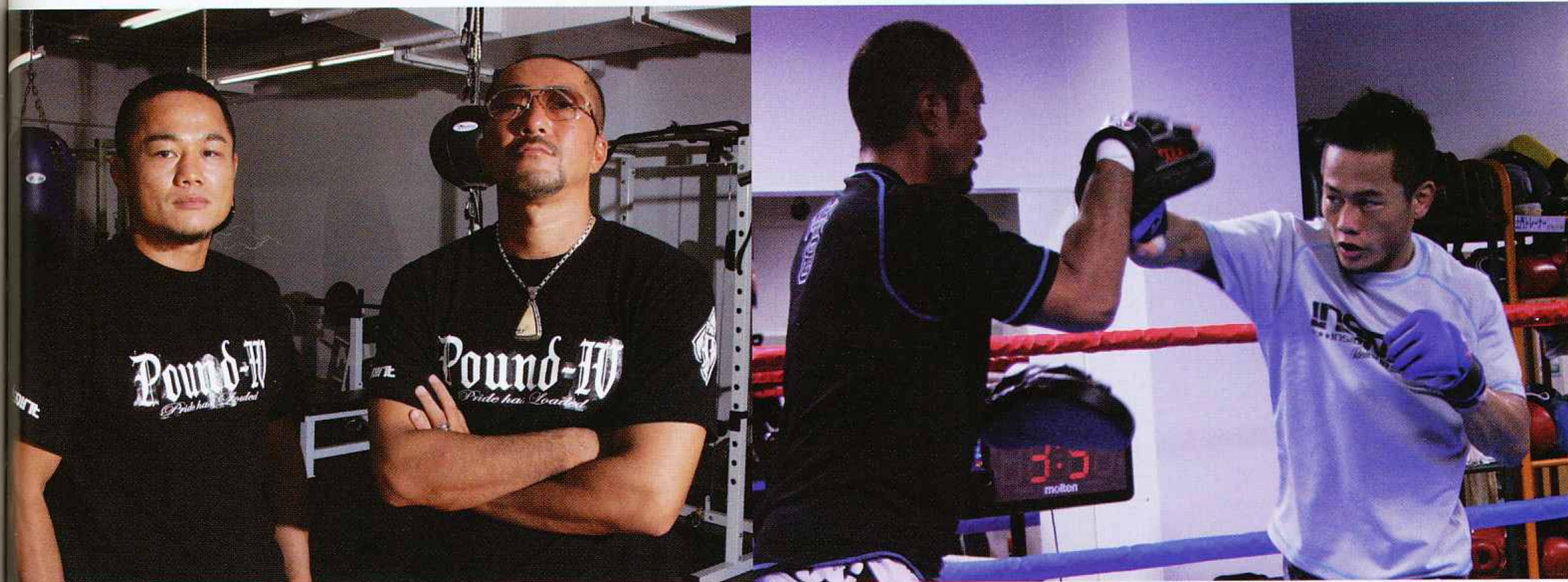
高谷裕之

Hiroyuki Takaya

関東有数のアウトロー集団「津田沼KGB」とは何か？

百戦錬磨の凶拳を武器に、フェザー級GPで圧倒的な存在感を見せつけている高谷。かつては武闘派チームに所属して、凄腕の喧嘩師として鳴らしたのは有名な話だ。今回はその過去を本人に語ってもらったのだが……いやぁ、とにかくハンパねぇです！

聞き手／鈴木佑　撮影／山口比佐夫　試合写真／乾晋也

―高谷さん、そのヘアスタイルは？
高谷　はい、完全にパンチです。ちょっとビシッとした頭にしたくて、ニュースタイルを提案してみました（ニヤリ）。
―ズバリ似合いすぎです！　でも、トレーナーの山田（武士）さんは「高谷のヤツ、『髪型スッキリしてきました』って言ってパンチパーマだぜ？　本職じゃねえんだからさ」なんて言ってましたけど（笑）。
高谷　ハハハハ。部屋の中でもいかついグラサンかけてるような人に言われたくないですよ（笑）。
―ダハハハ！　高谷さんと山田さんの仲のよさはよく聞くんですけど、そもそも知り合ったきっかけというと？
高谷　門馬（秀貴）さんに紹介してもらったんです。俺もスパーリングパートナーを探してた時期だったんで、チーム黒船に出入りするようになって。あの頃の山田さんはチョンマゲ頭だったんですけど「おもしろい頭してるな」って思いましたね。なんか悔しかったです。
―ジェラシーを感じましたか（笑）。
高谷　総合格闘技界で悪かった人ってあんまりいないと思うんですよ。柔道やレスリングとか、アスリート系の選手が多いっていうか。でも山田さんはめっちゃ悪かった人だから、俺と気があったんでしょうね。
―悪いっていうのは山田さんから昔の武勇伝とかを聞いて？
高谷　そんなの顔見りゃわかります。あんな悪い顔、いませんよ（笑）。まぁ、山田さんと俺は何かと共通点が多いんですよ。昔悪かったこともそうだし、ムカついたりするポイントが似てたり。よき兄貴分みたいな感じですかね。
―山田さんが「いままで何百人とスパーしてきたけど、高谷くんとやるのが一番おもしろい」って言ってたんですけど、聞いたところによると相当凄まじいスパーみたいですね。

"元ワル"として固い絆で結ばれている高谷と山田トレーナー。ともに好きな映画に『伝説のヤクザ』シリーズを挙げるなど趣味嗜好もバッチリ！ しかし、できれば夜道ではお会いしたくない風貌のお二方なのであった。

山田さんは入場するときから一緒に喧嘩にいくようなテンションですよ

高谷　あぁ、バチバチやり合ってた時期もありましたね。試合前なのにスパーで鼻曲げられたこともあったし。ホントにヒドい男ですよ（笑）。
―壮絶ですね～。でも、そういう拳の会話によって絆が深まったみたいな？
高谷　そうですね。思う存分に打ち合って気持ちが通じ合ったっていうか。あと、山田さんとは試合前の儀式として計量後には必ずスッポンを食べに行くんですけど、いままで4回食べて4戦4KOなんですよね。
―勝率100パーセント！　セコンドとしての山田さんはいかがですか？
高谷　やっぱ頼もしいですよ。デカい声で的確な指示を出してくれますし。前は「アドレナリンで血を止めろ！」とか精神的っていうか、ムチャなことばっかり言ってたんですけど（笑）。
―山田さんもそのくらい興奮してる、と。
高谷　いつも入場するときから一緒に喧嘩しにいくようなテンションですからね。
―くしくも喧嘩という言葉が出てきましたけど、今回は喧嘩番長と呼ばれる高谷さんのヤンチャだった時代の話も聞きたいんですよ。でも、もともとは野球の有名選手だったんですよね？
高谷　けっこううまいほうだったと思います。高校も野球の推薦で入った感じだったんで。でも、そこで先輩とうまくいかなくなって辞めちゃうんですけど。
―それは先輩のしごきとかで？
高谷　「おまえ、中学んとき悪かったんだって？　しゃしゃり出てくんじゃねえぞ」みたいな感じですね。俺はおとなしくしてたんですけど、あるとき4人くらいに部屋に呼び出されて蹴っ飛ばされたりして。
―目の敵にされてたわけですね。
高谷　俺はそのときにそいつらを全員覚えておいて、あとで一人ずつブッ飛ばして辞めたんですよ（苦笑）。一人は友だちの女の子に「渡したいものがあるんだけど来てください」って呼び出してもらってブッ飛ばして、残りの二人はそいつ自身に呼び出させてブッ飛ばしました（ニヤリ）。
―落とし前をつけた、と。そのあと次第にヤンチャになっていった感じでしょうか？
高谷　いや、中3の夏に野球の部活が一段落して、やることがなくなってから一気に悪くなりましたね。でも、もともと小学校の頃からほかの小学校に殴り込みに行ったりもしてましたけど。
―は～、「おまえ、どこ中だ？」っていうのは聞いたことありますけど。
高谷　「おまえ、どこ小だ？」みたいな感じです（笑）。
―いわゆる高谷軍団の母体となっている津田沼KGB（かつて高谷が所属していたアウトロー集団）には、いつ頃から出入

りし始めるんですか？

高谷　高校の途中ですね。それぞれの地区に喧嘩で有名なヤッっているじゃないですか？　それでKGBが初代から二代目に代替わりするときに、柏、松戸、稲毛、千葉、津田沼、船橋、市川あたりの有名なヤツが幕張メッセに集まったんですよ。

——幕張メッセですか。なんかイベントっぽいですね、実際は物騒な集会なんですけど（笑）。

高谷　そこで「おまえがどこ中の●●なんだ？」みたいな感じで盛り上がって、一緒にチームを組んでやっていこうってことになったんです。

——高谷さんはその中でのポジションは？

高谷　俺は津田沼支部のアタマと特攻隊長を兼任してました。まぁ、一番喧嘩っ早かったってのもありましたし。

——トップだったわけですね。あの、具体的にKGBではどんな活動を？

高谷　週一回土曜の夜に集会があって、「ドコドコにへんなヤツらがいるからブッ飛ばしに行こう」とか、「新しいチームができたから潰しに行こう」とかそんな感じです。

——そんな、潰すだなんて（汗）。と、とにかく津田沼でブイブイ言わせてたわけですね。

高谷　なんか気づいたら津田沼には俺ら以外のグループはなくなってましたね、だから平和な町でしたよ。

——町の平和に貢献してましたか（笑）。よく不良漫画なんかでキャラクターに〝●●の狂犬〟とか異名がついてますけど、高谷さんも通称みたいなのはありました？

高谷　なんか〝ワンパンの高谷〟って呼ばれてましたね。

——〝ワンパンの高谷〟！　それはワンパンチで相手を仕留めるから？

高谷　そうですね。地元中心にそう呼ばれてたみたいです。

——凄いですね～。そんな高谷さんにとって生涯一の喧嘩というと？

高谷　喧嘩っていってもいろいろありますからね……やっぱり初めての大物食いはインパクトに残ってますよ。KGBに入る前だったんですけど、俺の友だちが幕張界隈で凄い有名だった先輩にさらわれてボコボコにされたんですよ。

——はあ、さらわれましたか（汗）。

高谷　そのとき一緒にさらわれた一人が逃げ出して、俺らのところに助けを求めに

Hiroyuki Takaya

「オープンフィンガーグローブより素手で殴ったほうが気持ちいいですね」と語る高谷の拳には、生々しい無数の傷跡が——！　それは格闘技で負ったものとはあきらかに違うもの。"平成の生傷男"がここにいた！

KGBでアタマやってた頃は〝ワンパンの高谷〟って呼ばれてました

きたんで、その先輩のところに乗り込んでボコボコにやり返してやったんですけど。

——そ、それは素手で？

高谷　そのときは工事現場で鉄パイプを用意してから行ったんですけど、大きすぎたんで途中で捨てて素手で殴りにいって。基本的にみんなでやるときは武器を使うこともありますけど、1 vs 1のときは使わないですね。

——それは喧嘩の流儀みたいな？

高谷　いや、単純に素手で殴るほうが気持ちいいんで。感触とかあるじゃないですか（ニヤリ）。

——な、なるほど。あの、一応念のため聞いておきますけど、集団で印象に残ってる喧嘩というと？

高谷　なんか地元のヤ●ザと手を組んで津田沼に攻めてきたヤツらがいたんですよ。俺らがいなかったときに乗り込んできたんで「ふざけんな！」ってなって、相手のヤツらを3人くらい●●ってそのまま……（あまりにも壮絶すぎるエピソードなので省略）。

——は～、漫画の世界より凄まじいですね、聞かなきゃよかった（汗）。格闘技はテクニックも必要だと思うんですけど、喧嘩にもテクニックってあるんですか？

高谷　ないですよ、そんなの。まぁ、強いて言うなら勢いじゃないですかね、先手必勝っていうか。喧嘩の場合はどっちが相手をいち早く力でねじ伏せられるかってだけですよ。

——相当これまでに修羅場を潜り抜けてると思うんですけど、喧嘩の傷跡って残ってます？

高谷　手にいっぱいありますよ。（拳を指差しながら）これが食堂で野球部の先輩をブッ飛ばしたときに歯が刺さった傷。これは地元の先輩をブッ飛ばしたときに空振りして金網に刺さったときの傷。だいたい歯が刺さった傷が多いんですよ、雑菌が入って膿んで傷が残っちゃうから。あと、この眉毛のところの傷は、時計を巻いた拳でブン殴られて切れちゃった跡ですね。

——歴戦の勲章ですねぇ。でも、高谷さん自身の歯並びはきれいですよね？

高谷　あ、気づきました？　コレ、全部自前なんですよ。折られたりはしてないです、一応強かったみたいなんで（ニヤリ）。

——そ、そうですか。高谷さんがKGBから格闘技の世界に入るきっかけはなんだったんですか？

高谷　まぁ、喧嘩でパクられて、次やったらシャレにならないってレベルまでいっちゃったんですよ（苦笑）。でも、「そんな何年も喧嘩できないのはガマンできねえな」って思って。だからストレス発散の仕方を覚えなきゃいけないってことで、地元にあった（格闘結社）田中塾に入ったんですけど。そもそも最初は格闘技で食っていこうなんて全然思ってなかったんですよ。俺にとっては試合も〝プロの喧嘩〟なんですけど、気づいたらその喧嘩で飯を食うようになってたって感じですね。

——プロの喧嘩、ですか。先ほど「喧嘩は

勢い」って言ってましたけど、試合での心構えも変わらない感じですか？

高谷　そうですね。試合で冷静に闘おうって思うことは基本的にないですね。反則をしないように心がける程度で。俺は感情をコントロールできるほど器用じゃないですし、テクニックを駆使するタイプでもないんで。

──高谷さんにとってプロとして理想の喧嘩というと？

高谷　やっぱりパンチ一発でKOすることですね。たとえば関節取るためにいろんなワナ張ってとか、押さえつけてとかっていうような試合をする気にはなれないんですよ。俺自身がそういうのをおもしろいと思わないんで。たとえタックルで倒したとしても、パウンドで仕留めたいし。

──確かに高谷さんの試合は勝つにしろ負けるにしろKO決着が多いですね。自分の中でのベストバウトは？

高谷　う～ん、順位はつけられないですけど、こないだの前田（吉朗）戦とか（アントニオ・）カルバーリョ戦とかはやってて楽しかったですよ。あとは（ステファン・）パーリングとやったときも無傷でKOできたからよかったし。まぁ、有名な選手に勝つときが一番気持ちいいですね。

──それこそ大物食いですよね。ちなみにいまブッ飛ばしたい相手というと？

高谷　それはやっぱりフェザー級のトーナメントに残ってるヤツは全員ブッ飛ばしたいですよね。

いま一番ブッ飛ばしたい相手はフェザーGPに残ってるヤツ全員

──同じ日本人としては所英男選手が残ってますね。

高谷　所くんは『HERO'S』の頃はどれくらい強いのかなと思って興味あったんですけど、最近は負けが込んじゃってたからそんなにやりたいって感じでもなかったんです。でも、前回ちゃんと結果を出しましたからね。残った日本人は二人しかいないし、どっちが強いのかハッキリさせたいっていうのはありますよ。ファイトスタイル的にも性格的にも正反対でしょうけど、所くんはおもいきりがいいからおもしろい試合になるんじゃないですか？　俺はそれを完璧に受け止めて叩き潰す、それだけですね。

コワモテの一面ばかりが強調される高谷だが、笑うととってもチャーミング（←失礼）。こんなイタズラっ子のような表情から「ブッ飛ばして」やら「さらって」やら「鉄パイプで」やら、物騒な言葉がボンボン飛び出すのだからいやはや（汗）。

──高谷さんは日本人と外国人でどっちがやりやすいとかあります？

高谷　外国人をブッ飛ばしたほうが気持ちいいって部分はありますね。世界と喧嘩してるみたいな感じで。

Hiroyuki Takaya

──山本"KID"徳郁選手を下したジョー・ウォーレンにはどんな印象を持ってますか？

高谷　タフですよね。あれだけアグレッシブに来てくれるならこっちもやりがいがあるし、俺となら噛み合うんじゃないですかね。たぶん、俺はビビアーノ（・フェルナンデス）とやっても楽しい試合にはならないと思うんですよ。向こうはこっちのやりたくないことしかやってこないでしょうし。喧嘩みたいにぶつかり合う試合にはならないっていうか。

──2回戦の前田戦は残念ながらテレビで放映されなかったですけど、そういうのは気になりますか？

高谷　最近はあんまり意識してないですね。昔はせっかく『HERO'S』に出たんだからちゃんと扱ってほしいとか思ってた時期もありましたけど、今回はべつに驚きもしなかったし。

──あれ、世間に名を売りたいっていう意識はあんまり？　プロとしての目標というか。

高谷　いまはそんなにないですね。そっか、俺、プロとして何が目的なんだろ……（熟考）。

──考え込んでますね（笑）。

高谷　……まぁ、闘うことが好きだからですね。趣味だった喧嘩を商売にしたのも好きだからだし。うん、喧嘩が好きだからです。

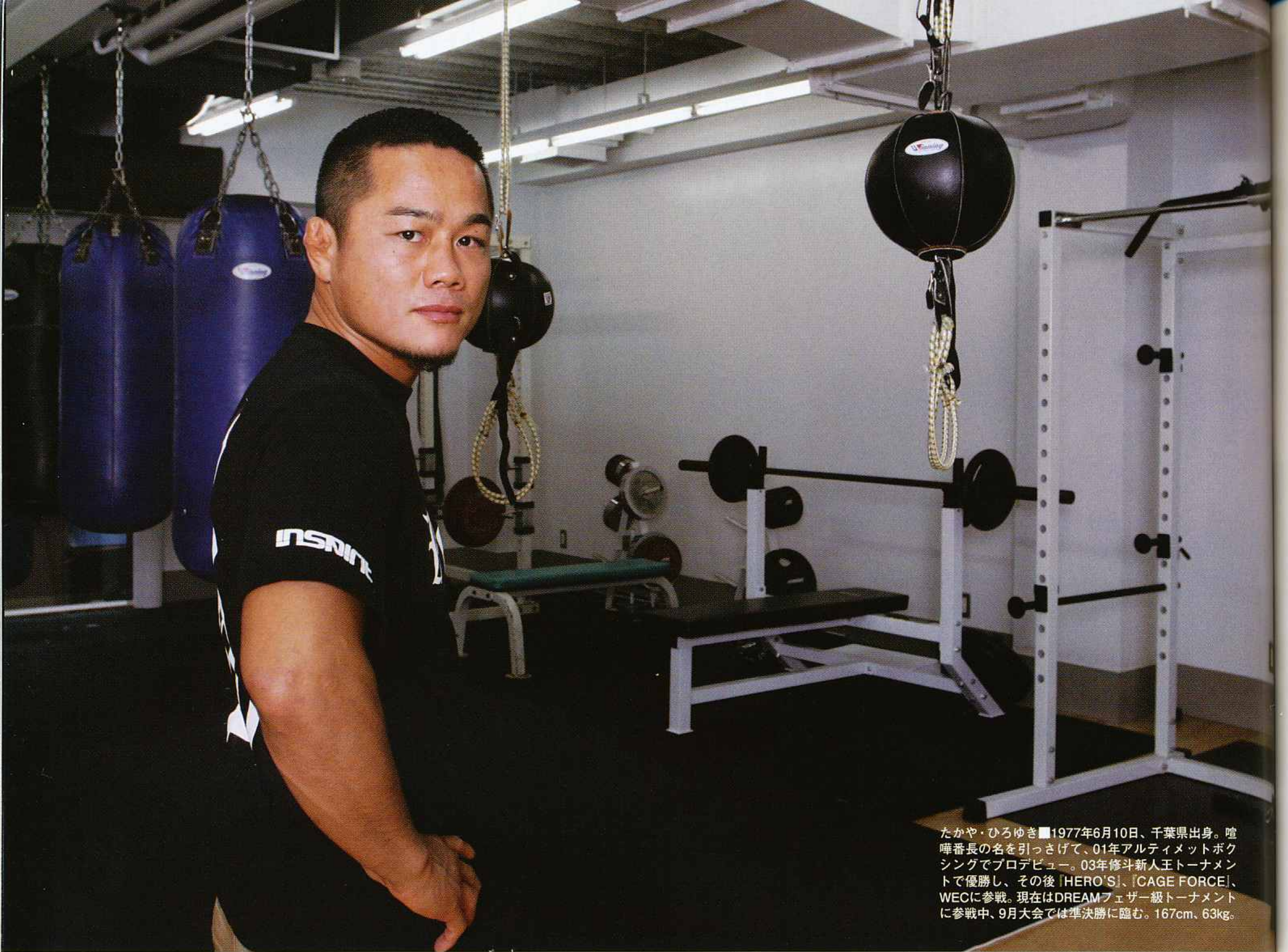
──単純明快ですね。もちろんトーナメントは優勝が目標だと思うんですけど、そのあとのビジョンはありますか？

高谷　やっぱりWECで結果出せなかったんで、世界に対して仕返ししたいっていうのがあるんですよね、落とし前っていうか。

GPで唯一の連続TKO！ 高谷のDREAM喧嘩街道!!

GP初戦の相手は韓国柔道界の至宝と呼ばれたキム・ジョンオン（3.8『DREAM.7』）。総合初参戦だけに高谷の楽勝かと思われたが序盤はなかなかペースをつかめず。しかし、最後は豪快な右ストレート一閃！ この大会で唯一のTKO勝利を収め、観客の溜飲を下げた。

2回戦唯一の日本人対決となった前田吉朗戦（5.26『DREAM.9』）。高谷は左目尻から出血、また膠着誘発行為でイエローカードを提示されるなど苦戦。しかし、最後はカウンターで渾身の右ストレート！ 勝利後に何度もリング上で咆哮するほどの快心の勝利となった。

9月の決勝ラウンドに進出するベスト4。山本KIDが脱落したいま、高谷には所と並んで日本人優勝の期待がかかる。「よく周りにKIDくんとの試合が観たいって言われてたし、僕もやりたいなぁって思ってたんですけどね」と語る高谷。ぜひ優勝した暁には『Dynamite!!』で観てみたい！

たかや・ひろゆき■1977年6月10日、千葉県出身。喧嘩番長の名を引っさげて、01年アルティメットボクシングでプロデビュー。03年修斗新人王トーナメントで優勝し、その後『HERO'S』、『CAGE FORCE』、WECに参戦。現在はDREAMフェザー級トーナメントに参戦中、9月大会では準決勝に臨む。167cm、63kg。

海外で海外のヤツをブッ飛ばしたら絶対に気持ちいいんですよ。場内のブーイングとか、敵地の雰囲気を味わいながら勝ちたいですね。海外だと俺の仲間たちもなかなか応援に来れないですし（笑）。

――さすがの高谷軍団も海を越えるのは難しい、と（笑）。あいかわらず高谷軍団の応援は凄いですよね。昔は興奮してきた仲間がリングにまで上がってきたこともありましたけど。

高谷　あぁ、ありましたねぇ。あれは後輩だったんですけど、俺とか周りの先輩とかが「あれはねーよ！」ってちゃんと教育的指導しました（笑）。

――でも、そのくらい熱の入った応援をしてくれる仲間がいると気合いが入りますよね。

高谷　そうですね。昔のメンツが観てると思うと、負けたら恥ずかしいですから。あいつらに情けない姿は見せたくないですね。

――軍団のトップなわけですもんね。昔はほかのチームを潰すのがおもな活動だったわけですけど（笑）、いまはどんな感じで仲間たちと交流してますか？

高谷　1年半くらい前から仲間内でゴルフをやってますよ。

――ゴルフですか！　失礼ながらちょっと意外な感じが（笑）。

高谷　やっぱり千葉県民としてはゴルフとサーフィンはやらなきゃいけないなって。千葉県の宝といえば日本一多いゴルフコースと、日本一波が立つ海ですから。

――ちなみにサーフィンのほうは？

高谷　そっちはいまは敬遠してますね。サーフィンって波の取り合いじゃないですか。だから俺がやると「この波は俺のだ、前から乗るな」って喧嘩になっちゃうっていうか。ガキの頃にやった時期もあったんですけど、全然楽しめなかったんで、もうやってないですね。ゴルフは打ちっぱなしに行ったりするところから始めて、最近はコースにも行きますよ。だいたい100前後くらいで回ってます。慧舟會の道場の下にある八百屋のおじさんとも行ったりしますし（笑）。

――かつてのKGBの仲間たちはいまどういう職業に就いてるんですか？

高谷　前は金融関係とかが多かったですね。いまはそういうのはほとんどダメになっちゃってるから、そのときに貯めた金で飲食業とかやって成功してるヤツもいるし。デザイナーだったり彫り師のヤツもいますね。なんにしろ、普通にサラリーマンやってるのはほとんどいないかも（笑）。

――なるほど（笑）。俗にいうチームとか暴走族出身の人って、いわゆる裏社会の世界に行く人も少なくはないですよね。

高谷　ぶっちゃけ、いまだから言える話ですけど、俺も行くか行くまいか迷ってた時期も正直あったんですよ。でも、自分はしがらみとかが苦手なんで、ああいう世界にはたぶん向いてないと思うんですよね。だからいまはそっちに行く気はないですね……まだ。

――「まだ」って（笑）。もういまや立派なプロ格闘家じゃないですか！

高谷　いやいや、人生なんてどうなるかわからないですよ。この先いつまでプロとして飯が食っていけるかもわからないし。でも、まだまだ俺の拳が殴り足りないって言ってるんで、当分はリングで暴れたいと思いますけどね（ニヤリ）。

――なるほど。今後も喧嘩街道をバク進することを期待してます！

［09年6月5日／都内・JBスポーツにて収録］

好カードを100倍楽しむポイントを直撃

髙阪剛の【7・20】DREAM.10講座

予習編

青木の大一番、菊野のDREAMデビュー戦など、
見どころ満載の『DREAM.10』について、
いち早くTKに解説していただいた。
番外編として『DREAM.9』で壮絶な闘いを繰り広げた
川尻vsJZ戦についても分析。
これを読んで来たる7月20日に備えるべし！

聞き手／松下ミワ　撮影／乾晋也

拙者、川尻達也vs
JZカルバンも
分析したでござる

新星・菊野の三日月蹴りはどこで出るのか!?

菊野克紀vsアンドレ・ジダ

―まず、髙阪さんの愛弟子である菊野選手がDREAM初登場となりますが、やっぱり注目は必殺の三日月蹴りを……。

TK　（さえぎって）いやいや、試合前だけに克紀のことはあまり言えないんですよ、申し訳ないけど。いろいろと作戦を練ってるしね。

―あ、さすがに自軍の分析はできませんよね（笑）。

TK　ジダのことならいくらでも分析できるけどね（ニヤリ）。

―それでも少しだけお聞きしたんですが、菊野選手って大舞台へのプレッシャーはあるんですか？

TK　それはあるでしょうね。ただ、克紀の場合はあるほうがいいんですよ。それをエネルギーに換えられるタイプなんで、逆にそういうのがあったほうがエンジンがかかるんですよね。

―ただ、菊野選手はDEEPを主戦場にされてましたが、DREAMとはルールがだいぶ違いますよね。たとえば1ラウンド10分、2ラウンド5分という試合時間についてはどうですか？

TK　そこはあんまり気にしてないんですよね。克紀は試合の作り方が、たとえば宇野薫や石田光洋のように動いて動いて自分のペースをつかんで、その上でチャンスを見つけながら試合をするというタイプではないので。その点は逆に相手が不利になることのほうがあると思いますよ。

―ジダのほうが不利、ですか。

TK　ええ。ジダという選手は攻撃が「1→2→3→4→5」って数字をつなげてくる。ところどころをちょん切ることをしないタイプなんですね。そのジダのペースに付き合っちゃうと、こっちの体力はどんどん削られていく。だから、そこには付き合わないで、自分のやりたいことをどうやって差し込むか？　ということを考えないといけないんですよね。

―“差し込む”といいますと？

TK　簡単に言うと、○○○○○○○○○○○○○○○ということなんです。でも、ジダはそのへんがうまい選手ですよね。

―はあ～。すっかり研究済みなんですね。

TK　じつは、いま言ったことがジダの長所であり、短所でもあるんです。ただ、ジダを含めてDREAM

レベルになると簡単な相手というのはありえないんで、一番いいのをもらうとやっぱり倒れますよ。だから、そういうところにはまらないようにするというのは大事ですね。そうすると、克紀がやりたいのは○○○○○○○○○○○○○○○ということなんですよ。

――うわ～、それは対戦相手からするとイヤな相手ですねぇ。

TK　イヤですよ（笑）。ジダも「なんかやりにくいなあ」って思うと思いますよ。最初は気にしないで攻めてくると思うんですけど、途中で「あれ、ちょっとイヤだな」といろいろ悩みだしてくれるとこっちのもんだと思ってます。

――先ほどいろいろ作戦を練ってるとおっしゃいましたけど。

TK　いろいろ……いろいろでもないですね（笑）。一つか……二つぐらいです。もうハマれば倒せるんで。そこをどう持っていくかというところですね。

――では、DREAMデビュー戦も期待大ですね！

TK　まー、見ててください。

2.20DEEPでのチョン・ブギョン戦で見せた一撃必殺の三日月蹴り。ジダの流れるような攻撃の中で三日月蹴りははたして飛び出るのか？

ライト級寝技世界一決定戦！

青木真也 VS ビトー"シャオリン"ヒベイロ

TK　これは寝技が得意な二人というわけなんですけど、根本的にタイプは違えども、寝技に対する考え方は似てる二人なんですよね。

――それはどういう部分が似ているんですか？

TK　二人とも、いまそのときやってる動きとぜんぜん違う技で極まる場合が多いんです。青木でいうと永田（克彦）戦のときがそうですよね。マウントポジションをキープしつつ、まさかあそこでフットチョークにいくとは誰も思わなかったと思うんですよ。だけど青木にとってはフットチョークはごく自然な流れで出た技で。でも、マウントを取るということ自体が本人の中で凄く大きな割合を占めていたら、そこからフットチョークには絶対にいけないですよね。

――その向こうに目的があるということですね。

TK　だからマウントを取るのも脇を空けさせるのも足を差すのも特別なことではないという捉え方をしてるんでしょうね。で、そういう感じでやられると相手は途中から迷いだすんです。そして、あまりにもたたみかけてこられると最後は「次、何がくるんだ？」じゃなくて、「なんならもう早く極めてくれ」というような心理になりますよ（笑）。

――そこはシャオリンも同じなんですか？

TK　シャオリンの場合は上山（龍紀）戦を思い出すといいですよね。終盤、腕十字に入って、クラッチを取られて我慢されたらそのまま三角絞めに移行してそこからまた腕を伸ばして極めたんですけど、あれなんか最初に十字に入った時点でやりきろうと思えば伸ばせるかたちだったんですよね。でも十字じゃなくて三角に変えられるという、その余裕ですよね。その腕十字が本人の中の最終結論だったら、あそこから三角へは移れないんですよ。だからね、ボクはこの試合はもう二人がお互いに楽しめばいいんじゃないかなあと思うんですよね（笑）。

――楽しむですか？（笑）。

TK　もしオレが、そういう自分と同じような思考回路の選手と試合するんだったら楽しいですよ。二人とも実際に肌を合わせてみたら「なんか楽しいなあ」と思うと思うんだよなあ。

――では、ズバリ言って動きまくる試合になりそうですか？

TK　いや、どちらかが「へたに動かないでおこう」と思ったら、動かない寝技の攻防になりますよ。というのは、最初に一つ動かれると次につながってくるなというのは、二人ともわかってると思うんですよね。それだったら最初の動きを潰しちゃえば、試合は動きませんから。だから、がっちり勝つんだったらそういう試合をやらないとダメでしょうねぇ。

――いったいどっちになるんでしょうね。ちなみに考え方は一緒だけど、「タイプが違う」というのはどういう意味なんですか？

TK　単純に身体のサイズが違う部分からくる動きですよね。だからシャオリンがやろうとするのは力のかけ方、肩固めとか腕十字の締めつけとかが得意なタイプですよね。一方の青木は力を分散させる能力、たとえば手首をしっかり握ってるんだけど、極めようとしてるのは首、みたいなことができるんですよね。

――意味がわかりません（笑）。

TK　たとえば腕を強く握られたら普通は腕が危ないと思いますよね。実際、青木はグリップも強いんで。でも、最終的には足だったり、首が絞まってたりする。つまりナチュラルにフェイントがかけられるんです。

――ズバリ言って、髙阪さんはどっちが勝つと思いますか？

TK　これは正直どっちが勝ってもいいですよ（笑）。もちろん青木に勝ってほしいけど、そういう流れるような寝技が観れるんだったらどっちが勝っても「総合格闘技って凄い！」って思わせられますよ。

常に"向こう側"の寝技で相手を極める青木とシャオリン。この寝技対決を制するのは、どちらが"いつもの試合"をできるかにかかっている！

ウェルター級でマッハは優勝できるか!?

桜井"マッハ"速人 VS マリウス・ザロムスキー

―1回戦の池本戦は凄くハデな試合でしたが、ザロムスキー戦でマッハ選手はどういう試合を心がけたほうがいいと思いますか?

TK ザロムスキーみたいな選手はみんなそうなんですけど、最初の一発をもらわないことですよね。で、マッハの試合の作り方というのは、右ローと左フックを混ぜて自分のリズムを作るんですね。そこをベースにして倒すためのストレートやヒザ蹴りを出していくんですけど、そのリズム作りをできるだけ早くやったほうがいいでしょうね。

―要するに、出足を潰す、と。

TK というのは、池本との試合を観たときに、ザロムスキーはローの対処がヘタクソだったんですよね。池本がリーチがあるからかなとも思ったんですけど、ハッキリ言って対処はできてないですよね。だからマッハのフックとローは当たると思うし、序盤、試合を作るという意味ではやらない手はないでしょうね。

―ただ、ザロムスキーはバク宙にはじまる奇想天外な動きもありますよね。

TK でも、観てると結局、顔を殴りたいんですよね。だから、ボディやローを混ぜて相手の意識を散らすとか、そういうことはやらないし、そこまでの技術はないような気がするんですよ。ま一、一発が強いからそんなことをしなくても勝ててきたんでしょうね。それに、前回の試合は池本が乗っちゃったというのもありますよ。全部池本主導で試合がやれればよかったんですけど、途中でひっくり返されて、そこに池本がかぶせるパターンになってたので。

―いつの間にかペースが向こうになった、と。

TK だからマッハは後手にならないように気をつけることですよね。まあでも、どっちにしても当たれば倒れるから、もらわないことが大前提です。

池本戦では奇想天外な動きを見せたザロムスキーだが、確かに狙っているのは常に相手の顔面だ。これを攻略すればマッハの勝利となる!?

ウェルター級屈指のパワーか? 技か?

アンドレ・ガウヴァオン VS ジェイソン・ハイ

TK まずですね、この対戦について話す前にウェルター級という階級で気をつけないといけないのが、動きがライト級で、力がミドル級かもしくはライトヘビー級ぐらいの選手がけっこういるということですよね。要するに、厄介な選手が多いクラスなんですよ。これはUFCで考えるとわかりやすいんだけど。

―UFCというと、GSPとかマット・ヒューズですね。

TK スピードもあるし、力も強いし、技もある、と。そのへんのバランスをどうとってるかというのは選手の個性になるんですけど、ジェイソン・ハイという選手はあきらかに身体の力、ストレングス系ですよね。

―パワーファイターということですか?

TK たとえばスリーパーでもある程度まで入ったらあとは力で絞っちゃうという感じなんですよ。一方のガウヴァオンは身体の力も強いんだけど、ライト級に近い動きを残したままでウェルター級という階級にしてるんで、技が速いし技を滑らかにつなげることもできるんです。スタンドから寝技につなぐ技を連結させていくとこもそうだし、テイクダウンを取れなくても相手のうしろに回り込むとかね。最終的にどういう状態になれば勝てるかというのを知ってるんですよね。だから、ガウヴァオンは力が強そうな印象もあるんですけど、技や動きができるタイプなんですよ。そういう意味で考えると興味ありますよね、この試合は。

―技のガウヴァオンか、パワーのジェイソンか。

TK そう。で、ウェルター級の場合、それをこう、微妙なラインのスピードに乗っけてやるんです。ライトやフェザーみたいに常に刻んで動くという感じではなくて、動くときは動く、動かないときは動かないというような感じで攻撃を差し込んでいくんですよ。それプラス止まってる状態からでも技が決まることもあるんですね。寝技だとしっかり固めて腕をガッチリ取りにいったり、打撃だと一発を打ち抜いて倒すとか。それはウェルターの魅力の一つですよね。

―ウェルター級におけるグランプリというか、一日2試合あることについてはどうですか?

TK いや、ウェルターのトーナメントは正直一番キツいと思いますね。陸上にたとえると800メートル走みたいな感じなんですよね。要するに、ペースも守らないといけないけどスピードも求められるというか。まあ実際はペース配分なんかやってる余裕はないでしょうけど(笑)。そのへんの強さも試されるトーナメントですよね。超人的なものを一つ持ってないと優勝はできないと思いますよ。

身体のデカさに目を奪われるガウヴァオンだが、秀でているのはやはりテクニック。ジェイソン・ハイのパワーをどう制するのかがポイントだ。

番外編・前門のカルバン戦の勝因とは？

川尻達也 vs JZ・カルバン

TK　この試合は、勝敗を分けるポイントがいくつかあったと思うんですけど、中でもJZの最初のフロントチョークを川尻がしのいだというとこですよね。入り具合を見るとけっこう苦しかったと思うんですけど、そこからでも身体が動いてくれたというのが大きいんです。これは、どこまでギリギリ我慢できるかというのを身体が知ってないとできない。そしてそれはそこまで追い込んでくれる相手と日ごろから練習をしてないと知ることはできないんですよ。だから、この試合のためにかなり負荷をかけて準備をしてきたなというのをこのシーンで感じましたね。

――つまり、練習の量も質も高かったんじゃないか、と。

TK　川尻達也の試合は、強い攻撃をどこで相手に与えるかであってね、そのためには攻め続けていないといけない。で、試合でそれを実行するためには当然苦しい練習を高い意識の下でしなきゃならないですよね。

――川尻選手は筋肉がガッチリついてるのに攻め続ける体力もかなりありますよね。普通、筋骨隆々な選手はスタミナに難があるイメージがあるんですけど。

TK　それはたぶん、練習で培われた筋肉だからですよね。身体の使い方をみつけながら身体を作ってきたからできるんだと思うんですよ。単にウェートトレーニングだけで作った身体じゃ、ああはいかないですよね。

――一方のカルバンは試合間隔があったのもあって、本来のカルバンじゃなかったんじゃないかという声があります。

TK　いや、カルバンは最初のフロントで体力も精神力もけっこう使ったんじゃないかなと思うんだよなあ。それはKIDの試合も同じでね、あんだけいいパンチやキックが入っているのにウォーレンが倒れないでしょ。あれと同じで精神的にツラくなったと思うんですよね。

――確かにそれはイヤになるかもしれませんね（笑）。

TK　取れたと思って逃げられたときのショックって相当デカいし、おもいきり絞ってると力もかなり使っちゃうんで。ライト級でのそのへんの持続力、回復力というのは自分の身体じゃ正直わからないとこなんですけど、でもフロントで極まると思って絞って逃げられたら、普通戻すまでにかなり時間がいるんですよね。しかもそのあいだにも相手はずっと攻めてくるわけだから、それを防ぎながら、ですよね。だから完全に元の状態に戻すのは時間がかかるし、へたすると戻らないと思うんですよ。

――そこは川尻選手が戻さないようにしてた、と。

TK　そういうことですね。あのあと2、3回同じようにフロントを取りにきましたけど、たぶんJZは腰に足をクロスした状態にしてないと極められないタイプだと思うんですよね。極められる人はハーフガードからでも極められるんですけど。でも、2回目のときはもう川尻が自分の足を入れておいて、JZの足を巻きつけさせないようにしてたんですよ。練習でそういう局面を何度も体感済みだったんでしょうね。積んできた練習の賜物だと思いますよ。

――以前お話をうかがったときに、川尻選手はこの試合を越えたら総合格闘家としてのレベルがグンと上がるというお話をうかがいましたが、試合後の発言を聞くかぎり、その点は川尻選手ご自身も自覚されてるような感じでしたね。

TK　総合って、やっていいことが多いぶん、それを全部やろうとしたらどっちつかずになるんです。勝つためには、じつは逆に削る作業が大事なんですよね。たとえば、川尻はガードからの三角絞めも普通にはできるはずなんだけど、彼の試合ではあんまり考えられないですよね。それは経験を積んでいくうちに試合で勝つために自分がやること、やれることを絞り込んでいったからなんだと思うんです。だから、これからはいま試合で使っている技そのものの幅を広げるという作業が必要だと思うんですよね。それが必要な時期だということは本人もわかってると思うんですよ。それが見えた試合だったと思いますね。

――なるほど。とくに寝技も立ち技もできるJZを相手に技を絞れたというのも大きかったのかもしれないですね。今日はたいへん勉強になりました！

【09年6月5日／都内・Aスクエアにて収録】

1回目のフロントチョークを逃れた川尻。川尻本人も「かなり入っていた」と語っているが、これを逃れられたらJZもなす術なしだったのか。

妄想黒執事のミステリアストーク

DJ.taikiの奇妙な物語

「中学生のときに暴走族と抗争して家を放火されました」

所英男を撃破するも、負傷によりフェザー級GP2回戦を欠場となったDJ.taikiのミステリアストーク。なぜDJというリングネームなのか？それは彼が“伝説のDJ”糸居五郎の孫弟子にあたるからだ。これ、Wikipediaにも載っている有名エピソード。というのはウソだ。ホントは何？　いいや、知らなくたって犬は吠えるんです。ワンワン!!

聞き手／ジャン斉藤（柴犬大好き）　取材補助／阿修羅チョロ（代々木の象徴）　撮影／戸成嘉則

『戦極』が猫なら
DREAMは犬だワン!!

DJ・taikiは何を考えているのか?

——今日はよろしくお願いします。

DJ 御意。ご主人様。

——いや、ボクはご主人様じゃなくて、しがない編集者なんですけど……。じつはいまウチの雑誌では空前の動物ブームでして、『戦極』の小見川(道大)さんは『kamipro』の携帯サイトで『ネコ柔道日記』を連載してたりするんです。

DJ 小見川さんとは一緒に練習したことがあります。猫の話もしてましたね(ニヤリ)。

——そんなつながりがありますか(笑)。で、動物を飼ってるファイターを探っていたら、DJさんのブログにカワイイ柴犬が4匹も載っているではありませんか。

DJ 私、犬は少々苦手、というより、はっきり言って嫌いですので。

——え? 嫌いなんですか?

DJ はい。犬には憎しみしかありません。なのでボクには犬の素晴らしさを語ることなんてできませんね。

——そう言われましても……。とりあえず4匹の犬を紹介してもらえますか?

DJ いまケージに監禁しているのは「戸塚の象徴」です。

——戸塚の象徴!?

DJ はい。千葉の象徴が高谷(裕之)さんですから。

——は? え? それになぜ監禁? ケージに入れてるだけでは……。

DJ (気にせず)で、これは「パチ美」です。その隣はホントは「アオ」という名前なんですけど、「山田」ですね。設定はヤマダ電機で働いてる人。

——ヤ、ヤマダ電機!?

DJ そして最後は「高山シズカ」という名前なんですけど、いまは「チュチュ」っていう名前で「ミカンババア」っていうあだ名です。

——ず、ずいぶんと複雑ですね。DJさんはどのワンコがお気に入りなんですか?

DJ ボクからすると、全部クソ犬ですよ、クソ犬。嫌いで嫌いで嫌いでたまりません。犬はどいつもこいつも犯罪者です。

——そう言いつつも愛情がほんのりと感じられるんですけども……。

DJ そんなことはないですよ。猫は好きですけどね。とくに肉球を押すことがたまらないんです(ニヤリ)。

——そんな『黒執事』を読んでる人間以外はうなずけないことを言われましても……あ、犬に咬まれて嫌いになったんですか?

DJ そういうわけじゃないですけど、戸塚の象徴はすぐキレるんですよ。最低な犬です。ただ、この犬の中では一番強いですね。それどころか戸塚で柴犬と呼ばれるヤツは、みんな象徴のことを知ってるんで。

——どうしてケージで監禁……、いや、かわいがっているんですか?

DJ 暴れるからです。禁固刑です。すべてこいつが悪いんです。

——ほかの犬は暴れないんですか?

DJ 暴れないですけど、昨晩ボクが寝ようとしたら布団にションベンされました。犯人はババアです。だからババアはさっきまで禁固刑だったんです。ホントに許せなかったですね。デスノートに「高山シズカ」って書こうかなと思いました。

——……でも、本当はかわいくて仕方がないんでしょうね。

DJ いや、どうでもいいです。ボクの犬じゃないですから。

——え!? じゃあ誰の犬なんですか!?

エサ譲渡という卑怯な手段で忠誠を誓わせ、散歩という名の強制労働を強いる残虐非道なDJ。かわいがっているように見えるのは気のせい。

DJ.taiki

ホントに何を考えているのか?

——DJさんといえば、執事のコスプレと入場時のエア氷室京介が有名ですよね。

DJ いや、ヒムロックは引退ですね。佐藤(大輔)さんから「ヒムロックだとやる気が起きない」って言われたんで。

——どうしてなんですかね?

DJ 佐藤さん本人に聞いてください。ボクは二度とヒムロックをやりません。

——そもそも、どうしてヒムロックだったんですか?

DJ それはトレーナーに頼まれたからです。「ちょっと、ヒムロをやってくれないか?」って。

——え〜っと、凄くわかったようでわかりにくい理由なんですけど。自分の趣味ではないんですか。

DJ いや、ボクも昔からヒムロックのことは好きですけど。次は違ったものを頼まれているので。大会開始前のリングチェックのときにそのリハーサルをやるんで、DREAM関係者はそのときに何をやるか知ることになると思いますけど。

——こないだの所英男戦のときもみんながリングチェックしているときに、エア・ヒムロックの練習をしたんですか?

DJ やってましたね。

——周りは驚きませんでした? 「大事な試合前に何をやってるんだ?」って。

DJ とくには。

いったい何を考えているのか?

——なぜ執事の格好をしてるんですか?

DJ 執事の格好も頼まれました。

——頼まれたらなんでもやるんだ(笑)。

DJ 前の執事は、高校生が執事になるという話なんで、あんまり執事っぽくなかったんですよね。いまの設定はセバスチャン・ミカエリスになります。イエス・マイ・ロード(はい、ご主人様の意)。

——そ、そうですか。DJさんのブログを読むと、ケーキを頻繁に作ってますよね。

DJ ボクはあんまり食わないですけど、周りからよく「ケーキを作ってくれ」って言われるんで。

——よく頼まれますねぇ。自己流ですか?

DJ 料理教室に通って覚えました。

——料理教室?

DJ アスリートなんで、とりあえず自炊しなきゃいけないじゃないですか。それで料理の本を買ったんですけど、料理の本って、普段料理を作ってる人向けに書いてあるんで、基本的なことはわからないです。じゃあ「料理教室に行くしかないな」と。それで最初にパンを作ったら周りが

凄く喜んでたんですけど、味のわからないマネージャーにはもう作らないことを宣言しておきます。

だから何を考えているのか？

——ブログには「今年の目標はDREAM出場」と書かれてましたね。

DJ　4ヵ月でかないましたね。

——何か環境は変わりました？

DJ　ビックリしたのは、フェザー級GPで所さんに勝ってから大騒ぎになるのかなって思ってたら、ピタリと取材は止まりましたね。『格闘技通信』さんや『ゴン格』さんはいつもコンスタントに取材があるんですけど、それが全然なくなりまして。

——どうしてなんでしょうね？

DJ　たぶんケガのこともあるんでしょう。まあ、結果的に所さんを持ち上げるのに一役買ったにすぎないわけですよ。所さんはボクに負けて3連敗目を喫して、そこから一気に上がった感じですもんね。

——でも、DJさんはフェザー級GPのリザーバー戦出場が確定してますよね。

DJ　そうみたいです。頼むから相手に（前田）吉朗だけはカンベンしてください。

——前田さんとはパンクラスで2回やってるんですよね。

DJ　3回はやっぱキツイですよ。強い、弱いじゃなくて、もう飽きたっていう。それに吉朗には煽りVで完全に負けてますしね。こないだの煽りVは凄かったな。本当におもしろかったです（ニヤリ）。

——高谷戦の煽りVですか？

DJ　ええ。あれですよ、あの人たちってもう30歳とかですよね。それが軍団だ何々組だタイマンだとか言ってるんですもん（ニヤニヤ）。

——そうか、そういう視点で見るとおもしろいかもしれないですね。

DJ　また吉朗の顔がいいんですよね〜。「俺らは社会人や」と言いつつ、とても社会人の顔じゃない。もう勝てませんねぇ。だから吉郎だけはやめてください。

——はあ（笑）。そのリザーバーですけど、あわよくば優勝も狙える位置ですよね。

DJ　そんなヨアキム・ハンセンみたいなことが起きればいいな、なんて思ってたんですけど、あれはアルバレスvs川尻っていうストライカー同士のカードだったからそうなったんです。フェザーのあのメンバーでバチバチの殴り合いになりそうなカードはないですよね。結局、KO勝ちした選手がケガをしないと出れないわけですからね。むしろボクが一番バチバチやって、次に出れないみたいな（ニヤリ）。

[09.4.7 DREAM.7 フェザー級グランプリ2009 1回戦]
愛知県・名古屋ガイシホール
○DJ.taiki vs 所英男×
(2R終了 判定3-0)
両者負傷のためスライドされて行なわれた1回戦。スタンド、グラウンドでDJが所を封じ込めて判定勝ち。しかし、目の負傷により2回戦は欠場することに。9月の決勝ラウンドではリザーブマッチでの登場が予定されている。

ますます何を考えているのか？

——DJさんはブログも独特ですよね。

DJ　ブログってたいていはつまんないじゃないですか。他人の日記ほどつまらないものはないですよね。「今日は何々を食べました。何々を見ました」じゃあ、おもしろくないですよね。

所さんを持ち上げるのに一役買ったにすぎないわけですよ

——まあ、そうですね。

DJ　ちょっとやそっとじゃ、ブログなんて見てもらえないですからね。ボクが他人のブログを見てないように。高瀬（大樹）さんのように危ないことを書くから人が見るわけであって（ニヤリ）。

——高瀬さんのブログは読んでいる、と。

DJ　危ない発言にだけは興味ある。昔はそういう話ばかりだったからおもしろかったんですけど、いまは単なる日記になっちゃってるから。やっぱりどう自分を見せるかですよね。

——では、DJさんの「危ないヤツ」っていうイメージはフィクションだったりするんですか？

DJ　「危ない」っていうのは、どういう危ないですか？

——ちょっと前に聞いたのは、DJさんの実家に煽りVの撮影が入ったときに、どういうわけか部屋の前にマキビシがまかれてたって聞きましたけど。

DJ　は？　ウチに撮影クルーが来たことは一回もないですけど。ボクは忍者じゃありませんし、だいたいマキビシって、どっかで売ってるんですか（笑）。逆にほしいですよ、マキビシ。

——デマなんだ、この話。なんだかおかしいと思った（笑）。

DJ　ボクの場合、勝手に作られている話は多いかもしれないですね。

ところで何を考えているのか？

——では、キックボクサー国分省吾の引退エキシビションマッチの相手を務めたときに、タックルして本気のパウンドをお見舞いしたっていう話はなんだったんですか？

DJ　ボクは総合の選手なんでわかりやすいようにアレンジしようと思ったんですよ。エキシビションだし、そのほうがおもしろいじゃないですか。で、試合前にその練習しようとしたら、その相手が「いや、おまえのタックルなんて切れるから」って拒否したんですよ。で、「危ないよ。本当にやるからね。ケガするよ」って忠告したうえでタックルしてパウンドしたんです。そうしたらエキシビションが終わったあとに「総合ルールと聞いてなかったんで」とか言われちゃって。

——そういうことだったんですか。

DJ　オレはあのエキシビションをノーギャラで受けたんですよ？　それがなんかとんでもない噂みたいになっちゃって。

——べつになんかヒドイことはやってきたわけじゃないですかね。

DJ　ムカつくヤツがいて、3ヵ月くらい腐らせといた卵を投げつけたことはありますけど。

——ダハハハハ！

DJ　あれは高校生くらいのときです。あと郵便配達のバイトをしながら青空駐車取締りを行なってましたね。違法駐車とかしてるとバイクが入っていけないんですよ。だから、毎回毎回通報してて。それに「20歳記念に裁判事件」。

——記念に裁判？

DJ　20歳になったら裁判を起こせるようになるんですね。だから記念で起こしてみました（ニヤリ）。

——凄い記念ですね……。いったい誰を訴えたんです？

DJ　大学の先生が気に入らなかったんです。ちょっと暴行みたいなのをされた

不良とは絶対に1対1にならない 普通に1対7でケンカしてました

んですけど、こっちが殴るわけにいかないから訴えてやろうみたいな。

—結果はどうなったんですか？

DJ 棄却されました。裁判自体は負けですけど、結果的にその先生は大学を辞めたんで試合に負けて勝負に勝ったかなって。全部、自分でやりました。弁護士をつけないで裁判所の人にやり方を聞いて。でも、向こうは弁護士がつけてきたんですよね。そのせいで惨敗ですよね。

—そりゃそうですよ（笑）。

DJ また相手が卑怯なんですよね。傍聴席に大学の生徒を仕込んで、オレが発言したらブーイングしたり、笑ったり。裁判所って声を出しちゃいけないんですけど、嫌がらせで学生を仕込んでるんですよ。

—お話を聞くかぎり、DJさんって、なんか昔からトラブルが多いような……。

DJ 中学生のときの音楽の授業は男女が机をくっつけて座るんですけど、オレだけ離されたりしてました。オレは中学のとき、生徒じゃなくて学校自体にイジメられたって感覚があって。

—学校全体に⁉

DJ 生徒相手なら勝てるんですけど、学校は権力だから勝てなかったですね。たとえば、基本的に修学旅行とかは友だちと一緒じゃないと来ちゃいけないってルールがあったんですよ。で、ボクには友だちはいなかったんですけど修学旅行は行きたかったんで、朝、誰か友だちのあとをつけようとしたら、みんなオレと一緒に行きたくないから逃げるんですよ。俺のことをまこうとするんですよ。

—な、なんですか、それ。

DJ 必死で誰かを探しましたね、「あっちか⁉」「こっちか⁉」みたいな。あと家に放火されたこととかあります。ボヤ騒ぎになったんですけど。

—放火⁉ それは誰かに恨まれて？

DJ 中学のときに俺がぶん殴った暴走族が、俺がいないあいだに家に来て放火したんですよ。

—ちゅ、中学生なのに暴走族と抗争してたんですか？

DJ 俺はムカつくとすぐ殴っちゃうんで。オレの理論としては、暴走族というのは協調性があるんです。オレは暴走族に入りたくても協調性がないから入れない。そんな暴走族がムカつくんですよ。しょせん不良なんて集団でしか動けないんですから。

でぃーじぇー・たいき■1982年8月24日、千葉県出身。長いリーチを活かした軽量級きってのストライカー。キックボクシングの経験あり。パンクラス、DEEPなどで活躍。前田吉朗、植松直哉、昇侍を破っている。172cm、63kg。

DJ.taiki

—不良は個々になったらたいしたことない、と？

DJ ええ。不良とは絶対に1対1でケンカにはならなかったんで。だって俺が不良と1対1でケンカすると、どんどん加勢が来るわけですよ。で、止めるって名目でぶん殴ってくるわけだから。あいつらはホントにケンカが強いのかはかなり疑問なんですよね。

—ちなみに最大で何人と闘ったことがあるんですか？

DJ 普通は7人ぐらいですよね。

—普通で7人（笑）。

DJ 1対7はあたりまえでしたね。ボク、見た目が弱そうだったんですぐに絡まれるんですよ。中学時代とか引きこもりで、凄く弱そうだったんで、いっぱいケンカ売られてケンカになっちゃうんですよね。当時は学校に行った日数よりケンカした数のほうが多いですね。

—そんなに！

DJ 逆にヤンキーってからまれないんですよね、見た目でケンカを売られないから。俺も格闘技を始めてから一回もケンカしたことないですよ。「ケンカやりたい」って睨んでると、向こうはやってこないんです。

—不良とケンカしてお互いを認め合って仲良くなったりはなかったんですか？

DJ なかったですね。基本的に不良というヤツらは強いか強くないかじゃなくて、バックがついてるかついてないかなんですよ。だからバッグがない俺にはケンカを売るし、仲良くする気なんて最初からないんですよ。

—そんなDJさんからするとジ・アウトサイダーはどう思うんですか？ 不良が集まって格闘技をやってますけど。

DJ まあ、本当に強いんだったら、こっちに来るでしょう。べつにボクに相応のファイトマネーを用意してくれれば、いつでもやりますけど。ちゃんと払ってくれるんだったら、イエス・マイ・ロードです。さて私、ただの殴り合いでしたら少々自信がありますので（ニヤリ）。

最後に何を考えているのか？

—じゃあ、凄く不良だった高谷さんのことはどう思います？

DJ 殴り合いが強いかどうかはともかく、人間力があるんじゃないですかね。だから、いいヤツなんじゃないですか？

—いまの話を聞いたらちょっと見たいですね、高谷vsDJ戦（笑）。

DJ だから昔から「高谷さんとやりたい」って言ってきましたし、高谷vs前田には凄いがっかりしたんでよ。リザーブで高谷さんと当たる可能性があったから、吉朗を応援してたし。吉朗には勝ってほしいとは思わないですけど、高谷さんとリザーブをやりたかったんで。

—でも、向こうには高谷軍団という強力なバックがついていますけど。

DJ こっちには戸塚の象徴がいますから。パチ美も山田もババアもいますし、高谷軍団はこの4匹で充分です（ニヤリ）。

—そうですか（笑）。KIDさんとは闘ってみたいですか？

DJ KID選手には勝てると思うんですよね。でも、向こうはピットブルを飼ってるじゃないですか。さすがの戸塚の象徴もピットブルには勝てないと思うんですよね。KID選手には勝てる。でもピットブルには勝てない。そんなところでしょうね（ニヤニヤ）。

【09年6月6日／神奈川県・戸塚にて収録】

屁のつっぱりはいらんですよ!
言葉の意味はよくわからんが、とにかく凄いイベントだ!!
構成・マッスル坂井　映像制作・佐藤大輔
夢のプロレスイベント大成功!
キン肉マニア
KINNIKU MANIA 2009
2009
5.29　JCB HALL
特盛りつゆだく大特集
少年たちの夢がここに実現!　80年代に大ブームを起こし、現在も大人気を誇る『キン肉マン』の生誕30周年を記念して、ついにプロレスイベントが開催された。構成をマッスル坂井、映像制作は佐藤大輔という鬼才たちが手掛けたこの夢のイベントを、たっぷり大特集でお届けします!
普通に1対7でケンカしてました

美濃輪少年の夢と僕らの夢、ここにかなう!

“美濃輪育久”がキン肉マンと夢の一騎打ち! 「超人タッグ」はビッグボンバーズがまさかの優勝!!

文／橋本宗洋　撮影／平工幸雄　構成／堀江ガンツ

エンディング・セレモニーではキン肉マン役の声優・神谷明氏がゆでたまご先生に花束を贈呈。最後は神谷氏が音頭を取り、観客ともども「屁のつっぱりはいらんですよ！」。

オフィシャルサポーターとして登場し、マニアのツボを外さないトーク＆試合解説で雰囲気を盛り上げたのはケンドーコバヤシとバッファロー吾郎。イベント前半はゆでたまご先生と５人でベストバウト発表やゆでたまご先生秘蔵グッズのチャリティオークションが行なわれた。“覆面狩りポスター（オリジナルバージョン）”は、なんと35万円で落札！

会場のＪＣＢホールは2900人（超満員）の“キン肉マニア”たちでギッシリ！　やはり30代以上の“変態世代”が中心となっていたが、中には子ども連れの観客もおり、世代を超えた『キン肉マン』人気を感じさせた。

串田アキラ氏が熱唱するアニメ版主題歌『キン肉マン Go Fight!』でイベントはスタート。原作のゆでたまご嶋田先生が「ちょっと涙が出てきた」というほどのオープニングに、場内のムードは早くも最高潮！

『キン肉マン』連載開始30周年を記念したイベント『キン肉マニア』は、2009年5月29日、すなわち29（ニク）が二つ並ぶという縁起のいい日に開催された。

構成にマッスル坂井、映像制作に佐藤大輔という異色かつ鉄壁の布陣が揃ったこのイベント。原作のスケールがとにかくデカイだけにどんなアプローチがなされるか興味津津だったのだが、実際に繰り広げられたそれは、まさにキン肉マニア、つまり『キン肉マン』が好きで好きで仕方がないファンのための夢の空間だった。串田アキラの『キン肉マンGo Fight!』熱唱から始まり、過去のベストバウト発表、レアグッズのチャリティオークションといった定番といえるコーナーはもちろんのこと。超人&プロレスラーによる6人タッグトーナメントでは、夢のような場面が次々と現実のものになる。

ロビンマスクのタワーブリッジ&ウォーズマンのパロスペシャル、そして中西学のアルゼンチン・バックブリーカーによる三重奏。ブロッケンJrはベルリンの赤い雨を繰り出し、2000万パワーズ（バッファローマン&モンゴルマン）の合体殺法ロングホーン・トレインまで観られたのだから興奮するなというほうが無理である。おまけに試合の合間のバックステージ映像では、風呂場でロビンがアトランティスに襲撃される場面も。水没するロビン、相手はアトランティス……とくれば、水面からロビンのマスクだけが浮かび上がる、あの名場面の再現である。

しかも、だ。単に〝マンガで見たあの超人、あの技が現実のリングで見られた〟というだけのものではなかった。そこにあったのは『キン肉マン』の世界と我々ファンを結び付けようという試みだ。試合の解説を務めたのは、ケンドーコバヤシとバッファロー吾郎という、自他ともに認める〝キン肉マニア〟。

モーストデンジャラスコンビ（ブロッケンJr&ウルフマン）のパートナーとして男色ディーノが登場した際、実況の若林健治アナに「超人の世界にもゲイはいるんでしょうか!?」と問われると、すぐさま「オカマラスってのがいましたね」と返す彼らの解説ぶりは、イベントに欠かせないスパイスとなっていた。元ネタへのあふれる愛情や豊富な知識、それにツッコミまで。このイベントは〝ファン目線〟を重要な要素として導入していた。

タッグトーナメントで優勝を果たしたのは、ビッグボンバーズ（カナディアンマン&スペシャルマン）&永田裕志。知名度こそあるものの原作では不憫な扱いを受け、夢の超人タッグ編では開会式ではぐれ悪魔超人コンビ（アシュラマン&サンシャイン）に葬られた彼らが、堂々の優勝をはたしてしまったのである。つまりこれは、原作の設定を活かしたアナザーストーリー。そう、ファンが〝夢の対決〟や〝違う結末〟を妄想できるところも、『キン肉マン』の楽しさだった。このトーナメントでは、それが現実のものとなったのだ。

そしてメインはキン肉マンvs美濃輪育久（本名で登場）。超人に憧れ、プロレスラーを志し、周囲の人間にどれだけバカにされても夢をあきらめなかった男が、とうとう本当にキン肉マンとリングで対峙してしまったのだ。それは美濃輪の夢がかなった瞬間であると同時に、僕たちの夢がかなった瞬間でもあった。

ずっと好きでいたら、キン肉マンが目の前にやってきてくれた……。

キン肉バスター2連発で美濃輪を下し、花道を引き上げるキン肉マンが客席に向き直り、自らのマスクに手をかける。ドブ川さえも清流に変えるフェイスフラッシュ！　その瞬間、リングには黄金のテープとともに大量のキンケシが降り注いだ。超人たちとファンをつなぐ最高最大のアイテムである、キンケシが。

『キン肉マニア』は、『キン肉マン』ワールドを受け身で観賞するためだけのイベントではなかった。僕たちもまた『キン肉マン』ワールドの住人であることに気付かせてくれるイベントだったのだ。超人たちとファンのあいだの〝友情という成長の遅い植物〟は、30年の時を経て、この日、花開いた。

6人タッグトーナメント開会式にアシュラマン乱入！　原作同様「弱体チームには大会参加をご遠慮ねがおうか」とビッグボンバーズを襲撃するも、ここはパートナーである永田さんが阻止。さらに永田さんは選手宣誓も！

超人師弟コンビwith中西学は、写真の必殺技三重奏などを繰り出して2000万パワーズwith大森隆男に勝利。しかし決勝に向けて休息しているところ（ロビンは入浴中、ウォーズマンはヒゲ剃り中）を悪魔超人に襲撃されて棄権の憂き目に……。

1回戦でビッグボンバーズに立ちはだかったのはモーストデンジャラスコンビwith男色ディーノ。ブロッケンJrのベルリンの赤い雨、ウルフマンのルービックキューブ張り手、さらにディーノの顔面騎乗も決まるが、一瞬のスクールボーイでスペシャルマンがまさかの勝利！

決勝戦。出場権を強奪し中西学と登場したアシュラマンだったが永田さんに腕を2本もがれる大ピンチ。すると「悪魔にだって友情はあるんだーっ！」とばかりサンシャインがリングイン！　その巨体でリングを占拠するも、地獄のコンビネーションを披露する間もなく、カナディアンマンにフォールされてしまう。これによりビッグボンバーズの奇跡の優勝が決定！

キン肉マンvs美濃輪育久戦が終わると、キン肉マンはステージ上でマスクに手をかけフェイスフラッシュ！　場内が光で包まれると、上空から降ってきたのは大量のキンケシ――。原作の世界とファンの思いをリンクさせる、見事な演出でエンディングへ。

超人タッグトーナメント

【ビッグボンバーズ】カナディアンマン、スペシャルマン、永田裕志

【モーストデンジャラスコンビ】ブロッケンJr.、ウルフマン、男色ディーノ

【2000万パワーズ】バッファローマン、モンゴルマン、大森隆男

【超人師弟コンビ】ロビンマスク、ウォーズマン、中西学

【はぐれ悪魔超人コンビ】アシュラマン、サンシャイン、中西学

×

あの“弱小コンビ”が友情パワーで「超人タッグトーナメント」奇跡の優勝!!

本誌独占! 優勝チームインタビュー

カナディアンマン&スペシャルマン

ビッグボンバーズ

衝撃告白!!「僕たちはこの大会に引退を懸けていた」

『キン肉マニア』で奇跡が起きた! なんと、30年近くの長きに渡り“弱小超人”のレッテルを貼られてきたカナディアンマン&スペシャルマンが、永田さんの力を借りて「超人タッグトーナメント」でまさかの優勝をはたしたのだ! 本誌は早速独占インタビューで喜びの声を聞いてみた。

聞き手/小松伸太郎(THE PEHLWANS) 撮影/平工幸雄 構成/堀江ガンツ

――まずは6人タッグトーナメント優勝おめでとうございます!

カナディアンマン&スペシャルマン センキュー!

――大方の予想を裏切って、優勝という快挙を成し遂げられましたけど、いまの率直な感想を聞かせてください。

カナディアンマン 最高の気分さ。とにかく今回はナガタサン(永田裕志)の力が大きかったと思うね。

スペシャルマン ナガタサンにはホントに感謝しています。それともう一つ、僕たちが優勝できた要因として考えられることは、トーナメントの開催が決定した時点でほかの超人たちに比べてスケジュールに余裕があったことだと思うんですよ。

――どういうことですか?

スペシャルマン 2000万パワーズや超人師弟コンビは、本編(『キン肉マンII世～究極の超人タッグ編～』)でもタッグトーナメントに参加していましたからね。でも、僕たちはこの6人タッグトーナメント一本に照準を絞って頑張ってきました。その準備期間の差が大きかったんだと思います。

――なるほど。ただ、今回は戦前からファンからの期待も大きかったですよね。

カナディアンマン 確かにジャパンの一部の熱心なファンたちがインターネット上で俺たちを応援してくれているというのは知っていた。しかし、実際に産みの親であるゆでたまごセンセイたちからはなんにも期待されていなかったからね。ほら、宇宙超人タッグトーナメントの時だって、「退場させるために描いた」なんて言われたぐらいだし……(やれやれ、といった表情で)。

スペシャルマン 宇宙超人タッグトーナメントから僕たちのサクセスストーリーが始まる予定だったんです。それを

ナガタサンがアシュラマンの腕を折ったときは「そこまでやるか！」と思ったよ

はぐれ悪魔超人コンビに邪魔されて……。あのあと本国に帰ったら、アメリカやカナダでは「国辱！」というひどい言葉も浴びせられましたから。

カナディアンマン　俺がなけなしの金をはたいて開設したジムも、怒り狂った会員たちによって潰されたしな……。

――そんな悲惨な状況でしたか……。

スペシャルマン　大会前は正直、引退も考えていたんですよ。

――えっ、そんな悲壮な覚悟を持って臨んでたんですか!?

カナディアンマン　ああ。だから、ここでしっかりいいところを見せて、これからの作品の中でも活躍できるチャンスを与えてほしいと思って大会に臨んだんだ。ほかのチームとは覚悟が違ったよ。

――はぁあ。先程、永田さんのおかげだとおっしゃっていましたが、試合前にも指導を受けられていたんですよね？

カナディアンマン　そうだね。2月に来日をして、ずっと指導を受けていたよ。

――そんなに早くから新日本の道場で練習されていたんですか！　永田さんからはどんな指導を受けられたんですか？

カナディアンマン　まずはハートの部分から鍛えられたね。決勝戦でナガタサンがアシュラマンの腕をもぎ取った場面を見ただろ？

――凄惨なシーンでした。

カナディアンマン　正直、「そこまでやるか！」と思ったよ。でも、あそこまでやらなきゃいけないというナガタサンの勝負に徹する気持ち……。それを道場で俺たちにも叩き込んでくれたんだ。

スペシャルマン　でも、普段は優しい人なんですよ。彼が「道場で一緒に汗を流そうよ」と声をかけてくれたから、僕らもニュージャパンの合同練習に参加させてもらうことができたんですからね。

――えっ、合同練習にも参加されていたんですか？

スペシャルマン　はい。午前中から若手の皆さんと一緒に汗を流していました。練習は厳しかったですよ。実際に何度も逃げだそうと思ったぐらいです。

――じゃあ、合宿所生活をされていたんですか？

カナディアンマン　いや、合宿所は空いてなかったから、川崎のビジネスホテルに宿泊して通っていたんだ。

――ハングリーですねえ。そんなこんなで本番を迎えました。まず、大会の開会式で乱入してきたアシュラマンに「弱体チームにはご遠慮願おうか！」という屈辱的な言葉を浴びせられた時はどんなご気分だったんですか？

カナディアンマン　もちろん、「なにくそ！」とは思ったよ。でも、あの言葉を聞くのは宇宙超人タッグトーナメントに続いて二度目だったからね。だから、「何度もその手には乗らないぞ！」と。

――意外に冷静だった、と。それと1回戦が終わったあとにキン肉マンのフェイスフラッシュで体力が回復できたことも大きかったんじゃないですか？

スペシャルマン　あのフェイスフラッシュによる奇跡は何度も見てますからね。歴史から消えたロビンマスクたちが蘇ったり、死んだはずの超人が生き返る場面もありましたよね。だからここだけの話、最初からフェイスフラッシュに頼り切っていた部分はありましたね。

カナディアンマン　これはカミプロマガジンだけに話すスクープだぞ（と、記者に向かってウインク）。

――サ、サンキュー（笑）。それで決勝戦ですが、最初相手チームにはサンシャインがいなくて2vs3という状況で試合が始まりました。ナメられているなという気持ちになりませんでしたか？

スペシャルマン　いや、逆にチャンスだと思いましたよ。こっちのほうが人数では勝っている……いまこそが僕たちビッグ・ボンバーズにとっての捲土重来の時だ、と！

カナディアンマン　そう。何しろこれまでがあまりにも不遇だったからな。ああいうチャンスを逃す手はないんだよ。

――フィニッシュとなったカナディアンマンさんのシューティングスタープレスも素晴らしかったですけど、あれも新日本道場での特訓から生まれた技なんですよね？

カナディアンマン　そうだ。フィニッシュホールドというものを持っていない俺たちに、ナガタサンから「3カウントを獲れる技を覚えろ！」というアドバイスがあってね。

――映像を観た限り、習得するのにかなり苦労されていたようなんですが。

カナディアンマン　練習ではリングにフカフカのエアマットを置いてやってたんだけど、やっぱり相手が超人や人となると怖くてね……。ハッキリ言って、練習でもほとんど成功したためしがなかったんだよ。

――そんな状況でよく本番で成功させましたね？

カナディアンマン　うん。相手がサンシャインだったろ？　あの時、コーナーに立って下を見ると、あいつがエアマットにしか見えなかったんだよ。

――ああ、これは絶対にケガしないだろう、と（笑）。

カナディアンマン　そうなんだよ！　だから、思いっきり飛べたんだ。いい感じで体重も乗っていたし、自分でも決まったという手応えがあったね。

――あのフィニッシュシーンにはそんな秘密があったんですね。ところで、優勝されたことで各メディアの取材が目白押しなんじゃないですか？

カナディアンマン　いや、今回が初めてだ。一応、取材攻勢に備えて帰国日を遅らせていたんだけど、まったく声がかからないね……。

スペシャルマン　北米のヤホーではトップニュースで大きく扱われたらしいですけどね。

カナディアンマン　ヤフーな。

――日本で印象に残っていることはありますか？

スペシャルマン　ジャパンのプロレス人気には驚かされましたね。それに非常にファンの目が肥えていますよ。

カナディアンマン　アメリカのスタイルはキャラクター重視だけど、ジャパンのプロレスは道場で鍛え上げたファイターとしての部分も評価してもらえるんだ。それにニュージャパンのスタイルには以前から憧れていたし。

――では、いずれは新日本に上がってみたいという希望もあるんですか？

カナディアンマン　う～ん、ニュージャパンもいいんだけど、俺たちが一番興味持っているのは『ハッスル』だ。

――『ハッスル』って新日本のスタイルとは全然違うじゃないですか（笑）。

カナディアンマン　いや、『ハッスル』には今回の『キン肉マニア』と通ずる部分があると思う。たぶん俺たちのキャラクターを一番活かせるプロモーションなんじゃないかな？

スペシャルマン　僕もいいかたちでハッスル軍のお手伝いをできるんじゃないかと思いますね。

――まあ、とにもかくにも優勝おめでとうございました。今後の活躍も期待しております！

カナディアンマン　ああ、またジャパンに来られる日を楽しみにしているよ。今日はこれから中野ブロードウェイにショッピングをしにいく予定だ。

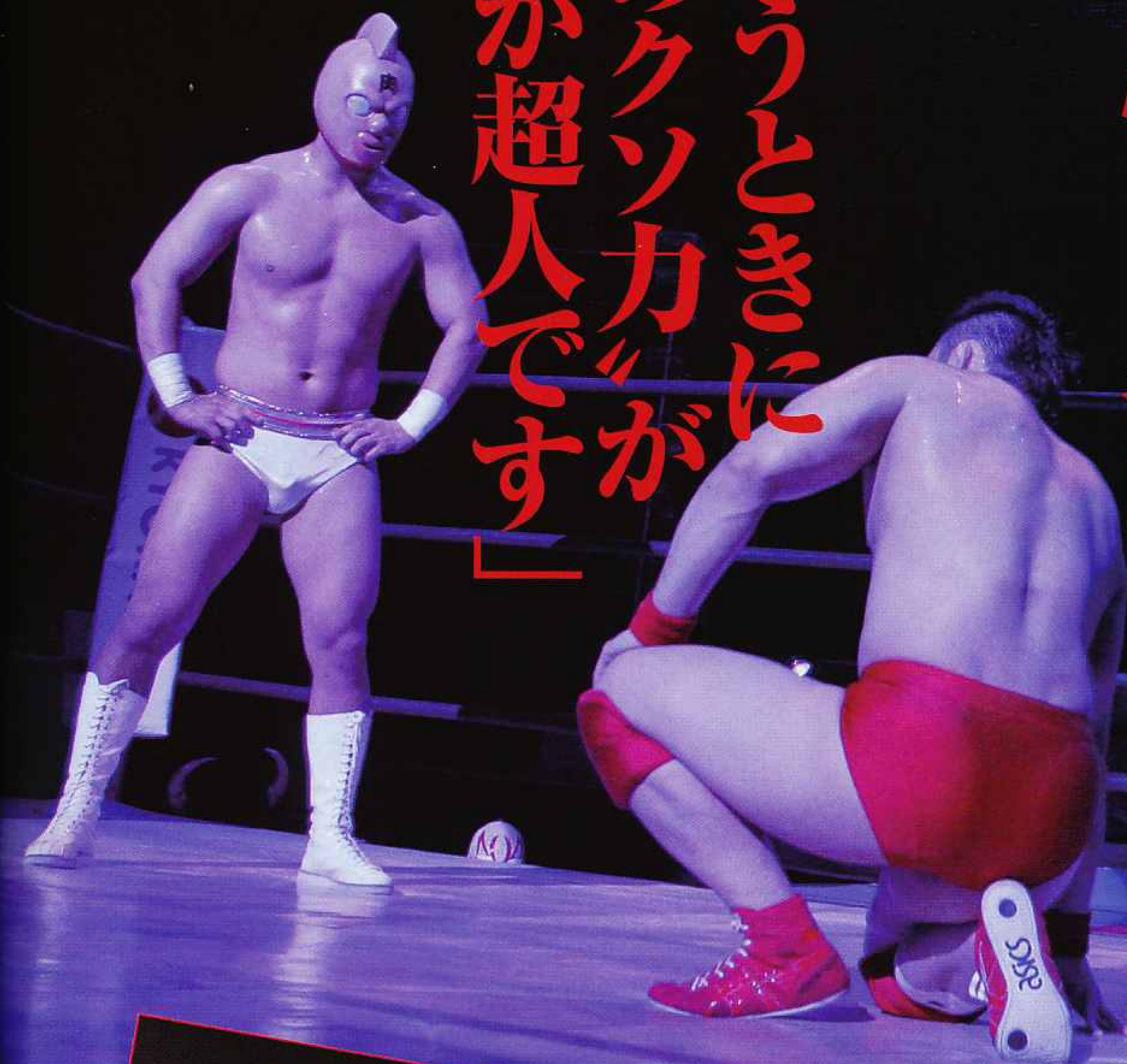
スペシャルマン　「敵を量るは目に在り」。同志を察するはヘソに在り」。スグルの言ったこのタッグの極意を肝に銘じて、今後も精進していきますよ！

【09年5月31日／都内・某所にて収録したはず】

超人以上の強さを見せた永田さんと、永田さんとの特訓の成果でトーナメント・マウンテンの頂上にたどり着いたビッグボンバーズ。原作では活躍できなかった彼らが"友情・努力・勝利"を体現した感動的な瞬間だった。

ミノワマン「超人」を語る

5・26「超人トーナメント」出場→5・29キン肉マンと対戦

「いざというときに〝火事場のクソ力〟が出せる人が超人です」

5・26『DREAM・9』で〝超人トーナメント〟に出場。その3日後には『キン肉マニア』でキン肉マンと対戦と、少年時代からの夢が立て続けにかなうかたちで、大一番が続いたミノワマン。そんな超人体験をした彼にあらためて「超人とは何か？」をテーマに話を聞いてみた。

聞き手／橋本宗洋　試合写真／平工幸雄（5・29『キン肉マニア』）

負けたら『キン肉マニア』に出られないんで ボブ・サップ戦は死ぬ覚悟で挑みましたね

──今日は『スーパーハルクトーナメント世界超人選手権』一回戦と『キン肉マニア』でのキン肉マン戦を終えられたミノワマン選手に〝超人とは何か〟をお聞きしたいと思います。5月26日が『DREAM・9』のハルク1回戦（vsボブ・サップ）で、29日が『キン肉マニア』。かなり密度の濃い一週間だったんじゃないですか？

ミノワマン いままで生きてきた中でも、一番長い一週間でしたね。試合の前日は、もの凄く長い夜を越えるので。

──やっぱり緊張しますよね。

ミノワマン 試合を何回もイメージしますし。あと、試合後も反省があったり、余韻があったりで長く感じるんですよね。それが二回続いたんで。

──『スーパーハルク』は、決まった時点から凄い意気込みでしたよね。

ミノワマン そうですね。「こんなトーナメントがあったらいいなぁ」って考えてたことを、実際にやることになったんで。アニメというか、マンガみたいなトーナメントですからね。巨人がいて、野人がいて、野獣もいてっていう。

──トーナメントの開催に関しては、批判もあったじゃないですか。簡単にいうと「これでは競技じゃない」っていうことで。そこはどう思いました？

ミノワマン 「ああ、そういう意見もあるんだ!?」って思いましたね。

──むしろ意外というか。

ミノワマン 僕からしたら、これが普通だと思ってたんですよ。大きいのもいて、小さいのもいて、小さい日本人が大きな外国人に勝つこともあるっていう。身体が小さいっていうのは僕のコンプレックスでもあったので、大きい相手と闘うのは避けられないっていうか。僕自身はアスリートなんですけど、それだけじゃないって思ってるんで。〝アート・アスリート・エンターテイナー〟だと思うんですよ。

──それがプロレスラーであり、超人である、と。

ミノワマン だからこのトーナメントは、本当に夢がかなったって感じでしたね。それがプレッシャーにもなったんですけど。

『スーパーハルクトーナメント』1回戦では、とんでもない対格差をものともせず、果敢にタックルを仕掛け、変型のアキレス腱固めで野獣退治を実現したミノワマン。次の相手は大巨人チェ・ホンマンか？

──ただ楽しみなだけじゃなかった、と。

ミノワマン 周りが僕のことを理解してくれて、これだけの舞台を作ってくれたんで、あとはそこで自分がどういう試合をするかなんですよね。

──お膳立てが整っているだけに、成功するも失敗するもすべて自分しだいだっていう。

ミノワマン そこが勝負だと思いましたね。「あとはどうぞ」って任された感じなので。期待に応えられるかどうかっていうプレッシャーはありましたね。それに前回の試合（柴田勝頼戦）でも負けてますし、なかなか結果が出せてない状況だったんで。

──まして3日後には『キン肉マニア』も控えてるわけですしね。

ミノワマン やっぱり、負けたら参加できなくなっちゃうんで。迷惑をかけないためにも、死ぬ覚悟でサップ戦に臨むしかないなって。

──死ぬ覚悟！

ミノワマン 悪い意味ではないんですけど、そう思ってました。試合前は人に会っても「ああ、この人に会うのもこれが最後なんだ」って思いましたし。それくらいの覚悟がありましたね。

──対戦相手のサップには、どんなイメージを持ってました？

ミノワマン もともとの体格は、外国人としてはちょっと大きめくらいだと思うんですよ。2メートルくらいなんで。

──2メートルはミノワさんにとって〝ちょっと大きめ〟ですか。

ミノワマン LLサイズくらいですよね。でも、そこから筋肉をつけてパワーをつけて、3Lにもっていったと思うんですよね。努力して自分を超人、野獣の領域にもっていったんだな、と。

──努力型なわけですね、サップは。

ミノワマン 自分の力で人間の枠を超えたと思うんですよ。そういう相手なんで、この試合は自分が超人になれるかなれないかの壁というか、挑戦だと思ってました。やっぱり、自分はまだ超人として認められてないと思うんで。

──自分が超人になるため、殻を破るために必要な相手という。

ミノワマン 前回の試合もそうなんですけど、最近、自分が出せてなかったんですよ。出し方がよくわからなくて、技の一つ一つにも迷いがありましたし。

──そういう意味では、サップ戦はおもいきりがよかったんじゃないですか。

ミノワマン 「少しでも気を抜いたらやられる」っていう恐怖心があったんですけど、その闘いに勝てたかなって思います。自分でもわかってきた部分がありますね。

──フィニッシュは、完全に極まる前に相手がタップしちゃったと思うんですよ。

ミノワマン 僕も「あれっ!?」っていうのはありましたね。

──いまのミノワさんの話を聞いて思ったのは、サップは恐怖心を克服したのがミノワさんで、できなかったのがサップなんじゃないかと。

ミノワマン ああ、それもあると思います。そこが勝負の分かれ目だったなって。そう考えると、やっぱり闘いは身体の大きさじゃないなって思いましたね。

──次は準決勝になりますけど、残ったメンバーについてはどう見てますか？

ミノワマン　全員、魅力がありますよね。チェ・ホンマン選手っていう巨人がいて、ソクジュ選手は野性的だし、（ゲガール・）ムサシ選手は正統派のスタイル、アスリート系で。試合まで4カ月あるんで、もう一回、完璧な調整をして、また死ぬ気でいきたいです。

――次からも死ぬ気でいきますか!?

ミノワマン　今回、死ぬ覚悟をもってやってみたら、見えてきた部分があるんですよ。それをまた追求していきたいです。

――そして『キン肉マニア』なんですけど、これもまた夢のような舞台でしたよね。

ミノワマン　ちょっとヤバイんじゃないかっていうくらいでしたね。

――あたりまえですけど、バックステージには超人たちがいっぱいいるわけですよね。

ミノワマン　そうですね……ロビンマスクがいてバッファローマンがいて……。「なんだここは!?」って思いました。あれはヤバイです。「本物だ！」って。

――僕もいろんな人から「キン肉マン（の中身）って誰だったの？」って聞かれたんですけど、「本物ですよ！」って答えときましたよ。

ミノワマン　ただ、自分は闘う立場だったんですけど、お客として観たいなっていう気持ちもありましたね。

――超人たちの闘いをじっくり観戦したい、と（笑）。

ミノワマン　そこは複雑でしたね。あと、自分がキン肉マンと闘うっていうのも……。

――あ、そこも複雑でしたか。

ミノワマン　キン肉マンと闘えるのは凄いことだと思うんですよ。ずっと憧れてましたし。でも、自分がキン肉マンになりたいって思ってやってきた部分もあるんで。

「『キン肉マン』ファン代表として闘った」という美濃輪は、ジェロニモのトマホークチョップ、テリーマンのスピニングトゥホールド、そしてキン肉マンのキン肉バスターと、各超人の必殺技を次々と繰り出した。

『キン肉マン』ファン代表という気持ちで“美濃輪育久”として出場させてもらいました

――ああ、現実世界でのキン肉マンは自分だと思ってたら、本物がやってきちゃったという感じで。

ミノワマン　でも、現時点でキン肉マンと闘えるのは自分しかいないんだっていう誇りもありましたね。

――試合では、超人の技も出してたじゃないですか。ジェロニモのトマホークチョップとかブロッケンJr.のベルリンの赤い雨とか。キン肉バスターまで出してましたし。

ミノワマン　ベルリンの赤い雨は、このところ研究してたんですよ。

――ほう！　研究してましたか。

ミノワマン　もともと好きな技でしたし、自分のスタイルに取り入れてみたら使えるんじゃないかって。……あの、僕の入場のときのポーズがあるじゃないですか。

――あ、あの手刀を切るような。あれはベルリンの赤い雨だったんですね！

ミノワマン　それと、今回は『キン肉マニア』だったんで、自分もマニア側というか、ファンの目線で自由に技を出してみようっていうのもありましたし。

――普通の試合では、他人の得意技を使うのは“掟破り”ですよね。でも今回はそういうことじゃないんだと。

ミノワマン　ベルリンの赤い雨もキン肉バスターも、ファンの気持ちで出しましたね。やっぱり、ファンならみんなキン肉バスターをやってみたことがあると思うんですよ。

――確実にありますね。砂場とかで（笑）。

ミノワマン　ファンとして、その頃の気持ちを全部、ぶつけたいなと思ったんですよね。

――プロレスラー・ミノワマンとしてはやっちゃいけないことだけど、キン肉マンファンである美濃輪育久としては使えるんだってことですよね。

ミノワマン　そうなんですよ。そういう意味で、周りの勧めもあって今回は本名で出たんですけど。ファン代表のつもりで闘いました。

――確かに、試合を観ていて思ったのは、なんか他人が闘ってるような気がしなかったんですよ。キン肉マンに憧れ続けたミノワさんがキン肉マンと闘ってるのが、自分のことみたいに嬉しかったんですよね。自分の代わりに闘ってくれてるっていうか。

ミノワマン　僕もそのつもりだったんですよ。今回、夢がかなったんですけど、それは自分だけの夢じゃないなって。大会のスタッフ、関係者の夢でもあるし、ファン全員の夢でもあるし。みんなの夢がかなって、その代表として自分が闘ってるんだっていう。あの場にいる人たちが、自分の分身として“美濃輪育久”を見てくれたんじゃないかなって思いますね。試合後にキン肉マンが「私に弟がいたら、キミのような男だっただろう」、「これからも夢をあきらめるな」って言ってたのも、僕だけじゃなくてみんなに伝えてるんだと

ミノワマン「超人」を語る

イチローさんは〝野球超人〟だし、公園で裸になってしまった人も〝アイドル超人〟だと思う

思いました。
——そうか……あのイベントは、だからあんなに感動的だったんですねぇ。ミノワさんの中で、超人2連戦を闘ってみて、あらためて〝超人の条件〟って見えてきました?
ミノワマン　普段は出してない、もう一人の自分をコントロールできるのが超人なんじゃないかなって思いますね。
——それこそ〝火事場のクソ力〟じゃないですけど。
ミノワマン　そういうパワーを出せる人が超人だと思います。あと、引っ込めることができるのも大事ですね。出しっぱなしだと日常生活が送れなくなっちゃうんで。僕の場合でいうと、こういう取材の場でもリング上と同じテンションでいるようなもんですから。
——確かに(笑)。
ミノワマン　あと、超人っていろんな分野にいると思うんですよね。ステカセキングっていうカセットの超人もいれば、ベンキマンっていう便器の超人もいるっていうのと同じで。
——たとえば、ミノワさんが「この人は超人だな」って思うのって誰ですか?
ミノワマン　イチローさんは超人ですね。
——ああ、イチローは野球超人なんですね。
ミノワマン　お笑いの世界にも多いですよね。ビートたけしさん、明石家さんまさんは完全に超人ですし。
——お笑い超人ですよね。
ミノワマン　この前、公園で裸になって警察のお世話になっちゃったアイドルの人も、超人としてのパワーは持ってると思うんですよ。でも出し方と出す場所を間違えたんでしょうね。
——ああ、まさにアイドル超人なんですけどね(笑)。
ミノワマン　そうやって、いろんな分野に超人はいると思いますね。会社の社長さんの中にもいるでしょうし。
——あ、ビジネス超人もいるんですね。
ミノワマン　いますね。僕はプロレスラーとして闘う立場で超人を目指してるんですけど、どんなジャンルでも究めたら超人の領域に達すると思います。
——いや〜、今日はいい話を聞かせてもらいましたよ。僕もこれからライター超人を目指します!

【09年6月4日/神奈川県内・某喫茶店にて収録】

最後はキン肉マンの本家キン肉バスターの前に敗れた美濃輪。この『キン肉マン』史上最高のフィニッシュホールドを実際に観るのも食らうのも、ファンにとって一つの夢の実現だろう。

みのわまん■1976年1月12日、岐阜県出身。少年時代からプロレスラー、超人に憧れ、97年にパンクラスでプロデビュー。その後、PRIDE、DREAMなどで独自の世界を築く。175センチ、84キロ。

読者プレゼントはオレの色に染めるんだ。

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2009年7月24日(金)以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事＆その理由⑥つまらなかった記事＆その理由⑦川尻達也に期待することは?⑧下半期で最も注目の選手は?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部
「カ、カテエ……!!」係まで

※応募締切は2009年7月15日(水)当日消印有効

PRESENT*01

1名様

市屋苑お箸

[鈴木健氏／非売品]

元Uインター・鈴木健氏が経営する串焼き屋・市屋苑から10周年を記念して作ったお箸を本誌読者にプレゼント!! これは貴重だ!!

市屋苑■http://www.ichiokuen.com/

PRESENT*02

1名様

"キモ強"北岡悟うちわ

[北岡悟／非売品]

6.7パンクラス ディファ有明大会で配布された北岡の似顔絵入りのうちわをプレゼント。サインを入れてプレゼントします!!

北岡悟BLOG■http://www.kakutoh.com/pc/blog/kitaokasatoru/

PRESENT*03

1名様

永島勝司サイン色紙

[永島のオヤジ／非売品]

各方面で大反響の「カ、カテエ……!!」の言葉が色紙に入った!! 超貴重な座右の銘入り直筆サイン色紙を1名様にプレゼント。

内外タイムス■http://npn.co.jp/

PRESENT*04

1名様

小見川道大＆猫ひろしサイン色紙

[戦極&WAHAHA本舗／非売品]

猫でつながる猫対談!! 猫好きファイター・小見川道大と芸人・猫ひろしのWサイン色紙を1名様にプレゼント。にゃー!!

戦極■http://www.sengoku-official.com/

PRESENT*05

1名様

松永光弘サイン色紙

[Mr.デンジャー／非売品]

現在、墨田区立花でステーキハウス『Mr.デンジャー』を経営する松永光弘が動物愛護を訴える!! 色紙にも熱いメッセージを書いてもらいました。

Mr.デンジャー■http://www.mrdanger.jp/

PRESENT*06

各1名様

DREAM携帯ストラップ(レッド／ブルー)

[DREAM／¥1,260(税込)]

DREAMのロゴ、さらにブルーのオープンフィンガーグローブもついた携帯ストラップ。ブルーかレッドか希望の色を必ず明記してください。

PRESENT*07

1名様

DREAMジャガードタオル

[DREAM／¥2,310(税込)]

柄を織りで表現するジャガードタオル。DREAMのロゴがいっぱい! 高級感があふれており、使用感もGOOD。会場の観戦のお供にぜひ!

PRESENT*08

各1名様

DREAMアドレスTシャツ(ブラック／ホワイト)

[DREAM／¥4,200(税込)]

DREAMのHPアドレスがプリントされた新作オフィシャルTシャツを各1名様にプレゼント。ブラックかホワイトか希望の色を必ず明記してください。

DREAM■http://www.dreamofficial.com/

PRESENT*09

1名様

DVD プロレス・スーパースター列伝『バーン・ガニア&レオ・ノメリーニ』

[クエスト／¥5,040(税込)]

プロレスの歴史を作ってきたスーパースターの往年の勇姿と現在の素顔を追った感動のドキュメント。105分収録。必見です!

PRESENT*10

1名様

DVD『CAGE FORCE I』

[クエスト／¥5,880(税込)]

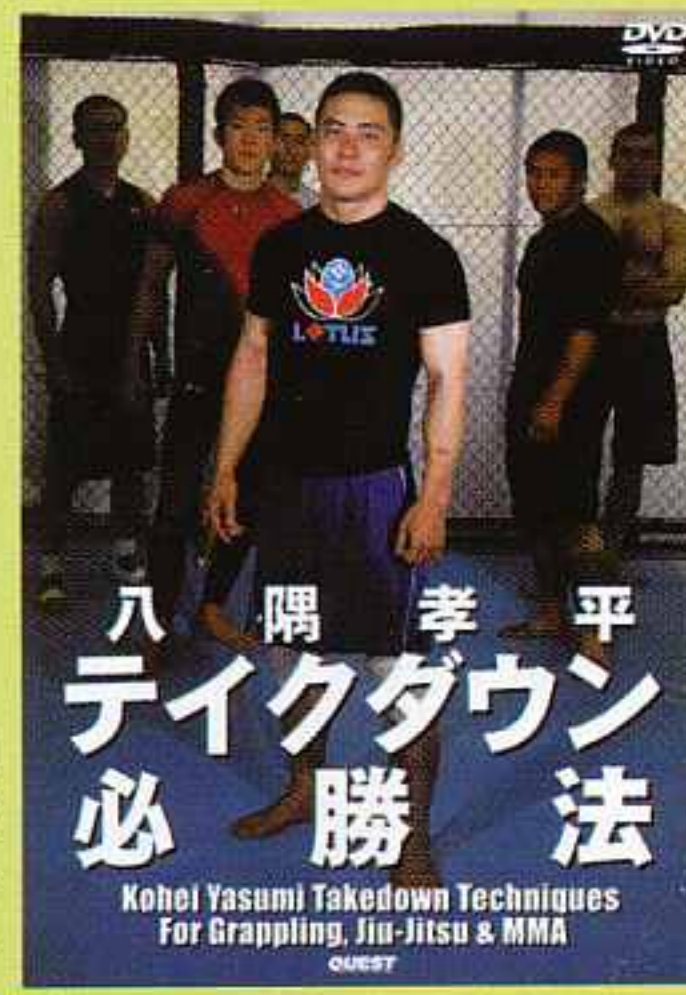
この大会での活躍を足がかりにアメリカへ進出した選手が多数。旗揚げ戦からの名勝負を156分という怒濤のボリュームで収録。

PRESENT*11

1名様

DVD『八隅孝平テイクダウン必勝法』

[クエスト／¥5,880(税込)]

青木真也や北岡悟などトップ選手の集うYBTを主宰する八隅孝平が、テイクダウンのテクニックを徹底解説。絶賛発売中!!

クエスト■http://www.queststation.com/

kamipro136 応募券
地獄の一丁目

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス

o.136
009年7月7日 発行

行人
浜村弘一

集人
斉藤慎一

集統括本部長
ジャン斉藤

集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎（夏合宿計画のため非番）

身名誉バイザー
吉田 豪

人
真下義之
ジャイ子

集次長（単複のみ好調!）
松林 貴

ザインGM
出田さん（TwoThree）

ザインプレイングマネージャー
金井ヒサくん（TwoThree）

ザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのる（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）

ザイン練習生
鑓田やっちゃん（TwoThree）

メラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史
森“モーリー”鷹博

勘定
工藤ちゃん

籍大成功
入江ブラゼル（TwoThree）

誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

務部
樽本“ホロ箔”義之

集庶務
原 正典
山内ユリコ

身名誉編集庶務
高木由美子

集チアガール
金川“ナツコ”奈津子
白倉“クララ”明子

人マダム
廣橋久美子

行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

刷
図書印刷株式会社

力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

撃!! 三沢光晴さん、急逝……
G MAGAZIN
ーへの初陣決まる!
慧の
、いざ!!
シャキーン シャキーン!!
ぱりどうかと思う強さ!
クラスにキモ強く凱旋!!
北岡悟
初・猫ブームがますます加速!
き頂上対談、いざ!!
見川道大×
ひろし
兄さん就職お祝い企画!?
キーンと『戦極』合コン開催ッ!!
野聡寛×
極ミドレンジャー
選手、関係者が赤裸々に告白!!
総合格闘技のお金事情!
ファイトマネーの
ヒ・ミ・ツ!!
プロレス不況はまだまだ続く!?
永島のオヤジも「カ、カテエ!」と登場!
プロレス界はホントに
下流地帯なのか?
喧嘩師とニートの壮絶笑撃エピソード!!
DREAMファイター ロングインタビュー
高谷裕之
DJ.taiki
kamipro
2009 136
決戦! 愚零闘魔裟 vs スーパー川尻マン!!
enterbrain
kamipro
2009 136
天下統一への初陣決まる!!
石井慧の戦極、いざ!!
2009年7月7日
発行人/浜村弘一 編集人/斉藤慎一 発行・発売所/株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本/図書印刷株式会社
©2009 ENTERBRAIN, INC. ©2009 DOUBLECROSS
enterbrain
reversal.dogi.d
rvddw FLAG SHOP 03.3467.8245 2-41-10 TOMIG
reversal.dogi.design.works is one of the most popular martial arts clothing companies
We start our bussiness in 2000 with Isami which is over 70 years of success in one of
in the martial arts world. Our products blend Isami's high quality with a very modern st
Our line of products include top of the line rash guards and fight shorts, trendy t-shirts
as well as unique accessories such as Gi-Jacket,gym bags, Gi-belts, hats and much m
www.rvddw.com
特別定価:本体895円+税
雑誌 61957-43 Ⓗ2009.10
Printed in Japan 図書印刷株式会社
©2009 ENTERBRAIN, INC. ©2009 DOUBLECROSS